秋田県文化財調査報告書　第351集

前　通　遺　跡

―― 県営ほ場整備事業杉沢地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 ――

2003・3

秋 田 県 教 育 委 員 会

シンボルマークは、北秋田郡森吉町白坂（しろざか）遺跡
出土の「岩偶」です。
縄文時代晩期初頭、1992年８月発見、高さ７㎝、凝灰岩。

前通遺跡

―― 県営ほ場整備事業杉沢地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 ――

2003・3

秋 田 県 教 育 委 員 会

前通遺跡　近景（南西上空から）

序

本県には、これまでに発見された約4,600箇所の遺跡をはじめとして、先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されています。これらの埋蔵文化財は、地域の歴史や伝統を理解し、未来を展望した彩り豊かな文化を創造していくうえで、欠くことのできないものであります。

一方、農業地域においては、用排水路網の整備と水田の大区画化により、農業の大規模化と担い手の育成を目的とするほ場整備事業が行われております。本教育委員会では、これら地域開発との調和を図りながら、埋蔵文化財を保存し、活用することに鋭意取り組んでおります。

本報告書は、県営ほ場整備事業に先立って、平成12年度に横手市杉沢地区において実施した前通遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。調査では、縄文時代晩期の捨て場から祭祀に使われた多量の土器や土製品・石製品が出土しました。また、平安時代には、道路に沿って掘立柱建物跡を中心とする集落が形成され、中世にかけてその集落内の建物配置が移り変わっていったことが明らかになりました。

本書がふるさとの歴史資料として広く活用され、埋蔵文化財保護の一助となることを心から願うものであります。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本報告書の刊行にあたり、御協力いただきました秋田県平鹿総合農林事務所、横手市、横手市教育委員会など関係各位に対し、厚く御礼申し上げます。

平成15年３月

秋田県教育委員会

教育長　小　野　寺　　清

例　言

1　本書は秋田県横手市杉目字前通159外に所在する前通遺跡の発掘調査報告書である。すでに平成12年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会資料、秋田県埋蔵文化財センター年報19（平成12年度)、前通遺跡発掘調査資料において調査成果の一部が公表されているが、本報告書の記載内容がすべて優先する。

2　第２章をまとめるにあたり、横手市市史編纂・文化振興室　伊藤武士氏より多大なご教示を賜った。

3　第４章・第６章をまとめるにあたり、掘立柱建物跡に関する記述・図面作成については、八戸工業大学建築工学科歴史研究室　高島成侑教授より多大なご教示を賜った。

4　第５章　自然科学分析には、株式会社パレオ・ラボに業務委託した分析報告書の一部を収載した。

5　遺構実測図の一部は（有）三航光測に業務委託した図面を使用した。

6　遺跡航空写真は、株式会社ハイマーテックに業務委託した空中写真を使用した。

7　本報告書挿図中に使用した土層表記法は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖　1989年版』を使用した。

8　本報告書に使用した地形図は、建設省国土地理院発行25,000分の１「横手」「金沢本町」・50,000分の１「六郷」「横手」、秋田県平鹿総合農林事務所作製工事計画図、横手市作製１,000分の１管内図、横手市教育委員会作製25,000分の１遺跡分布地図である。

9　本遺跡の調査ならびに報告書刊行にあたり、次の方々よりご指導、ご教示をいただいた。記して謝意を表する(敬称略)。

高島成侑（八戸工業大学)、林　謙作（元北海道大学)、三上喜孝（山形大学)、小林和彦（八戸市縄文学習館)、木村　高（青森県埋蔵文化財調査センター)、工藤清泰（浪岡町教育委員会)、高杉博章（浪岡町大釈迦工業団地調査会)、八重樫忠郎（平泉町文化財センター)、伊藤武士（横手市市史編纂・文化振興室)

10　本書は第１章から第３章までの草稿を藤澤一史が、その他を五十嵐一治が執筆した。また全体を通した編集は五十嵐一治が行った。

凡　例

1　本報告書に収載した遺構実測図に付した方位は国家座標第Ⅹ系による座標北を示す。グリッド杭座標原点MA50（X=－73,363.969　Y=－23,633.973）とした位置における座標北と磁北との偏角は西偏７°50′である。

2　基本層位の土層註記にはローマ数字を用いた。

3　遺構実測図の中で複数の断面図を記載した場合があるが、基準高が同じ場合には１箇所にしか明示していない。

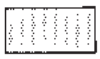
4　基本的に遺構実測図は1/40及び1/20、遺物実測図は1/2及び1/3の縮尺で掲載した。しかし挿図割付の関係上、さらに若干の縮小を施した挿図がある。各頁に付したスケールを参照されたい。

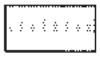
5　発掘調査において検出した遺構のうち、一部の小ピット類については図面および遺構一覧表を省略し、平面配置のみを掲載した。

6　挿図中に使用したスクリーントーンは以下のとおりであり、それ以外については個々に凡例を示してある。

地山土

朱


内黒


焼土

磨り

タール

釉

アスファルト

欠損部

目　次

序
例言
凡例

第１章　はじめに
　第１節　発掘調査に至る経過…… 1
　第２節　調査要項…… 1
第２章　遺跡の立地と環境
　第１節　遺跡の立地と地理的環境…… 4
　第２節　歴史的環境…… 5
第３章　発掘調査の概要
　第１節　遺跡の概観……11
　第２節　調査と整理の方法……11
　第３節　発掘調査の経過……12
第４章　調査の記録
　第１節　検出遺構……14
　第２節　出土遺物……77
第５章　自然科学的分析
　放射性炭素年代測定 ……155
　前通遺跡出土炭化材の樹種同定 ……158
第６章　まとめ ……165
図版

第１章　はじめに

第１節　調査に至る経過

このたび、秋田県農政部（現農林水産部）により横手市杉沢地区内におけるほ場整備事業が計画された。これは農業の近代化と大規模経営をいっそう推進していくため、農地の大区画整理とともに農道・用排水路網の整備を進め、農地の集団化により農家経営の安定向上を目指したものである。また本事業の大きな目的としては、農業県における後継者不足解消と新たな農業の担い手を育成することである。

本地区の工事区域内に埋蔵文化財が包蔵されている可能性があることは、横手市教育委員会の事前調査で明らかにされていた。秋田県平鹿農林事務所（現秋田県平鹿総合農林事務所）は文化財保護法に基づき、この事実確認と今後の対応について秋田県教育委員会に調査と指導の依頼をした。これを受けて文化財保護室は、工事区域内に係る埋蔵文化財包蔵地および包蔵地と推測される地区については今後範囲確認調査が必要であることと、範囲確認調査の結果記録保存の必要なものについては発掘調査を実施すべきことを回答した。

平成10年４月に秋田県教育委員会は、ほ場整備事業など受益者が特定市町村内に限定される事業について、当該市町村の責任において埋蔵文化財に対する調整を図るよう通達をした。この通達に基づき秋田県平鹿農林事務所は横手市教育委員会に当該地区に係る調査と指導の依頼をした。これに対し横手市教育委員会は範囲確認調査を除く発掘調査工程に対応できるだけの体制をとれないことから、平鹿農林事務所との調整に係る指導を秋田県教育委員会に依頼した。秋田県教育委員会は横手市教育委員会の範囲確認調査の結果を受けて、発掘調査を秋田県埋蔵文化財センターに担当させることとした。

上記の経緯に基づき、平成11年11月に横手市教育委員会が前通遺跡および周辺域内の範囲確認調査を実施した。この結果、前通遺跡では遺構および土器片・石器等を確認した。11月25日には範囲確認調査の結果を受けて、横手市教育委員会と横手市農村整備課および前通遺跡に係る野中地区の代表による現地立会い協議を行い、調査予定地の地権者への承認確認を行った。同年12月22日には横手市土地改良区にて、ほ場整備範囲確認調査の結果報告と今後の流れについての打ち合わせが行われた。

平成12年４月26日には秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室と横手市教育委員会が試掘調査を行い、県教育委員会の指導のもと調査対象範囲を確定した。

平成12年６月より秋田県埋蔵文化財センターが前通遺跡の発掘調査を実施することになった。

第２節　調査要項

遺跡名称　　前通遺跡　　※遺跡略号　８ＭＤ

所在地　　秋田県横手市杉目字前通159外

（北緯39°20′40″，東経140°23′40″）

調査期間　　平成12年６月５日～10月22日

調査対象面積　　7,800㎡

調査面積　　7,800㎡

調査主体者　　秋田県教育委員会

調査担当者　　秋田県埋蔵文化財センター

発掘担当者

五十嵐一治　　調査課調査第一科学芸主事

藤澤　一史　　調査課調査第一科学芸主事

照井　洋子　　調査課調査第一科非常勤職員

伊藤　景子　　調査課調査第一科非常勤職員

整理担当者

五十嵐一治　　南調査課調査班学芸主事

藤澤　一史　　南調査課調査班学芸主事

※平成13年度から機構改革により南調査課となる。

総務担当者

佐藤　　悟　　総務課長

高橋　　修　　主任

佐々木敬隆　　主事　現秋田県教育庁高校教育課主事

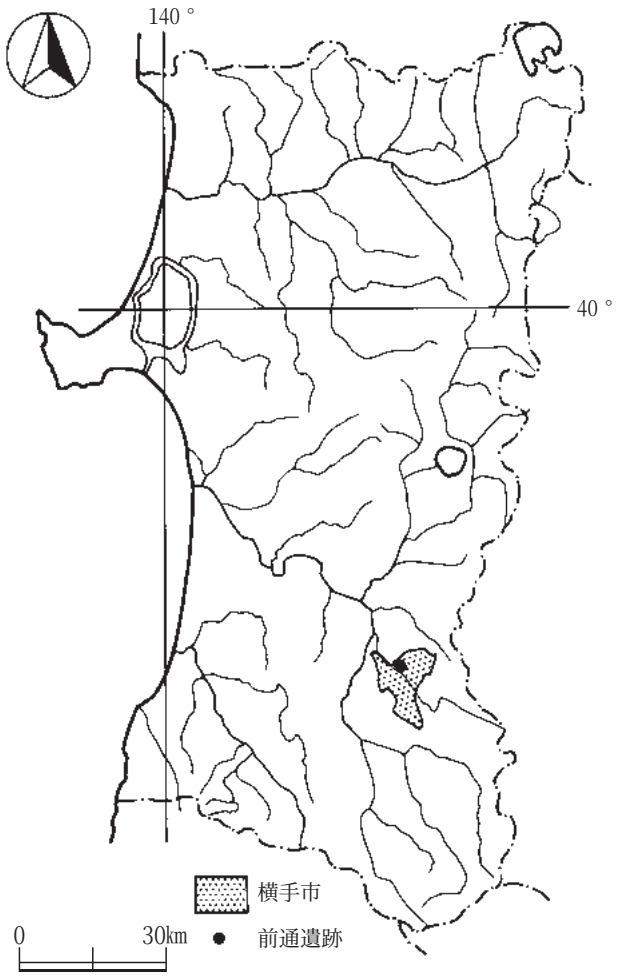
八文字　隆　　主事　現中仙町立清水小学校主事

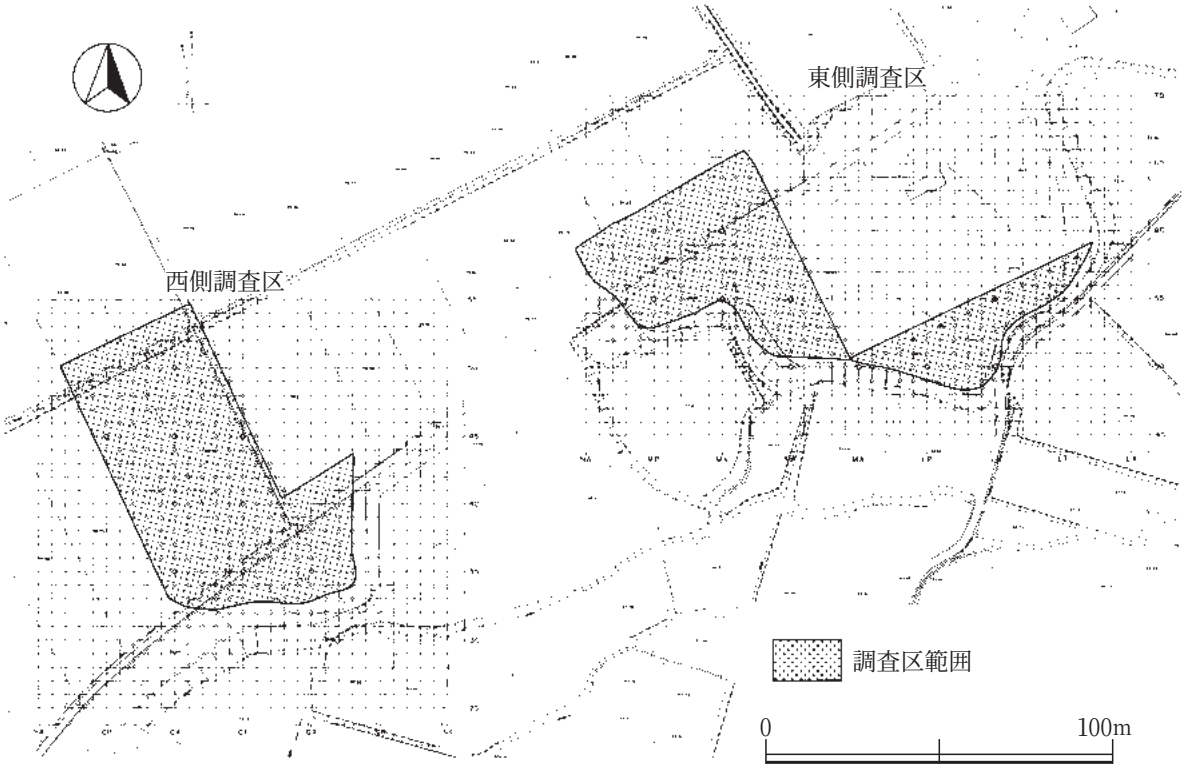
成田　　誠　　主事

調査協力機関　　秋田県平鹿総合農林事務所

横手市教育委員会

横手市市史編纂・文化振興室





第１図　前通遺跡　位置図

第２章　遺跡の立地と環境

第１節　遺跡の立地と地理的環境

遺跡の位置する秋田県横手市は県の南東部、奥羽山脈と出羽丘陵の間に広がる雄物川上・中流域の横手盆地東側に位置する県南部の中心都市である。北は仙北郡仙南村と六郷町、東は平鹿郡山内村、南は平鹿郡平鹿町、北西部の一部は大曲市に接している。面積は11,058㎢、人口は40,483人（2001年３月現在）である。

市域を南北に国道13号線・ＪＲ奥羽本線が縦走し、また東西に走る国道107号線・ＪＲ北上線は日本海側と太平洋側を結び重要な交通ルートとして利用されている。平成９年には秋田自動車道が開通し、横手市は広域的な交通連結拠点として発展している。横手インターチェンジ付近はテーマパーク秋田ふるさと村や工業団地が立地し、さらに郊外型の大型店の進出も相次ぎ活況を呈している。

前通遺跡は横手市中心街より北に約２㎞の杉沢地区杉目に所在し、御嶽山西麓から西流し横手川に合流する杉沢川と吉沢川によって形成された合成開析扇状地（御所野扇状地）の扇端部に位置する。この２つの河川流域は開析が進んで河岸段丘が発達しており、本遺跡が所在する杉沢川右岸の段丘面と杉沢川との比高差は約５ｍである。本遺跡から杉沢川までは約150m、横手川までは約300mで、遺跡南西部で両河川は合流する。横手川は市街地の中央部を流れ、奥羽山脈を源に、多くの小河川の水を集めて北西に流れ、大曲市角間川付近で雄物川に合流する。

前通遺跡の周辺地域は豊かな水田地帯を成し、丘陵地帯ではりんごを中心とする果樹栽培が盛んである。また近年は工業団地が造成されて誘致企業が進出し、原地形をとどめる場所も狭まってきた。

前通遺跡の西方に広がる横手盆地は東西約15㎞、南北約60㎞、総面積約900㎢の沖積平野で、大部分は新生代新第三紀及び第四紀の地質によって占められている。横手市の北部、北西部、西部の平地や河川の流域の大半は第四紀の地質である。横手川やその支流の流域、その付近の平地は度重なる洪水で砂礫の運搬、堆積、氾濫をくり返しながら現在のような姿になった。また市東部の山地も河川の浸食により、細かいひだをつくりながら起伏の緩やかな波打った地形をつくりあげた。横手盆地の奥羽山脈東麓にはほぼ南北方向に断層線が見られ、千屋断層の南には金沢断層、杉沢断層が発達している。その断層線にそって中小河川による扇状地が形成されており杉沢川によって造られた御所野扇状地もその一つである。

気候は内陸盆地型の積雪寒冷地気候に属し、一般に気温の較差が大きく風は比較的弱いほうである。四季の変化がはっきりしている地域であるが、豪雪地帯でもある。前通遺跡東側には森の恵みを与える奥羽山脈が迫り、南側には命の源ともいえる豊富な水をもたらす杉沢川、横手川が流れる。西側の前面には肥沃で広大な平野部が広がり、人間が生活するには十分な環境、即ち恵まれた立地条件を兼ね備えた地域であったといえよう。

第２節　歴史的環境

横手市教育委員会発行の『遺跡詳細分布調査報告書』には横手市内の遺跡として166箇所、また同教育委員会発行の『横手市遺跡分布地図』には186箇所の遺跡が掲載されている。いずれも縄文時代の遺跡が最も多く、平安時代がこれに次いでいる。ここでは前通遺跡が所在する横手市杉沢地区及び北に近接する金沢地区、南側の朝倉地区、横手地区に分布する旧石器時代～中世の遺跡について発掘調査を実施した例を中心に概観し、近接する地域の遺跡についても簡単に触れることにする。

旧石器時代の遺跡は横手市内での確認例は極めて少ない。それでも朝倉地区において市立鳳中学校から大鳥公園にかけて所在する台所館遺跡、小吉山遺跡そして横手高校の裏山にあたる睦成字鶴谷地遺跡、さらには前郷の大乗院遺跡等がこれまでの発掘によって明らかになっている。なお小吉山遺跡は縄文前期～後期の集落跡としても知られ、後期初頭の土器とともに線刻を有する石製品が数多く見つかっている。

縄文時代では旭地区の岩野沢Ｂ遺跡（旧上猪岡遺跡）の土坑覆土から貝殻腹縁文の施された早期の土器片が出土しており、前通遺跡に近い保土森遺跡では大木６式期と推定される縄文前期の竪穴住居跡が確認されている。

縄文中期の遺跡としては前通遺跡の東に隣接する中杉沢Ａ遺跡があり、1969（昭和44）年から７次にわたる発掘調査によって、縄文中期前葉の竪穴住居跡26軒の集落跡が検出されている。

縄文後期～晩期では、横手市西部の旭地区に所在するオホン清水Ａ遺跡があり、1984（昭和59）年の横手市教育委員会の発掘調査により、縄文後期後半～晩期前半の墓域を含む集落遺跡とされる。

弥生時代になると遺跡数は減少するが、旭地区における手取清水遺跡は1960（昭和35）年、秋田県教育委員会と横手市教育委員会の発掘調査で確認された。ここは平地に営まれた遺跡で溝状遺構や縄文時代晩期から弥生時代にかけての土器、石器、岩版などが出土した。また、1990（平成２）年にも調査が行われ弥生時代の土器が発掘された。

古墳時代の遺跡は秋田県内でも数箇所しかないと言われるが、横手市内で旭地区のオホン清水Ｂ遺跡（旧オホン清水北遺跡の一部）と横手地区の田久保下遺跡の２箇所が確認されている。特に横手川の支流である大戸川沿いに位置するオホン清水Ｂ遺跡は、1983（昭和53）年に横手市教育委員会が発掘調査した。横手盆地において初めて古墳時代の竪穴住居跡１棟、土坑５基が検出され、さらに土師器（坏・碗・高坏・甕・壷）、須恵器（高坏）などが出土し注目された。

奈良時代の遺跡としては、市中央部から北西部に広がる沖積地上に立地する条里制跡がある。現況では、ほ場整備などによってかつての地割は見られないが、古い地図では、東西約６㎞、南北16㎞の範囲内に条里制に類似した地割跡が確認できる。また、一ノ口～八ノ口、上八丁、下八丁などの条里制との関連が考えられる地名も残っている。しかし、条里制跡と断定できる史料は見つかっていない。

平安時代の集落跡としては、今まで横手市内で40数箇所の所在が明らかにされている。手取清水遺跡は弥生時代から古代～近世まで脈々と営まれた遺跡である。平安時代のものと思われる遺構、遺物としては堀立柱建物跡56棟や木簡、祭祀具（斎串、鳥形、馬形）や多量の墨書土器などが出土した。大鳥井柵跡は後三年の役における在地勢力である出羽清原氏の居館とされ、1978（昭和53）～1983（昭和58）年にかけて行われた横手市教育委員会による調査では、平安時代後期に営まれた軍事的性

中谷地
長岡森
元東根
阿弥長根
石神館
西長岡森
天嶋館
飯詰城
前通遺跡
縄文
古代
縄文・古代
古代～中世
中世
旧石器
0
2500m

第２図　周辺遺跡地図

格の強い遺跡であることが明らかになった。また前通遺跡から北に約３㎞の地点には後三年の合戦（1083～1087）で名高い金沢城跡（金沢の柵跡擬定地）があり、県教育委員会と横手市教育委員会が1964（昭和39）～1971（昭和46）年にわたって発掘調査した。その結果、出土遺物の多くは中世のものであることが明らかになった。

周辺地域で本遺跡に最も近い平安時代の遺跡としては、上台Ａ遺跡や姥ヶ沢窯跡があり、近年の調査で遺跡の内容が解明された。また市南西部には須恵器窯跡が多く発見されており、これらの遺跡で生産された須恵器が本遺跡に運び込まれた可能性は高いと思われる。

平泉政権期及びそれに継続する時期には、県内では主として横手盆地縁辺部の丘陵上でいくつかの経塚が発見されている。本遺跡周辺はその中でも経塚分布の密な地域で、1908（明治41）年金沢寺の沢閑居長根の経塚群から出土した「銅製経筒」は、現在県指定の有形文化財になっており、元久三（1206）年丙寅四月五日の銘が刻まれている。その他、老姥山経塚・直坂経塚・一字山経塚など現在欠失したものを含めると相当数にのぼるものと思われる。その他にも前通遺跡周辺では杉沢城や飯詰城・茨島館・朝倉城など中世城館が確認されている。

この地は羽州街道の要所でもあり、金沢小学校付近に伝馬所が置かれるなど街道沿いに村が形成されていったと考えられる。近世以降の前通遺跡周辺地域は、羽州街道沿いの一集落として今日に至っている。

『横手市遺跡分布地図』及び「秋田県遺跡地図」（県南版）収載の周知の遺跡

市遺跡地図	県遺跡地図	遺　跡　名	時　代	所在地	備考
1	３－１	瀬袋経塚	平安～中世	横手市金沢字鳥井長根52	
2	３－２	姥山経塚	平安～中世	横手市金沢字鳥井長根60－１	
3	３－３	直坂経塚	平安～中世	横手市金沢字鳥井長根66	
4	３－４	閑居長根経塚群	平安～中世	横手市金沢字寺の沢21	
5	３－５	金沢城跡	古代～中世	横手市金沢中野字小井所沢・岩瀬沢、金洗沢、八幡平、岩辺繰、金沢字安本館	
6	３－７	十二牲Ａ	縄文・古代	横手市金沢中野字下矢来沢223外	
7	３－６	十二牲Ｂ	縄文・古代	横手市金沢中野字下矢来沢223外	
8	３－８	十二牲Ａ窯跡	古代	横手市金沢中野字下矢来沢309－２外	
9	３－９	十二牲Ｂ窯跡	古代	横手市金沢中野字下矢来沢375－１外	
10	３－10	下矢来沢Ａ	古代	横手市金沢中野字下矢来沢423	
11	３－11	下矢来沢窯跡	古代	横手市金沢中野字下矢来沢427外	
12	３－12	下矢来沢Ｂ	縄文	横手市金沢中野字下矢来沢466外	
13	３－13	保土森窯跡	古代	横手市金沢中野字三貫堰407外	
14	３－14	保土森	縄文	横手市金沢中野字三貫堰616－１外	
15	３－15	保土森火葬墓	古代	横手市金沢中野字三貫堰645外	
16	３－16	中通西	古代～中世	横手市安本字中通西・中通東・北下１	
17	３－17	本田下	中世	横手市安本字本田下・北野添・中通東	
18	３－18	北御所野Ａ	古代	横手市安本字下御所野46－２外	
19	３－19	南御所野	縄文	横手市安本字南御所野177外	
20	３－20	金沢柵木Ⅰ	古代	横手市金沢中野字下矢来沢381外	
21	３－21	金沢柵木Ⅱ	古代	横手市金沢中野字西法寺486外	
22	３－22	物見窯跡	古代	横手市金沢中野字物見95外	
23	３－23	姥ヶ沢窯跡	古代	横手市金沢中野字姥ヶ沢６－106外	
25	３－25	鞍石沢	縄文	横手市金沢中野字鞍石沢12外	
26	３－26	杉沢谷地中Ｂ	縄文	横手市杉沢字谷地中301－10外	
27	３－27	杉沢谷地中Ａ	古代	横手市杉沢字谷地中70外	
28	３－28	上台Ａ	縄文	横手市杉沢字上台143－５外	

29	３－29	金沢柵木Ⅲ	古代	横手市金沢字上台	
30	３－30	上台Ｂ	縄文・古代	横手市金沢字上台	
31	３－31	上台Ｃ	縄文	横手市杉沢字上台	
32	３－32	杉沢字中島Ａ	縄文	横手市杉沢字中島94～96外	
33	３－33	杉沢字中島Ｂ	縄文	横手市杉沢字中島210～213外	
34	３－34	杉沢字中島Ｃ	縄文	横手市杉沢字中島16外	
35	３－35	狼ノ沢Ａ	縄文	横手市杉沢字狼ノ沢７外	
36	３－36	見入野天狗沢Ａ	縄文	横手市杉沢字見入野天狗沢341外	
37	３－37	見入野天狗沢Ｂ	古代	横手市杉沢字見入野天狗沢313外	
38	３－38	杉沢字糠塚Ｂ	縄文	横手市杉沢字糠塚323外	
39	３－39	一ノ坂Ａ	縄文	横手市睦成字一ノ坂22外	
40	３－40	一ノ坂Ｂ	縄文	横手市睦成字一ノ坂79外	
41	３－41	長者森	縄文	横手市睦成字長者森17外	
42	３－42	杉沢字糠塚Ａ	縄文	横手市杉沢字糠塚見入野178外	
43	３－43	吉沢Ａ	縄文	横手市杉沢字吉沢	
44	３－44	吉沢上台Ａ	縄文	横手市睦成字吉沢上台63	
45	３－45	吉沢上台Ｂ	縄文	横手市杉沢字吉沢上台119外	
46	３－46	中杉沢Ａ	縄文	横手市杉沢字中杉沢155外	
47	３－47	狼ノ沢Ｂ	縄文・古代	横手市杉沢字狼ノ沢27外	
48	３－48	狼ノ沢Ｃ	縄文	横手市杉沢字狼ノ沢	
49	３－49	中杉沢Ｂ	縄文	横手市杉沢字中杉沢	
50	３－50	中杉沢Ｃ	縄文	横手市杉沢字中杉沢249外	
51	３－51	村後	縄文	横手市杉目字村後84外	
52	３－52	野中	縄文	横手市杉目字野中・大堤下	
53	３－53	前通	縄文・古代	横手市杉目字前通214外	
54	３－54	杉目字七日市	縄文	横手市杉目字七日市83－１外	
55	３－55	下久保目	古代	横手市睦成字下久保目・関根	
56	３－56	鳥小山	縄文	横手市杉目字七日市70外	
58	３－58	睦成字鶴谷地	旧石器	横手市睦成字鶴谷地36・睦成七日市４外	
59	３－59	鶴巻	縄文・古代	横手市睦成字鶴巻44　鶴谷地38　七日市１外	
60	３－60	杉沢字吉沢Ｃ	縄文	横手市杉沢字吉沢	
61	３－61	長田	古代	横手市静町字長田・八幡字十二柳	
62	３－62	台処館跡	古代	横手市新坂町2-59外	
63	３－63	台所館	旧石器	横手市新坂町２－74外	縄文もあり
64	３－64	大鳥井柵跡	古代～中世	横手市大鳥井・新坂町	
65	３－65	小吉山	旧石器	横手市大鳥町194外	
67	３－67	小吉山火葬墓	古代	横手市大鳥町210外	
68	３－68	大鳥井山十三塚	中世	横手市大鳥町311－２	
69	３－69	朝倉城跡	中世	横手市城西町、城山町、根岸町、睦成字水上沢、田ノ沢	
70	３－70	朝草刈城跡	中世	横手市睦成字城付、清水沢、前郷字城付	
71	３－71	愛宕山	縄文・古代	横手市睦成字城付１－４－１外	
74	３－74	館西	古代	横手市黒川字館西99外	
76	３－76	八気	古代	横手市上境字八気85外	
77	３－77	上間明田	縄文	横手市上境字上間明田23外	
80	３－80	関合	縄文	横手市下境字関合	
83	３－83	手取清水	古代	横手市塚堀字手取清水1外・塚堀字四川端１外	弥生もあり
84	３－84	オホン清水北	古代	横手市塚堀字オホン清水北81外	
85	３－85	オホン清水Ｂ	古代	横手市塚堀字オホン清水12外	
86	３－86	オホン清水Ａ	縄文・古代	横手市塚堀字オホン清水12外	
87	３－87	猪岡字萱原	縄文	横手市清水町新田字萱原	
88	３－88	鷹匠道下	縄文・古代	横手市猪岡字鷹匠道下121外　萱原15外　樋脇150外　中野15外	
89	３－89	中堰西	縄文・古代	横手市猪岡字中堰西135～249	
90	３－90	薬師前	縄文・古代	横手市清水町新田字薬師前136外	
91	３－91	般若寺	古代	横手市塚堀字般若寺125外	

92	３－92	中猪岡 A	縄文・古代	横手市猪岡字中猪岡108外　中堰西165外	
93	３－93	中猪岡 B	古代	横手市猪岡字中猪岡182、185外	
94	３－94	宮下	古代	横手市清水町新田字宮下257外	
95	３－95	川口 A	古代	横手市猪岡字川口118外　八幡144外	
96	３－96	川口 B	古代	横手市猪岡字川口160～219	
97	３－97	猪岡字八幡	縄文・古代	横手市猪岡字八幡159～230	
98	３－98	清水町新田字堤下	縄文・古代	横手市清水町新田字堤下165外	
99	３－99	大堰端	縄文・古代	横手市清水町新田字大堰端245外	
100	３－100	宮東	縄文・古代	横手市清水町新田字宮東221外	
101	３－101	宮表	古代	横手市清水町新田字宮表291～314	
102	３－102	新城下	縄文	横手市清水町新田字新城下２～８外	
103	３－103	赤川館跡	縄文・古代	横手市赤川字村西・樋川・三本柳字六郷小屋	
104	３－104	野際	縄文・古代	横手市赤川字野際	
106	３－106	長瀞 A	古代	横手市猪岡字長瀞230外	
107	３－107	長瀞 B	縄文	横手市猪岡字長瀞・山神下	
108	３－108	森崎	古代	横手市赤坂字森崎127外	
109	３－109	赤坂字高口	縄文・古代	横手市赤坂字高口22外　森崎117	
110	３－110	柴崎	古代	横手市赤坂字柴崎56外 日山前　外	
113	３－113	猪岡	縄文・古代	横手市猪岡字猪岡１外　山神下15外	
114	３－114	岩野沢 A	縄文・古代	横手市猪岡字岩野沢27外 猪岡	
115	３－115	岩野沢 B	縄文・古代	横手市猪岡字猪岡	
116	３－116	城野岡	古代	横手市赤坂字城野岡157	
117	３－117	城野岡前 A	縄文・古代	横手市赤坂字城野岡前16外	
118	３－118	城野岡前 B	縄文・古代	横手市赤坂字城野岡前26外	
119	３－119	赤坂字堤下	縄文・古代	横手市赤坂字堤下15外 堤下21外　橋本87外	
120	３－120	下喜連森	古代	横手市赤坂字下喜連森112外 後野25外 上喜連森198外　橋本33外	
121	３－121	橋本	縄文	横手市赤坂字下喜連森74外仁坂下71外	
122	３－122	城野岡窯跡	古代	横手市赤坂字城野岡316外	
123	３－123	沢口	古代	横手市赤坂字沢口126外	
125	３－125	郷土館 A	古代	横手市赤坂字郷土館32－１外　富ヶ沢	
126	３－126	郷土館 B	縄文・古代	横手市赤坂字郷土館43外　館ノ下	
127	３－127	郷土館窯跡	古代	横手市赤坂字郷土館43－１　43－２外	
128	３－128	大沼沢 A	古代	横手市赤坂字大沼沢	
129	３－129	田久保下	古代	横手市婦気大堤字田久保下190外赤坂字館ノ下48－７外	
130	３－130	条里制跡	古代	横手市黒川、下境、上境、下八丁、上八丁、赤川、三本柳、赤坂、婦気大堤前郷、横手町、八幡、静町、杉目	
131	３－131	平城跡	中世	横手市平城町　大水戸町	
133	３－133	南町	縄文・古代	横手市南町13外	
134	３－134	大乗院塚	旧石器	横手市前郷字大乗院塚20外　東松原１外　兀山117外	
135	３－135	三井寺	縄文	横手市前郷三井寺171外	
136	３－136	兀山	縄文	横手市前郷字兀山９外	
137	３－137	西ヶ坂	縄文	横手市前郷字西ヶ坂	
138	３－138	安田館跡	古代	横手市安田字ブンナ沢	
139	３－139	柳堤	縄文・古代	横手市安田字柳堤２外　八王寺65外	
140	３－140	中田	中世	横手市婦気大堤字中田３外	
141	３－141	大沢字前田	縄文	横手市大沢字前田110外	
142	３－142	上片倉	縄文	横手市大沢字上片倉	
143	３－143	下庭当田	縄文	横手市大沢字下庭当田、上庭当田	
144	３－144	獄鼻	縄文	横手市大沢字嶽鼻３外 上庭当田64外	
145	３－145	上庭当田	縄文	横手市大沢字上庭当田122	
167		郷土館 D	古代	横手市赤坂字郷土館28－７外	
168		富ヶ沢 D	古代	横手市赤坂字富ヶ沢54外	
169		富ヶ沢 E	古代	横手市赤坂字富ヶ沢52－１外	

170		郷士館Ｃ	縄文	横手市赤坂字郷士館43－１外	
171		大沼沢Ｂ	古代	横手市赤坂字大沼沢53外	
172		大沼沢窯跡	古代	横手市赤坂字大沼沢48－１外	
173		富ヶ沢Ａ窯跡	古代	横手市赤坂字富ヶ沢62－33外	
174		富ヶ沢Ｂ窯跡	古代	横手市赤坂字富ヶ沢62－40外	
175		富ヶ沢Ｃ窯跡	古代	横手市赤坂字富ヶ沢62－54外	
180		向田	古代	横手市安田字向田202外	
181		北野添Ａ	縄文・古代	横手市安本字北野添	
182		北野添Ｂ	縄文・古代	横手市安本字北野添	
183		下矢来沢Ｃ	古代	横手市金沢中野字下矢来沢55外	
184		北御所野Ａ	縄文	横手市安本字北御所野	
185		一本木	古代	横手市黒川字一本木	
	57－８	中谷地	古代	仙南村金沢字中谷地30外	
	57－11	長岡森	縄文	仙南村金沢字長岡森８	
	57－９	元東根	古代	仙南村金沢字元東根120外	
	57－16	石神館	古代	仙南村金沢字館ヶ沢６外	
	57－17	一宇山経塚	古代	仙南村金沢字館ヶ沢16	
	57－14	茨嶋館	中世	仙南村金沢字茨島130外	
	57－12	西長岡森	縄文	仙南村金沢字西長岡森28	
	57－４	飯詰城	中世	仙南村飯詰字北飯詰92－95	

註

１　地図および一覧に付した番号は、横手市教育委員会刊行『遺跡詳細分布調査報告書』1986（昭和61）年、横手市教育委員会発行『横手市遺跡地図』1999（平成11）年及び「秋田県遺跡地図」(県南版）に収載されている登録番号である。

引用・参考文献

冨樫泰時『日本の古代遺跡24　秋田』　保育社　1985（昭和60）年

秋田県教育委員会『秋田県遺跡地図（県南版)』　1987（昭和62）年

秋田県教育委員会『姥ヶ沢窯跡』秋田県文化財調査報告書第327集　2001（平成13）年

横手市教育委員会『遺跡詳細分布調査報告書』　1986（昭和61）年

横手市教育委員会『横手市遺跡分布地図』　1999（平成11）年

横手市理科センター『横手の自然』改訂版　1999（平成11）年

第３章　発掘調査の概要

第１節　遺跡の概観

前通遺跡は杉沢川右岸の河岸段丘上に立地し、縄文時代晩期・平安時代～中世の遺構群を検出した遺跡である。調査区は工事計画との関係で西側調査区（4,000㎡）および東側調査区（3,800㎡）の２箇所、合計7,800㎡となった。先に調査を着手した西側調査区は主として平安時代の集落として認識していたが、掘立柱建物跡群の検討により、中世以降まで土地利用が存続することが明らかになった。また西側調査区を南北に貫く形で平安時代～中世の道路遺構を検出した。東側調査区においても平安時代の遺構が主であるが、中世の遺構も検出し、ここでも平安時代～中世の道路遺構を検出した。縄文時代晩期の遺構もごく少数検出したが、該期の全容は不明である。両調査区は約100m離れており、同時に調査された横手市教育委員会調査区および工事造成時の所見から東側調査区を東西に貫く道路遺構が西側調査区の北方へ伸びることも明らかとなった。

平安時代～中世の道路遺構は、両側または片側に側溝としての溝状遺構を有し、南北および東西方向に展開する。掘立柱建物跡群はこの道路遺構に沿った配置を取っていた。

青森県津軽地方に多く検出されている、平安時代の平面形が「U」字型の溝状遺構（外周溝）を多数検出したが、その多くは９世紀後半代にかかるもので、青森県の例の様に外周溝内に竪穴住居もしくは竪穴住居＋掘立柱建物を配置する例とはならず、むしろ小ピットにより構成される掘立柱建物を伴う事例を多く確認した。これらはむしろ該期の北関東～南東北の事例と結びつく可能性が高い。

遺物では須恵器墨書土器坏が墨書を有する底部から意図的に割られている事例を複数確認し、何らかの祭祀的な行為に伴うものと推測された。また同様に意図的に割られた須恵器広口壺が道路遺構に隣接する位置に納置された事例があり、これも地鎮等の祭祀に伴うものと考えられる。

東側調査区では平安時代の遺構群のほかに、中世に係る墳墓・土壙墓を検出した。また東側調査区の先端（東端）部では、縄文時代の捨て場および竪穴住居跡などを検出した。捨て場は縄文時代晩期に形成されており、赤色顔料塗彩の土器類や土偶、石棒石剣類等の祭祀遺物が多数出土した。

今回の前通遺跡の発掘調査では、縄文時代晩期の集落の外れと、平安時代以降存続しつつ拡大した集落のほぼ中心部分を調査したと考えられる。

第２節　調査と整理の方法

発掘調査はグリッド法を採用した。調査区の設定方法は、調査区内の任意の１点（国家座標第Ⅹ系：X=－73,363.969　Y=－23,633.973）を選定し、これを原点（ＭＡ50）とした。この原点から座標北方向に基準線を設定し、この基準線に直交する４ｍ×４ｍのグリッドを設定した。また数ヶ所の杭を水準測量して水準原点とした。グリッド杭には東から西に向かって東西方向を示す…ＬＳ・ＬＴ・ＭＡ・ＭＢ・ＭＣ…というアルファベットと、南から北に向かって南北方向を示す…48・49・50・51・52…の２桁の数字を組み合わせた記号を記入し、４ｍ×４ｍの方眼杭の南東端をグリッドの名称とし

た。

遺構には確認した順に番号を割り当て、精査の結果、遺構でないと判断された場合はその番号を欠番扱いとした。遺構プランは埋土堆積状態観察･実測用ベルトを設定して掘り下げ、土層断面の分層時に野帳に堆積状態をスケッチして土色･土性等を記入した。

柱穴様の小ピットの多くについては、他の遺構とは別にピット番号を付し、精査の結果遺構ではないと判断した場合にはその番号を欠番扱いとした。小ピットはプラン確認面での土色と土性等を柱穴台帳に記載し、半截あるいは全掘した。小径の遺構・柱穴と小ピットについては、整理作業を進めながら一括して再検討した。

遺物は、グリッド・出土層位・出土年月日を記入したラベルとともに取り上げた。沢などから集中出土した遺物は平面図に記載あるいは座標の測定を行った。遺物の記載は、メジャーおよび自動レベルを使用して人手で行った。

調査の記録は平面図・断面図および写真によった。平面図・断面図は縮尺1/20を原則としたが、微細な遺構図面を必要とする際には1/10で記録した。環状列石部分等、広範囲を測図する場合には空中写真による測量図化で対応した。

写真撮影は35㎜およびブローニー判（60×45㎜）のモノクロおよびリバーサルフィルムを使用した。

室内における整理では、遺構は現場図面を検討して第２原図を作成し、トレースして挿図を作成した。遺物は洗浄・註記の後に接合および実測図の作成、写真撮影を行った。

第３節　発掘調査の経過

６月５日　重機による表土除去作業を開始。

６月６日　測量杭打設開始。プレハブ設営、リース機材搬入。(市史編纂・文化振興室伊藤氏来跡.以後調査終了日まで取材のためたびたび来跡した。)

６月12日　作業員を雇用し、調査を開始する。センターより物品および調査機材搬入。重機による西側調査区（水田部分）の表土除去が終了する。

６月14日　西側調査区畑地部分の表土（Ⅰ層）掘り下げ作業開始。土師器・須恵器出土。センター所長来跡。

６月15日　西側調査区畑地部分の遺構確認作業開始。NR39付近Ⅱ層より鉄製品出土。畑地部分表土除去ほぼ終了する。文化財保護室大野副主幹・武藤学芸主事来跡。

６月20日　西側調査区水田部分遺構確認作業開始。

６月22日　西側調査区畑地部分の遺構ＳＩ112の精査を開始。

７月３日　西側調査区水田部「U」字型溝状遺構（外周溝）SI557及びその周囲精査開始。

７月５日　調査区外に展開することが明確な溝跡その他の遺構群の調査について、文化財保護室・平鹿総合農林事務所・市教委が現地協議を行い、市教委が隣接して調査にあたることに決定。所長来跡。

７月10日　五十嵐横手市長・市広報担当職員３名・市史編纂･文化振興室指導員伊藤武士氏来跡。

７月27日　北上市埋蔵文化財センター職員及び作業員50名、研修のため来跡。

８月４日　東側調査区の調査着手にさきがけ、草刈り作業実施。また西側調査区より東側調査区へ作業道具を移動。草刈り作業中にスズメ蜂の巣を複数確認し、作業を一時中止した。調査進展を図るため、横手市内の害虫駆除業者に現況を確認してもらう。

８月７日　ラジコンヘリによる西側調査区の空撮を実施。

８月９日　スズメバチの巣を駆除するため、害虫駆除業者が来跡した。確認済みの巣は盆休み前の夜間に駆除することに決定した。

８月10日　スズメバチの巣を駆除するための機材準備と草刈りのため、夕方に害虫駆除業者が来跡。駆除は夕方から深夜にかけて終了した。西側調査区農道部掘削表土除去作業。

８月21日　スズメバチの巣の駆除が完了したことを受け、東側調査区の表土除去を開始した。

８月22日　西側調査区農道部ＳＫ1639より土器多量出土。

８月29日　東側調査区畑地表土除去作業、遺構確認作業が本格化。

９月１日　西側調査区農道部分の精査が終了し、西側調査区全体が引き渡された。

９月４日　東側調査区の東端に位置するＳＸ2200の精査に着手した。多量の遺物が出土し、縄文時代晩期の捨て場であることを確認。

９月13日　東側調査区粗掘りが終了し、遺構精査作業が本格化した。

９月19日　東側調査区の水田部の表土を除去した。多数の柱穴・溝状遺構を確認。

９月21日　水田部分の遺構が調査区外に展開することが確実視され、文化財保護室・平鹿総合農林事務所・土地改良区・横手市教委等で協議が持たれた。佐々木管理指導員・桜田課長補佐ほか３名が管理指導と調査指導のため来跡。

10月５日　東側調査区の空撮を実施。午後、平鹿総合農林事務所の大山主任が若手職員を中心に15名を引率して来跡し、ほ場整備事業地区における埋蔵文化財発見に係る対応についての研修を実施した。

10月６日　東側調査区突端部・中央部の精査が終了し、平鹿総合農林事務所に引き渡す。

10月20日　調査最終日。センター所長来跡。発掘機材の梱包等トラックへの積み込み準備を行った。午後には機材をトラックへ積み込み、全工程が無事に終了した。

第４章　調査の記録

第１節　検出遺構

本調査区内で検出した遺構のほとんどは、平安時代～中世の所産である。しかし、遺構群として明確かつ主体をなすのは平安時代のもので、これらは西側調査区と東側調査区にわたり検出した。また縄文時代の遺構群は主として東側調査区で検出した。中世とした遺構は、中世前期の遺物を出土した土壙墓および溝状遺構等を確認したが、掘立柱建物跡の一部については中世後期のものもある。

遺構総数は3,754遺構で、複数の柱穴により構成される掘立柱建物跡および側溝を有する道路遺構がある。縄文時代の遺構は、ごく少数が東側調査区の東部に偏って分布し、95遺構である。平安時代の遺構は、９世紀前半代～10世紀初頭に属し、331遺構を数えるが、両調査区に広く分布する。また中世の遺構は107遺構で、明確な遺物を伴うものは東側調査区に偏って分布するが、西側調査区にも中世の所産と思われる掘立柱建物跡を検出した。掘立柱建物跡群は両調査区において検出した道路遺構に沿って配置されており、道路遺構も平安時代～中世まで継続して使用されていることが明確となった。時期不明の柱穴のほとんどは、平安時代～中世期にかけての所産である可能性が極めて高い。また近世にかかる遺構もごく少数検出した。

遺物は縄文時代の捨て場を１箇所検出し、この捨て場から出土した遺物が遺物総量の９割以上を占める。平安時代の遺物の他は、鎌倉時代初期の遺物および近世～近代の遺物がごく少量出土した。

遺構埋土中よりごく少量の縄文時代の土器片・石器剥片が出土した遺構がある。縄文土器以外に帰属時期を類推し得る出土遺物が無い場合は、便宜上縄文時代に帰属する遺構として取り扱い検出遺構一覧表に記載した。しかし該期の遺構はＳＴ2200捨て場が位置する東側調査区の東部に偏って分布し、周辺域では遺物散布が濃密であることに加え、農耕による攪乱も著しいことが調査の結果明らかになった。このため、当該遺構群については平安時代以降に遺構埋土中に縄文時代遺物が混入した可能性が高いと考えられる。

１　縄文時代

①竪穴住居跡　　１軒

東側調査区の東端でＳＩ2032竪穴住居跡を検出した。長軸550㎝、短軸456㎝、深さ32㎝の楕円形を呈する。縄文土器片と石器剥片が出土したが、土器破片からは時期を特定できなかった。

縄文時代晩期のＳＸ2200捨て場が北東に接し、周辺域においても当該時期以外の縄文時代遺物は出土しなかったため、ＳＩ2032竪穴住居跡も同時期の所産と考えられる。

②捨て場　　１箇所

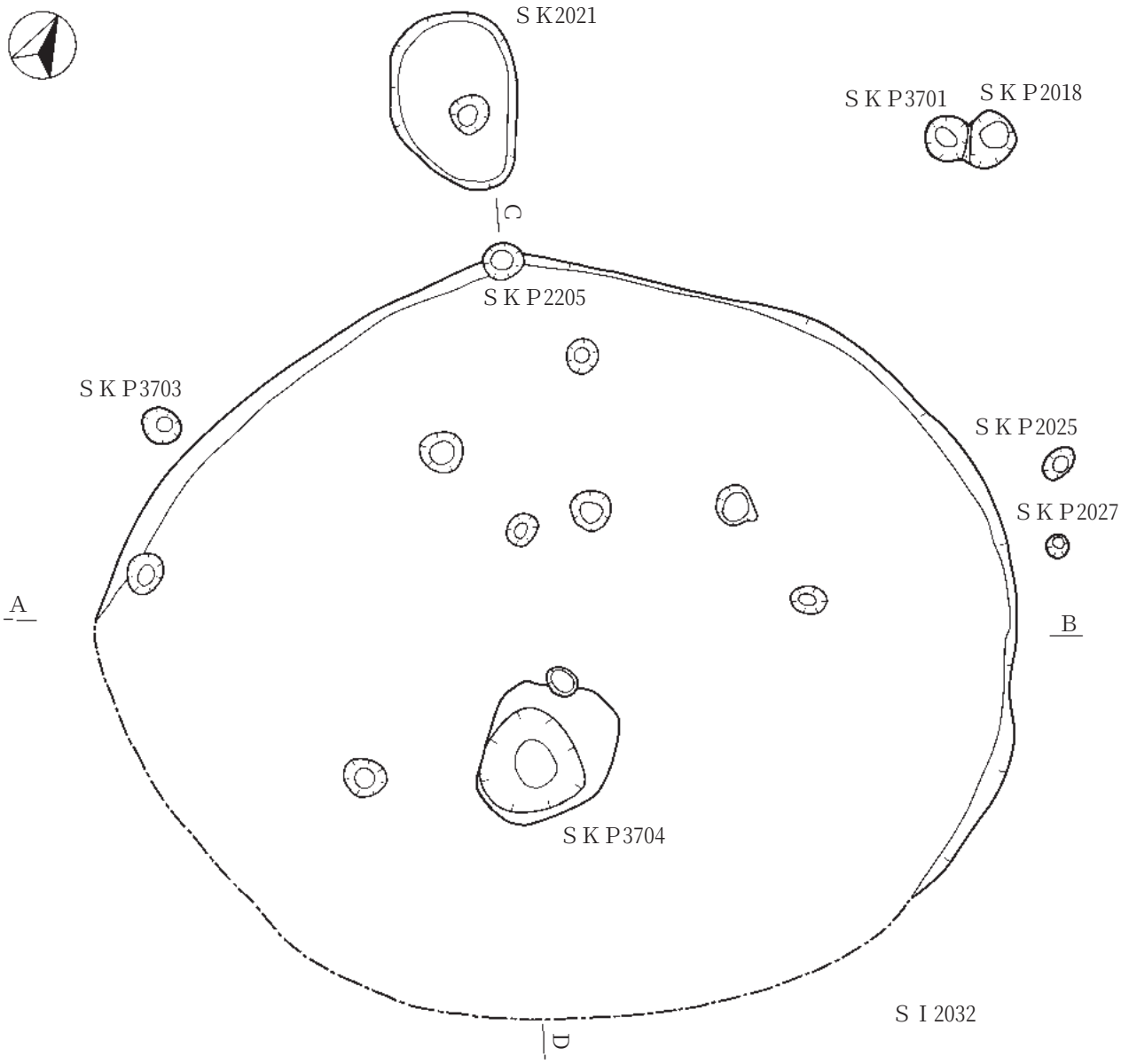
ＳＩ2032竪穴住居跡の北東に隣接する。長軸18.5m 短軸9.7m、深さ1.6mの部分を調査したが、断面および調査区外の遺物散布状況により、調査区外北西に大きく広がりを持つことを確認している。ここでは多量の土器･石器類とともに土偶･石刀石剣類・岩版など、祭祀に関連する土製品･石製品類を多数出土した。

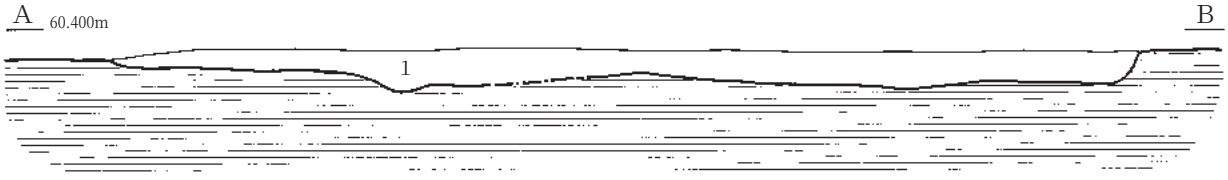
遺構一覧表　縄文時代

遺構№	検出位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	掲載外遺物	時期	備考	挿図№
SI2032	LH54	550	456	32	縄文土器，剥片	縄文		3
ST2200	LD58	—	—	—	縄文土器，須恵器甕，剥片，礫	縄文		4
SKI2110B	LK51	—	—	—	縄文土器	縄文		(57)
SK563	OG38	144	110	47	—	縄文？		(78)
SK1131	OE37	160	92	41	縄文土器	縄文		65
SK2052	LM48	128	118	44	縄文土器	縄文	SKS か	附図
SK2140	LP51	168	160	17	縄文土器	縄文		附図
SK2212	ME51	310	212	54	縄文土器，剥片，礫	縄文		68
SK2225	MF52	—	—	—	縄文土器，剥片	縄文	攪乱	(86)
SK2241	MD53	82	78	28	縄文土器，礫	縄文		68
SK2276	ME54	116	102	28	縄文土器	縄文		69
SK2308	MF56	370	294	33	縄文土器	縄文		69
SK2313	MF56	124	60	22	縄文土器	縄文	ブドウ	附図
SK2315	MF56	108	102	21	縄文土器	縄文		69
SK2325	MH56	146	124	14	縄文土器	縄文		70，(90)
SK2357	ME58	63	42	14	縄文土器	縄文		附図
SK2358	MG58	142	56	17	縄文土器	縄文		70，(90)
SK2388	MF59	167	108	17	縄文土器	縄文		附図
SK2404	MK59	139	70	17	縄文土器	縄文		70
SK2437	MO56	200	95	34	縄文土器	縄文		70
SK2480	MH54	87	57	26	縄文土器	縄文		71
SK2484	MG54	—	—	—	縄文土器	縄文？	攪乱	附図
SK2490	MC51	198	130	18	縄文土器	縄文		71
SK2601	MF57	77	56	11	縄文土器，礫	縄文		72，(90)
SX2542	LK53	256	185	30	縄文土器	縄文		77
SD2017	LH55	274	61	—	縄文土器	縄文		83
SD2173	LR51	—	—	—	縄文土器	縄文		附図
SD2240	MD53	—	—	—	縄文土器，土師器坏	縄文？		86
SD2327	MH56	—	—	10	縄文土器	縄文		90
SD2351	MF57	—	—	28	縄文土器，剥片，礫	縄文		90
SD2483	MG54	—	—	—	縄文土器，剥片	縄文？	攪乱	附図
SKP2005	LG56	59	35	28	縄文土器	縄文		附図
SKP2018	LG55	34	28	21	縄文土器	縄文		(3)，(83)
SKP2034	LJ54	54	40	42	縄文土器，剥片	縄文		附図
SKP2035	LJ54	57	41	51	縄文土器	縄文		附図
SKP2050	LM48	41	41	39	縄文土器	縄文		附図
SKP2066B	LM52	28	24	47	縄文土器	縄文		附図
SKP2094	LN50	78	47	17～66	縄文土器	縄文		附図
SKP2103	LP52	(48)	28	26	縄文土器	縄文		附図
SKP2106	LP51	72	49	23	縄文土器	縄文		附図
SKP2111	LL51	64	60	84	縄文土器	縄文		附図
SKP2127	LN52	82	60	28	縄文土器	縄文		附図
SKP2131	LO52	56	47	37	縄文土器	縄文		附図
SKP2153	LP50	38	37	41	縄文土器	縄文		附図
SKP2156	LO49	32	30	26	縄文土器	縄文		(85)
SKP2164	LQ51	28	22	27	縄文土器	縄文		附図
SKP2182	LR50	24	20	20	縄文土器	縄文		附図
SKP2203	LM51	32	32	69	縄文土器	縄文		附図
SKP2215	MD51	74	46	26	縄文土器	縄文		附図
SKP2228	ME52	27	26	27	縄文土器？	縄文		(86)
SKP2264	MD54	62	47	28	縄文土器	縄文		(86)
SKP2279	MF54	27	26	23	縄文土器	縄文		附図
SKP2284	MD55	21	18	13	縄文土器	縄文		附図
SKP2285	MF55	58	48	23	縄文土器	縄文		附図
SKP2286	MF55	44	35	38	縄文土器	縄文		附図
SKP2299	MD56	83	24	34	縄文土器	縄文	礫	附図
SKP2303	ME56	28	26	39	縄文土器	縄文		附図

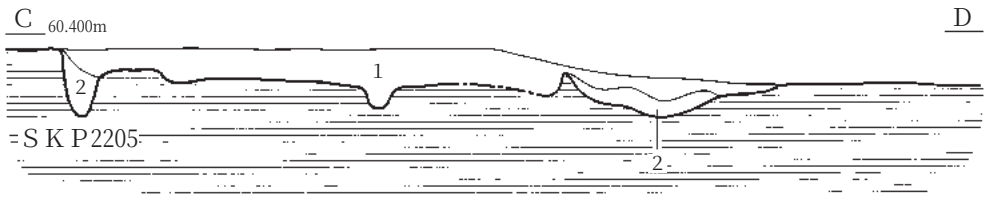
遺構一覧表　縄文時代

遺構№	検出位置	長軸(㎝)	短軸(㎝)	深さ(㎝)	掲載外遺物	時期	備考	挿図№
SKP2309	MF56	72	60	17	縄文土器	縄文		附図
SKP2333	MH57	98	60	22	縄文土器	縄文？	ブドウ？	(90)
SKP2359	MG58	61	52	10	縄文土器	縄文		(90)
SKP2361	MH58	82	60	26	縄文土器	縄文		(90)
SKP2363	MH58	56	31	21	縄文土器，礫	縄文？	ブドウ？	(87),(90)
SKP2368	MH58	—	—	—	縄文土器	縄文？	ブドウ？	(87),(90)
SKP2488	MH53	96	56	16	縄文土器	縄文		附図
SKP2491	MC51	35	32	37	縄文土器	縄文		附図
SKP2494	MD54	24	20	20	縄文土器	縄文		附図
SKP2498	ME52	68	48	39	縄文土器	縄文？		(86)
SKP2499	ME53	26	24	22	縄文土器	縄文		(86)
SKP2505	LM51	16	16	—	縄文土器	縄文		附図
SKP2509	LI55	24	22	22	縄文土器	縄文		(83)
SKP2511	LM50	36	34	31	縄文土器	縄文		附図
SKP2512	LM49	35	30	32	縄文土器	縄文		附図
SKP2514	LL50	38	28	26	縄文土器，礫	縄文		附図
SKP2515	LN49	45	28	30	縄文土器	縄文		(84)
SKP2517	LM50	75	71	28	縄文土器	縄文		附図
SKP2519	LM49	28	26	28	縄文土器，礫	縄文		附図
SKP2520	LM49	26	23	30	縄文土器	縄文		附図
SKP2521	LM49	31	28	16	縄文土器	縄文		附図
SKP2522	LK53	46	42	59	縄文土器	縄文		附図
SKP2526	LM49	22	20	20	縄文土器	縄文		(72)
SKP2532	LK54	81	65	70	縄文土器	縄文		附図
SKP2535	LQ51	34	26	29	縄文土器	縄文		附図
SKP2536	LR50	88	77	57	縄文土器	縄文		附図
SKP2537	LO51	130	94	80	縄文土器	縄文		附図
SKP2538	LO51	130	94	23	縄文土器	縄文		附図
SKP2539	LO49	38	31	25	縄文土器	縄文		(85)
SKP2540	LO50	42	37	51	縄文土器	縄文		(85)
SKP2541	LQ51	35	30	36	縄文土器	縄文		附図
SKP2603	MG53	31	25	11	縄文土器	縄文		附図
SKP2604	MF51	49	43	31	縄文土器	縄文		附図
SKP2605	MF50	31	26	24	縄文土器	縄文		附図
SKP2608	ME54	26	22	45	縄文土器	縄文		附図
SKP2611	MG57	23	23	39	縄文土器	縄文		(90)
SKP2613	MD54	29	25	26	縄文土器	縄文		(86)
SKP2617	ME56	22	21	14	縄文時代，礫	縄文		附図



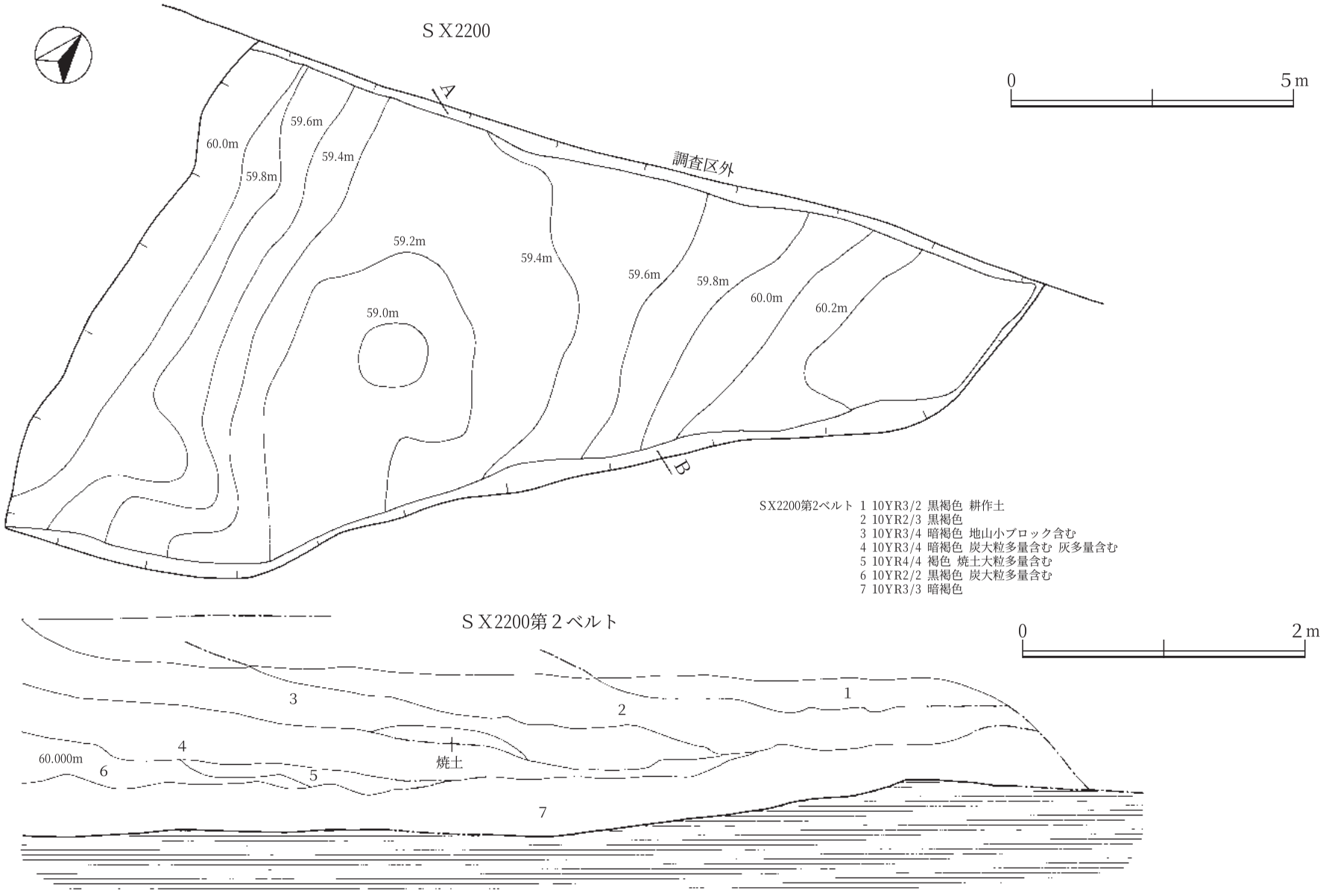


SX2032 AB ライン 1 10YR3/2 黒褐色 地山粒少量含む 炭粒少量含む 小礫多量含む



SX2032 CD ライン 1 10YR3/2 黒褐色 地山粒少量含む 炭粒少量含む 小礫多量含む
2 5YR4/6　赤褐色 "小礫多量含む 焼土"

第３図　検出遺構　竪穴住居跡　縄文時代



第４図　検出遺構　捨て場　縄文時代

遺物一覧表　縄文時代　土器

出土位置	層序	器種	分類	備考	口径(cm)	最大径(cm)	器高(cm)	挿図№	遺物№
ST2200	RP	浅鉢	Ⅰ2		(8.6)	(8.6)	(3.3)	5	1
ST2200	RP	浅鉢	Ⅰ2		(10.7)	(10.7)	(5.0)	5	2
ST2200		浅鉢	Ⅰ2		12.9	12.9	5.6	5	3
ST2200	RP	浅鉢	Ⅰ2		(12.5)	(12.5)	5.1	5	4
ST2200	RP70	浅鉢	Ⅱ2		11.8	11.8	4.0	5	5
ST2200		浅鉢	Ⅱ2		14.1	14.1	4.7	5	6
ST2200		浅鉢	Ⅱ		—	—	—	5	7
ST2200		浅鉢	Ⅱ1		—	—	—	5	8
ST2200		浅鉢	Ⅱ2		6.6	6.6	3.5	5	9
ST2200		浅鉢	1		—	—	—	5	10
ST2200		浅鉢	1		—	—	—	5	11
ST2200		浅鉢	1		(21.8)	(21.8)	(5.0)	6	1
ST2200		浅鉢	Ⅱ2		(25.1)	(25.1)	(6.0)	6	2
ST2200		浅鉢	Ⅱ1		34.0	34.0	13.9	6	3
ST2200		浅鉢	Ⅱ		—	—	4.9	6	4
ST2200		浅鉢	Ⅱ	内外朱	(19.5)	(19.5)	5.1	6	5
ST2200		台付浅鉢	2		(14.3)	—	7.0	7	1
ST2200	RP62	台付鉢	2	内朱	8.2	8.2	7.4	7	2
ST2200		台付鉢	2		—	—	(8.9)	7	3
SK2212		台付鉢	2		18.0	19.3	19.6	7	4
ST2200		台付鉢	2	内朱	8.0	8.0	7.6	7	5
ST2200		台付鉢	2		16.6	16.6	12.2	7	6
ST2200		台付鉢	2		9.0	9.0	9.1	7	7
ST2200	RP37	台付浅鉢	2		9.1	9.1	3.4	7	8
ST2200		鉢	Ⅰ		9.8	9.8	9.2	8	1
ST2200	RP	鉢	Ⅰ2		(8.8)	(8.8)	9.3	8	2
ST2200	RP44	鉢	Ⅱ2		(12.1)	(12.1)	9.8	8	3
ST2200	RP24	鉢	Ⅱ2		13.0	13.0	13.8	8	4
ST2200		鉢	Ⅱ1		18.5	18.5	11.5	8	5
ST2200		鉢	Ⅱ2		(17.5)	(17.5)	—	8	6
ST2200	RP46	鉢	Ⅰ2		(7.1)	(7.1)	8.9	8	7
ST2200		鉢	Ⅱ2		18.9	18.9	(17.4)	8	8
ST2200		鉢	Ⅱ2		(8.6)	(8.6)	(6.0)	8	9
ST2200		鉢	Ⅱ2		(12.0)	(12.0)	(14.0)	8	10
ST2200	RP78	鉢	Ⅱ2	174と 入れ子 (内)	10.8	10.8	8.4	8	11
ST2200		鉢	Ⅱ2		—	—	—	8	12
ST2200		鉢	Ⅱ2		—	—	—	8	13
ST2200		鉢	Ⅲ2		—	—	—	8	14
ST2200	RP29	鉢	Ⅱ2					8	15
ST2200	RP	鉢	Ⅱ1		19.8	21.6	(16.5)	9	1
ST2200		鉢	Ⅱ1		—	—	—	9	2
ST2200	RP84	鉢	Ⅱ2		8.5	8.5	5.9	9	3
ST2200		鉢	Ⅱ2		9.9	9.9	6.8	9	4
ST2200	RP97	鉢	Ⅱ2		9.4	9.4	7.2	9	5
ST2200		鉢	Ⅱ2		11.9	11.9	8.8	9	6
ST2200	RP８？	鉢	Ⅱ2	内外朱	9.1	9.1	6.0	9	7
ST2200	RP88	鉢	Ⅰ2		8.4	8.4	9.2	9	8
ST2200		鉢	Ⅱ2		(12.0)	(12.0)	8.9	9	9
ST2200	RP74	鉢	Ⅱ2		14.1	14.1	8.0	9	10
ST2200	RP	鉢	Ⅱ2		14.2	14.2	10.0	9	11
ST2200	ベルト４層	鉢	Ⅱ2		(17.3)	(17.3)	(13.4)	9	12
ST2200		鉢	Ⅱ2		14.4	14.4	8.2	9	13
ST2200		鉢	Ⅱ2		15.1	15.1	14.0	9	14
ST2200		鉢	Ⅱ2		—	—	13.0	9	15
ST2200		鉢	Ⅲ2		18.6	18.6	17.2	10	1
ST2200		鉢	Ⅲ2		(14.2)	(14.2)	(11.6)	10	2
ST2200		鉢	Ⅱ2		(18.1)	(18.1)	15.7	10	3
ST2200		鉢	Ⅱ2		14.7	14.7	(10.7)	10	4
ST2200		鉢	Ⅱ2		22.5	22.5	17.6	10	5
ST2200	RP51	鉢	Ⅱ2		—	—	—	10	6
ST2200		鉢	Ⅱ2		21.5	21.5	—	10	7
ST2200		鉢	Ⅱ2		(22.3)	(22.3)	(11.4)	10	8
ST2200	RP	鉢	Ⅱ2		(18.4)	(18.4)	—	10	9
ST2200		鉢	Ⅲ2	補修孔	—	—	—	10	10
ST2200	RP	鉢	Ⅱ2		(19.0)	(19.0)	—	11	1

縄文時代　土器

出土遺物	層序	器種	分類	備考	口径(cm)	最大径(cm)	器高(cm)	挿図№	遺物№
ST2200		鉢	Ⅱ2		(19.0)	(19.0)	(15.2)	11	2
ST2200		鉢	Ⅱ2		(15.1)	(15.1)	(11.5)	11	3
ST2200		鉢	Ⅱ2		—	—	—	11	4
ST2200		鉢	Ⅱ2		—	—	—	11	5
ST2200		鉢	Ⅲ1		35.5		40.2	11	6
ST2200		鉢	Ⅲ2		15.1	15.1	—	11	7
ST2200		鉢	Ⅲ2		16.2	16.2	14.0	11	8
ST2200		鉢	Ⅲ2		20.2	20.2	(7.1)	11	9
ST2200		鉢	Ⅰ2		(17.8)	(17.8)	(18.9)	12	1
ST2200		鉢	Ⅰ2		29.0	29.0	—	12	2
ST2200		鉢	Ⅰ2		(31.0)	(31.0)	(12.9)	12	3
ST2200		鉢	Ⅱ2		15.5	15.5	—	12	4
ST2200		鉢	Ⅰ2		—	—	—	12	5
ST2200	RP41	鉢	Ⅰ2		—	—	—	12	6
ST2200		鉢	1		—	—	—	12	7
ST2200		壺	Ⅰ		8.3	8.3	20.1	13	1
ST2200		壺	Ⅰ	穿孔あり	8.2	8.2	(21.5)	13	2
ST2200		壺	Ⅰ		9.1	9.1	(17.0)	13	3
ST2200		壺	Ⅰ		12.5	12.5	33.1	13	4
ST2200		壺	Ⅰ		(9.2)	(9.2)	(13.3)	13	5
ST2200		壺	Ⅰ		10.1	10.1	—	14	1
ST2200	RP63	壺	Ⅱ		4.7	4.7	10.3	14	2
ST2200		壺	Ⅲ		9.5	9.5	(13.8)	14	3
ST2200		壺		内外朱	—	—	—	14	4
ST2200		壺	Ⅲ		12.0	12.0	(14.0)	14	5
ST2200	RP43	壺			—	—	16.0	14	6
ST2200		壺	Ⅲ		11.5	11.5	9.7	14	7
ST2200	RP	壺	Ⅲ		10.9	10.9	(18.9)	14	8
ST2200	RP３	壺	Ⅰ2		5.6	5.6	(7.4)	14	9
ST2200	RP50	壺	Ⅰ2		5.0	5.0	8.1	14	10
ST2200	RP73	壺	Ⅰ2		4.6	4.6	10.0	15	1
ST2200	PR71	壺	Ⅰ2		(7.7)	(7.7)	(9.7)	15	2
ST2200	RP	壺	Ⅰ2		(8.0)	(8.0)	(15.7)	15	3
ST2200	RP	壺	Ⅰ2		7.0	7.0	10.2	15	4
ST2200		壺	Ⅰ2	内外朱	6.7	6.7	6.6	15	5
ST2200		壺	Ⅰ2		(8.1)	(8.1)	(12.4)	15	6
ST2200		壺	Ⅰ2		9.9	9.9	22.1	15	7
ST2200	RP	注口	2		—	—	—	15	8
ST2200		注口	Ⅰ2	外朱	11.5	11.5	(7.1)	16	1
ST2200		注口	Ⅰ2		(13.8)	(20.0)	(10.9)	16	2
ST2200	RP80	注口	Ⅰ2		(12.0)	17.4	(12.5)	16	3
ST2200	第２ベルト４層	注口	Ⅰ2		(11.0)	16.0	9.8	17	1
ST2200	RP53	注口	Ⅰ2		(9.6)	13.6	10.1	17	2
ST2200	RP102	注口	Ⅱ2		(10.3)	14.2	(9.1)	17	3
ST2200		注口	Ⅰ2	外朱	(12.7)	(12.7)	(7.9)	17	4
ST2200	RP	注口	2		—	14.5	(8.5)	18	1
ST2200	RP56	注口	2		—	10.3	(6.5)	18	2
ST2200		浅鉢	Ⅰ2		(20.4)	(20.4)	9.2	19	1
ST2200	？	台付鉢	3		(10.4)	(10.4)	(5.3)	19	2
ST2200	RP30	浅鉢	Ⅰ2		13.4	13.4	5.7	19	3
ST2200		浅鉢	Ⅰ3	脚	(11.4)	(11.4)	(4.9)	19	4
ST2200		壺		脚	—	—	(8.4)	19	5
ST2200	RP81	壺	Ⅱ	脚，内外朱	3.4	3.4	8.2	19	6
ST2200		切断			—	—	—	19	7
ST2200		切断			—	—	—	19	8
ST2200	RP75	ミニチュア			(4.6)	(4.6)	(5.1)	19	9
ST2200	RP	器台			—	—	11.6	19	10
ST2200	RP76	粗製深鉢			10.0	10.0	11.3	20	1
ST2200	RP49	粗製深鉢			22.1	22.1	(14.0)	20	2
ST2200		粗製深鉢			17.8	17.8	(14.5)	20	3
ST2200	RP	粗製深鉢			(22.2)	(22.2)	(21.6)	20	4
ST2200	LF56，RP	粗製深鉢			33.0	33.0	31.6	20	5
ST2200		粗製深鉢			—	—	—	21	1
ST2200		粗製深鉢			20.8	20.8	36.5	21	2
ST2200		粗製深鉢			—	—	—	21	3
ST2200		粗製深鉢			26.0	26.0	—	21	4

縄文時代　土器

出土位置	層序	器種	分類	備考	口径(cm)	最大径(cm)	器高(cm)	挿図№	遺物№
ST2200		粗製深鉢			30.2	30.2	40.5	22	1
ST2200		粗製深鉢			(20.0)	(20.0)	(13.5)	22	2
ST2200		粗製鉢			—	—	—	22	3
ST2200	RP78	粗製鉢		175と入れ子 (外)	11.9	11.9	10.3	23	1
ST2200		粗製深鉢			(35.0)	(35.0)	(20.0)	23	2
ST2200		粗製深鉢			13.7	13.7	13.8	23	3
ST2200		粗製土器			—	—	—	23	4
ST2200		粗製土器			—	—	(8.3)	23	5
ST2200		粗製土器			—	—	—	23	6
ST2200	RP64	粗製土器			—	—	6.0	23	7
ST2200		粗製土器			(17.9)	(17.9)	(9.1)	23	8
ST2200	RP101	粗製土器			—	—	(5.4)	23	9
ST2200		粗製土器			—	—	(13.2)	23	10
ST2200		粗製土器			—	—	—	23	11
ST2200		粗製深鉢			—	—	—	24	1
LE57		蓋	2	ST2200	9.8	9.8	5.4	24	2
ST2200		粗製深鉢			(36.0)	(36.0)	(30.7)	24	3
LS55	Ⅱ	粗製土器			—	—	—	24	4
LM54	Ⅱ	粗製土器			—	—	—	24	5
MF53	Ⅲ RP	鉢？	3		—	—	—	24	6

縄文時代　土器破片 (層位毎)

出土位置	層序	備考	挿図№	遺物№
ST2200	最下層		25	1
ST2200	最下層		25	2
ST2200	最下層		25	3
ST2200	最下層		25	4
ST2200	最下層		25	5
ST2200	最下層		25	6
ST2200	最下層		25	7
ST2200			25	8
ST2200			25	9
ST2200	第２ベルト３層		26	1
ST2200	第２ベルト３層		26	2
ST2200	第２ベルト３層		26	3
ST2200	第２ベルト３層		26	4
ST2200	第２ベルト３層		26	5
ST2200	第２ベルト２層		26	6
ST2200	第２ベルト２層		26	7
ST2200	第２ベルト２層		26	8
ST2200	第２ベルト表土		26	9
ST2200	第２ベルト表土		26	10
ST2200	第１ベルト７層		27	1
ST2200	第１ベルト７層		27	2
ST2200	第１ベルト６層		27	3
ST2200	第１ベルト６層		27	4
ST2200	第１ベルト６層		27	5
ST2200	第１ベルト６層		27	6
ST2200	第１ベルト６層		27	7
ST2200	第１ベルト５層		27	8
ST2200	第１ベルト３層		27	9
ST2200	第１ベルト３層		27	10
ST2200	第１ベルト２層		27	11
ST2200	第１ベルト２層		27	12
ST2200	第１ベルト２層		27	13
ST2200	第１ベルト２層		27	14
ST2200	第２ベルト７層		28	1
ST2200	第２ベルト７層		28	2
ST2200	第２ベルト７層		28	3
ST2200	第２ベルト７層		28	4
ST2200	第２ベルト７層		28	5
ST2200	第２ベルト６層，RP105		28	6

出土位置	層序	備考	挿図№	遺物№
ST2200	第２ベルト６層，RP105		28	7
ST2200	第２ベルト６層		28	8
ST2200	第２ベルト６層		28	9
ST2200	第２ベルト６層，RP103		28	10
ST2200	第２ベルト６層		28	11
ST2200	第２ベルト６層		28	12
ST2200	第２ベルト６層		28	13
ST2200	第２ベルト５層		29	1
ST2200	第２ベルト５層		29	2
ST2200	第２ベルト５層		29	3
ST2200	第２ベルト５層		29	4
ST2200	第２ベルト５層		29	5
ST2200	第２ベルト５層		29	6
ST2200	第２ベルト５層，LF56		29	7
ST2200	第２ベルト５層		30	1
ST2200	第２ベルト５層		30	2
ST2200	第２ベルト５層，RP		30	3
ST2200	第２ベルト５層		30	4
ST2200	第２ベルト４層		30	5
ST2200	第２ベルト４層		30	6
ST2200	第２ベルト４層		30	7
ST2200	第２ベルト４層		30	8
ST2200	第２ベルト４層	外朱	31	1
ST2200	第２ベルト４層		31	2
ST2200	第２ベルト４層		31	3
ST2200	第２ベルト４層		31	4
ST2200	第２ベルト４層		31	5
ST2200	第２ベルト４層		31	6
ST2200	第２ベルト４層		31	7
ST2200	第２ベルト４層		31	8
ST2200	第２ベルト４層		31	9
ST2200	第２ベルト４層		31	10
ST2200	第２ベルト４層		31	11
ST2200	第２ベルト４層		31	12
ST2200	第２ベルト４層		31	13
ST2200	第２ベルト４層		31	14

縄文時代　土器破片（層位毎）

出土位置	層序	備考	挿図№	遺物№
ST2200	第３ベルト７層		32	1
ST2200	第３ベルト７層		32	2
ST2200	第３ベルト７層		32	3
ST2200	第３ベルト７層		32	4
ST2200	第３ベルト６層		32	5
ST2200	第３ベルト６層		32	6
ST2200	第３ベルト６層	朱	32	7
ST2200	第３ベルト６層	朱	32	8
ST2200	第３ベルト６層		32	9
ST2200	第３ベルト６層		32	10
ST2200	第３ベルト６層		32	11
ST2200	第３ベルト６層	朱	32	12
ST2200	第３ベルト６層		32	13
ST2200	第３ベルト６層		32	14
ST2200	第３ベルト６層		32	15
ST2200	第３ベルト４層		33	1
ST2200	第３ベルト４層		33	2
ST2200	第３ベルト４層		33	3
ST2200	第？ベルト４層	外朱	33	4
ST2200	第３ベルト？層	内外朱4	33	5

出土位置	層序	備考	挿図№	遺物№
ST2200	第３ベルト４層	内外朱	33	6
ST2200	第３ベルト４層		33	7
ST2200	第３ベルト３層		33	8
ST2200	第３ベルト３層		33	9
ST2200	第３ベルト３層		33	10
ST2200	第３ベルト３層		33	11
ST2200	第４ベルト７層		34	1
ST2200	第４ベルト６層		34	2
ST2200	第４ベルト６層		34	3
ST2200	第４ベルト６層		34	4
ST2200	第４ベルト６層		34	5
ST2200	第４ベルト６層		34	6
ST2200	第４ベルト６層		34	7
ST2200	第４ベルト４層		34	8
ST2200	第４ベルト４層		34	9
ST2200	第４ベルト４層		34	10
ST2200	第４ベルト４層		34	11
ST2200	第４ベルト４層		34	12
ST2200	第４ベルト３層		34	13
ST2200	第４ベルト３層		34	14

縄文時代　土製品

出土位置	層序	器種	備考	重量(g)	挿図№	遺物№
ST2200	第２ベルト２層	冠状土製品	朱	253.49	35	1
ST2200		土版		66.47	35	2
ST2200	RP40	柄頭状土製品		44.14	35	3
ST2200	RP104	キノコ形土製品		16.87	35	4
ST2200	RP95	土偶		53.04	35	5
ST2200	第１ベルト２層	土偶		28.95	35	6
ST2200	RP54	土偶	朱	106.03	35	7
ST2200	RP66	土偶		60.73	36	1
ST2200	RP42	土偶		50.68	36	2
ST2200		土偶	朱	44.14	36	3
ST2200	第４ベルト４層	土偶	朱	67.87	36	4
ST2200		土偶		35.65	36	5
ST2200	LE57	土偶	朱	45.78	37	1
ST2200		土偶		16.16	37	2
ST2200	RP93	土偶		110.89	37	3

縄文時代　石器

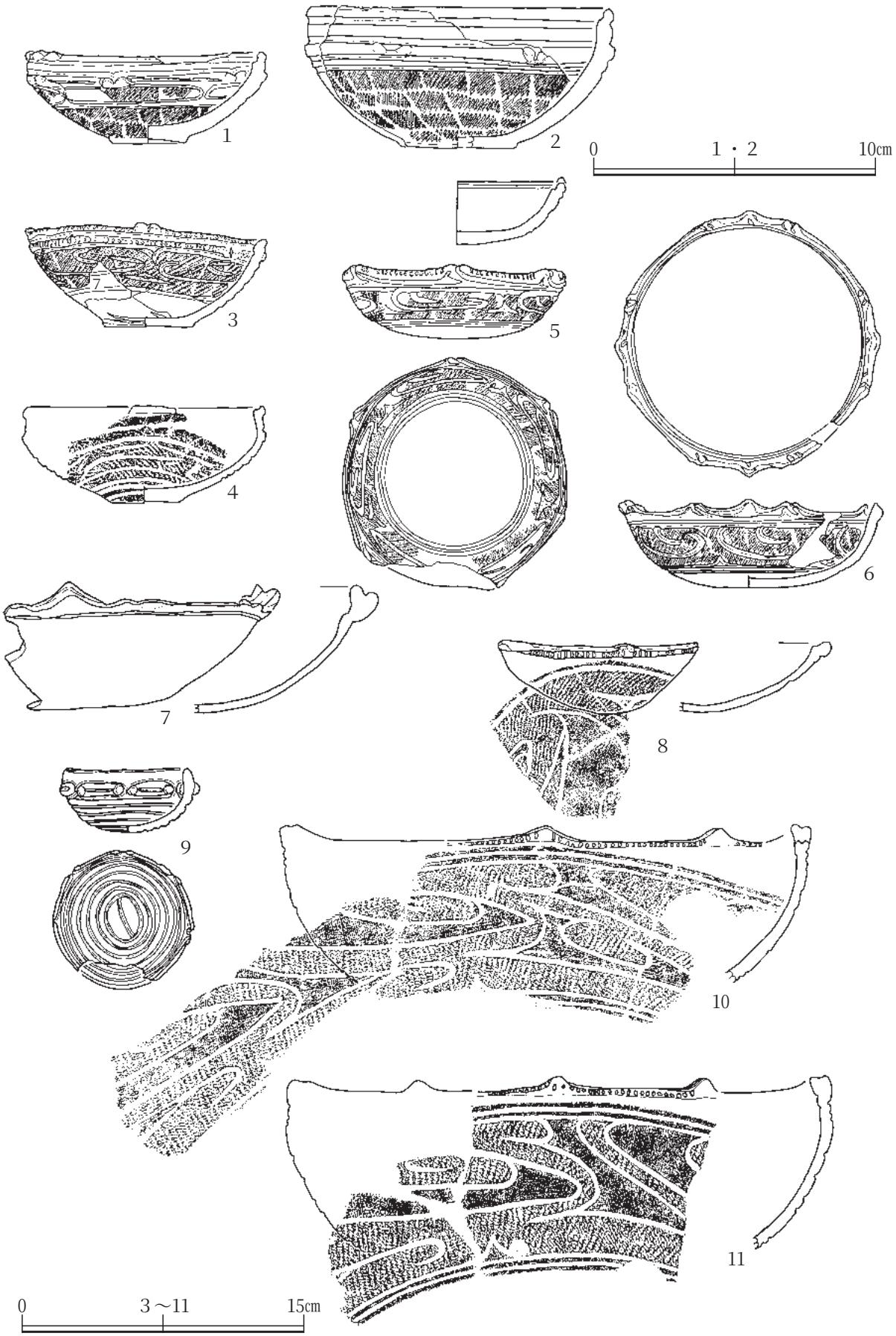
出土位置	層序	器種	分類	備考	重量(g)	挿図№	遺物№
ST2200		石鏃	Ⅰ		1.9	38	1
ST2200		石鏃	Ⅱ		1.3	38	2
ST2200		石鏃	Ⅱ		0.8	38	3
ST2200		石鏃	Ⅱ		0.7	38	4
ST2200		石鏃	Ⅱ		0.6	38	5
ST2200		石鏃	Ⅱ		0.4	38	6
ST2200		石鏃	Ⅱ		0.5	38	7
ST2200		石鏃	Ⅱ		1.8	38	8
ST2200		石鏃	Ⅱ		1.4	38	9
ST2200		石鏃	Ⅱ		1.3	38	10
ST2200		石鏃	Ⅱ		0.9	38	11
ST2200		石鏃	Ⅱ		1.0	38	12
ST2200		石鏃	Ⅱ		1.3	38	13
ST2200		石鏃	Ⅲ		3.0	38	14
ST2200	Ⅱ	石鏃	Ⅲ		3.7	38	15
ST2200		石鏃	Ⅲ		1.4	38	16
ST2200		石鏃	Ⅲ		1.5	38	17
ST2200		石鏃	Ⅲ		3.4	38	18
ST2200		石鏃	Ⅲ		0.3	38	19
ST2200		石鏃	Ⅲ		1.41	38	20

出土位置	層序	器種	分類	備考	重量(g)	挿図№	遺物№
SD933C	Ⅱ	石鏃	Ⅰ		2.8	38	21
SD2248	ME54	石鏃	Ⅱ		1.4	38	22
SD2351	ME57	石鏃	Ⅱ		1.2	38	23
SD2351	ME57	石鏃	Ⅱ		1.4	38	24
SD2382	ヤジリ	石鏃	Ⅱ		1.5	38	25
SX2386		石鏃	Ⅰ		2.5	38	26
ST2200		石槍	Ⅰ		4.17	39	1
ST2200		石槍	Ⅰ		3.68	39	2
ST2200		石槍	Ⅰ		2.50	39	3
ST2200		石槍	Ⅰ		9.05	39	4
ST2200		石槍	Ⅱ		7.25	39	5
ST2200		石槍	Ⅱ		10.32	39	6
ST2200		石槍	Ⅱ		5.44	39	7
ST2200		石槍	Ⅱ		8.49	39	8
SD2240		石槍	Ⅱ		6.74	39	9
ST2200	Ⅱ	石錐	Ⅲ		6.2	39	10
ST2200		石錐	Ⅲ		9.7	39	11
ST2200		石錐	Ⅰ		55.1	39	12
ST2200		石錐	Ⅲ		16.4	39	13
ST2200		石錐	Ⅰ		5.8	39	14

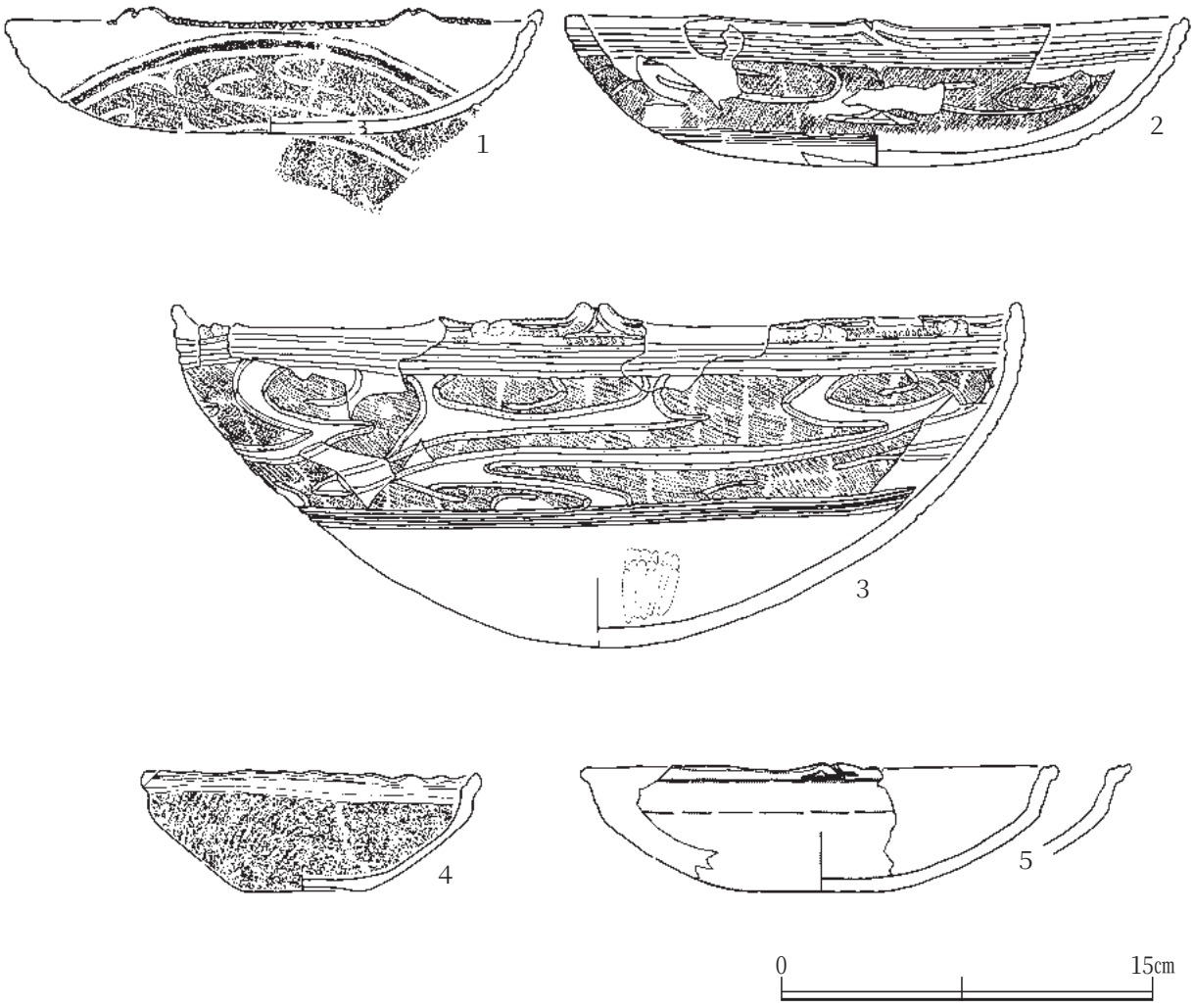
縄文時代　石器

出土位置	層序	器種	分類	備考	重量(g)	挿図№	遺物№
ST2200		石錐	Ⅰ		2.15	39	15
ST2200	Ⅱ	石錐	Ⅰ		13.2	39	16
ST2200		篦状石器	Ⅰ		36.05	40	1
ST2200		篦状石器	Ⅰ		54.53	40	2
ST2200		篦状石器	Ⅱ		15.59	40	3
SKS2211	埋土	篦状石器	Ⅱ		70.33	40	4
SI2032		篦状石器	Ⅰ		1.76	40	5
ST2200		石匙	Ⅲ		19.21	40	6
ST2200		石匙	Ⅱ	ｱｽﾌｧﾙﾄ	27.90	40	7
ST2200		石匙	Ⅱ	ｱｽﾌｧﾙﾄ	30.26	40	8
ST2200		石匙	Ⅲ		17.99	41	1
ST2200		石匙	Ⅲ		33.03	41	2
ST2200	第2ベルト1層	石匙	Ⅲ		13.31	41	3
ST2200	第1ベルト2層	石匙	Ⅲ		22.75	41	4
ST2200		石匙	Ⅲ		9.56	41	5
ST2200		石匙	Ⅲ	ｱｽﾌｧﾙﾄ	22.20	41	6
ST2200		石匙	Ⅲ		7.35	41	7
ST2200		石匙	Ⅲ		25.88	41	8
ST2200		石匙	Ⅲ		6.75	41	9
ST2200		石匙	Ⅲ	ｱｽﾌｧﾙﾄ	7.56	41	10
ST2200		石匙	Ⅲ		4.36	41	11
ST2200		石匙	Ⅲ	ｱｽﾌｧﾙﾄ	21.26	41	12
ST2200		石匙	Ⅲ		11.58	41	13
ST2200		石匙	Ⅲ		39.74	42	1
ST2200		石匙	Ⅰ		4.80	42	2
ST2200	第2ベルト4層	石匙	Ⅰ		3.77	42	3
ST2200		石匙	Ⅰ		11.19	42	4
ST2200		石匙	Ⅰ		16.07	42	5
ST2200		石匙	Ⅰ		17.72	42	6
ST2200		石匙	Ⅰ		7.38	42	7
ST2200	第2ベルト3層	石匙	Ⅰ		3.20	42	8
ST2200		石匙	Ⅰ		18.47	42	9
ST2200		石匙	Ⅱ		12.86	42	10
ST2200		削器	Ⅰ		62.33	43	1
ST2200		削器	Ⅲ		55.46	43	2
ST2200		削器	Ⅱ		38.63	43	3
ST2200	第4ベルト4層	削器	Ⅱ		31.98	43	4
ST2200		削器	Ⅰ		35.88	43	5
ST2200		削器	Ⅲ		12.94	43	6
ST2200		削器	Ⅱ		114.33	43	7
ST2200	Ⅱ	削器	Ⅲ		30.55	43	8
ST2200		削器	Ⅰ		88.74	43	9
ST2200		削器	Ⅲ		16.55	43	10
ST2200		削器	Ⅱ		23.56	44	1
ST2200		削器	Ⅱ		36.17	44	2
ST2200	RS	削器	Ⅰ		8.61	44	3
ST2200	第2ベルト5層	削器	Ⅲ		17.71	44	4
ST2200		削器	Ⅲ		28.09	44	5
ST2200		削器	Ⅲ		34.80	44	6
ST2200		削器	Ⅲ		11.20	44	7
ST2200	第4ベルト4層	削器	Ⅰ		73.23	44	8
ST2200		削器	Ⅲ		63.60	44	9
ST2200		削器	Ⅲ		32.27	44	10
ST2200		削器	Ⅲ		38.74	44	11
ST2200		削器	Ⅱ		23.90	44	12
ST2200	RS	削器	Ⅱ		53.79	45	1
ST2200		削器	Ⅲ		3.75	45	2
ST2200	RS	削器	Ⅲ		3.30	45	3
ST2200	第2ベルト1層	削器	Ⅰ		29.40	45	4
ST2200		削器	Ⅱ		29.41	45	5

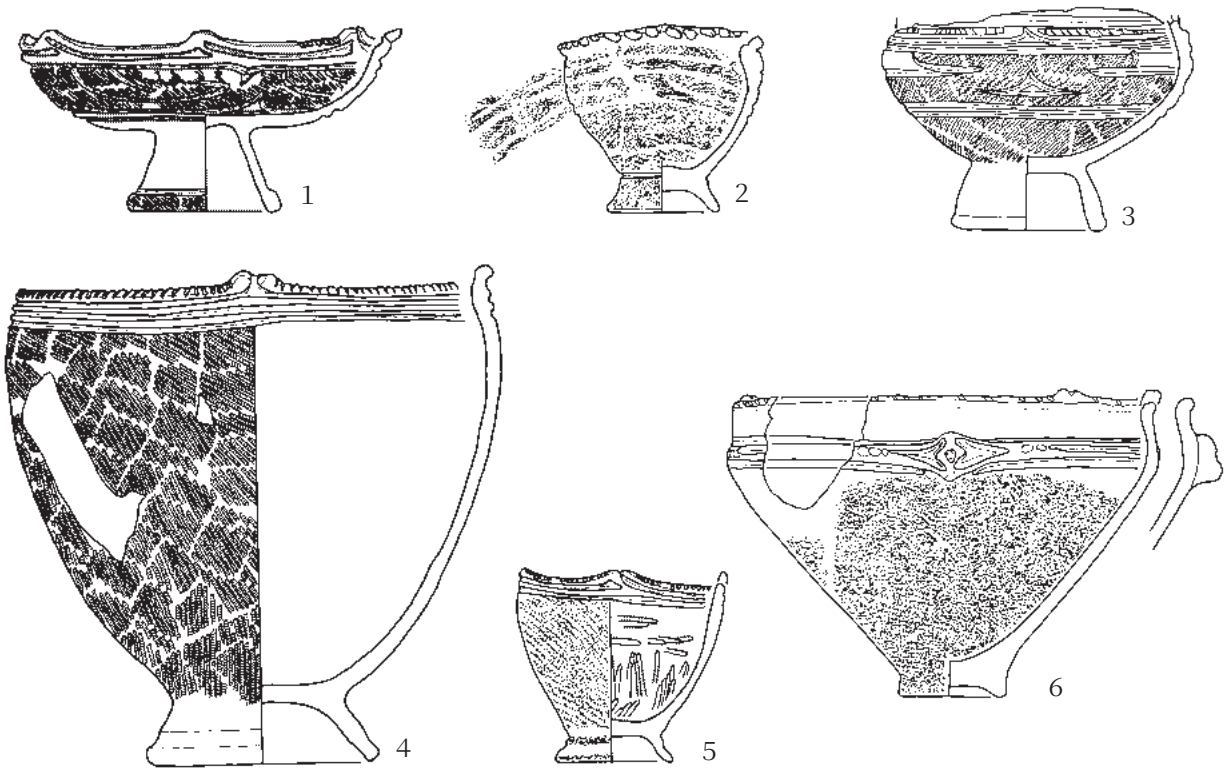
出土位置	層序	器種	分類	備考	重量(g)	挿図№	遺物№
ST2200		削器	Ⅲ		64.67	45	6
ST2200		削器	Ⅲ		87.70	45	7
ST2200		削器	Ⅲ		22.12	45	8
ST2200		削器	Ⅲ		19.69	45	9
ST2200	RS	削器	Ⅲ		33.39	45	10
ST2200		削器	Ⅲ		6.80	45	11
SD2240	MD53	削器	Ⅲ		46.36	46	1
SD2378	MI59	削器	Ⅱ		82.49	46	2
SD2378		削器	Ⅲ		9.53	46	3
SD2378	MI56	削器	Ⅲ		6.70	46	4
ST2200		掻器	Ⅱ		13.41	46	5
ST2200		掻器	Ⅰ		21.10	46	6
SN208	付近	掻器	Ⅱ		21.11	46	7
ST2200		掻器	Ⅰ		12.63	46	8
MI58	Ⅰ	石鏃	Ⅱ		2.7	47	1
MH55	Ⅰ	石鏃	Ⅱ		1.4	47	2
MF58	Ⅱ	石鏃	Ⅰ		1.5	47	3
MF57	Ⅰ	石鏃	Ⅰ		0.8	47	4
LF56	Ⅱ	石鏃	Ⅰ		2.2	47	5
LF57	Ⅱ	石鏃	Ⅱ		1.2	47	6
LE57	Ⅰ	石鏃	Ⅱ		0.8	47	7
LF55	Ⅱ	石鏃	Ⅱ		1.2	47	8
LM47	Ⅱ	石鏃	Ⅱ		1.1	47	9
LG57	Ⅱ	石鏃	Ⅱ		1.7	47	10
LF56	Ⅰ	石鏃	Ⅱ		0.8	47	11
LF57	Ⅱ	石鏃	Ⅱ		0.7	47	12
LD57	Ⅱ	石鏃	Ⅲ		1.4	47	13
MG58	Ⅰ	石鏃	Ⅲ		0.63	47	14
MS63	Ⅰ	石槍	Ⅲ		4.49	47	15
LE57	Ⅱ	石槍	Ⅰ		4.78	47	16
MJ63	Ⅰ	石槍	Ⅰ		8.25	47	17
ME56	Ⅱ	石槍	Ⅰ		8.20	47	18
LG56	Ⅱ	石槍	Ⅱ		5.82	47	19
MF59	Ⅰ	石槍	Ⅱ		7.75	47	20
MS63	Ⅰ	石槍	Ⅱ		7.63	47	21
LF57	Ⅱ	石槍	Ⅱ		5.13	47	22
MG62		石錐	Ⅲ		5.5	47	23
LH54	Ⅱ	石錐	Ⅰ		2.1	47	24
LF56	Ⅰ	石錐	Ⅲ		4.9	47	25
LH54	Ⅱ	石錐	Ⅲ		8.4	47	26
MI61	Ⅰ	石錐	Ⅰ		6.8	47	27
LF57	Ⅱ	石錐	Ⅰ		7.7	47	28
LF56	Ⅰ	石錐	Ⅱ		8.46	47	29
MG55	Ⅰ	篦状石器	Ⅱ		3.37	48	1
LE57	Ⅰ	篦状石器	Ⅱ		5.48	48	2
LF56	Ⅱ	篦状石器	Ⅰ		46.07	48	3
MH56	Ⅰ	篦状石器	Ⅰ		37.38	48	4
MI63	Ⅰ	篦状石器	Ⅰ		37.41	48	5
LF56	Ⅱ	篦状石器	Ⅰ		19.61	48	6
表採		篦状石器	Ⅰ		17.08	48	7
LF57	Ⅰ	石匙	Ⅱ		11.46	48	8
LO52	Ⅰ	石匙	Ⅲ		17.58	48	9
LE57	Ⅱ	石匙	Ⅲ		6.58	48	10
LG56	Ⅰ	石匙	Ⅲ	ｱｽﾌｧﾙﾄ	4.28	48	11
LE57	Ⅱ	石匙	Ⅰ		7.59	48	12
MH60	Ⅱ	削器	Ⅲ		6.74	48	13
MG58	Ⅰ	削器	Ⅲ		7.64	48	14
LE56	Ⅱ	削器	Ⅲ		4.50	48	15
LL52	Ⅰ	削器	Ⅲ		8.55	48	16

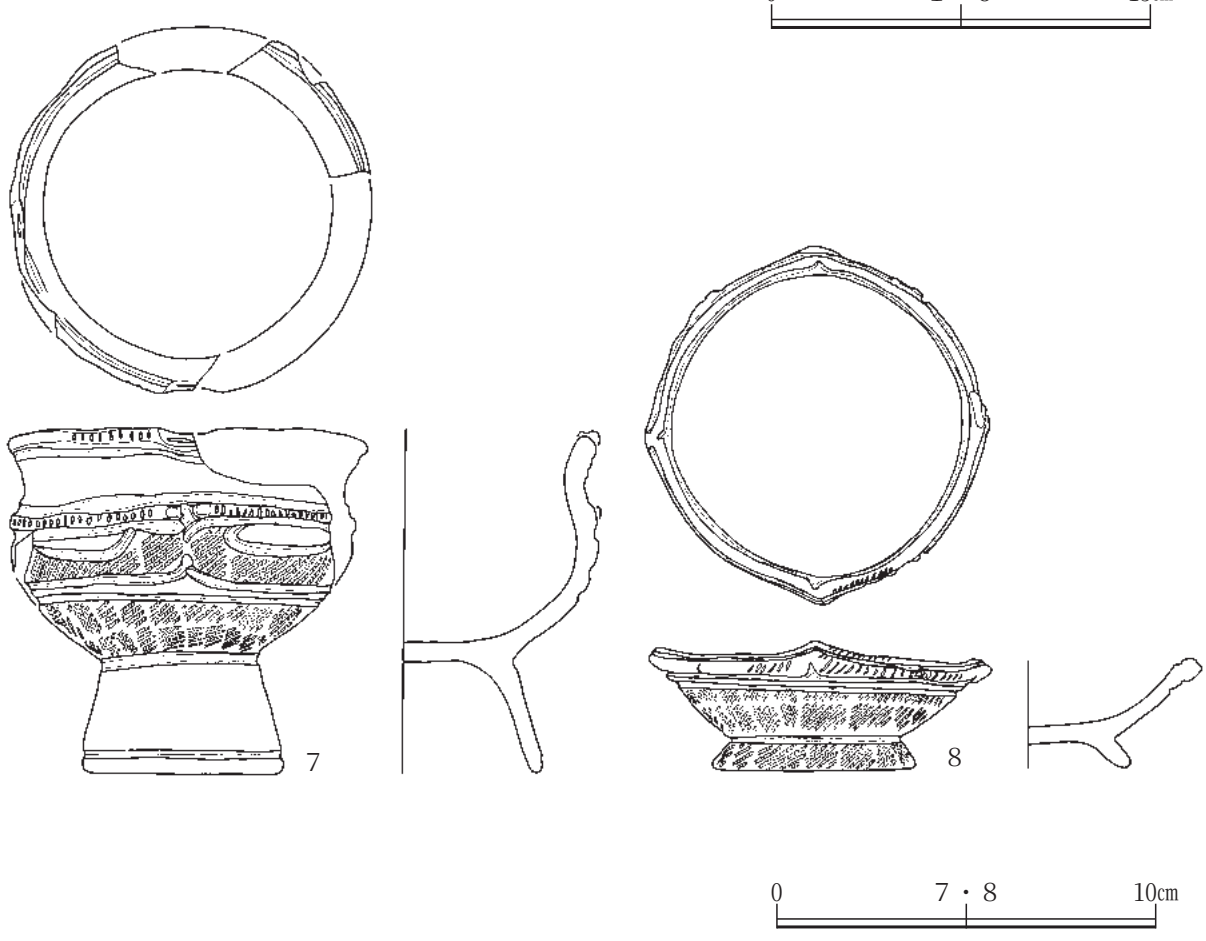


第５図　遺構内出土遺物　土器(1)　縄文時代

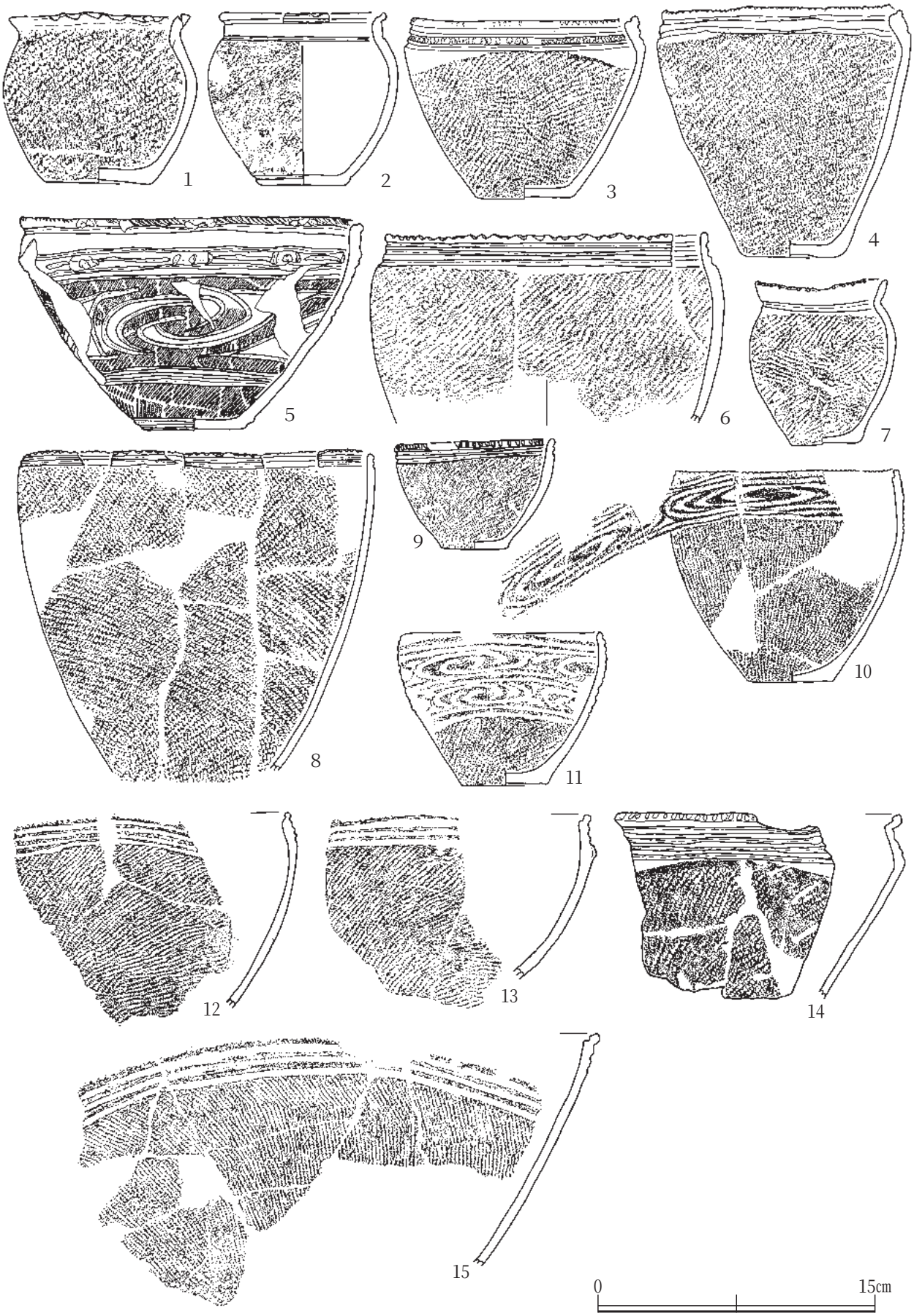


第６図　遺構内出土遺物　土器(2)　縄文時代

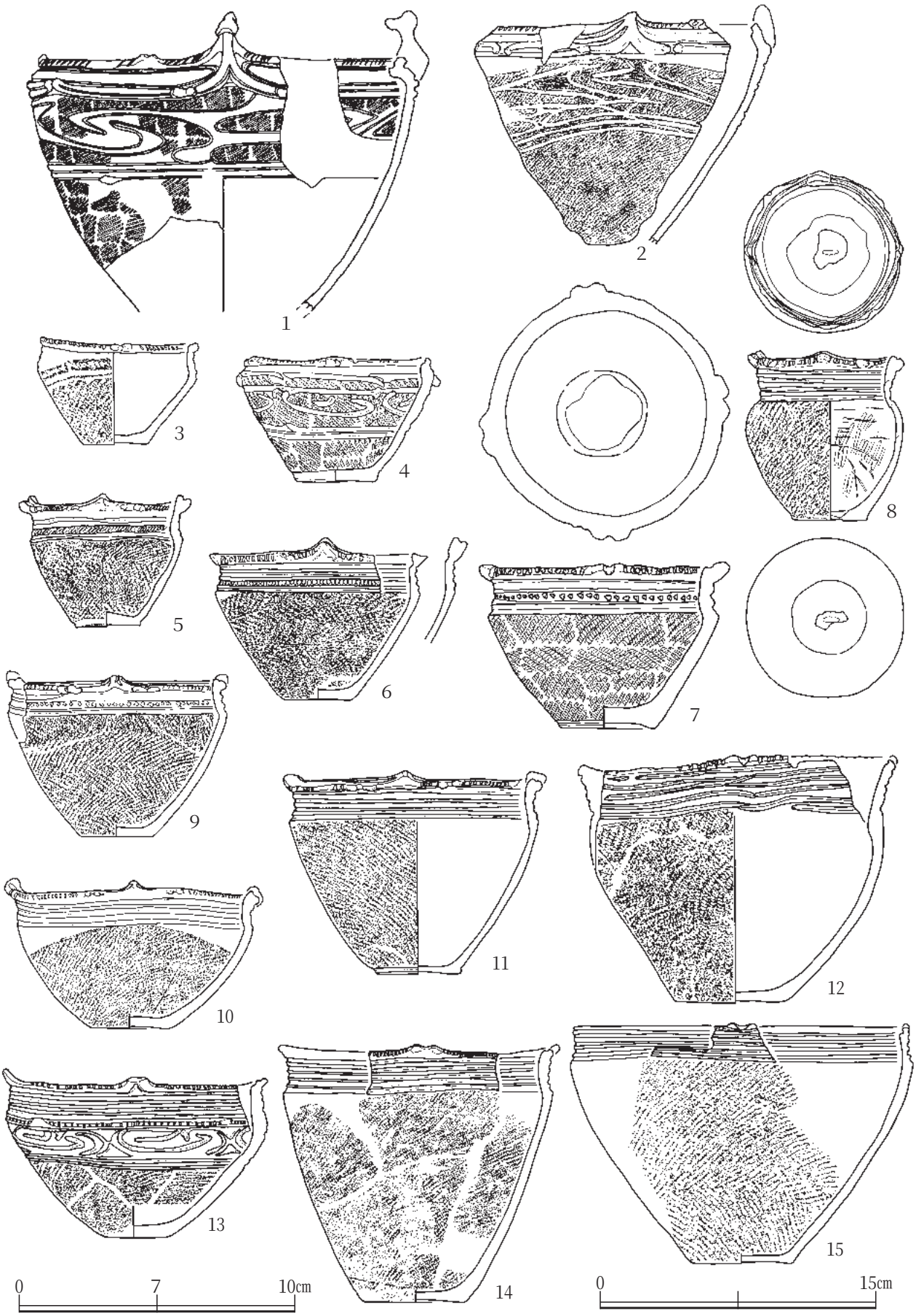




第７図　遺構内出土遺物　土器(3)　縄文時代

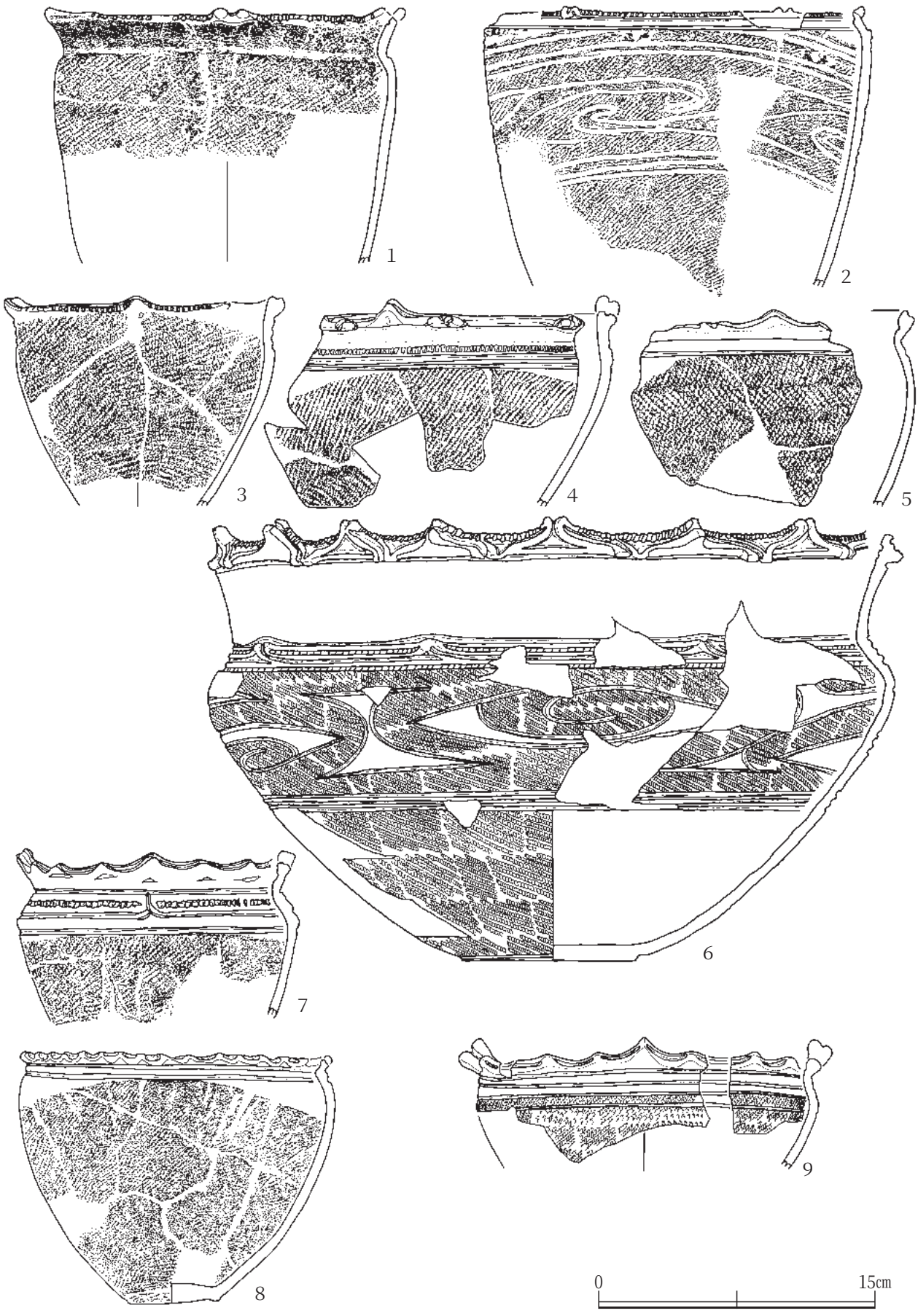


第８図　遺構内出土遺物　土器(4)　縄文時代

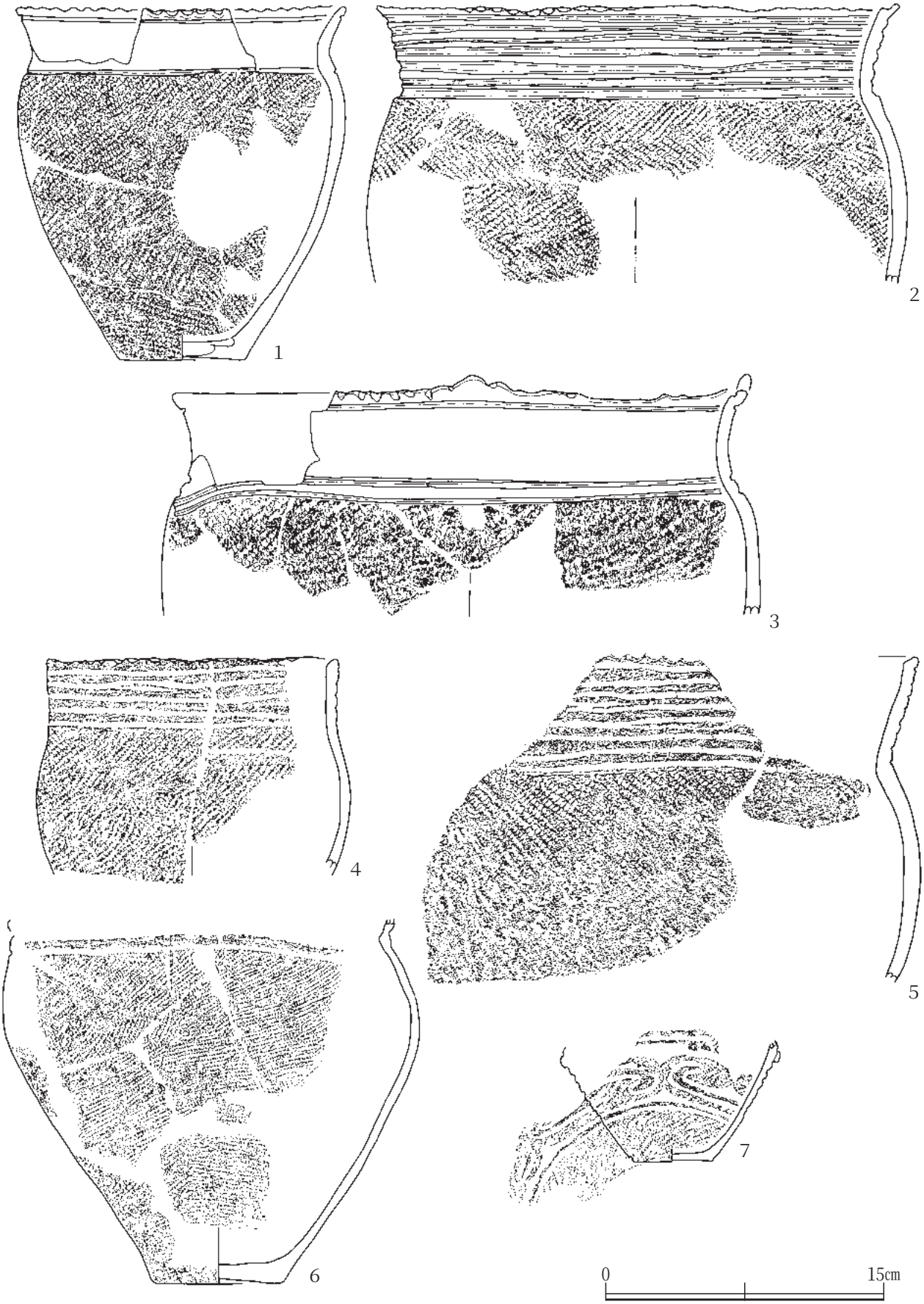


第９図　遺構内出土遺物　土器(5)　縄文時代

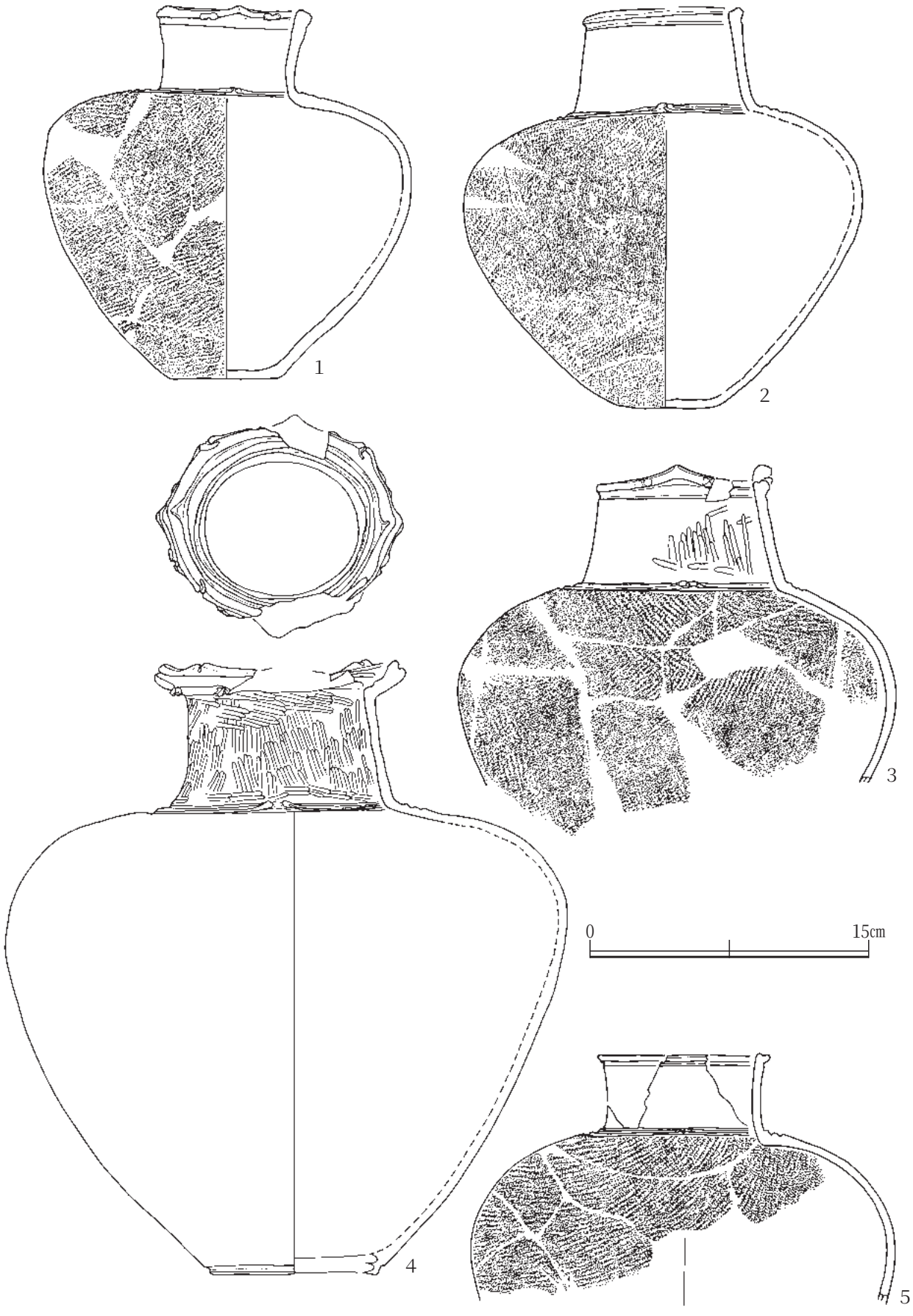
第10図　遺構内出土遺物　土器(6)　縄文時代



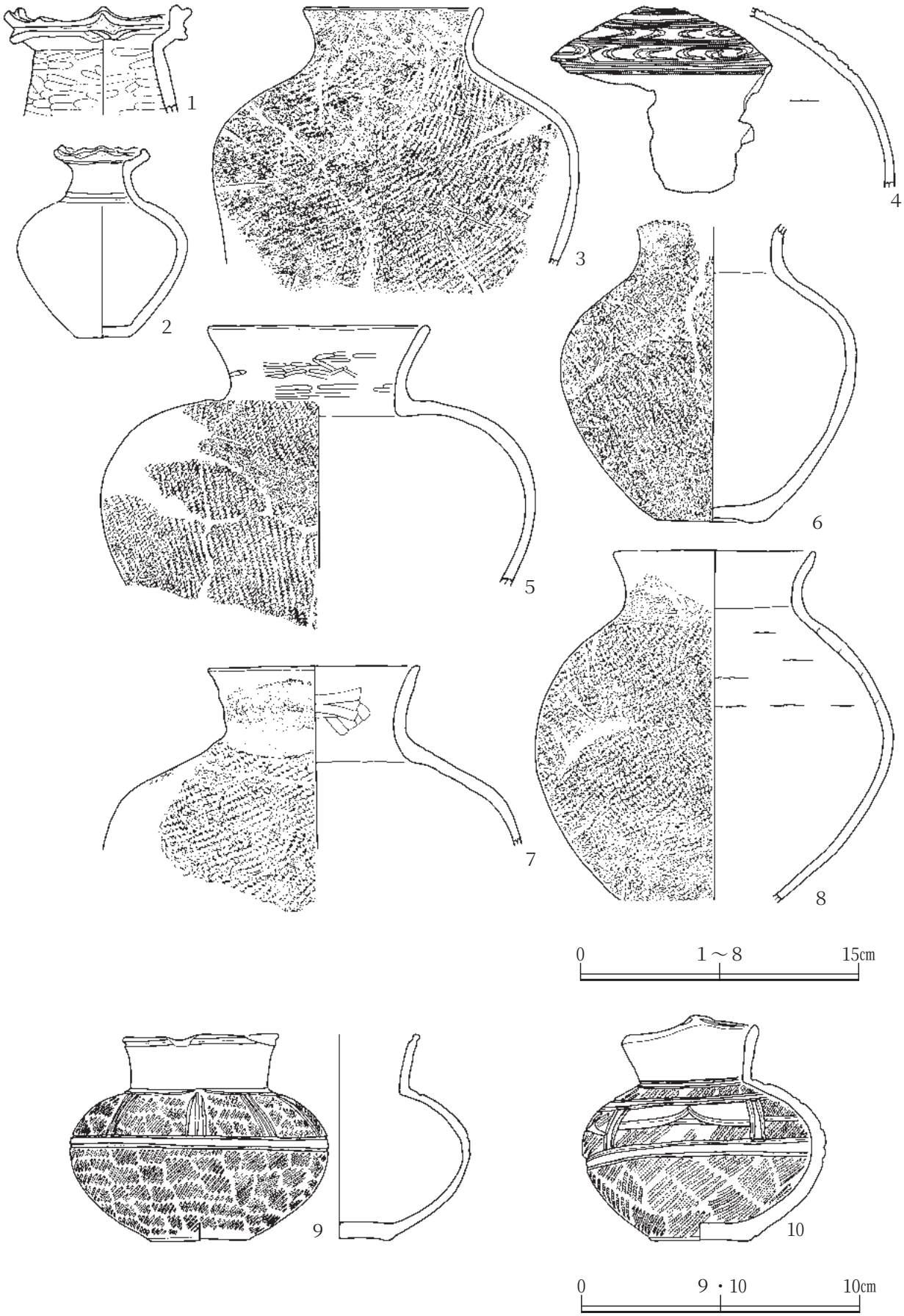
第11図　遺構内出土遺物　土器(7)　縄文時代



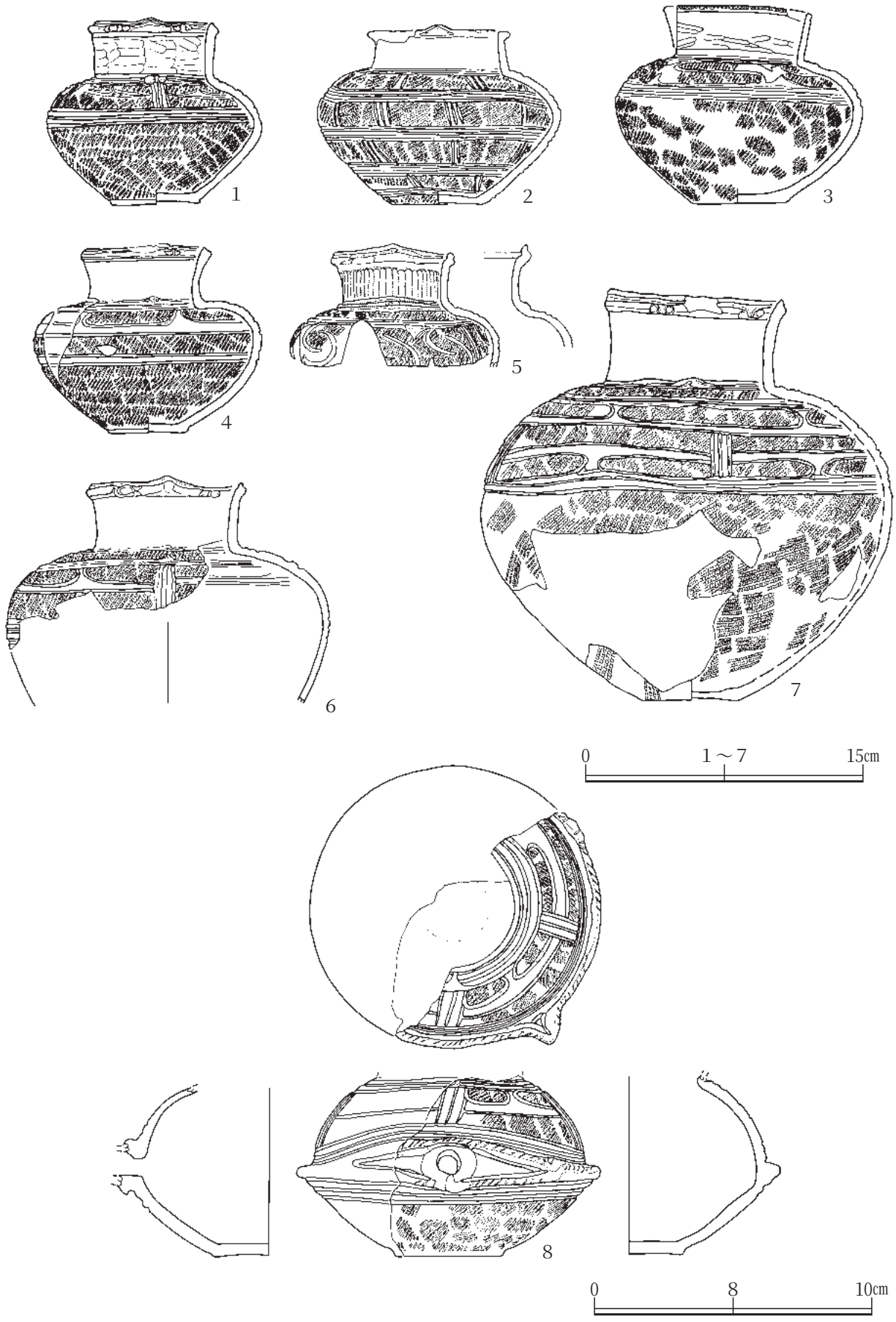
第12図　遺構内出土遺物　土器(8)　縄文時代



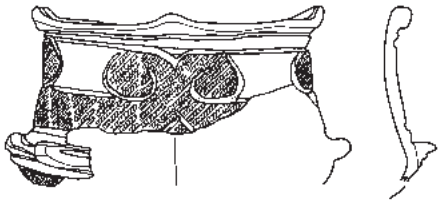
第13図　遺構内出土遺物　土器(9)　縄文時代



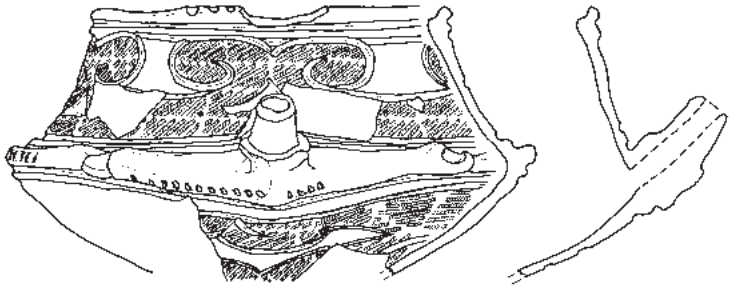
第14図　遺構内出土遺物　土器(10)　縄文時代



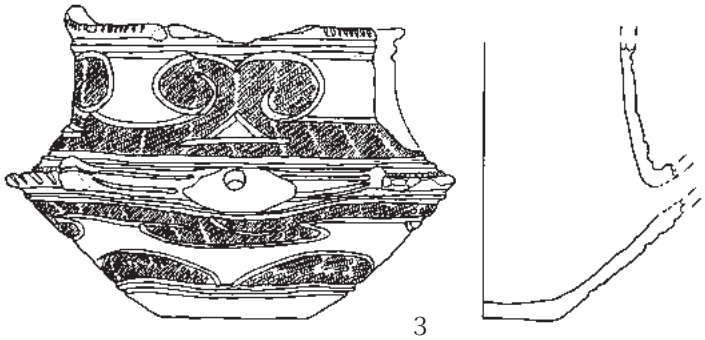
第15図　遺構内出土遺物　土器(11)　縄文時代



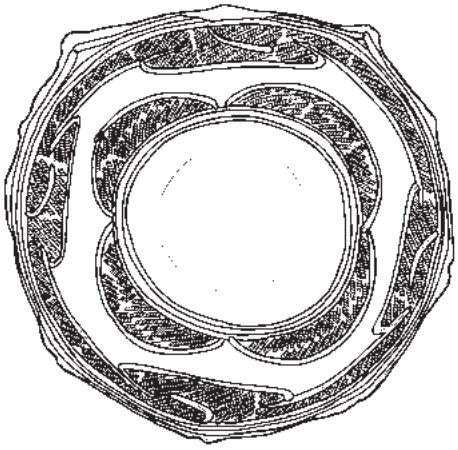
1

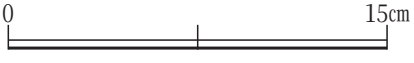


2

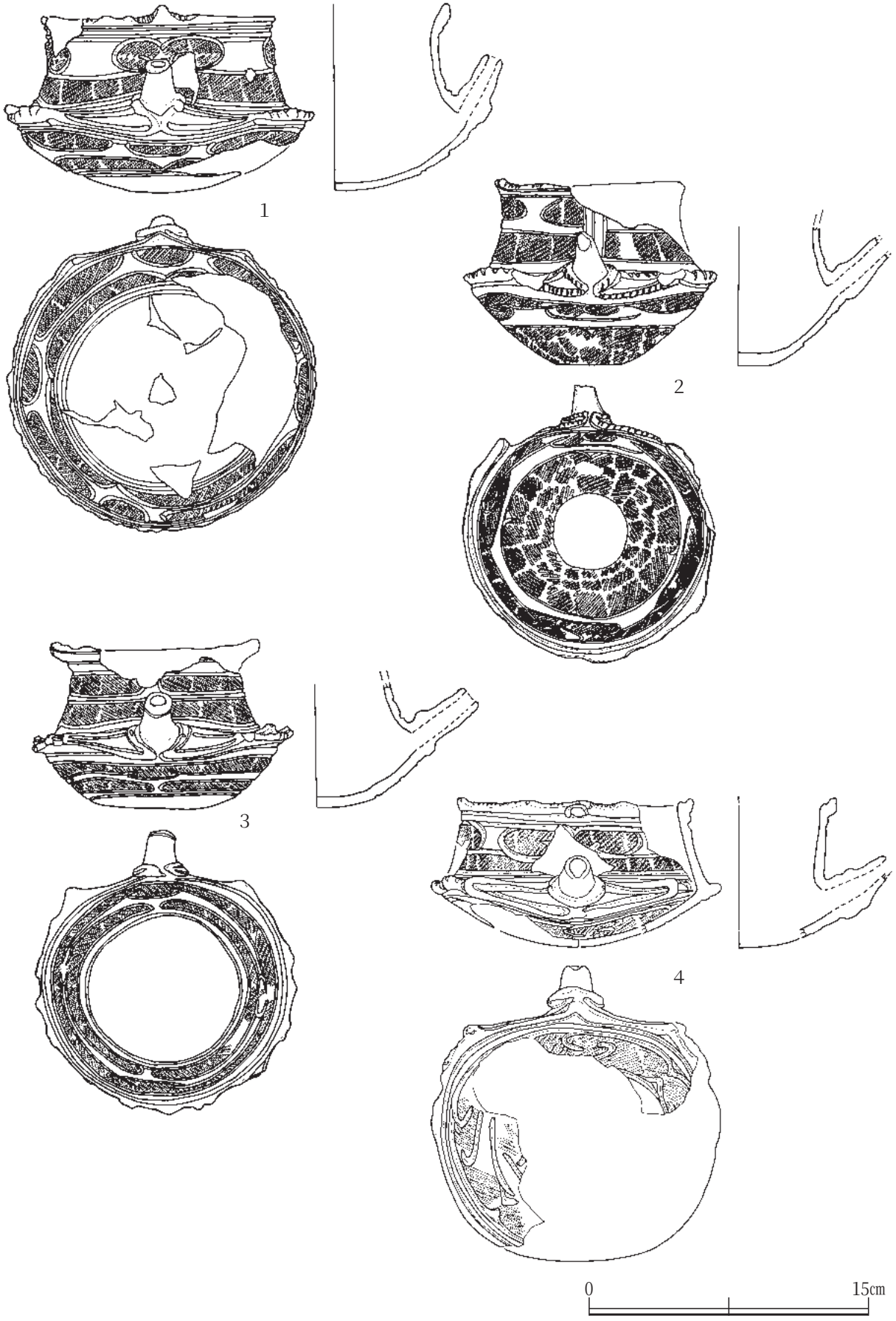


3

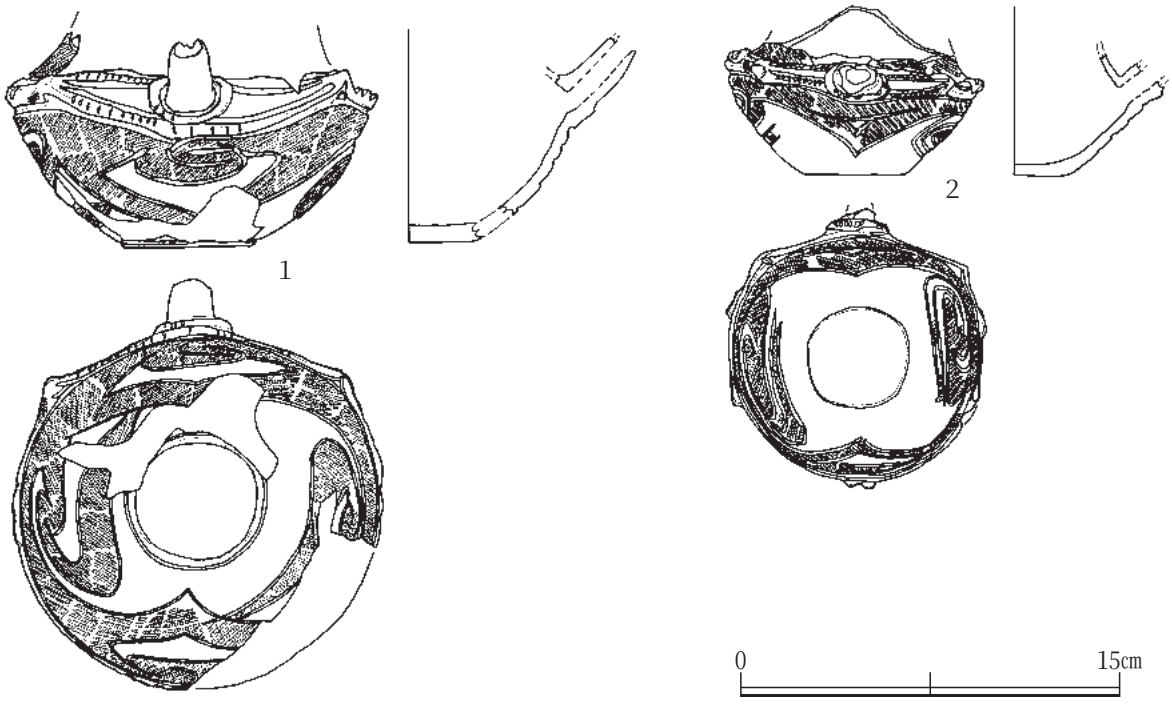




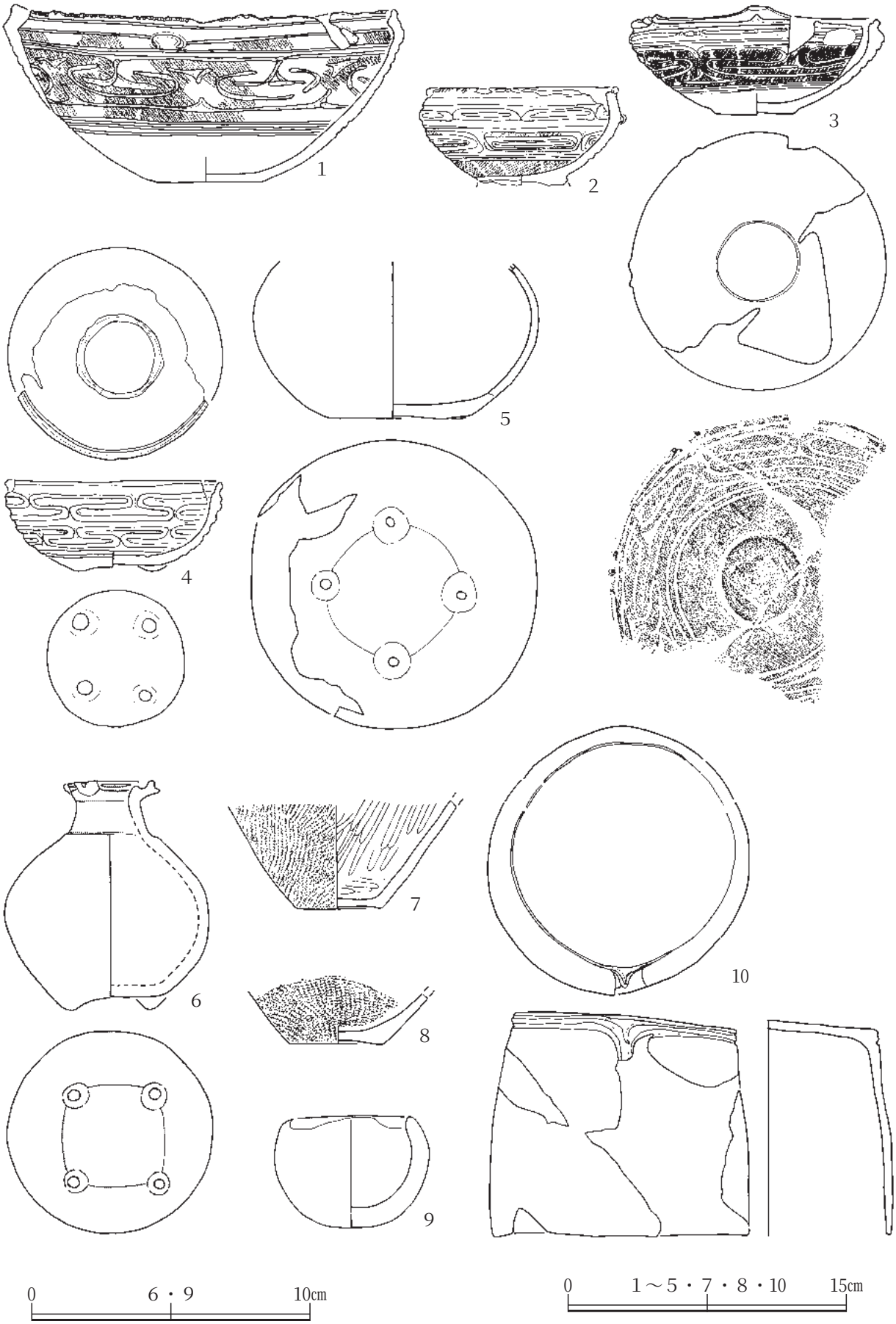
第16図　遺構内出土遺物　土器(12)　縄文時代



第17図　遺構内出土遺物　土器(13)　縄文時代

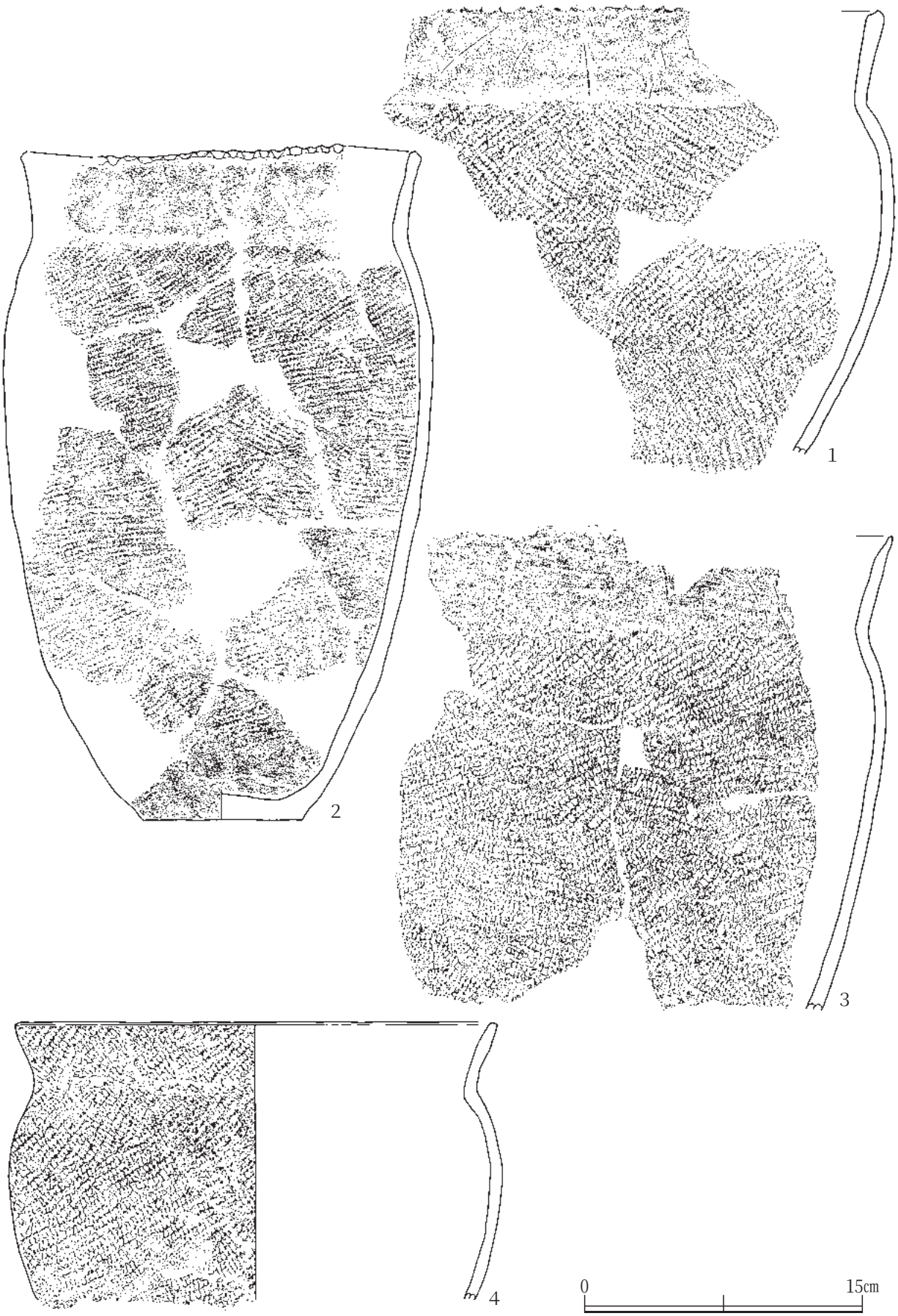


第18図　遺構内出土遺物　土器⑭　縄文時代



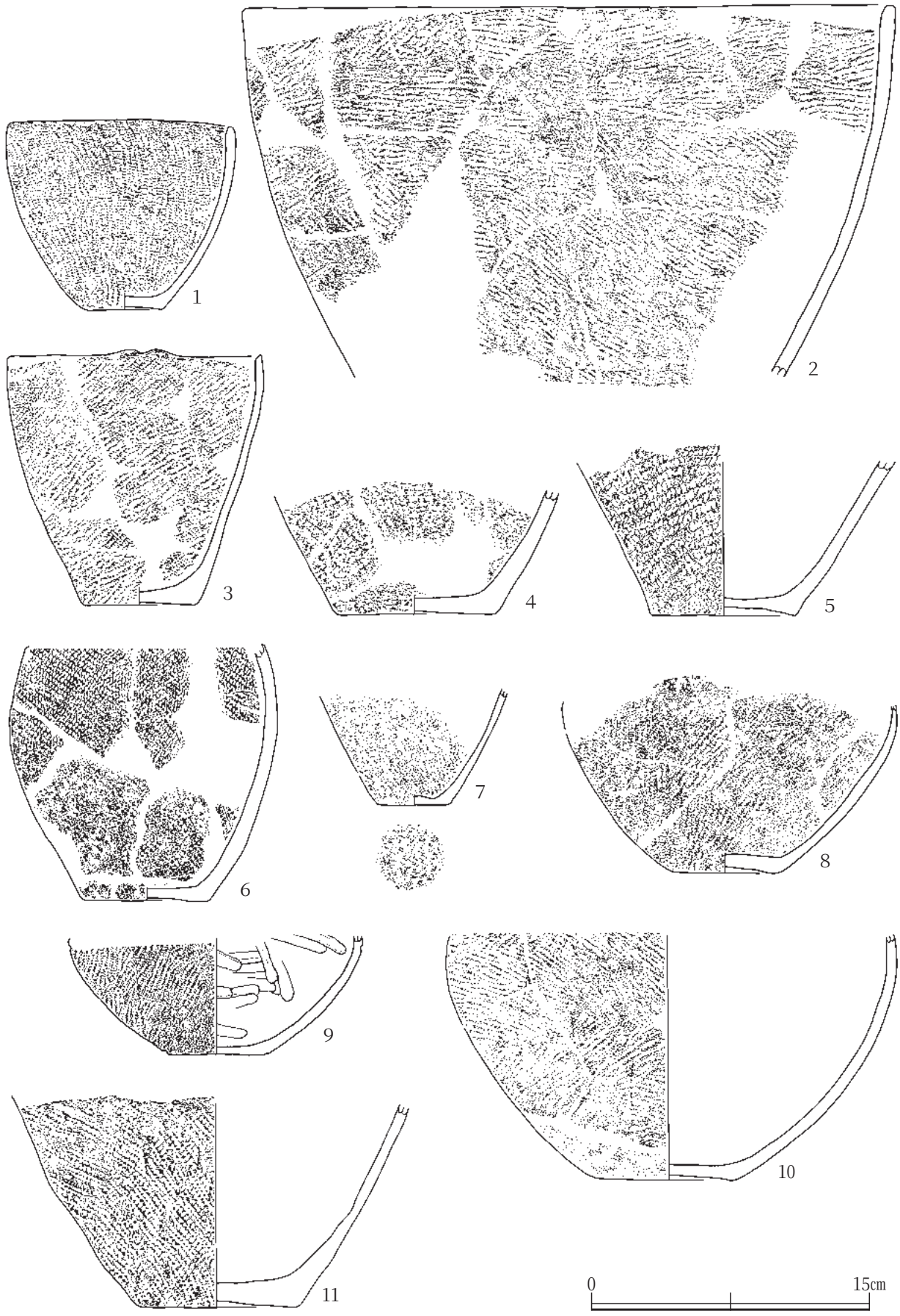
第19図　遺構内出土遺物　土器(15)　縄文時代

第20図　遺構内出土遺物　土器⑯　縄文時代



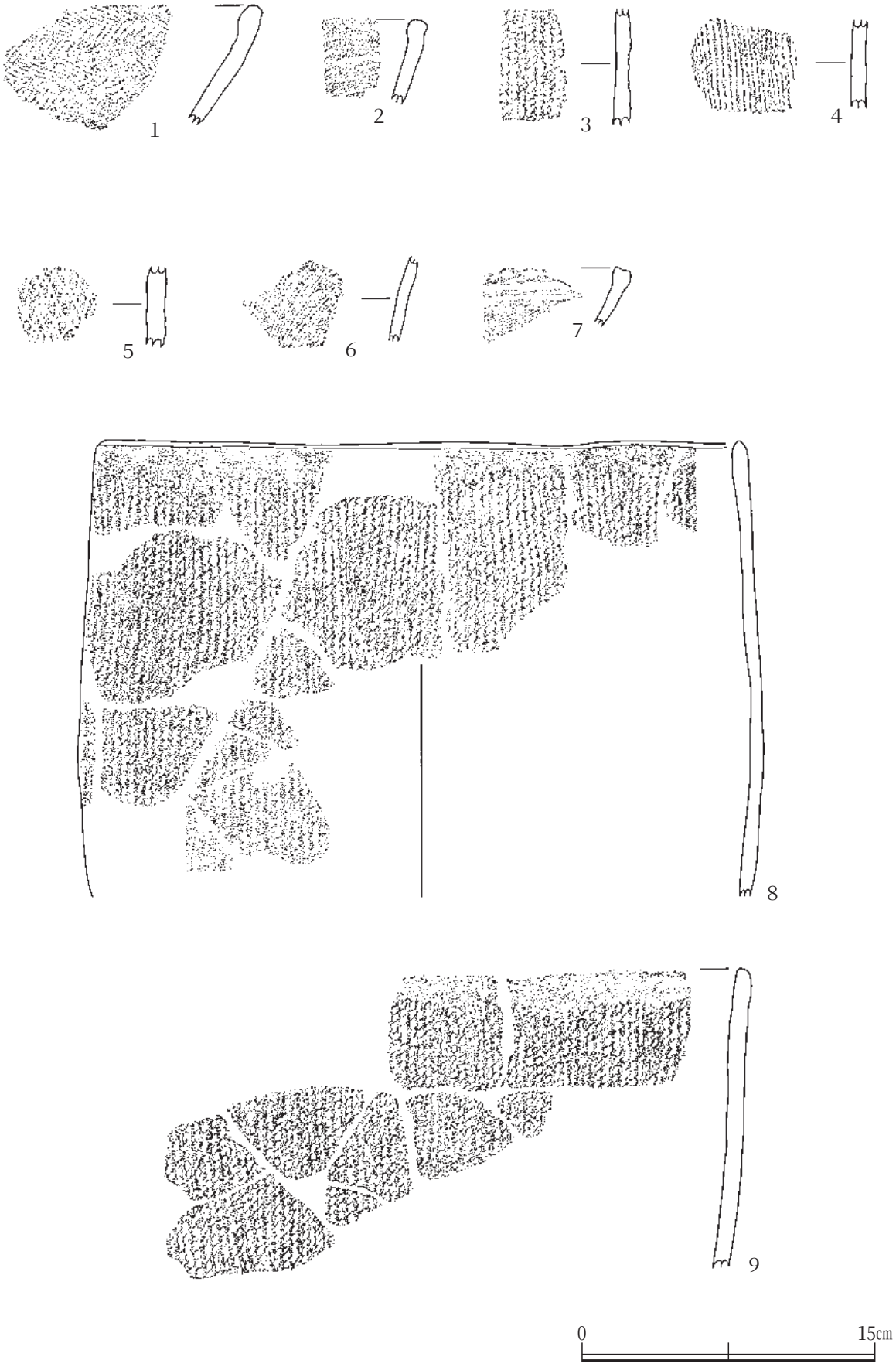
第21図　遺構内出土遺物　土器(17)　縄文時代

第22図　遺構内出土遺物　土器(18)　縄文時代



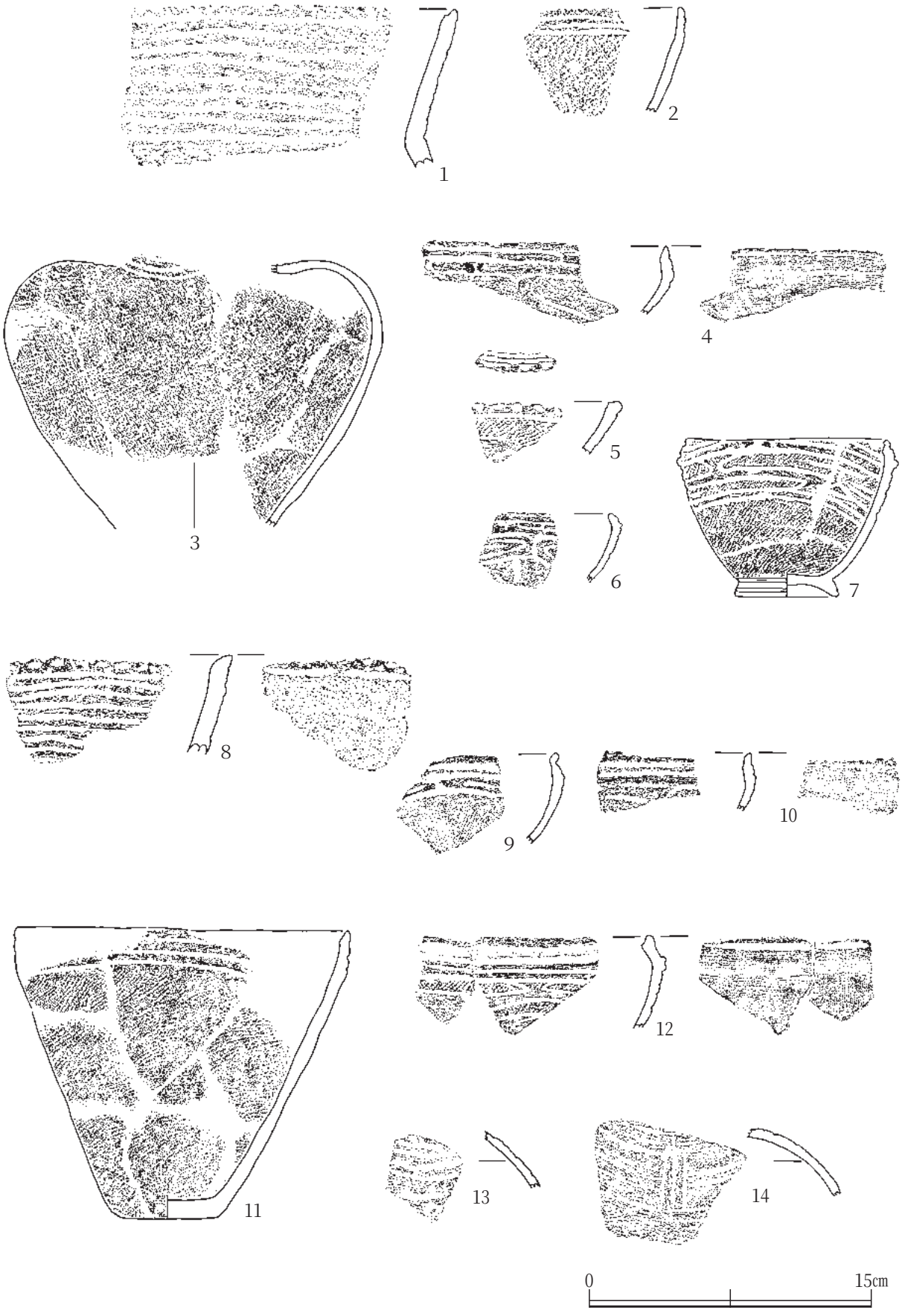
第23図　遺構内出土遺物　土器(19)　縄文時代

第24図　遺構内外出土遺物　土器　縄文時代

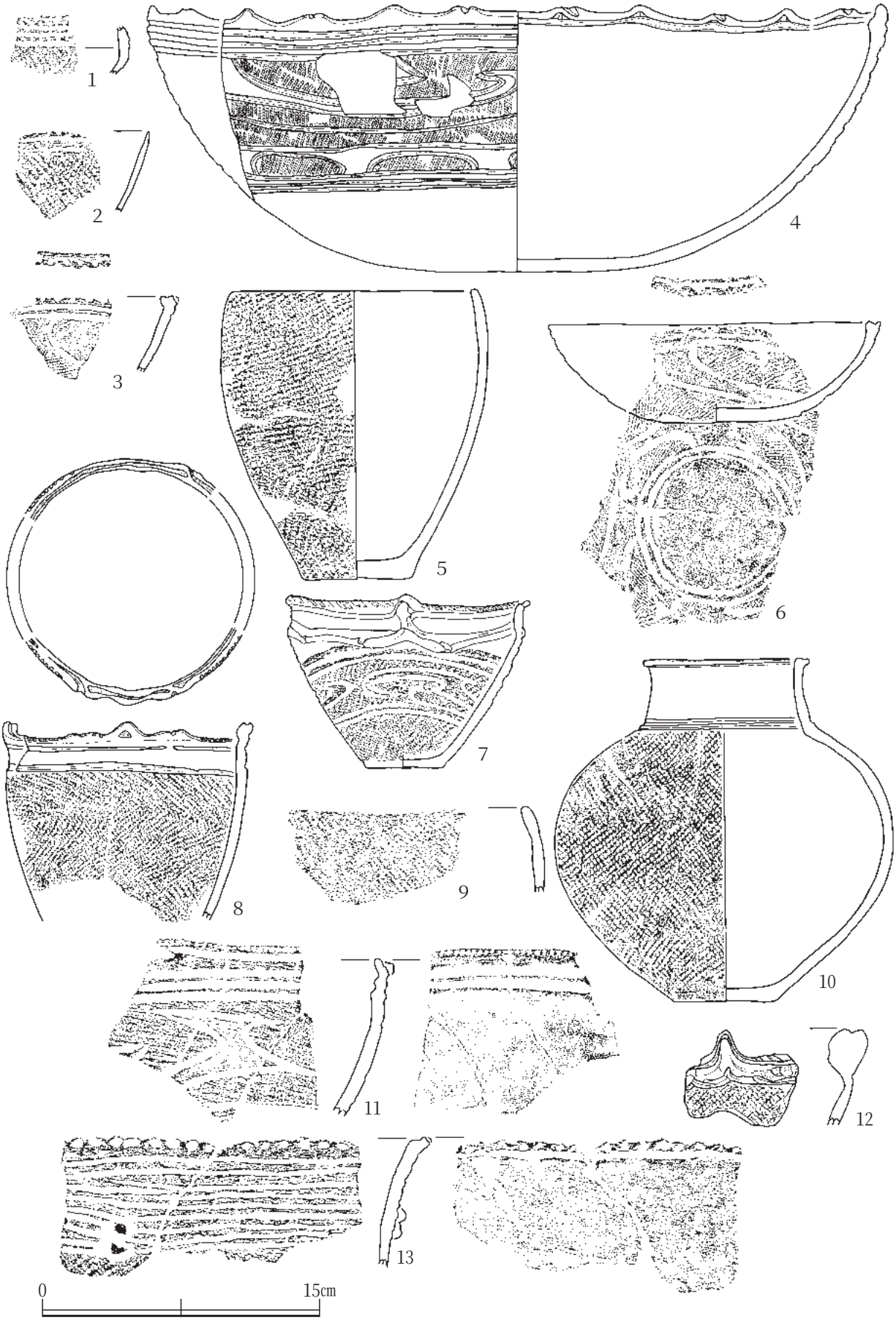


第25図　遺構内出土遺物　土器⑳　縄文時代

第26図　遺構内出土遺物　土器(21)　縄文時代

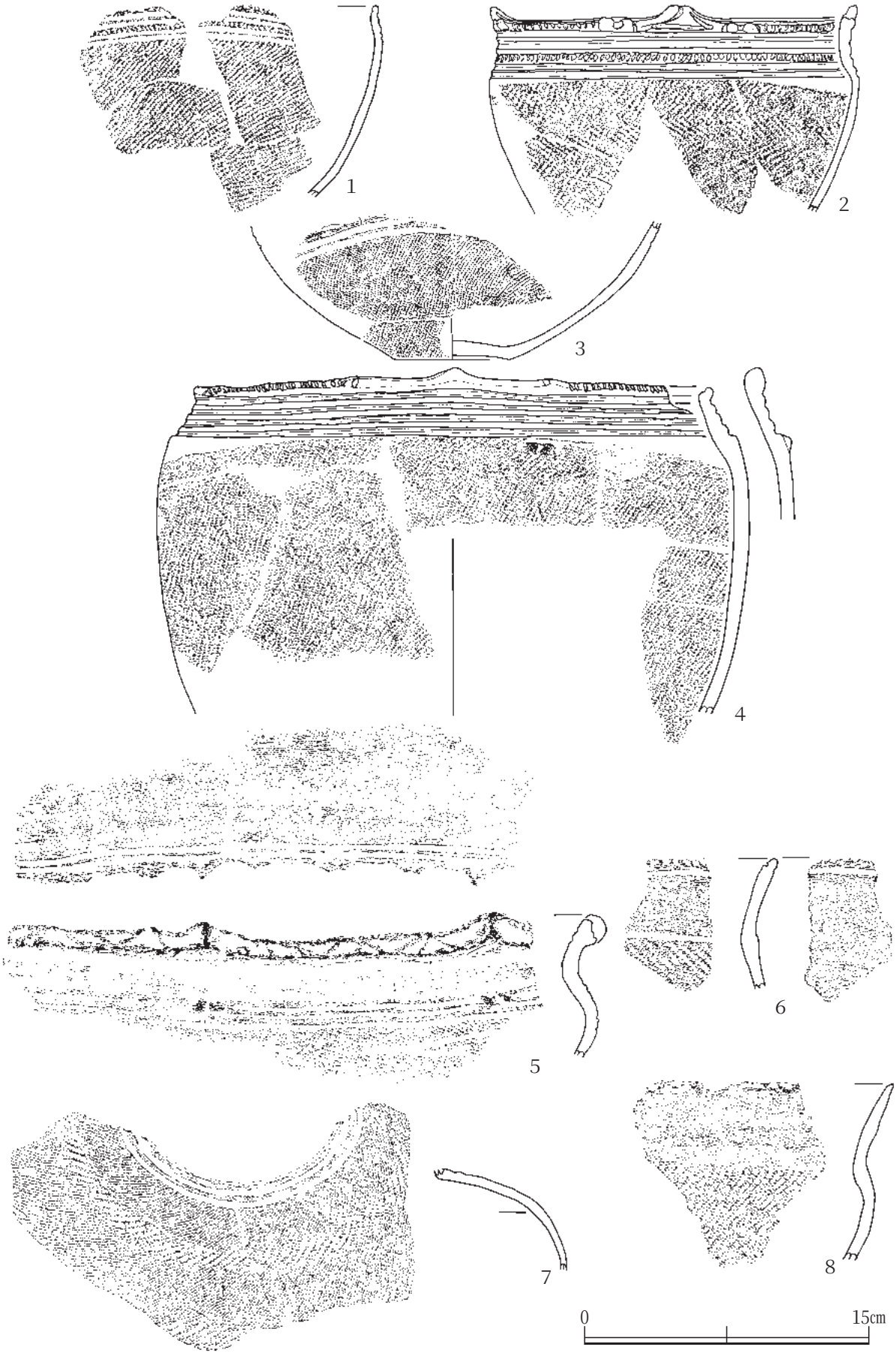


第27図　遺構内出土遺物　土器(22)　縄文時代



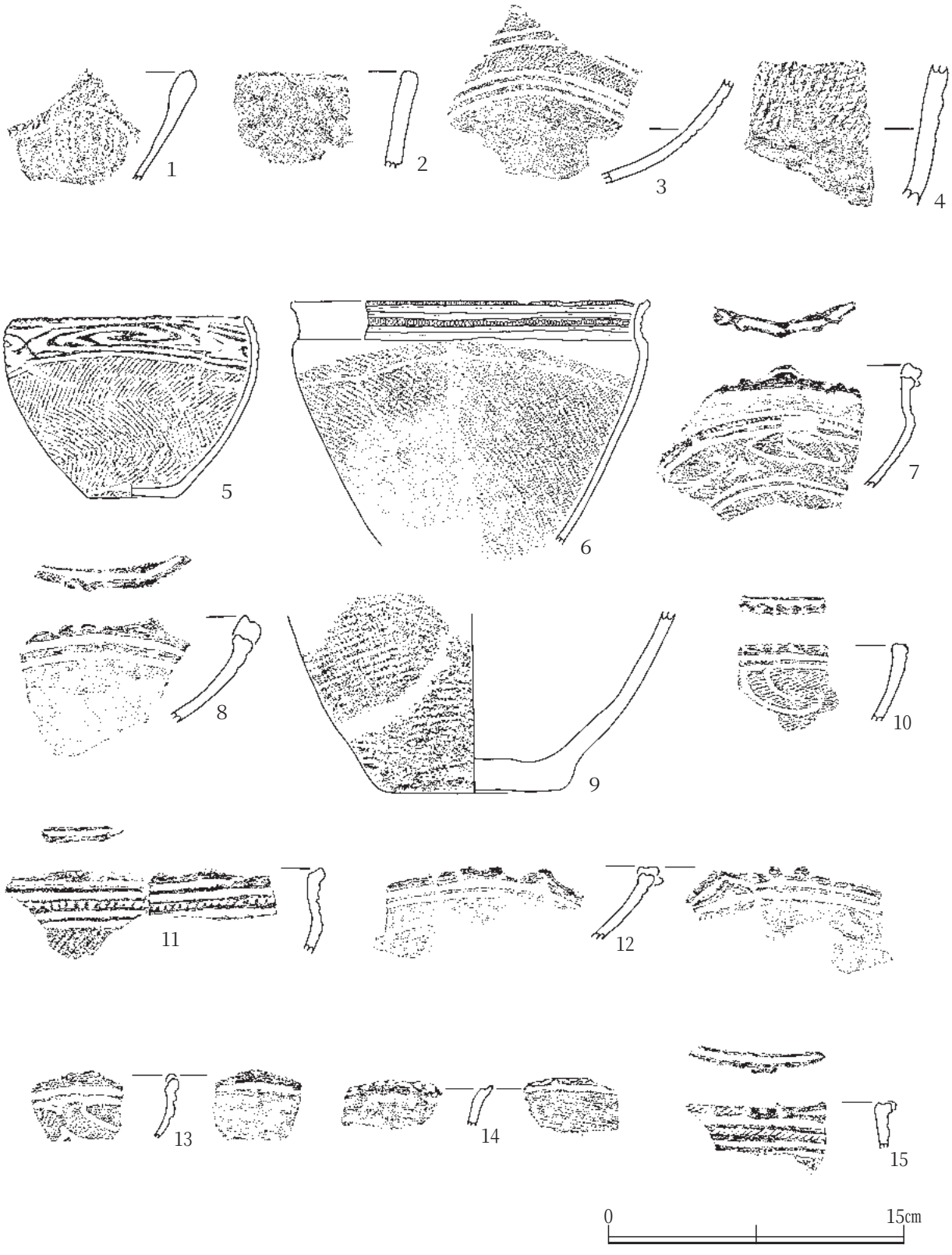
第28図　遺構内出土遺物　土器(23)　縄文時代

第29図　遺構内出土遺物　土器(24)　縄文時代



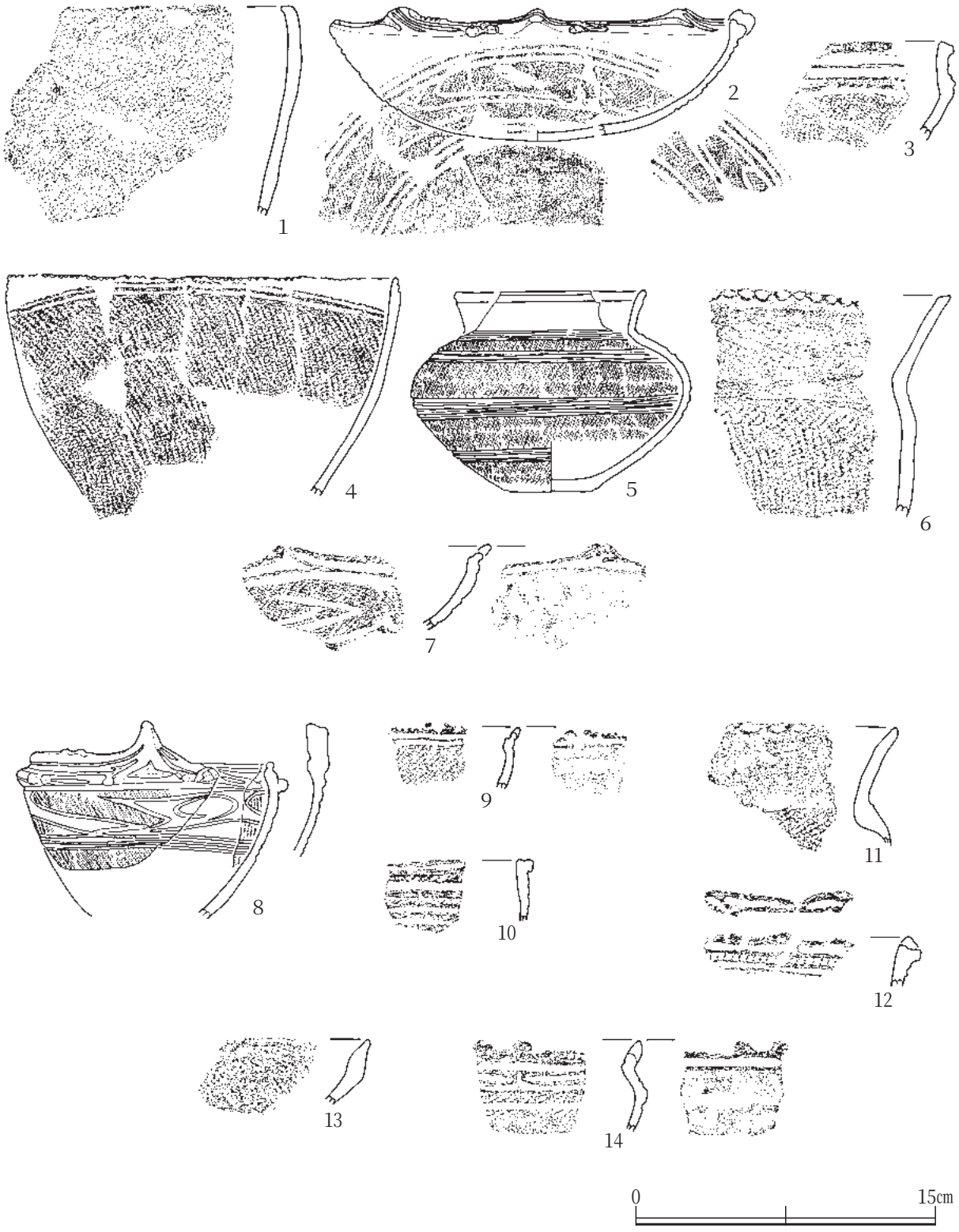
第30図　遺構内出土遺物　土器(25)　縄文時代

第31図　遺構内出土遺物　土器(26)　縄文時代

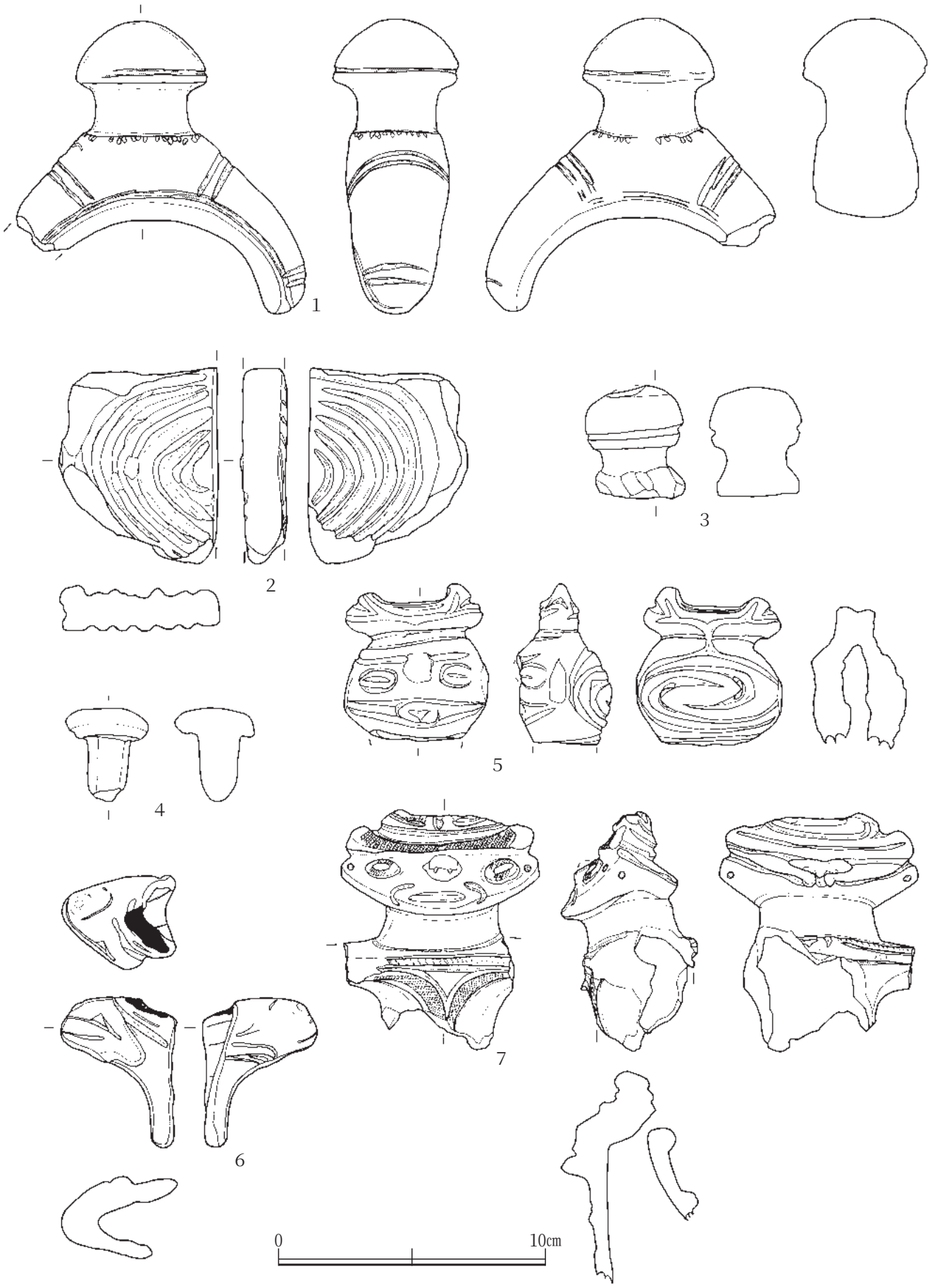


第32図　遺構内出土遺物　土器(27)　縄文時代

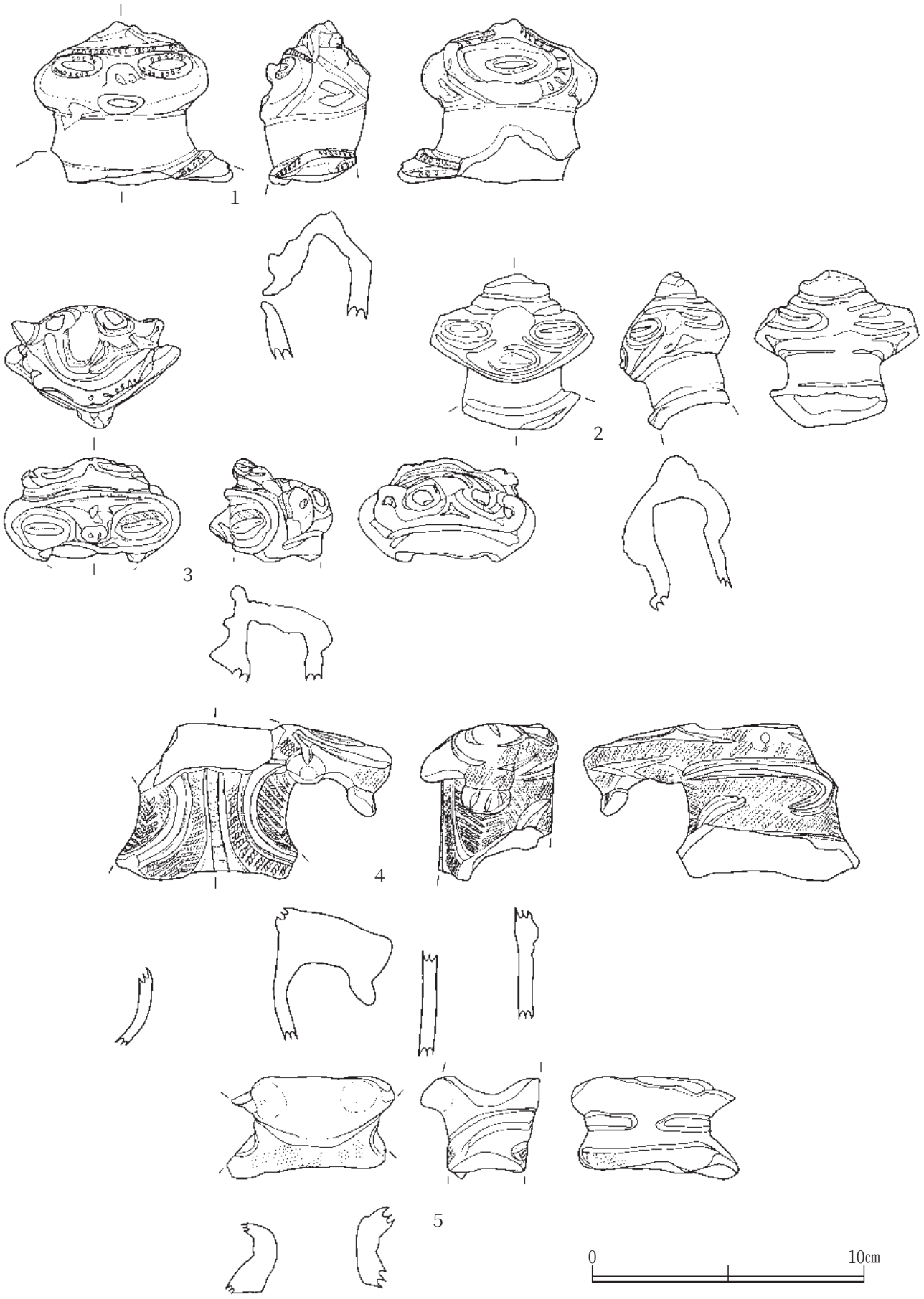
第33図　遺構内出土遺物　土器(28)　縄文時代



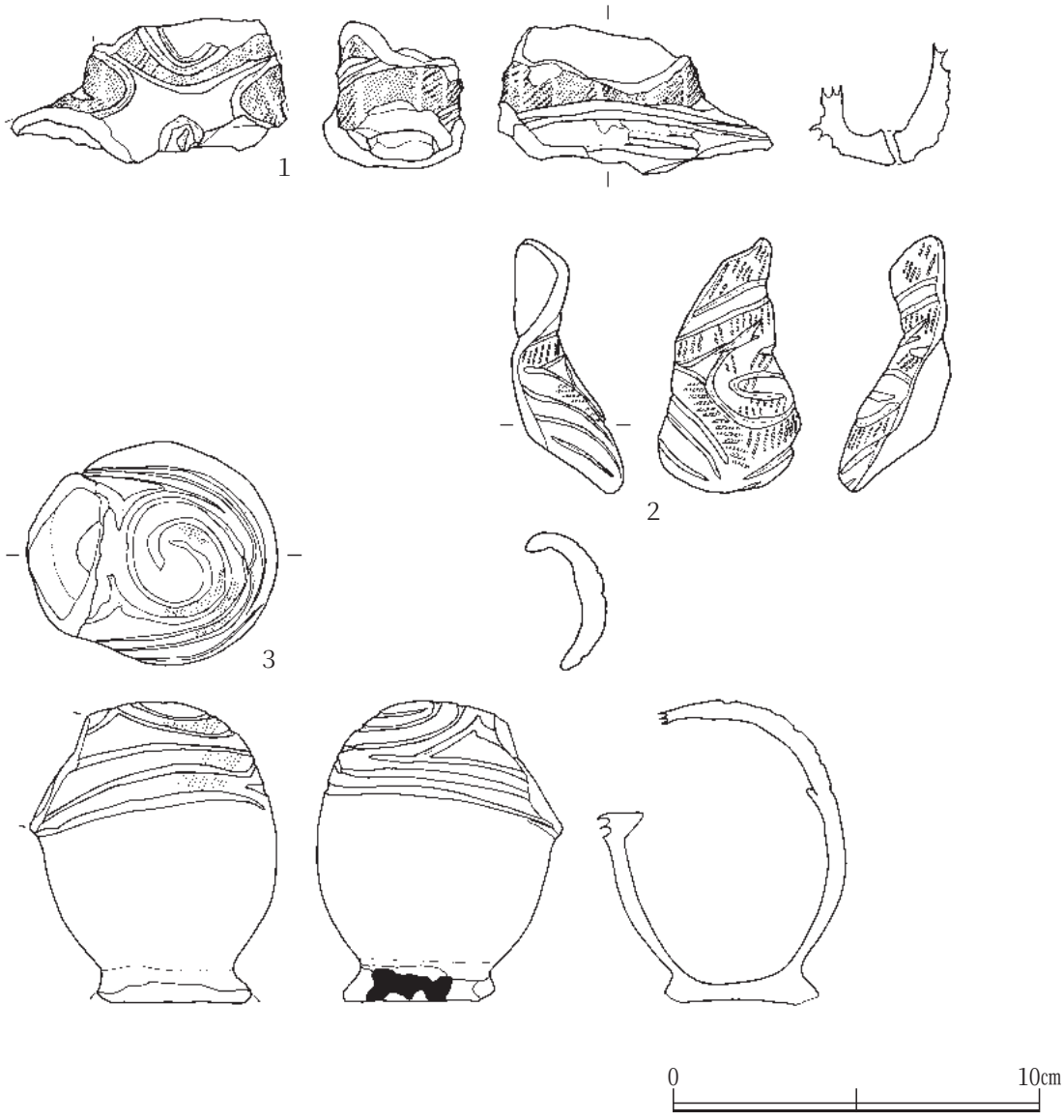
第34図　遺構内出土遺物　土器(29)　縄文時代



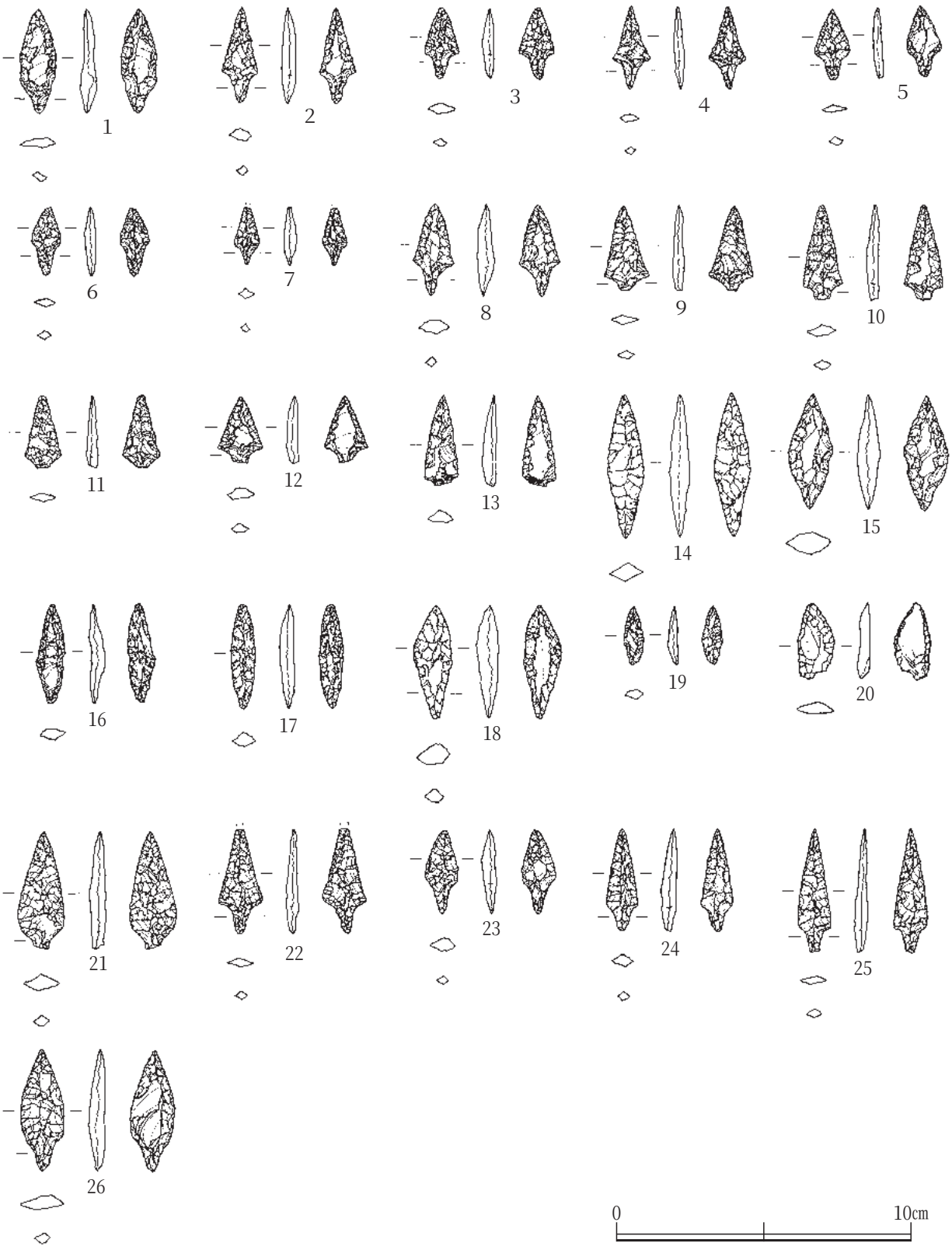
第35図　遺構内出土遺物　土製品(1)　縄文時代



第36図　遺構内出土遺物　土製品(2)　縄文時代

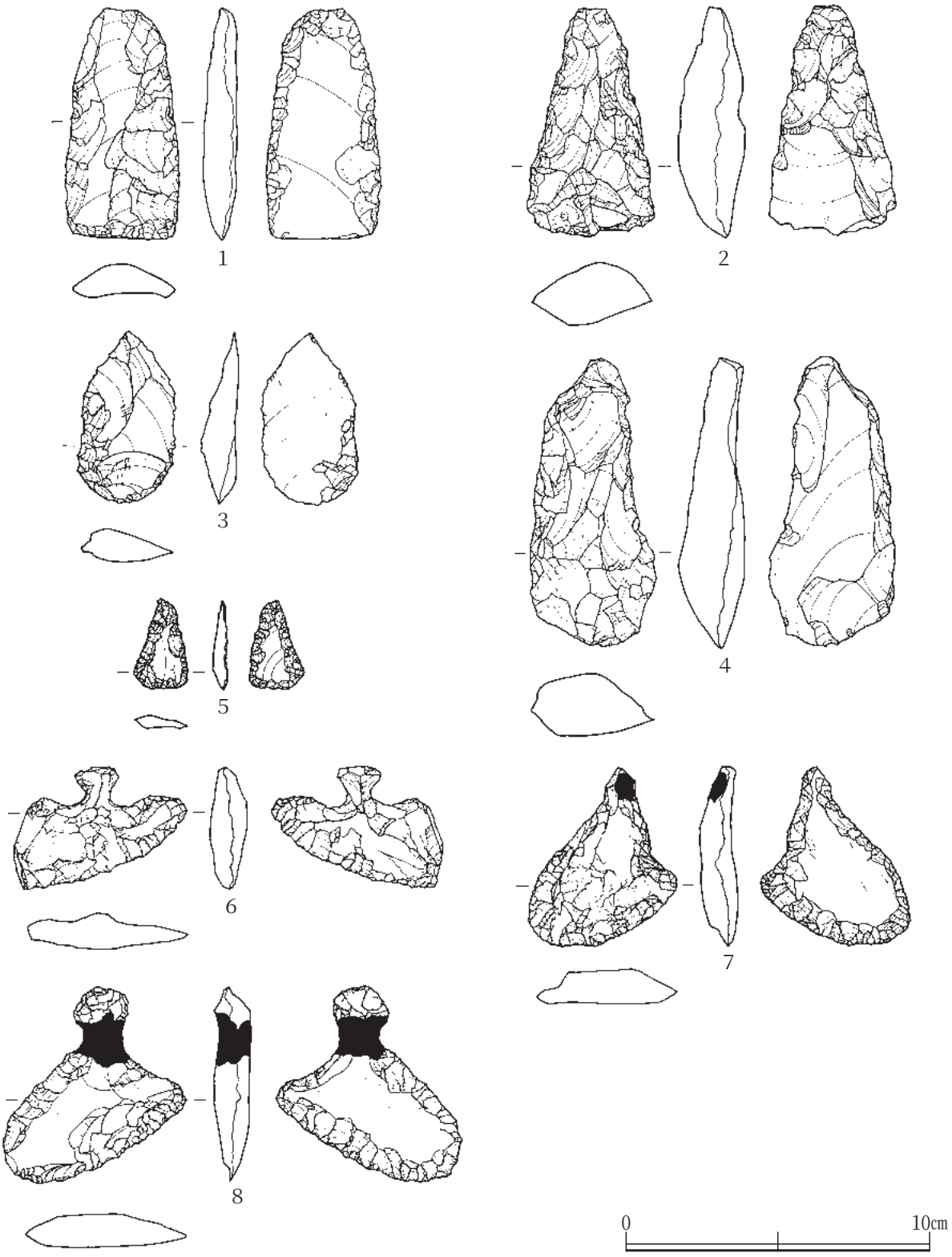


第37図　遺構内出土遺物　土製品(3)　縄文時代

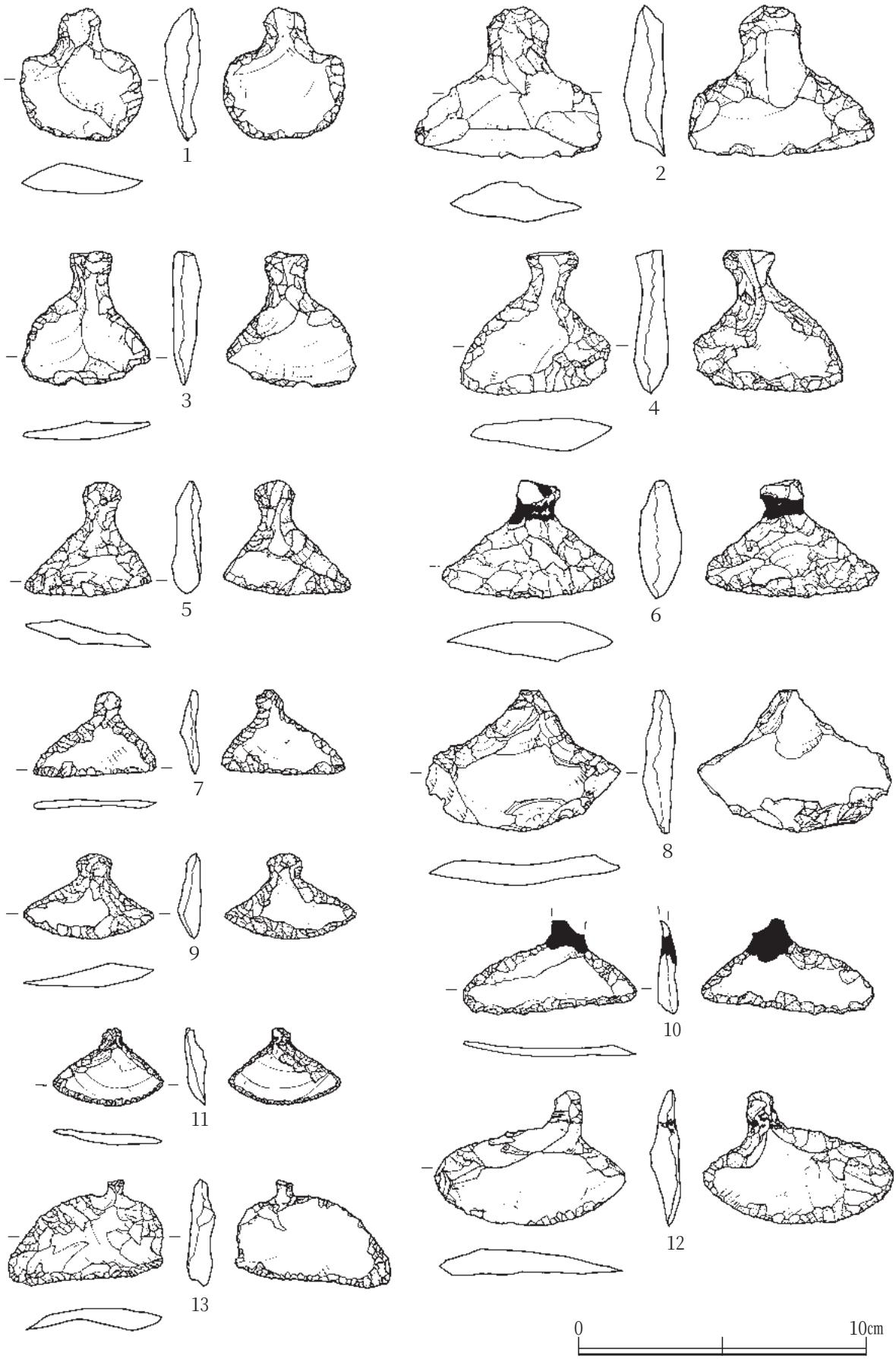


第38図　遺構内出土遺物　石器(1)　縄文時代

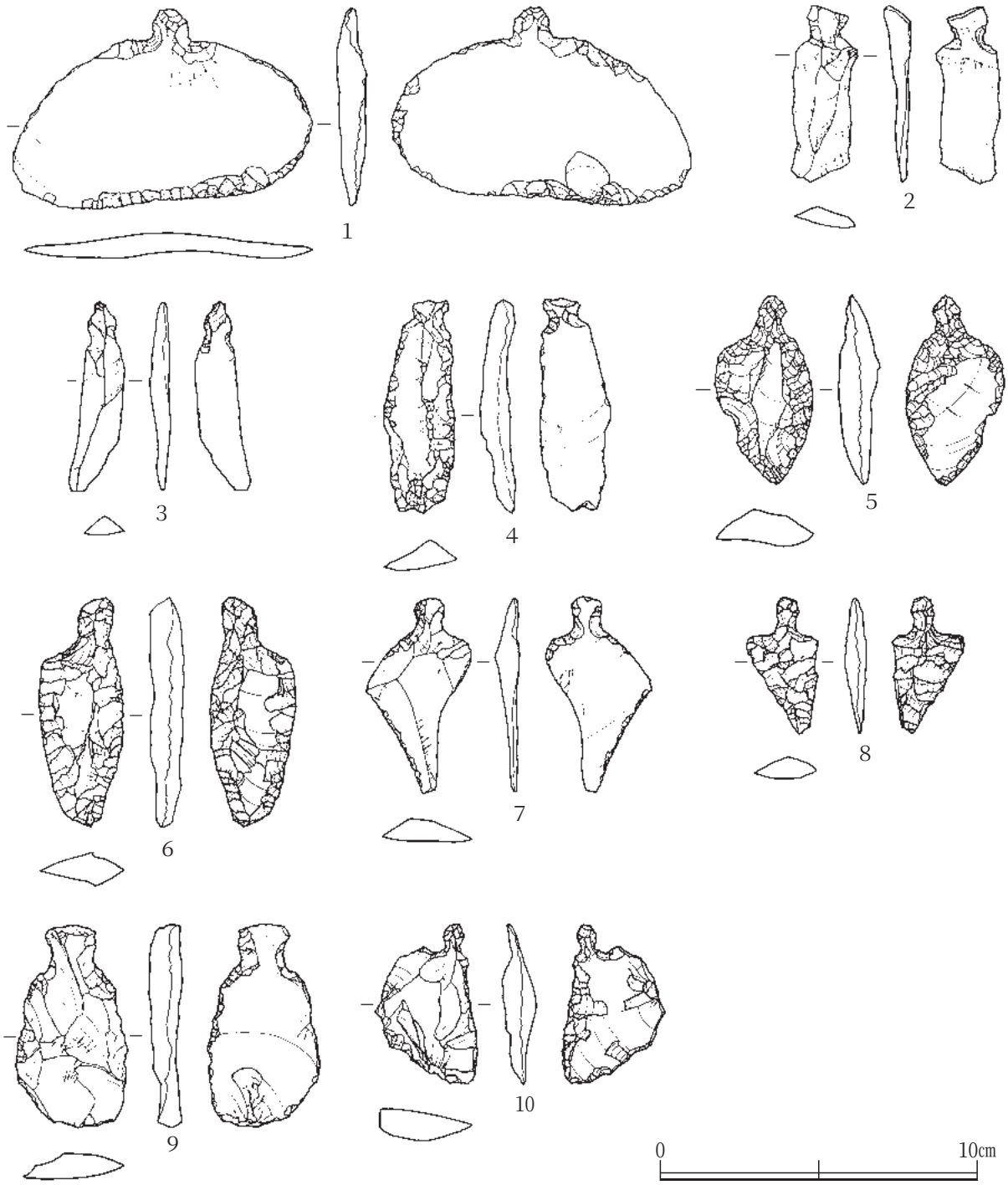
第39図　遺構内出土遺物　石器(2)　縄文時代



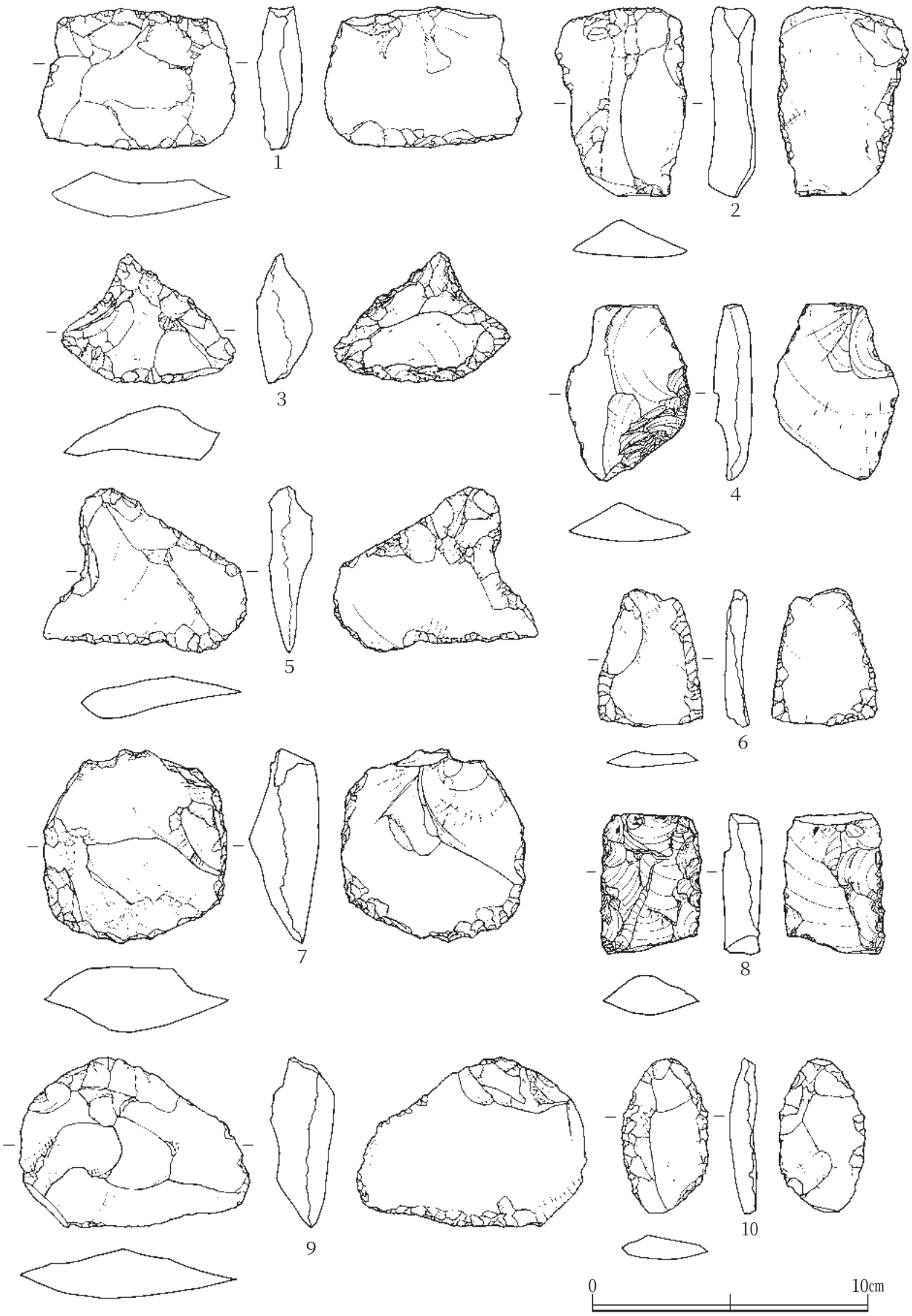
第40図　遺構内出土遺物　石器(3)　縄文時代



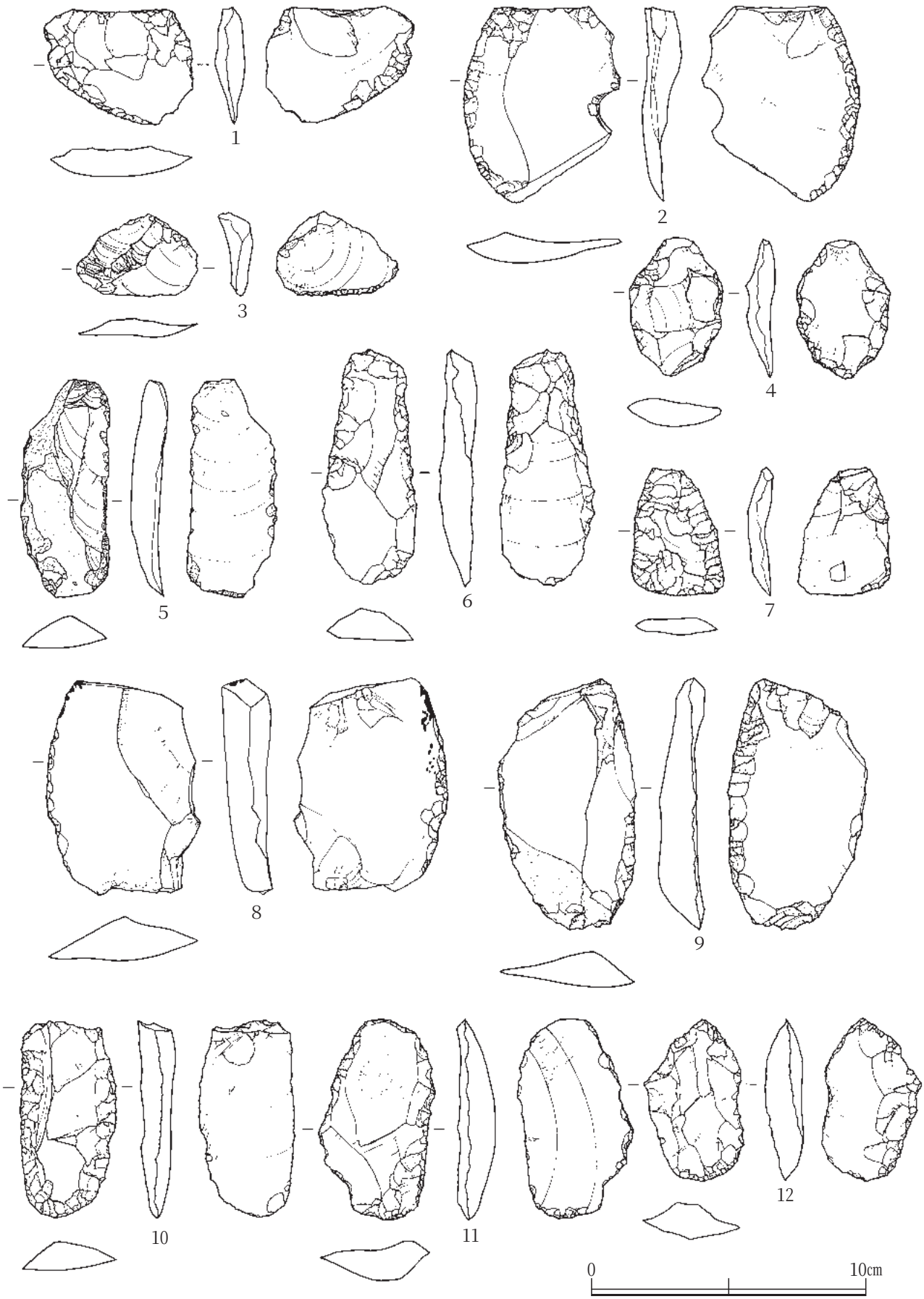
第41図　遺構内出土遺物　石器(4)　縄文時代



第42図　遺構内出土遺物　石器(5)　縄文時代

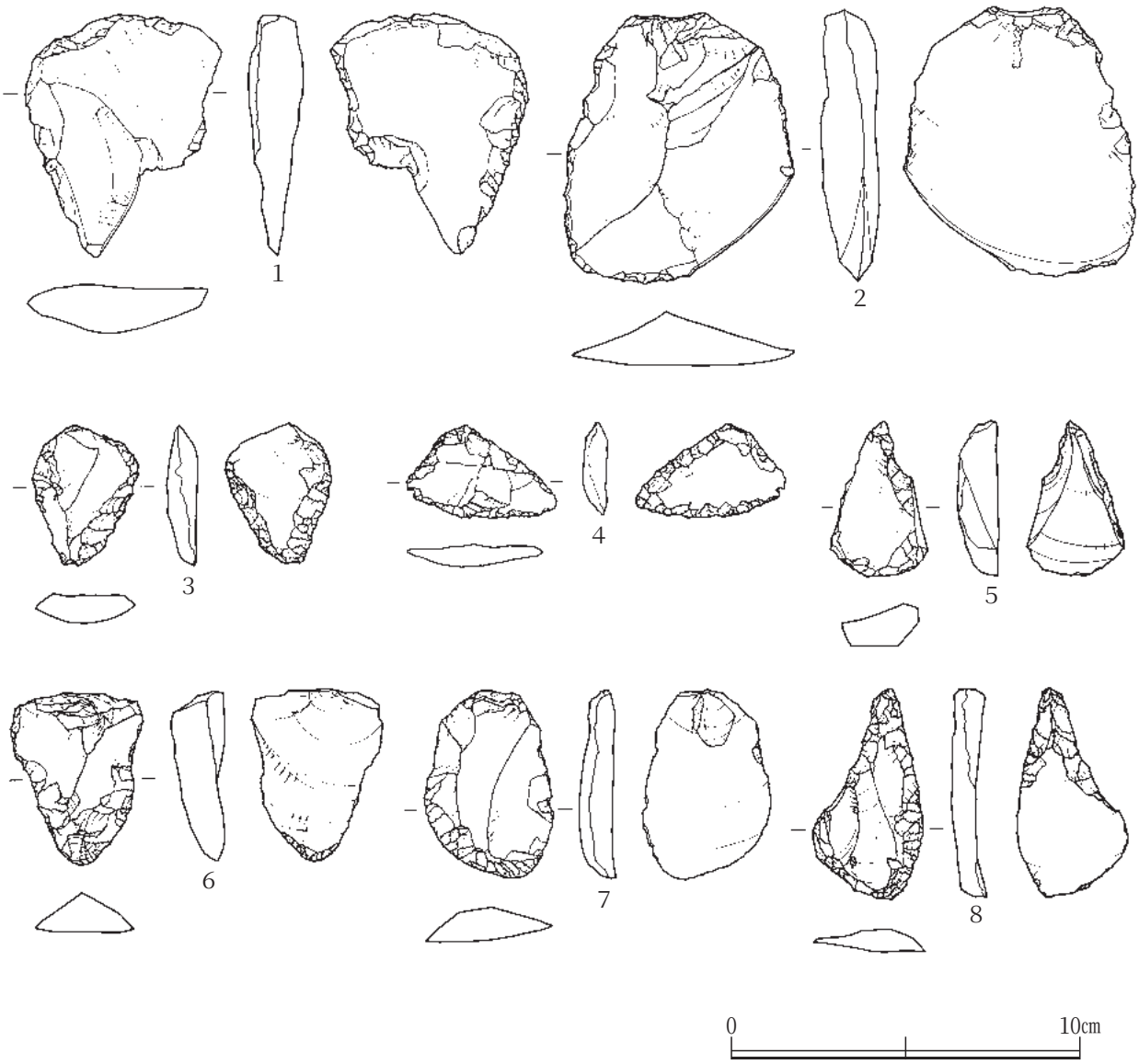


第43図　遺構内出土遺物　石器(6)　縄文時代

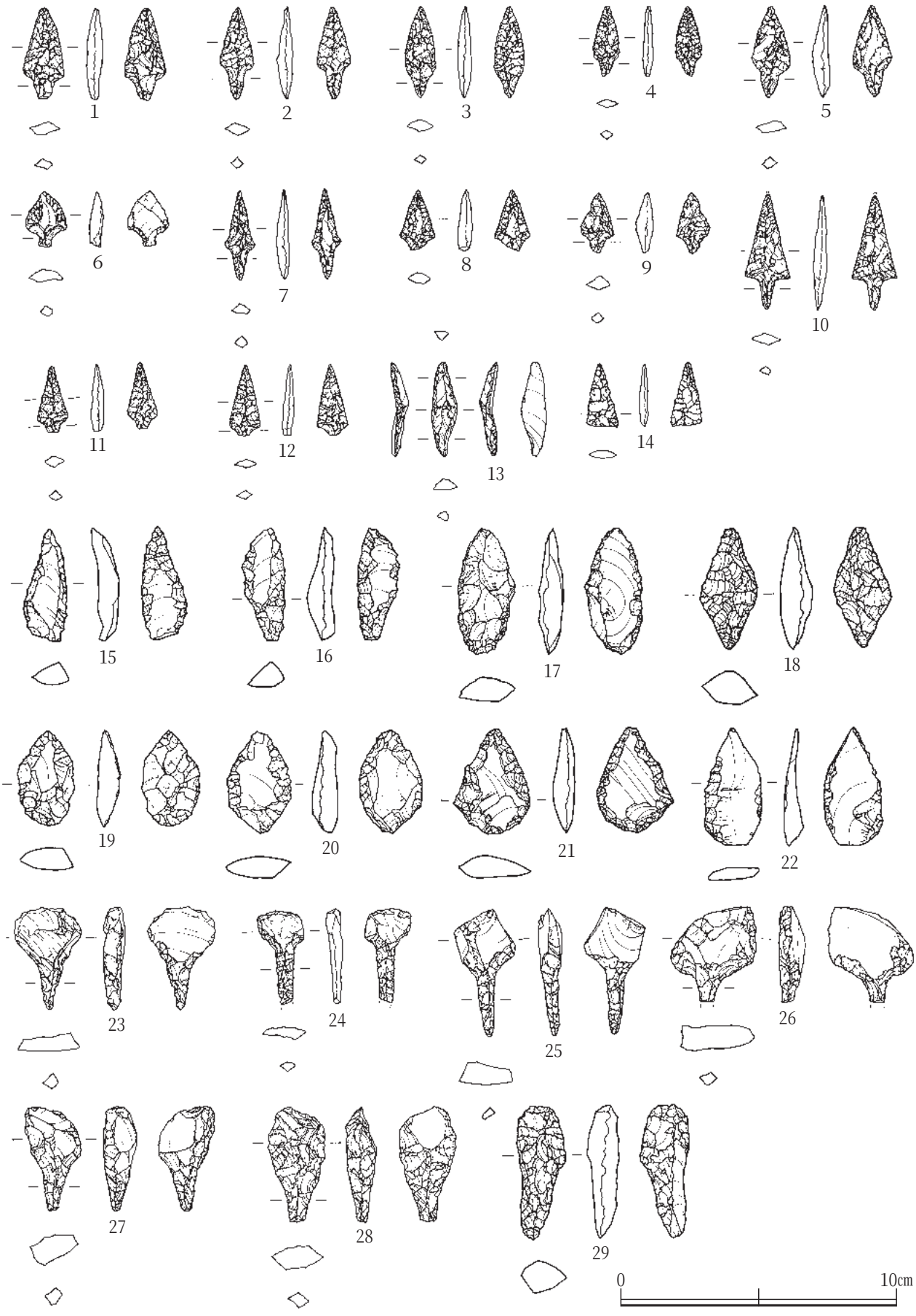


第44図　遺構内出土遺物　石器(7)　縄文時代

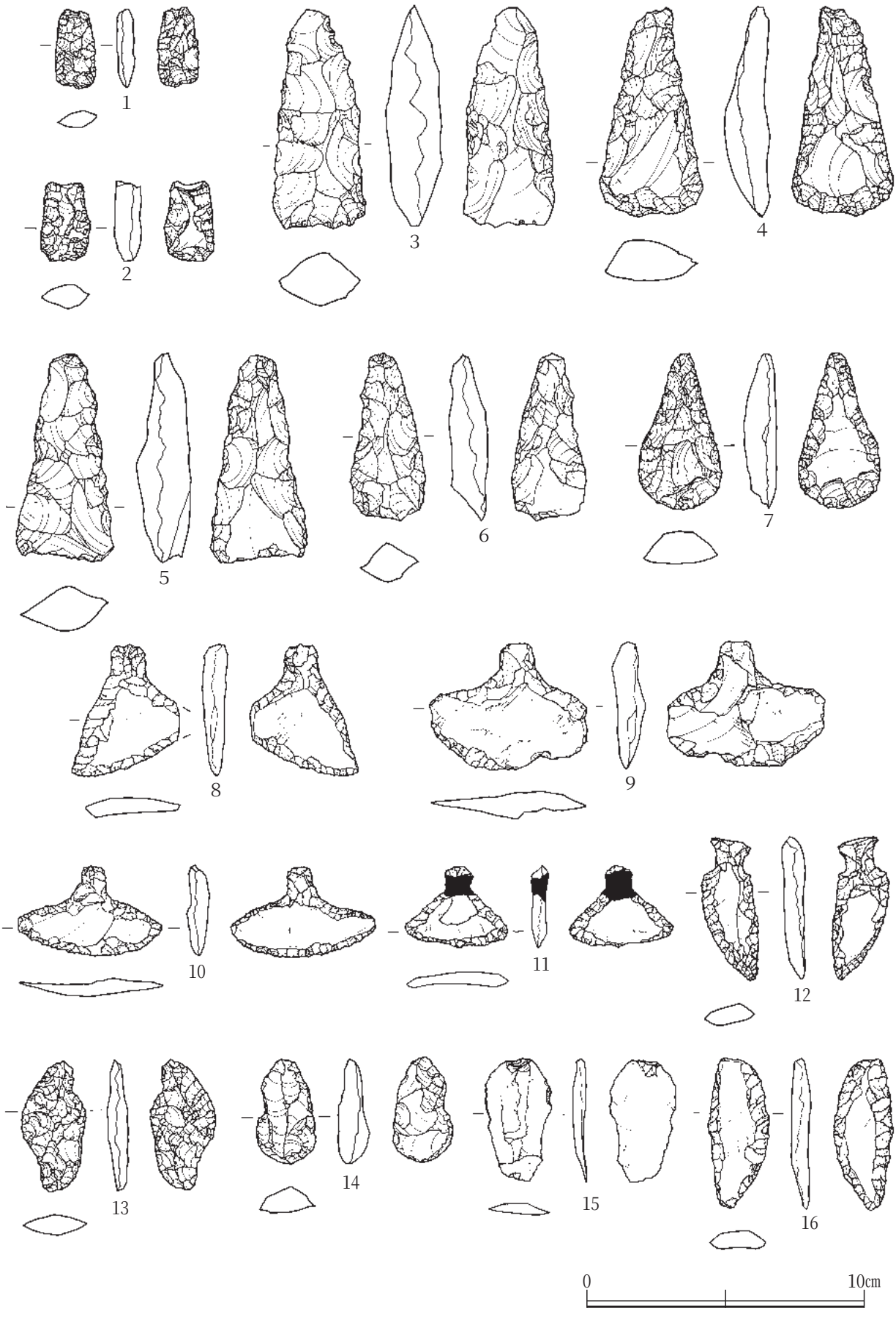
第45図　遺構内出土遺物　石器(8)　縄文時代



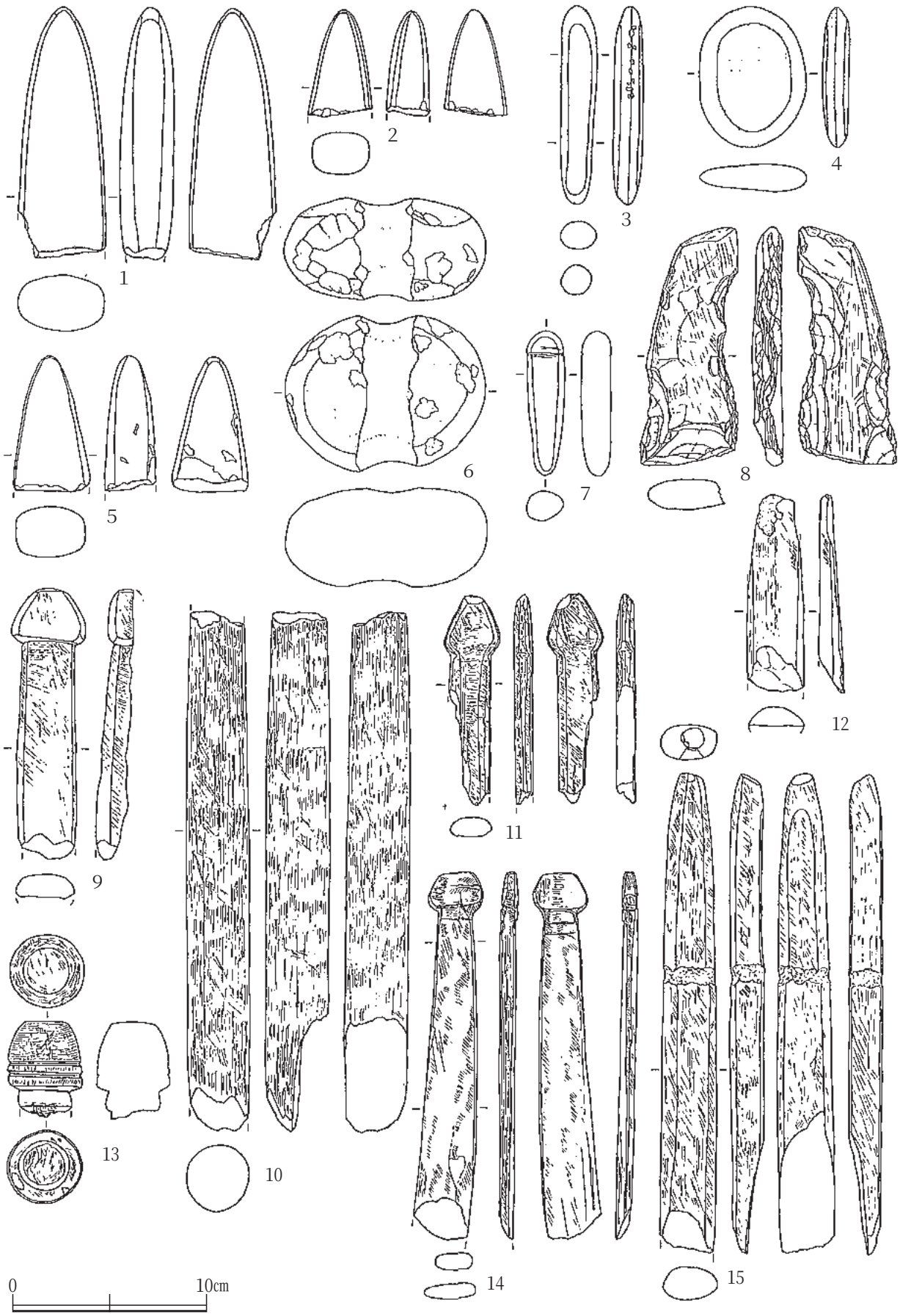
第46図　遺構内出土遺物　石器(9)　縄文時代



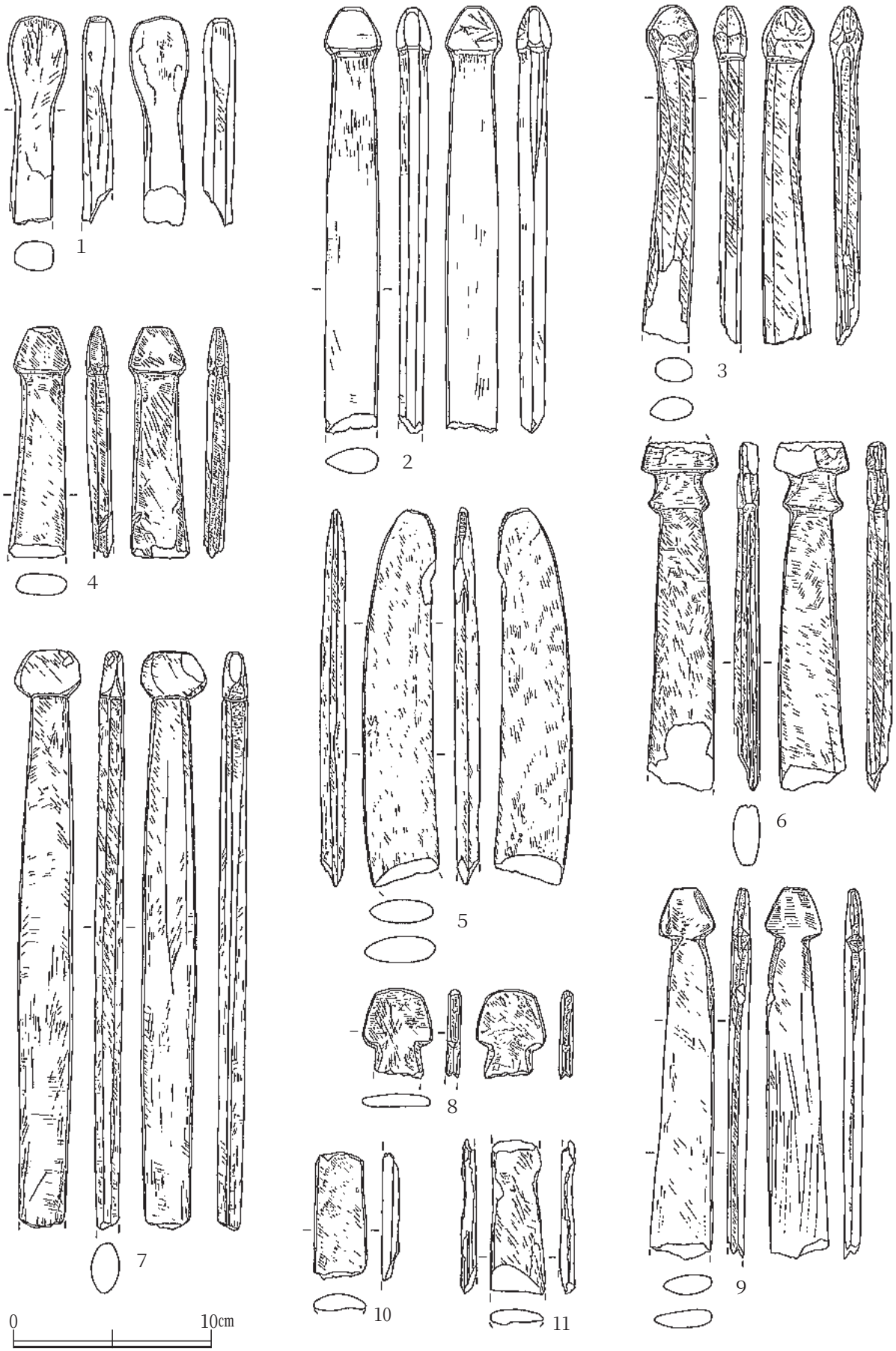
第47図　遺構外出土遺物　石器(1)　縄文時代



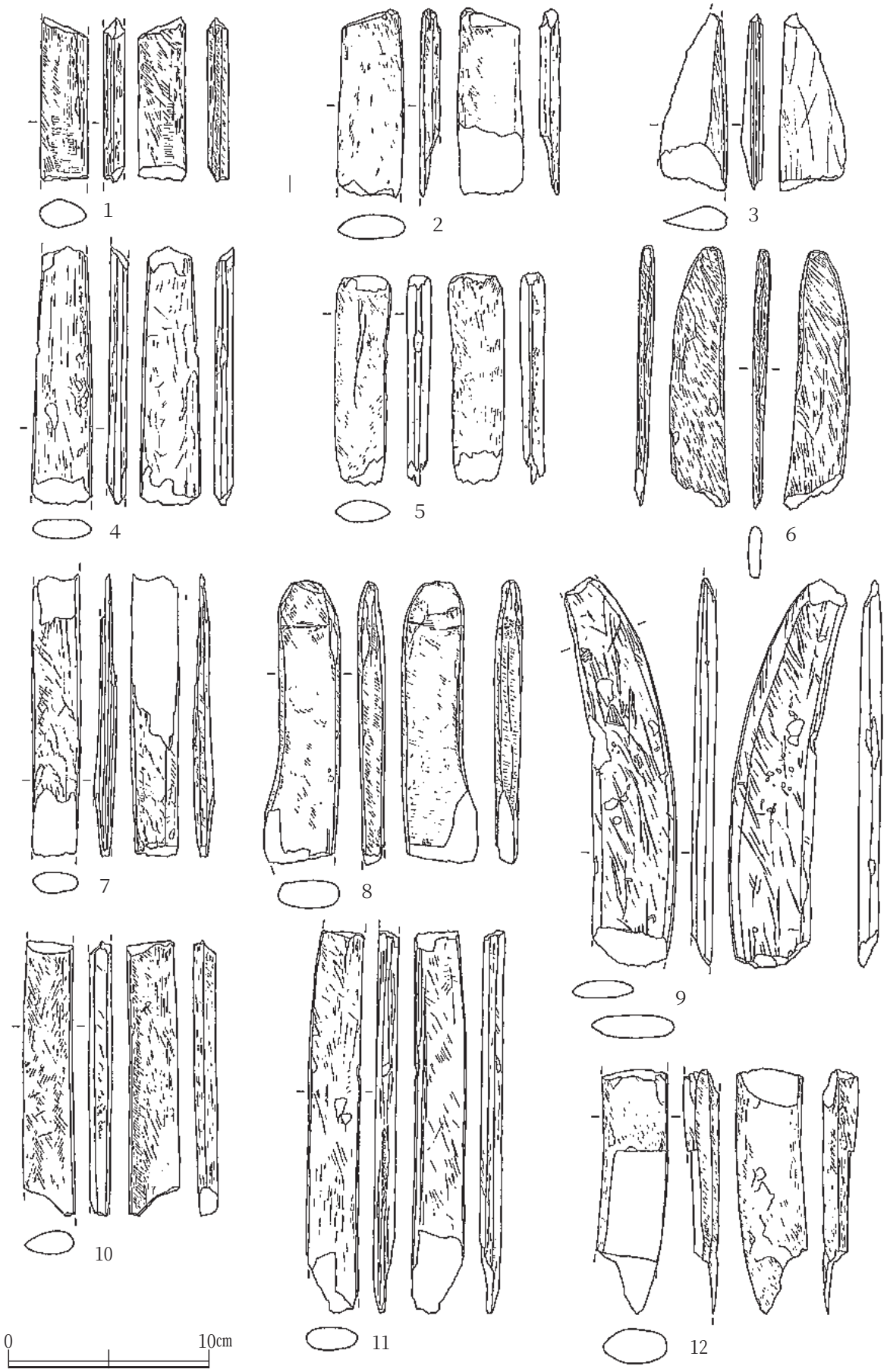
第48図　遺構外出土遺物　石器(2)　縄文時代



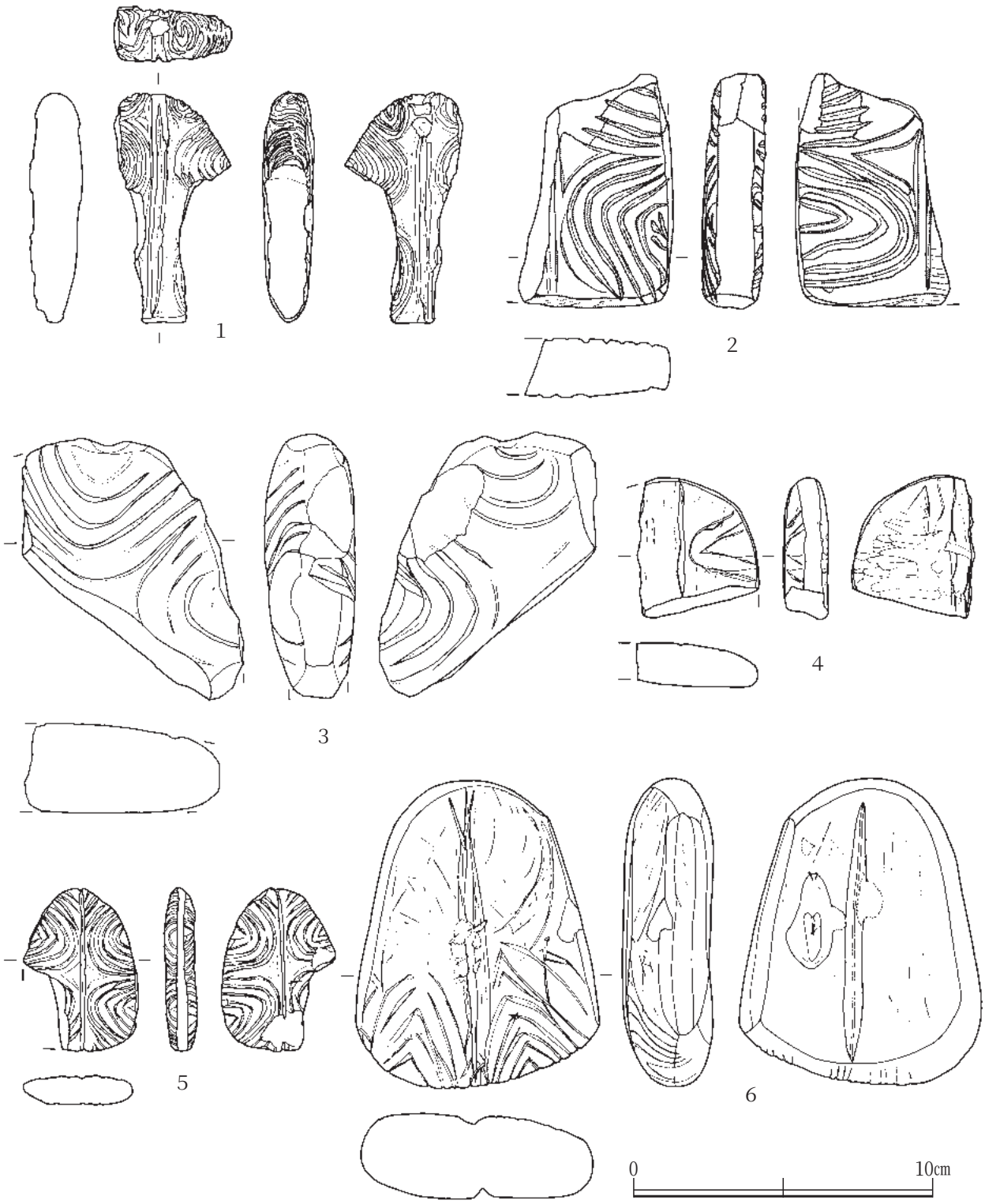
第49図　遺構内外出土遺物　石製品(1)　縄文時代



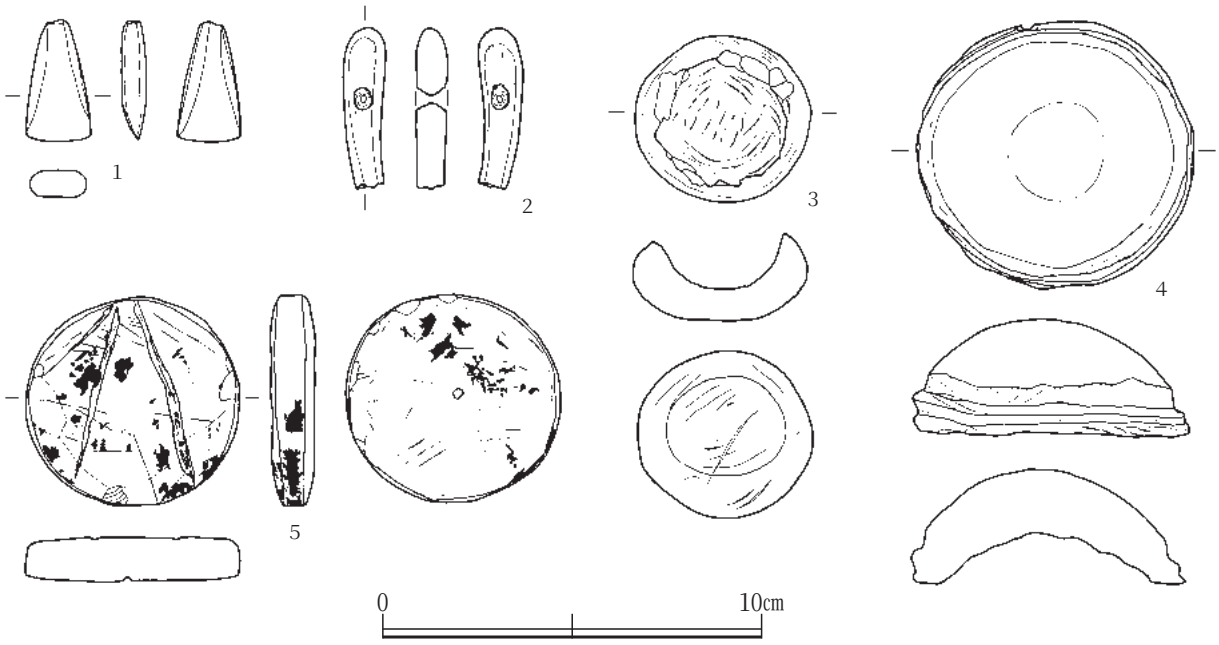
第50図　遺構内外出土遺物　石製品(2)　縄文時代



第51図　遺構内外出土遺物　石製品(3)　縄文時代



第52図　遺構内外出土遺物　石製品(4)　縄文時代



第53図　遺構内外出土遺物　石製品(5)　縄文時代

縄文時代　石製品

出土位置	層序	器種	重量(g)	挿図№	遺物№
SX2200	RQ83	磨製石斧	307.75	49	1
表採		磨製石斧	63.02	49	2
SX2200		磨製石斧	40.46	49	3
SX2200		磨製石斧	62.81	49	4
SD2378	MI54	磨製石斧	114.99	49	5
LG55	Ⅱ	磨製石斧	754.86	49	6
SX2200		ミニチュア石棒	31.61	49	7
SX2200		半円状扁平打製石器？	128.83	49	8
SX2200	RQ26	石棒?	108.15	49	9
SX2200	RQ61	石棒	585.16	49	10
SX2200		石剣	44.31	49	11
SX2200	RQ	石棒	48.92	49	12
SX2200		石棒	115.03	49	13
SX2200	RQ72	石剣	94.70	49	14
SX2200	RQ4	石剣	239.88	49	15
SX2200	RQ48	石剣	85.68	50	1
SX2200	RQ52	石剣	171.74	50	2
SX2200	RQ79	石剣	100.87	50	3
SX2200	RQ69	石剣	74.32	50	4
LH53	Ⅱ	石剣	160.70	50	5
SX2200	Ⅱ RQ	石剣	133.66	50	6
SX2200	RP89	石剣	226.98	50	7
LE56	Ⅱ	石剣	19.81	50	8
SX2200	RQ47	石剣	104.92	50	9
SX2200		石剣	25.05	50	10
SX2200	RQ25	石剣?	23.70	50	11

出土位置	層序	器種	重量(g)	挿図№	遺物№
SX2200		石剣	39.39	51	1
SX2200		石剣	61.57	51	2
SX2200		石剣	39.12	51	3
SX2200		石剣	62.45	51	4
SX2200	RQ34	石剣	56.73	51	5
SX2200	第２ベルト４層	石刀	45.44	51	6
SX2200	RQ38	石剣	56.60	51	7
SX2200		石刀	130.37	51	8
SX2200	RQ5	石刀	167.04	51	9
SX2200		石剣	78.26	51	10
SX2200	RP60	石刀	105.04	51	11
SX2200	RQ55	石刀	100.14	51	12
SX2200	RQ96 第２ベルト４層	岩版	29.54	52	1
SX2200		岩版	72.74	52	2
SX2200		岩版	97.20	52	3
SX2200	Ⅱ	岩版	28.90	52	4
SD2378	MI56	岩版	15.24	52	5
SX2200	第２ベルト２層	岩版	177.49	52	6
LE57	Ⅰ	磨製石斧	5.88	53	1
SX2200	RQ	有孔石製品	4.40	53	2
SX2200	RP106 第２ベルト６層	半球状石製品	30.21	53	3
SX2200		半球状石製品	97.19	53	4
SK1643	RP23	円盤状石製品	43.39	53	5

Ⅳ層およびⅥ層は比較的多量の遺物を包含するが、ほぼ大洞Ｃ２式に比定される土器群である。ＳＩ2032竪穴住居跡が立地する突端部から北東側は段丘が大きく凹曲し、その沢状地形局部に所在する湧水点は現在も利用されている。ＳＸ2200捨て場は、ＳＩ2032竪穴住居跡と湧水点との間に広がっており、本遺跡における縄文時代晩期の遺構群が調査区外北側に大きく広がる可能性が極めて高い。

またⅣ～Ⅵ層は大粒の炭化物を多量に含んでおり、遺物出土量も多いことから、捨て場における該期の祭祀（物送り）での炭化物の多産、および火の使用が想定できる。しかし、中央のＶ層では炭化物のほかに焼土粒を多く含むものの、上下のⅣ・Ⅵ層に比して遺物出土量が少ない。また、Ⅳ層では炭化物の他に灰を多く含んでおり、ＳＸ2200捨て場における祭祀の在り方が短期間に推移していったことが考えられる。

最下層では縄文時代後期に帰属する土器片が若干出土した。

ごく少ない時間幅で厚さ150㎝におよぶ包含層を形成し、きわめて短期間に繰り返し集中的に祭祀が執り行われた場であることも明確である。

③竪穴遺構　　１基（詳細は15頁の表を参照されたい）
④土坑　　22基（詳細は15頁の表を参照されたい）
⑤溝状遺構　　６条（詳細は15頁の表を参照されたい）

東側調査区のＳＤ2240溝状遺構は方形を呈し、内部に位置するＳＫ2225から縄文時代晩期の遺物が多量に出土したが、倒木痕の可能性が高く縄文時代に帰属するかどうかは不明である。

またＳＤ2351溝状遺構は形態から西側調査区に頻出する外周溝と類似する形態であるが、出土炭化物からは縄文時代晩期の年代が求められた。内部の掘立柱建物跡については確認することができなかった。

⑥柱穴様ピット　　64基（詳細は15・16頁の表を参照されたい）

２　平安時代

①竪穴住居跡　　２軒

ＳＩ112Ａ竪穴住居跡は外側に掘立柱建物を伴う形態である。本来は南側まで掘立柱建物部が存在していたと考えられるが、杉沢川の下刻作用により段丘崖が削られ、滅失している。青森県六ヶ所村発茶沢（１）遺跡以来、北東北各地で検出されている掘立柱建物を附属する竪穴住居跡とは異なり、竪穴部の外側に主要な柱穴がめぐる構造を持つため、竪穴部を有する掘立柱建物跡としたほうがよいのかもしれない。北関東地方にも類例を求めることができるほか、平成14年度の払田柵跡の発掘調査でも検出された。

かまど内からは９世紀前半代の所産と考えられる須恵器坏も出土しているが、大多数は９世紀中頃のもので、この竪穴住居跡を核とする集落の起源が９世紀前半代に遡り得ると捉えられる。

東側調査区で検出したＳＫＩ2110Ｂ竪穴遺構と重複していてそれより新しいＳＩ2110竪穴住居跡は出土遺物が少量であるが、他の平安時代の遺構群と同様、９世紀中頃～後半代に帰属すると思われる。

②竪穴遺構　　７基

ＳＫＩ74竪穴遺構はＳＢ㋐ａｂの屋内施設として焼土を多く含む竪穴遺構で、工房としてのＳＢ㋐内に設けられた施設であると考えられる。ＳＢ㋐ａｂが立て替えられたＳＢ㋐ｃ段階では同様に規模

が縮小し、ＳＫ61ＡＢ土坑として機能が存続したと思われる。

ＳＫＩ85Ｄ竪穴遺構は底面のごく一部のみ検出した。

ＳＫＩ90およびＳＫＩ166竪穴遺構はＳＤ85溝状遺構に取り付く導水施設と考えられる。ＳＫＩ90竪穴遺構は堆積土が黒色シルトに限られ、またＳＫＩ166竪穴遺構ではＳＤ87とＳＤ85溝状遺構とが合流するように掘り込まれており、複数の溝を接続するための施設である可能性が高い。またＳＤ87とＳＤ85Ｃ溝状遺構、およびＳＤ85（ＳＤ151）とＳＤ27溝状遺構はそれぞれ道路遺構の側溝である。道路遺構については後述する。

ＳＫＩ122竪穴遺構は、土師器を主とする遺物および焼土を多く含む。

ＳＫＩ140とＳＫＩ148竪穴遺構は単独の竪穴遺構ではなく、平面形が「Ｕ」字型を呈する溝状遺構が外側を巡る（以下「外周溝」と呼称する）。調査区内に散在する外周溝の内部には掘立柱建物跡が附属する例が多いことから、これらは一体のものであり外周溝を持つ掘立柱建物跡と認識できることが確認できた。この外周溝の内部にはＳＫＩ140とＳＫＩ148竪穴遺構のみならず、位置をほぼ同じくするＳＢ㋔ａｂ掘立柱建物跡が存在し、前述した外周溝を伴う掘立柱建物跡が、本来的には竪穴を有した形態であった可能性を示唆している。この類例は北関東～南東北に求めることができる。

③掘立柱建物跡　　23棟

古代または古代末に係ると考えられる掘立柱建物跡は、両調査区をあわせて23棟確認した。

古代においては柱穴規模が比較的大きく、10尺および７尺の間尺が基本である。20尺の梁間は古代では２つに割り、10尺＋10尺になる場合が多い。古代の梁間（身舎）は２間が基本であり、また廂も柱間と同じ間尺を有する。つまり梁間と同じ距離を離して同時に存在する掘立柱建物跡もよくあり、これは特に寺院に顕著である。また古代の廂の柱穴は、身舎の柱穴と規模が一緒である。

本遺跡ではＳＩ112ＡおよびＳＩ2110竪穴住居跡以外に居住施設と考え得るものは無く、帰属時期が若干ずれる外周溝を伴う掘立柱建物跡が住居的な施設である可能性も想定できる。

平安時代の掘立柱建物跡のうち、西側調査区で検出したものは、19軒である。

ＳＢ㋘掘立柱建物跡はＳＩ112竪穴住居跡と一体をなし、本来的には南側（段丘崖）に連続していたと考えられる。９世紀第１四半期に成立し、第３四半期まで継続したと考えられる中心的な施設であったと考えられる。

ＳＢ㋖ａｂｃ掘立柱建物跡は工房的施設と考えられる。ＳＢ㋖ａｂ掘立柱建物跡は第１期の道路遺構に沿っており、ＳＫＩ74竪穴遺構がその内部に附属する。ａ・ｂは軽微な建て替えである。ＳＢ㋖ｄ掘立柱建物跡はＳＢ㋖ａｂと軸線を同じくする。またＳＢ㋖ｃ掘立柱建物跡は縮小を伴う建て替えでＳＫ61ａｂ土坑をその内部に附属し、第２期の道路遺構に沿う。附属するＳＫＩ74竪穴遺構およびＳＫ61ａｂ土坑からは焼土・炭化物とともに多くの土器が出土し、ＳＢ㋖ａｂｃ掘立柱建物跡は何らかの工房的な施設と考えられる。ＳＢ㋒掘立柱建物跡はＳＢ㋖ａｂｄ掘立柱建物跡とともに第１期の道路遺構に沿う。

ＳＢ㋟掘立柱建物跡は平安時代、ＳＢ㋞掘立柱建物跡も該期の所産と思われるが、一部が調査区外へはみ出る。

西側調査区では、複数の「Ｕ」字形を呈する溝状遺構（外周溝）を有する掘立柱建物跡を検出した。これらは外周溝の内部に竪穴住居や、竪穴住居＋掘立柱建物を伴う形態をとらず、津軽地方で確認さ

れるものとは異なる様相を呈する。

ＳＢ㋑掘立柱建物跡はａｂの２棟で、外周溝を伴う。ＳＢ㋓掘立柱建物跡は外周溝を伴う。ＳＢ㋕掘立柱建物跡は外周溝を伴う。ＳＢ㋖ａｂ掘立柱建物跡は竪穴状の掘り込みを有し、外周溝を伴う。

ＳＢ㋗ａｂ掘立柱建物跡はＳＤ457溝状遺構に区画され、ＳＤ264・457・476溝状遺構に沿うことから、これらにより構成される第３期の道路遺構と対応して配置されている可能性が高い。

ＳＢ㋐掘立柱建物跡は平安時代末の倉庫と思われる。ＳＢ㋒掘立柱建物跡も平安時代末である。ＳＢ㋜掘立柱建物跡は平安時代～中世のものと考えられ、ＳＢ㋗掘立柱建物跡で触れた第３期の道路遺構に関係し、この道路遺構が中世まで存続した一つの根拠となるものである。

同じく平安時代に係る掘立柱建物跡のうち東側調査区で検出したものは、次の４軒である。

ＳＢ㋙掘立柱建物跡およびＳＢ㋭掘立柱建物跡は平安時代の所産である。ＳＢ㋭掘立柱建物跡には、本来は南北２面に廂が取り付いていた可能性もある。

ＳＢ㋔ａ掘立柱建物跡およびＳＢ㋝ａ掘立柱建物跡は平安時代末～中世の所産である。

④土坑　　29基

ＳＫ2172土坑は多量の土師器坏・甕を出土し、土器焼成遺構と考えられる。詳細は78頁の表を参照されたい。

⑤道路遺構　　５条

西側調査区のＳＤ85ＣおよびＳＤ87溝状遺構はほぼ南北方向に並行し、ＳＢ㋟およびＳＢ㋇ａｂｄ掘立柱建物跡と対応する配置関係をとることから、道路遺構と考えられる。この道路遺構はＳＢ㋟掘立柱建物跡より北上し、ＳＢ㋇ａｂｄ掘立柱建物跡がそれに沿う配置となる。ＳＤ27およびＳＤ85・151溝状遺構も対を成して道路遺構を形成する。これは前述の道路遺構と重複するが新しい。この段階ではＳＢ㋇ａｂ掘立柱建物跡が縮小されてＳＢ㋇ｃ掘立柱建物跡となり、道路遺構も段丘下の杉沢川・横手川合流点付近の方まで降りるようになる。この段階で川運に関連する施設から北上する道路として機能するようになり、前通遺跡そのものがある意味で街道に沿う様になったと考えられる。またＳＢ㋞や中世のＳＢ㋊などもこの道路遺構を意識した配置を取るため、この道路遺構は平安時代９世紀後半以降中世に至るまで機能したことが窺える。

またＳＤ264・457・476溝状遺構も直線的に連なり、ＳＢ㋃・㋖・㋜掘立柱建物跡が沿う配置を取ることから、これらを側溝とする第３期の道路遺構の存在が想定できる。

東側調査区のＳＤ2378および2445溝状遺構もほぼ南北方向に並行し、道路遺構の側溝と考えられる。ＳＤ2378溝状遺構からは須恵器系中世陶器が出土し、ＳＢ㋝ａｂ掘立柱建物跡が意識した配置をとることから、中世以前の平安時代段階から継続機能していたと考えられる。これに連結するＳＤ2860溝状遺構も須恵器系中世陶器を出土し、ＳＢ㋭・㋡掘立柱建物跡が沿う配置を取ることから、同様の道路遺構とすることができよう。

またＳＤ2100溝状遺構に並行してＳＢ㋔ａｂｃｅ掘立柱建物跡が配置されることから、これを側溝とする第３期の道路遺構の存在も想定できる。

隣接する横手市教育委員会調査区および工事造成時の所見から、ＳＤ2860溝状遺構が東西に長く連続することを確認した。このことから両調査区はＳＤ2860溝状遺構を側溝とする道路遺構によって連結しており、少なくとも平安時代～中世にわたって連続した空間として土地利用がなされていたこと

が確認できた。

⑥溝状遺構　　36条

東側調査区のＳＤ2248溝状遺構はＳＢ㋭・㋬に関係する配置を取るため、平安時代の所産と思われる。

⑦井戸跡　　１基

素掘りの井戸に溝状遺構が取り付く溜井は、北関東に類例が多い。出土遺物が無く時期は不明であるが、付近の遺構配置から平安時代の所産である可能性が高い。

⑧柱穴および柱穴様土坑　248基（詳細は79～83頁の表を参照されたい）

⑨焼土遺構　　８基（詳細は84頁の表を参照されたい）

３　中世

①掘立柱建物跡　　９棟

中世の掘立柱建物跡では20尺の梁間を３間に割り、6.5尺＋6.5尺＋6.5尺とするようになる。特に15～16世紀においては基本的な単位となる場合が多い。近世の17～18世紀になると６尺３寸が基本的な単位となる。これは古代のにおける７尺の単位が、中世では６尺５寸になることを示している。この間尺は14世紀末から17世紀初めまで多い。

６尺は中世的な間尺であり、古代～中世においては廂の数　格式とも考えられるため、小さくとも浅くとも柱穴を拾うことが重要である。中世の廂は柱径が小さくなり、柱穴もより小型になるからである。また３間×３間の構成は中世では最高級の建物となる。

中世以降に係る掘立柱建物跡は９棟で、そのうち西側調査区で確認したものは次の３棟である。

ＳＢ㋮掘立柱建物跡は7.5尺の間尺を有し、中世の早い時期の倉庫跡と考えられる。ＳＢ㋟掘立柱建物跡は孫廂を有する中世の倉庫跡である。間尺は７尺である。ＳＢ㋰掘立柱建物跡は13～14世紀の所産と考えられる。

ＳＢ㋺掘立柱建物跡は総柱の建物で中世より新しいと考えられるが、詳細は不明である。

同じく中世以降に係る掘立柱建物跡のうち東側調査区で確認したものは次の６棟である。

ＳＢ㋣ｂｃ掘立柱建物跡は13～14世紀の所産と考えられる。ＳＢ㋣ｅ掘立柱建物跡も詳細は不明であるが、該期の所産である可能性が高い。基本的にＳＢ㋣ａ掘立柱建物跡の建て替えと考えられることから、平安時代末～中世の一連の建物とすることができよう。しかしＳＢ㋣ｄ掘立柱建物跡の帰属時期は不明である。

ＳＢ㋑ｂ掘立柱建物跡は中世、ＳＢ㋬掘立柱建物跡も該期の所産と考えられる。

ＳＢ㋫掘立柱建物跡は梁間を３間に割っており、15世紀後半頃の所産と考えられる。

ＳＢ㋭掘立柱建物跡の帰属時期は不明である。

②土壙墓　　２基

ＳＫＳ2211土壙墓は長方形を呈する。東側調査区の調査区境界で検出したため、すべてを調査することはできなかった。埋土中から須恵器系中世陶器の擂鉢（Ⅱ期）・壺甕類破片、白磁四耳壺（Ⅲ系）が出土しており、12世紀末～13世紀前半頃の所産と思われる。またＳＫＳ2453墳墓は小型土坑を方形の溝状遺構が囲む形態を呈する。小判型を呈するＳＫ2454・4380土坑が並行配置をとることから、一

連の附属土坑とすることができるかもしれない。出土遺物は無いが、形態などから中世初期に係る墳墓と考えられる。

③道路遺構　　２条

前述したようにＳＤ2378・2445溝状遺構は南北方向に並行し、沢状地形を利用して段丘下へ降りる現道にほぼ沿った位置にあることなどから、道路遺構と考えられる。これは東側調査区の北端でＳＤ2860溝状遺構に接続し、この溝状遺構も西方向へ長く続くことが確認できたことから、これについても道路遺構の側溝と考えられる。またＳＤ2384・3683溝状遺構もこれに並行し、道路遺構と考えられる。遺物はＳＤ2378で須恵器系中世陶器の擂鉢（Ⅱ期）を出土したことから、鎌倉時代の道路遺構と考えられる。しかし中世の建物と考えられるＳＢ㋑掘立柱建物跡のみならず、古代に属すると考えられるＳＢ㋬掘立柱建物跡等もこの道路遺構を意識した配置をとることから、平安時代からほぼ位置を踏襲したまま鎌倉時代まで継続したものと考えられる。

また西側調査区で確認した道路遺構についても、平安時代～中世に係る掘立柱建物跡が同様の配置をとることを確認していることから、平安時代～中世まで継続的に使用されていることが窺える。

④土坑　　２基（詳細は78頁の表を参照されたい）

⑤溝状遺構　　２条

前述した道路遺構の側溝である。詳細は79頁の表を参照されたい。

⑥柱穴および柱穴様土坑　102基（詳細は83～84頁の表を参照されたい）

４　近世以降の遺構

①井戸跡　　１基

近世と考えられるＳＥ850井戸跡がある。杭状に突き刺した材を検出したが不整形であるため、農耕水路等に関連する施設の可能性もある。

②溝状遺構　　１条（詳細は85頁の表を参照されたい）

５　時期不明の遺構

検出した遺構のうち、出土遺物による帰属時期確定の困難な遺構が3,218箇所ある。特に3,039基の柱穴のうち、平安時代～中世の道路遺構に近接して検出したものについては、当該期の所産である可能性が高い。

両調査区における掘立柱建物跡をはじめとする遺構の広がりを勘案すると、そのほとんどは平安時代～中世の所産と思われるが詳細は不明である。85頁の表に検出位置・法量等を掲載した。

第２節　出土遺物

１　縄文時代

縄文時代の遺物のほとんどは、東側調査区東端のＳＴ2200捨て場から出土した遺物である。その他の遺構内から出土した遺物もごく少量あるが、ＳＴ2200捨て場から出土した遺物は本遺跡の総出土量の９割以上にのぼる。遺構外からも縄文時代の遺物は出土しているが西側調査区では皆無に等しく、

遺構一覧表　平安時代～中世

遺構№	検出位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	掲載外遺物	時期	備考	挿図№
SI112A	OD33	東649，南659，西643，北586		61	須恵器広壺，土師器甕坏，白磁，剥片，礫	平安時代		54,55,56
SI2110	LK51	東336，南258，西342，北290		57	縄文土器，土師器甕坏，剥片，礫	平安時代		57
SKI74	NR39	366	254	7	須恵器坏，土師器甕坏，礫	平安時代		59
SKI85D	NT38	400	252	—	—	平安時代	SB㋕abc(pit)	93,94,(60),(88)
SKI90	NT37	456	412	56	須恵器甕坏，土師器甕坏，剥片，礫	平安時代		58,(88)
SKI122	OC36	442	338	35	須恵器甕坏，土師器甕	平安時代		59
SKI140	OC・33/34	332	287	24	須恵器壺坏，土師器甕坏，礫	平安時代	SB㋑a(pit1・2)，SB㋑b(pit3・4)	61,97
SKI148	OC33	228	206	18	須恵器甕坏，土師器甕坏，礫	平安時代		61
SKI166	NT36	—	—	—	須恵器壺坏，土師器甕，礫	平安時代		62,(88)
SKS2211	MA51	410	180	75	白磁，青磁，珠洲，近世陶磁	中世		附図
SKS2453	MM55	東218，南325，西274，北260		39	—	中世	方形墳墓，SK2454・4380とセット?	附図
SK35	NR35	115	58	24	須恵器坏，土師器甕坏	平安時代		62,(88)
SK41	NR36	58	34	19	土師器，礫	平安時代		附図
SK61A	NS38	276	190	16	須恵器甕坏蓋，土師器甕坏，青磁，礫	平安時代		63
SK61B	NS38	276	190	25	須恵器甕坏蓋，土師器甕坏，青磁	平安時代		63
SK85B	NT38	150	134	44	土師器甕坏	平安時代		60,(88)
SK105	OE33	116	85	17	土師器甕	平安時代		63
SK112B	OC33	—	—	—	—	平安時代	SB㋙(pit)	54,56,92
SK112C	OD33	114	108	9	—	平安時代？		54,56
SK112E	OD33	—	—	—	—	平安時代？		56
SK112F	OD33	—	—	—	—	平安時代？		55,56,(54)
SK112G	OC32	—	—	—	—	平安時代？		56
SK379	NR36	92	66	12	土師器甕	平安時代		(88)
SK921	OQ47	129	(118)	20	須恵器甕	平安時代		64
SK1087	OE41	103	67	19	須恵器甕	平安時代		附図
SK1121	OD38	184	130	—	土師器，剥片	平安時代		附図
SK1538	OH34	594	384	28	須恵器壺，土師器甕坏	平安時代	SB㋞(pit1・2)	99
SK1545	OG34	70	62	8	土師器甕	平安時代		65
SK1550	OG34	103	94	79	須恵器甕，礫	平安時代	礫多量	65
SK1558	OF34	81	55	14	土器	平安時代		65
SK1625	OA39	416	320	17	須恵器甕坏，土師器甕坏，礫	平安時代		66,(88)
SK1627	NT40	44	44	28	—	平安時代		(88)
SK1629	NS40	108	81	19	須恵器甕，土師器甕坏，礫	平安時代		附図
SK1630	NS40	66	64	23	土師器甕坏，礫	平安時代		65,(82)
SK1634	NS40	—	—	—	須恵器甕，土師器，礫	平安時代	SB㋕ab(pit1)	93，94
SK1639	NR40	148	144	34	須恵器甕坏，土師器甕坏，礫	平安時代		82
SK1640	NR41	234	194	22	土師器坏	平安時代		66
SK1643	NR41	448	326	27	須恵器壺甕坏，土師器甕坏，礫	平安時代		67
SK2172	LR50	342	248	40	須恵器甕，土師器甕，剥片，礫	平安時代		附図
SK2492	MC53	117	90	30	土師器甕坏	平安時代		71
SK2454	MM55	140	87	14	—	中世	SKS2453・SK4380とセット?	附図
SK4380	ML55	149	70	10	—	中世	SKS2453・SK2454とセット？	附図
SE501	OL39	193	150	136	—	平安時代～中世？	溜井	74

遺構一覧表　平安時代～中世

遺構№	検出位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	掲載外遺物	時期	備考	挿図№
SD27	NR37	—	—	—	須恵器壺甕蓋坏，剥片，礫	平安時代	SBけa(pit1･5･6)，SBけb(pit1･5･6)，SBけc(pit2･3･4･5)，SBけd(pit7)	60,88,89,93,94
SD85	NT38	—	—	—	須恵器坏，土師器坏	平安時代		88,89,(60)
SD85C	NT38	—	—	34	須恵器壺甕坏，土師器	平安時代		60,88,89
SD87	OA38	—	—	—	須恵器壺甕，土師器甕坏	平安時代		62,(58),(60),(88)
SD112D	OE34	—	—	—	須恵器甕，礫	平安時代		56
SD141	OB35	—	—	—	須恵器甕坏，土師器甕坏，剥片	平安時代		附図
SD141B	OB35	288	160	9	—	平安時代？		附図
SD151	NS34	—	—	18	須恵器甕坏，土師器甕坏	平安時代		88,89
SD290	OC37	—	—	—	須恵器坏，土師器甕坏，剥片	平安時代		附図
SD401	OJ34	—	—	—	須恵器甕，礫	平安時代		附図
SD457	OG37	—	—	—	須恵器甕坏，土師器甕坏，剥片，礫	平安時代～中世	SBし(pit1･2)	78,79,100
SD467	OF36	196	34	16	須恵器甕	平安時代		80
SD578	OE37	—	—	—	須恵器甕坏，土師器甕坏	平安時代		附図
SD592	OC38	—	—	—	須恵器甕，礫	平安時代		附図
SD707	OH41	—	—	—	須恵器甕，土師器甕	平安時代		附図
SD820	OD43	350	124	28	須恵器甕，土師器甕坏，剥片，礫	平安時代		80
SD924	OP48	—	—	—	須恵器甕	平安時代		附図
SD1401	OH35	—	—	—	—	平安時代？		附図
SD1502	OJ32	—	—	—	須恵器甕，土師器坏	平安時代		80
SD1543	OH34	—	—	—	須恵器甕坏，土師器坏，礫	平安時代		附図
SD1576	OE35	—	—	—	須恵器甕坏，土師器坏	平安時代		附図
SD1578	OE35	—	—	—	土師器坏	平安時代		附図
SD1586	OE36	—	—	—	土師器坏	平安時代		附図
SD1599	OD37	—	—	—	須恵器甕，土師器坏	平安時代末～中世初	SBお(pit1･2)	102
SD1609	OC37	—	—	—	須恵器壺，土師器甕坏	平安時代		附図
SD1610	OC37	—	—	—	須恵器甕，土師器甕坏，近世陶磁，礫	平安時代		附図
SD1621	OB39	—	—	—	土師器甕坏，礫	平安時代		附図
SD1622	OA38	420	122	44	須恵器甕坏，土師器甕坏，礫	平安時代	SBえ(pit1)	98
SD1626	OA39	—	—	18	須恵器甕坏，土師器甕坏，礫	平安時代		66,(60),(88)
SD1635	NS40	—	—	—	土師器坏，陶磁	平安時代		82
SD2031	LI55	—	—	—	土師器甕坏	平安時代		83
SD2051	LM48	—	—	41	縄文土器	平安時代？		附図
SD2248	ME53	—	—	8	縄文土器，礫	平安時代		86
SD2378	MI58	—	—	—	縄文土器，珠洲甕	平安時代？		90
SD2384	MH60	—	—	—	縄文土器	平安時代？		附図
SD3683	MH60	—	—	—	須恵器，近世陶磁	平安時代？		附図
SD2100	LL50	—	—	—	縄文土器，須恵器甕	中世？		附図
SD2860	MK62	—	—	—	珠洲	中世		附図
SKP4	NQ34	24	20	16	土師器甕	平安時代		附図
SKP8	NQ34	25	22	11	土師器，須恵器坏	平安時代		附図
SKP11	NQ35	56	52	8	—	平安時代	SBけd	93,94,(88)
SKP21	NQ35	41	23	10	—	平安時代	SBけd	93,94
SKP22	NQ37	64	62	27	土師器甕坏	平安時代		附図
SKP24	NQ37	24	22	30	土師器甕	平安時代		附図
SKP26	NQ37	142	104	22	須恵器坏，土師器甕坏，礫	平安時代	SBけa(pit1)，SBけbc	93,94
SKP28	NR33	24	24	47	須恵器壺	平安時代		(88)
SKP29	NR34	24	24	28	須恵器坏，土師器坏，礫	平安時代		(88)
SKP31	NR34	20	18	23	土師器坏	平安時代		(88)
SKP33	NR34	35	26	14	土師器坏	平安時代		附図
SKP37	NR35	26	20	27	土師器坏	平安時代		(88)
SKP43	NR36	40	36	20	土師器	平安時代	SBけd	93,94
SKP47	NR37	29	23	29	土師器,礫	平安時代		附図
SKP51	NR37	59	47	18	—	平安時代	SBけa	93,94

遺構一覧表　平安時代～中世

遺構№	検出位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	掲載外遺物	時期	備考	挿図№
SKP52	NR37	90	72	62	須恵器坏，土師器甕坏	平安時代	SB㋕bc	93,94
SKP56	NR37	78	74	37	土師器甕坏	平安時代	SB㋕abc	93,94
SKP64	NR39	20	18	10	土師器坏，礫	平安時代		附図
SKP66	NS39	54	48	47	—	平安時代	SB㋕c	93,94
SKP77	NQ39	118	76	28	土師器甕	平安時代	SB㋕abc	93,94
SKP80	NQ39	121	70	39	土器	平安時代	SB㋕abc	93,94
SKP81	NR38	16	13	—	須恵器坏	平安時代		附図
SKP82	NQ38	111	90	38	土師器坏	平安時代	SB㋕abc	93,94
SKP91	NS37	72	60	28	土師器甕	平安時代	SB㋕a	89,93,94,(88)
SKP92	NS35	32	28	4	—	平安時代	SB㋕d	93,94,(88)
SKP94	NS35	50	46	—	須恵器坏，土師器甕	平安時代	SN，SB㋒	92,(88)
SKP95	NS34	72	66	39	—	平安時代	材・ぶどうの種，SB㋒	92,(88)
SKP99	NR34	46	36	11	—	平安時代	SB㋒	92,(88)
SKP102	OF33	67	40	34	須恵器坏	平安時代		附図
SKP103	OF33	21	20	24	須恵器甕，土師器甕	平安時代		附図
SKP132	OE33	32	26	19	—	平安時代	SB㋑	92,(54)
SKP137	OE33	84	70	3～34	須恵器甕坏，剥片	平安時代	SB㋑	92,(54)
SKP143	OE32	34	31	20	—	平安時代		(54)
SKP146B	OE32	74	67	30	土器，礫	平安時代	SB㋑	92,(54)
SKP147	OD32	18	16	5	土器	平安時代	SB㋑	92,(54)
SKP160	NS36	46	36	12	—	平安時代	SB㋕d	93,94,(88)
SKP168	NT36	52	44	37	須恵器甕	平安時代		(62),(88)
SKP179	NT35	21	20	12	須恵器坏，土師器坏	平安時代		附図
SKP182	NT35	62	50	28	—	平安時代	SB㋒	92
SKP183	NT34	72	62	27	土師器甕	平安時代	SB㋓	96
SKP187	NT34	90	85	43	土師器甕	平安時代	SB㋓	96
SKP189	OA34	22	18	19	土師器	平安時代		附図
SKP191	NT34	31	26	10	—	平安時代	SB㋒	92
SKP192	NT33	32	31	13	—	平安時代	SB㋒	92
SKP203B	OA34	45	24	13	—	平安時代	SB㋓	96
SKP204	OA34	53	43	15	土師器甕	平安時代	SB㋓	96
SKP207	OA34	87	48	25	土師器甕坏	平安時代		附図
SKP212	NT35	79	68	43	—	平安時代	SB㋓	96
SKP213	NT35	18	17	18	土師器坏	平安時代		附図
SKP214	NT36	66	64	44	—	平安時代	SB㋓	96
SKP217	NR40	65	48	15	—	平安時代	SB㋕ab	93,94
SKP220	NR40	108	74	54	須恵器坏	平安時代	SB㋕ab	93,94
SKP227	NS33	28	22	16	—	平安時代	SB㋒	92,(88)
SKP229	NS34	—	—	—	土師器甕	平安時代		(88)
SKP230	NS35	61	46	15	土師器	平安時代		(88)
SKP232	NS35	56	42	36	須恵器甕	平安時代	SB㋒	92,(88)
SKP235	OD32	82	64	14	土師器	平安時代		(54)
SKP241	OF32	—	—	—	土師器坏	平安時代		附図
SKP256	OB33	42	36	17	—	平安時代	SB㋔a	97
SKP257	OB33	34	28	23	—	平安時代	SB㋔ab	97
SKP258	OC33	42	27	13	—	平安時代	SB㋔a	97
SKP260	OD34	23	22	15	土師器甕	平安時代		(54)
SKP262	OD34	52	47	30	—	平安時代	SB㋑	92,(54)
SKP269	OC34	32	32	27	土師器坏	平安時代		附図
SKP272	NT34	25	21	18	須恵器蓋	平安時代	SB㋒	92
SKP276	NT34	42	42	34	土師器	平安時代		附図
SKP289	OA37	20	19	17	—	平安時代	SB㋦	98
SKP291	OB37	22	18	20	—	平安時代	SB㋦	98
SKP294	OB37	22	17	8	—	平安時代	SB㋦	98
SKP300	OC32	62	46	34	土師器甕	平安時代	SB㋑	54,56,92
SKP327	OI32	25	23	13	須恵器甕坏	平安時代		附図
SKP349	OG32	29	24	12	須恵器坏	平安時代		附図
SKP358	OG32	26	25	13	土師器	平安時代		附図
SKP361	OF32	26	19	69	須恵器坏	平安時代		附図
SKP363	OG33	21	18	11	土師器	平安時代		附図
SKP364	OG33	16	15	10	須恵器坏	平安時代		附図
SKP365	OG33	45	23	13	須恵器甕坏，土師器甕坏	平安時代		附図
SKP367	OB34	92	69	40	—	平安時代	SB㋓	96
SKP368	NS37	88	80	60	須恵器甕	平安時代	SB㋕b	88,89,93,94
SKP369	NS35	76	48	24	土師器坏	平安時代		(88)
SKP370	NS35	294	148	14	須恵器坏，土師器甕坏	平安時代		(88)
SKP371	NS33	23	(18)	6	須恵器壺，土師器坏	平安時代		(88)
SKP373	NT35	30	25	17	須恵器甕，礫	平安時代		附図

遺構一覧表　平安時代～中世

遺構№	検出位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	掲載外遺物	時期	備考	挿図№
SKP374	NR40	16	12	25	土師器甕	平安時代		附図
SKP375	NQ39	39	32	13	土師器坏	平安時代		附図
SKP377	NR36	30	26	—	土師器坏	平安時代		附図
SKP380	NR35	68	68	8	須恵器，土師器甕,礫	平安時代		(88)
SKP381	NS35	28	26	28	土師器甕	平安時代		(88)
SKP415	OG35	63	44	33	—	平安時代	SBこ	99
SKP419	OL37	34	27	7	—	平安時代	SBいa	98
SKP425	OK37	46	45	14	—	平安時代	SBい b	98
SKP435	OL37	19	16	15	—	平安時代	SBいa	98
SKP462	OG36	52	50	40	—	平安時代	SBこ	99
SKP465	OG36	46	42	31	—	平安時代	SBこ	99
SKP478	OF37	35	28	29	土師器甕	平安時代		(78)
SKP512	OL38	14	13	21	—	平安時代	SBいb	98
SKP519	OL39	20	17	22	—	平安時代	SBあ	101, (74)
SKP527	OK39	35	27	11	—	平安時代	SBあ	101
SKP528	OK39	20	15	15	土師器坏	平安時代		附図
SKP538	OK38	30	28	16	—	平安時代	SBあ	101
SKP572	OE38	47	41	34	—	平安時代末～中世初	SBお	102
SKP579	OD39	168	128	32～69	須恵器甕,土師器甕	平安時代末～中世初	SBお	102
SKP589	OD39	36	35	37	土師器甕	平安時代		附図
SKP590	OD39	37	28	16	土師器甕	平安時代		附図
SKP593	OC39	45	39	34	土師器甕	平安時代		附図
SKP631	OK40	40	28	31	—	平安時代	SBあ	101
SKP652	OJ40	56	43	25	須恵器甕,礫	平安時代	SBさb	95
SKP653	OJ40	32	19	23	—	平安時代	SBさb	95
SKP658	OJ41	106	51	22	—	平安時代	SBさa	95
SKP658B	OJ41	—	—	—	—	平安時代	SBさb	95
SKP662	OJ41	35	31	46	土師器	平安時代	SBさa	95
SKP663	OI41	27	23	23	—	平安時代	SBさb	95
SKP664	OI41	45	36	32	—	平安時代	SBさb	95
SKP668	OI40	42	40	29	—	平安時代	SBさb	95
SKP702	OI41	82	79	45	—	平安時代	SBさb	95
SKP709	OG40	24	22	14	須恵器壺甕	平安時代		附図
SKP740	OD41	43	42	12	—	平安時代	SBそ	100
SKP788	OK42	55	(40)	30	—	平安時代	SBさa	95
SKP793	OK43	46	43	25	—	平安時代	SBさa	95
SKP795	OK43	24	19	10	—	平安時代	SBせ	96
SKP798	OI42	41	39	34	—	平安時代	SBさa	95
SKP799	OJ43	27	20	9	—	平安時代	SBせ	96
SKP800	OJ43	38	31	17	—	平安時代	SBさa	95
SKP802	OJ43	20	19	13	—	平安時代	SBせ	96
SKP805	OI43	25	22	9	—	平安時代	SBせ	96
SKP807	OI43	46	41	22	—	平安時代	SBさa	95
SKP809	OI43	39	35	20	—	平安時代	SBさa	95
SKP824	OK44	30	28	9	—	平安時代	SBせ	96
SKP830	OK44	22	21	31	—	平安時代	SBせ	96
SKP832	OK44	26	24	12	—	平安時代	SBせ	96
SKP841	OI44	20	19	10	—	平安時代	SBせ	96
SKP843	OJ45	26	23	12	—	平安時代	SBせ	96
SKP847	OJ45	29	26	9	—	平安時代	SBせ	96
SKP1004	OD42	65	60	31	須恵器甕坏，土師器甕坏，礫	平安時代	SBそ	100
SKP1006	OD42	32	30	15	—	平安時代	SBそ	100, (80)
SKP1009	OD42	52	46	23	—	平安時代	SBそ	100
SKP1014	OC41	29	23	15	—	平安時代	SBそ	100
SKP1049	OC40	42	34	37	土師器甕	平安時代		附図
SKP1063	OD39	33	30	32	須恵器甕，縄文土器	平安時代		附図
SKP1067	OE38	39	31	40	—	平安時代末～中世初	SBお	102
SKP1069	OE38	(22)	(15)	25	須恵器甕	平安時代		附図
SKP1073	OE38	55	50	36	—	平安時代末～中世初	SBお	102
SKP1079	OE38	23	19	33	須恵器甕	平安時代		附図
SKP1104	OH35	22	20	37	—	平安時代	SBか	99
SKP1119	OD37	54	50	37	—	平安時代末～中世初	SBお	102
SKP1120	OD38	43	41	38	須恵器甕	平安時代		附図
SKP1122	OI42	51	48	36	—	平安時代	SBさa	95
SKP1126	OE37	52	45	34	—	平安時代末～中世初	SBお	102
SKP1127	OD38	44	39	36	—	平安時代末～中世初	SBお	102
SKP1129	OD38	50	46	41	土師器	平安時代末～中世初	SBお	102
SKP1130	OD38	43	35	46	土師器	平安時代末～中世初	SBお	102
SKP1134	OE39	20	19	14	土師器甕	平安時代		附図

遺構一覧表　平安時代～中世

遺構№	検出位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	掲載外遺物	時期	備考	挿図№
SKP1136	OD42	18	15	14	須恵器坏	平安時代		附図
SKP1525	OI33	25	19	42	—	平安時代	SBか	99
SKP1552	OG35	54	43	72	—	平安時代	SBこ	99
SKP1562	OF35	66	42	15	—	平安時代	SBこ	99
SKP1587	OE36	58	43	47	須恵器坏	平安時代		附図
SKP1595	OD36	—	—	—	—	平安時代末～中世初	SBお	102
SKP1604	OC37	64	58	31	—	平安時代末～中世初	SBお	102
SKP1606	OD37	29	22	18	須恵器坏	平安時代		附図
SKP1613	OB38	18	16	6	—	平安時代	SBえ	98
SKP1619	OB38	28	23	18	—	平安時代	SBえ	98
SKP1641	NR41	33	30	30	須恵器甕，陶磁，礫	平安時代		(66),(82)
SKP1644	OD37	40	39	43	須恵器坏，土師器坏	平安時代末～中世初	SBお	102
SKP1646	OE35	17	13	9	須恵器坏，礫	平安時代		附図
SKP1647	OB38	22	20	15	土師器坏	平安時代		附図
SKP1648	OB38	22	19	10	—	平安時代	SBえ	98
SKP1649	OB38	20	16	7	土師器甕	平安時代		附図
SKP1650	OD37	40	(27)	24	土師器	平安時代		附図
SKP1653	OG34	112	80	43	—	平安時代	SBこ	99
SKP1654	OI33	40	27	44	須恵器甕	平安時代		附図
SKP1746	OC33	29	24	32	—	平安時代	SBきab	97,(61)
SKP1825	OE32	58	48	31	—	平安時代	SBす	92,(54)
SKP1827	OH33	26	22	21	—	平安時代	SBか	99
SKP1900	NR34	22	22	5	—	平安時代	SBけd	93,94,(88)
SKP1927	OB35	80	70	43	—	平安時代	SBた	96
SKP2089	LN51	79	70	33	—	平安時代末	SBにa	105,106
SKP2095	LN50	62	50	15～43	—	平安時代末，不明	SBにa，SBにd	105,106
SKP2098	LM50	52	50	37	—	平安時代末，不明	SBにa，SBにd	105,106
SKP2167	LQ51	40	35	52	須恵器甕,土師器	平安時代		附図
SKP2216	ME51	66	46	14	—	平安時代	SBな	103
SKP2217	ME51	61	(46)	45	縄文土器	平安時代	SBな	103,(68)
SKP2218	ME51	116	78	21～38	縄文土器	平安時代	SBな	103,(86)
SKP2219	ME51	138	48	33	縄文土器	平安時代		(86)
SKP2227	ME52	32	27	25	—	平安時代	SBな	103,(86)
SKP2253	MF53	46	36	17	縄文土器,剥片,礫	平安時代	SBな	103,(86)
SKP2262	MC54	128	94	27	土師器甕	平安時代		(68)
SKP2274	ME54	45	37	41	土師器	平安時代		附図
SKP2275	ME54	30	28	21	土師器？	平安時代？		附図
SKP2343	MG57	108	50	14～23	—	平安時代末	SBねa	107,(90)
SKP2408	MM57	46	45	43	—	平安時代	SBぬ	104
SKP2500	ME53	30	28	30	土師器坏	平安時代		(86)
SKP2516	LM50	39	29	17	縄文土器	平安時代末	SBにa	105,106
SKP2527	LM・49/50	134	126	34	—	平安時代末，中世初	SBにa，SBにc	105,106
SKP2610	MC53	45	44	—	縄文土器，須恵器甕，土師器甕	平安時代		附図
SKP2612	MC54	29	29	26	土師器甕	平安時代		附図
SKP2614	MC53	30	29	9	土師器甕	平安時代		附図
SKP2833	MM59	23	18	18	—	平安時代	SBぬ	104
SKP2834	MM59	47	44	54	—	平安時代	SBぬ	104
SKP2837	MM59	67	52	41	—	平安時代	SBぬ	104
SKP2861	MN58	—	—	—	—	平安時代	SBぬ	104
SKP2867	MN59	81	48	63	土器	平安時代	SBぬ	104
SKP2937	MM58	58	52	68	—	平安時代	SBぬ	104
SKP2942	MN58	57	57	73	—	平安時代	SBぬ	104
SKP2967	MM58	23	21	24	—	平安時代	SBぬ	104
SKP3015	OI35	24	23	38	—	平安時代	SBか	99
SKP3017	OI34	32	28	43	—	平安時代	SBか	99
SKP3022	OI34	34	26	10	—	平安時代	SBか	99
SKP3039	NR36	44	44	39	—	平安時代	SBけd	93,94,(88)
SKP3054	NS37	44	26	18	—	平安時代	SBけab	93,94,(88)
SKP3060	OB37	18	15	13	—	平安時代	SBえ	98
SKP3082	OA37	18	16	17	—	平安時代	SBえ	98,(88)
SKP3113	OD36	19	15	11	—	平安時代末～中世初	SBお	102
SKP3158	OL37	32	26	17	—	平安時代	SBいa	98
SKP3159	OL37	40	26	8	—	平安時代	SBいb	98
SKP3166	OK37	28	26	8	—	平安時代	SBいb	98
SKP3210	OB38	18	16	14	—	平安時代	SBえ	98
SKP3415	OH40	41	36	31	—	平安時代	SBきb	95,(78)
SKP3440	OL40	40	31	22	—	平安時代	SBあ	101
SKP3455	OK40	21	19	31	—	平安時代	SBあ	101

遺構一覧表　平安時代～中世

遺構№	検出位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	掲載外遺物	時期	備考	挿図№
SKP3471	OJ42	23	21	11	—	平安時代	SBさa	95
SKP3598	NS40	93	56	27	—	平安時代	SBけab	93,94
SKP3599	OA36	60	58	28	—	平安時代	SBた	96
SKP3684	MM59	44	38	49	—	平安時代	SBぬ	104
SKP3750	LN51	50	40	29	—	平安時代末	SBにa	105,106
SKP3756	LN51	74	49	28	—	平安時代末，中世初	SBにa，SBにc	105,106
SKP3766	LM50	21	20	23	—	平安時代末	SBねa	107
SKP3803	LM49	34	29	28	—	平安時代末	SBにa	105,106
SKP3805	LM49	43	31	21	—	平安時代末	SBにa	105,106
SKP3812	LN50	56	38	12	—	平安時代末	SBにa	105,106
SKP3952	MF59	35	30	14	—	平安時代末	SBねa	107
SKP3961	MF59	23	21	9	—	平安時代末	SBねa	107
SKP4007	MF58	18	16	10	—	平安時代末	SBねa	107
SKP4021	MF57	49	39	11	—	平安時代末	SBねa	107
SKP4026	MF57	35	34	14	—	平安時代末	SBねa	107,(69)
SKP4035	MF57	24	24	12	—	平安時代末	SBねa	107,(90)
SKP4055	ME53	47	46	12	—	平安時代	SBな	103,(86)
SKP4078	MF53	49	40	21	—	平安時代	SBな	103,(86)
SKP4082	MF51	46	40	29	—	平安時代	SBな	103
SKP4126	MG59	21	19	15	—	平安時代末	SBねa	107
SKP4153	MG58	23	22	19	—	平安時代末	SBねa	107,(90)
SKP4178	MG57	39	36	7	—	平安時代末	SBねa	107,(90)
SKP4397	MM60	19	18	11	—	平安時代	SBぬ	104
SKP4416	MN60	28	20	13	—	平安時代	SBぬ	104
SKP4701	OB35	104	88	38	—	平安時代	SBた	96
SKP4707	OA38	20	15	10	—	平安時代	SBえ	98
SKP4722	OD34	—	—	—	—	平安時代	SBす	92,(54)
SKP4723	OC35	—	—	—	—	平安時代	SBす	92,(54)
SKP486	OM39	45	42	25	—	中世	SBう	101
SKP495	OM39	45	42	30	—	中世	SBう	101
SKP498	OL39	61	38	24	土器,礫	中世	SBう	101,(74)
SKP561	OG39	45	28	—	須恵器坏	中世？	SBし	100,(78)
SKP564	OG38	34	30	22	—	中世？	SBし	100,(78)
SKP565	OF39	50	46	22	—	中世？	SBし	100,(78)
SKP566	OF39	44	38	40	—	中世	SBく	102
SKP567	OF38	48	37	26	—	中世？	SBし	100,(78)
SKP568	OF38	42	41	29	—	中世？	SBし	100,(78)
SKP569	OG38	38	28	9	—	中世？	SBし	100,(78)
SKP573	OE39	54	43	11	—	中世	SBく	102
SKP575	OE40	24	19	21	—	中世	SBく	102
SKP609	OM40	24	20	30	—	中世	SBう	101
SKP611	OM40	65	60	12	—	中世	SBう	101
SKP712	OF40	30	25	19	—	中世	SBく	102
SKP713	OF40	36	29	13	—	中世	SBく	102
SKP714	OF41	31	29	18	—	中世	SBく	102
SKP718	OF41	49	35	34	—	中世	SBく	102
SKP720	OF40	28	22	30	—	中世	SBく	102
SKP721	OF40	43	28	19	—	中世	SBく	102
SKP724	OE40	42	37	25	—	中世	SBく	102
SKP726	OE41	44	34	33	—	中世	SBく	102
SKP729	OE41	50	44	21	—	中世	SBく	102
SKP730	OE40	41	38	28	—	中世	SBく	102
SKP731	OE41	27	25	14	—	中世	SBく	102
SKP734	OE40	61	50	18	—	中世	SBく	102
SKP737	OD40	16	15	25	—	中世	SBく	102
SKP738	OD40	55	46	32	—	中世	SBく	102
SKP739	OD40	57	46	42	—	中世	SBく	102
SKP1012	OD41	53	40	23	—	中世	SBく	102
SKP1050	OD40	50	29	49	土師器坏	中世	SBく	102
SKP1053	OD40	34	31	44	—	中世	SBく	102
SKP1055	OD40	16	15	17	—	中世	SBく	102
SKP1059	OE40	25	19	21	—	中世	SBく	102
SKP1099	ON40	62	45	18	礫	中世	SBう	101
SKP1100	OG38	37	33	26	—	中世？	SBし	100,(78)
SKP1132	OD40	25	21	9	縄文土器	中世	SBく	102
SKP2042	LK54	38	33	32	青磁	中世		附図
SKP2044	LM49	80	40	31	—	中世初	SBにc	105,106
SKP2046	LM49	27	26	14	—	中世初	SBにc	105,106
SKP2056	LN49	40	39	12	—	中世初	SBにc	05,106,(84)
SKP2075	LN52	376	144	16	縄文土器	中世初	SBにc(pit)	105,106

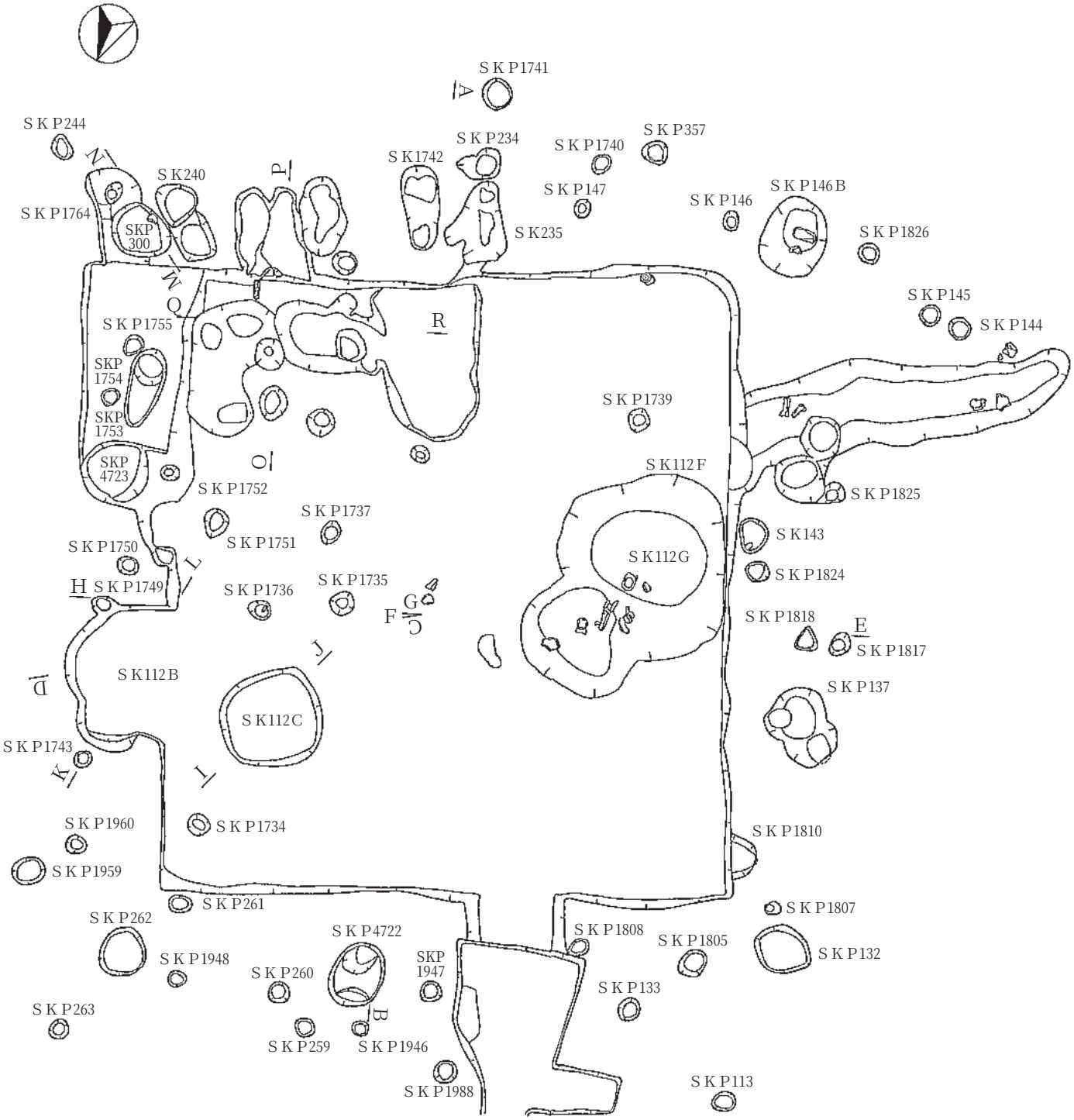
遺構一覧表　平安時代～中世

遺構№	検出位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	掲載外遺物	時期	備考	挿図№
SKP2083	LO51	39	36	41	—	中世初	SBにc	105,106
SKP2090	LN50	38	29	27	—	中世初？	SBにe	105,106
SKP2093	LN50	63	59	37	—	中世初	SBにc	105,106
SKP2096	LN50	108	100	63	—	中世初	SBにc	105,106
SKP2099	LM50	59	50	18	—	中世初	SBにc	105,106
SKP2105	LP51	77	55	26	—	中世後	SBひ	108
SKP2134	LP51	71	55	17	—	中世後	SBひ	108
SKP2143	LP51	58	40	38	—	中世後	SBひ	108
SKP2148	LP50	47	34	13	—	中世後	SBひ	108
SKP2155	LQ50	90	80	24	—	中世後	SBひ	108
SKP2168	LQ51	56	47	43	—	中世後	SBひ	108
SKP2201	LN51	65	61	59	縄文土器	中世初	SBにb	105,106
SKP2209	LR50	44	38	38	—	中世		附図
SKP2507	LN51	38	35	27	—	中世初	SBにb	105,106
SKP2508	LN51	50	32	28	—	中世初？	SBにe	105,106
SKP2518	LM51	52	44	55	—	中世初？	SBにe	105,106
SKP2524	LM49	43	24	23	縄文土器	中世初	SBにc	105,106
SKP2718	MH63	26	24	16	—	中世	SBの	108
SKP2735	MI62	34	25	17	—	中世	SBの	108
SKP2739	MI62	40	35	14	—	中世	SBの	108,(72)
SKP2753	MI63	30	28	7	—	中世	SBの	108
SKP3290	OE39	—	—	—	—	中世	SBく	102
SKP3374	OM39	30	24	62	—	中世	SBう	101
SKP3390	OD41	44	42	21	—	中世	SBく	102
SKP3393	OD41	30	23	14	—	中世	SBく	102
SKP3394	OD41	30	23	9	—	中世	SBく	102
SKP3610	MH63	20	18	7	—	中世	SBの	108
SKP3631	MI63	(31)	(29)	25	—	中世	SBの	108
SKP3746	LN51	31	29	20	—	中世初	SBにb	105,106
SKP3751	LN51	36	30	15	—	中世初	SBにc	105,106
SKP3754	LN51	40	34	47	—	中世初？	SBにe	105,106
SKP3758	LN50	47	38	13	—	中世初	SBにb	105,106
SKP3760	LN50	56	37	11～32	—	中世初	SBにb	105,106
SKP3772	LM50	71	34	23	—	中世初	SBにb	105,106
SKP3795	LM50	55	43	48	—	中世初？	SBにe	105,106
SKP3796	LM50	38	30	21	—	中世初	SBにb	105,106,(72)
SKP3799	LM49	35	30	29	—	中世初？	SBにe	105,106
SKP3810	LM49	62	56	24	—	中世初	SBにc	72,105,106
SKP3811	LN50	60	48	36	—	中世初	SBにb	73,105,106
SKP3819	LN49	30	26	23	—	中世初	SBにc	105,106,(73),(84)
SKP3823	LN49	37	33	22	—	中世初	SBにc	05,106,(84)
SKP3831	LO50	50	43	42	—	中世後	SBひ	108
SKP3854	LP50	53	37	33	—	中世後	SBひ	108
SKP3865	LP50	45	44	26	—	中世後	SBひ	108
SKP3873	LQ50	31	30	15	—	中世後	SBひ	108
SKP3875	LQ50	66	40	35	—	中世後	SBひ	108
SKP3950	MF59	36	32	9	—	中世	SBねb	107
SKP4080	MF52	46	22	10	—	中世	SBの	108,(86)
SKP4089	MH62	24	21	11	—	中世	SBの	108
SKP4090	MH62	148	60	31	—	中世	SBの	108,(87)
SKP4123	MG59	33	24	15	—	中世	SBねb	107
SKP4131	MG59	36	21	17	—	中世	SBねb	107,(90)
SKP4145	MG58	47	44	22	—	中世	SBねb	107,(90)
SKP4148	MG58	25	22	12	—	中世	SBねb	107,(90)
SKP4164	MG58	52	52	6	—	中世	SBねb	107,(90)
SKP4168	MG58	23	17	13	—	中世	SBねb	107,(70),(90)
SKP4184	MG57	19	18	11	—	中世	SBねb	107,(90)
SKP4189	MG57	19	18	11	—	中世	SBねb	107,(90)
SKP4244	MI62	25	24	32	—	中世	SBの	108
SKP4248	MI62	23	22	11	—	中世	SBの	108
SKP4621	MG59	24	20	15	—	中世	SBねb	107
SN65	NR39	54	34	12	—	平安時代？		76,(59)
SN98	NR33	59	48	—	—	平安時代？		76,(88)
SN100	NS34	62	42	—	—	平安時代？		76,(88)
SN188	NT34	56	50	—	—	平安時代？		76
SN208	OA・$^{34}_{35}$	98	90	—	—	平安時代？		76
SN216	OB32	96	88	33	—	平安時代？		76
SN347	OF32	71	60	16	—	平安時代？		76
SN1539	OH34	85	81	12	—	平安時代？		附図

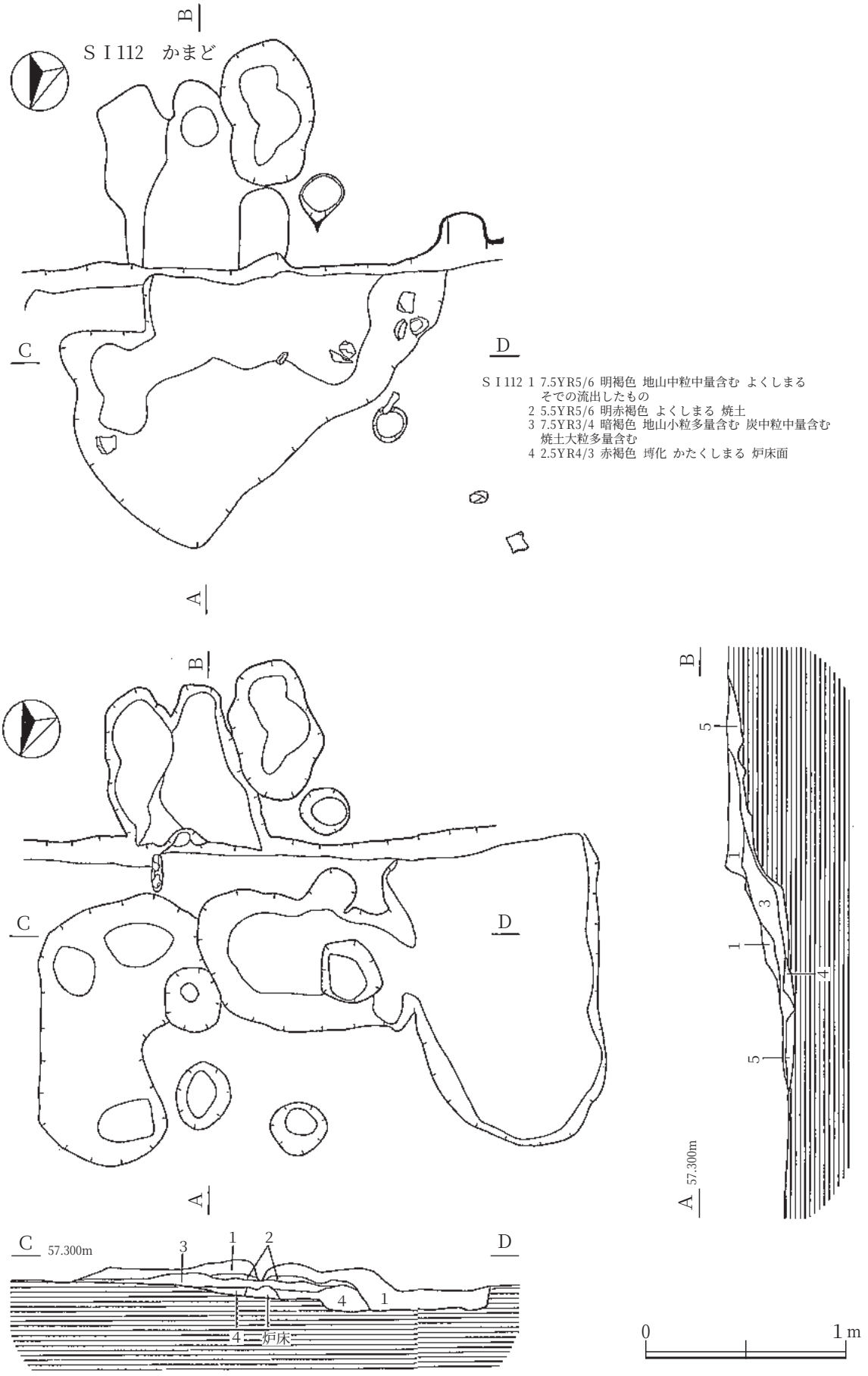
遺構一覧表　近世　その他

遺構№	検出位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	掲載外遺物	時期	備考	挿図№
SK22B	NQ37	94	90	33	—	不明		62
SK38	NR35	74	56	7	—	不明		62
SK108	OF34	126	52	41	—	不明		63
SK211	OA35	122	84	19	—	不明		63
SK308	OG33	370	160	19	—	不明		63
SK449	OJ37	174	98	22	—	不明		63
SK600	OC39	265	105	47	—	不明	材	64
SK909	ON47	93	52	24	—	不明		64
SK910	OM47	119	112	25	—	不明		64
SK930	OJ49	174	139	13	—	不明	木材	64
SK1103	OH37	132	130	62	—	不明		64
SK1135	ON41	232	180	24	—	不明		65
SK1501	OJ32	44	51	14	—	不明		65
SK1503	OJ32	61	56	9	—	不明		80
SK1551	OG34	76	70	8	—	不明		65
SK1598	OD37	154	86	28	—	不明		65
SK1777	OF33	88	62	35	—	不明		67
SK1896	NQ35	86	71	11	—	不明		67
SK1901	NQ35	75	46	9	—	不明		67
SK2021	LH55	108	84	36	—	不明		68,(3)
SK2212B	ME52	92	71	16	—	不明		68,(86)
SK2237	MC52	136	85	24	—	不明		68
SK2239	MD53	126	84	27	—	不明		68
SK2263	MC54	128	94	30	—	不明		68
SK2265	MD54	103	84	18	—	不明		68
SK2287	MG55	140	136	41	—	不明	礫	69
SK2288	MG55	—	—	—	—	現代?	ブドウ	附図
SK2289	MG55	—	—	—	土器	不明		附図
SK2291	MG55	88	27	26	—	現代?	ブドウ	附図
SK2295	MG56	104	79	22	—	現代?	ブドウ	附図
SK2319	MG56	104	75	35	—	不明		70,(90)
SK2320	MH56	—	—	7	—	現代?	ブドウ	90
SK2332	MH57	89	56	20	—	不明		70,(90)
SK2334	MH57	62	52	27	—	不明		70
SK2341	MG57	156	89	33	—	不明		70,(90)
SK2398	MK58	140	72	23	—	不明		70
SK2401	MK58	113	54	18	—	不明		70
SK2416	MK56	105	56	10	—	不明		70
SK2418	ML56	158	75	8	—	不明		70
SK2442	MJ59	92	26	11	—	現代?	ブドウ,材	附図
SK2443	MJ59	108	36	21	—	現代?	ブドウ,材	附図
SK2446	MJ57	102	74	24	—	不明		71
SK2456	MN55	156	149	16	—	不明		71
SK2457	MO55	84	61	8	—	不明		71
SK2465	MP54	61	52	20	—	不明		71
SK2466	MO54	120	76	12	—	不明		71
SK2467	MN54	62	114	26	礫	不明		71
SK2487	MG54	104	93	13	—	不明		71
SK2602	ME53	148	93	15	—	不明		72,(86)
SK2738	MI62	264	96	14	—	不明		72
SK2756	MI64	52	32	21	—	不明		72
SK2878	MO58	102	62	114	—	不明		72
SK2919	MS58	50	32	15	—	不明		72
SK2927	MH60	64	59	23	—	不明		72
SK2940	MM58	121	100	36	土器	不明		附図
SK3625	MI63	58	40	16	—	不明		72
SK3686	MN57	123	74	25	—	不明		72
SK3792	LM50	80	25	19	—	不明		72
SK3808	LM49	67	58	26	—	不明		72
SK3820	LN49	70	53	20	—	不明		73,(84)
SK4293	MI58	74	68	20	—	不明		90
SK4704	OB37	148	143	36	—	近現代?	煉瓦	67
SX2290	MG55	132	114	27	—	不明	礫	69
SX2386	MF60	—	—	28	土器	不明		77
SE850	OH45	250	92	45	近世陶磁,礫	近世	材3点	75
SD2199	LP49	—	—	34	—	不明		85
SD2501	LP49	—	—	47	—	不明		85

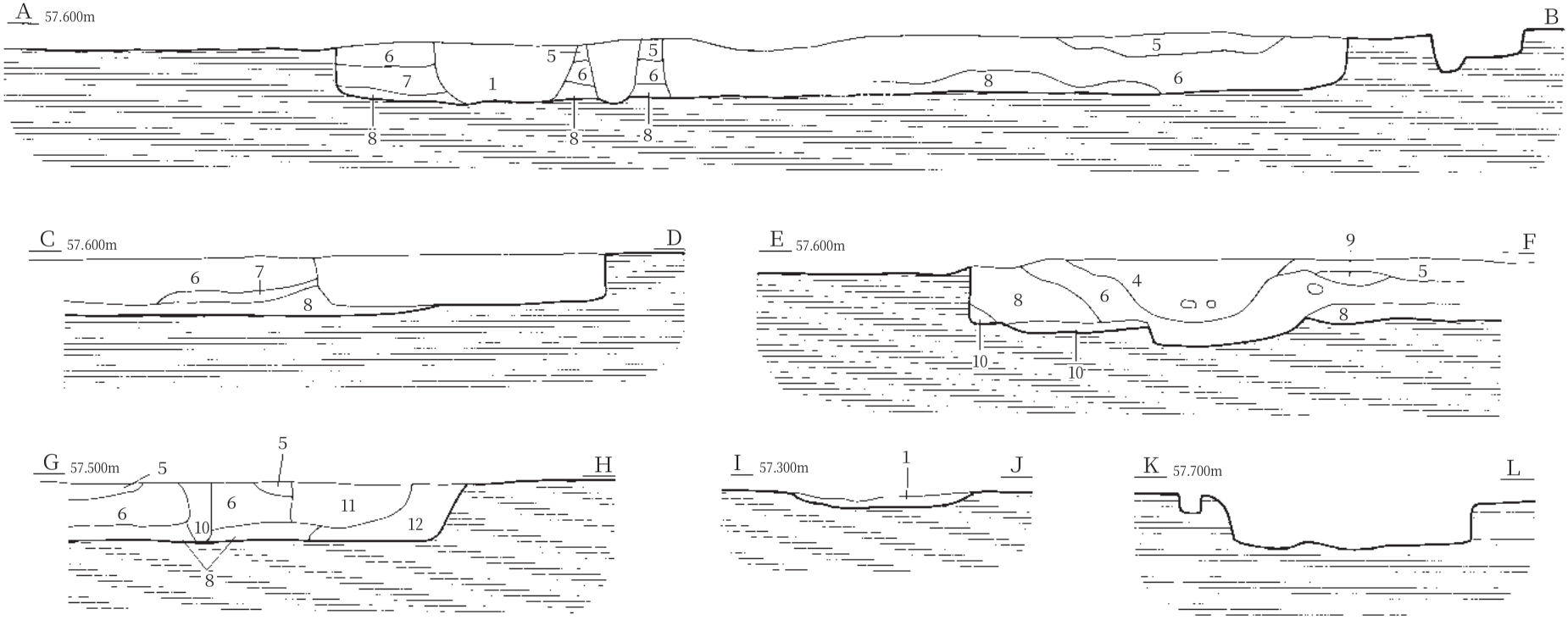
遺構№	検出位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	掲載外遺物	時期	備考	挿図№
SK601	OC39	185	98	36	—	不明		64
SD932	OE47	—	—	—	—	不明		81
SD2053	LN48	—	—	—	—	不明		84
SD2328	MH56	—	—	12	—	不明		90
SD2367	MH58	—	—	—	—	不明		87,(90)
SD2383	MI59	—	—	22	近世陶磁	近世	木皮	87
SD2411	MK57	232	60	26	—	不明		87
SD2701	MH62	—	—	18	—	不明		87
SD2770	MJ61	—	—	—	土器	不明		附図
SD2876	MN60	478	96	13	—	不明		87
SKP25	NQ37	32	30	13	土器	不明		附図
SKP27C	NS38	48	44	21	—	不明		60,(88)
SKP27D	NT39	64	60	47	土器	不明		60,(88)
SKP83	NQ38	40	39	23	土器	不明		附図
SKP155	NS34	—	—	10	—	不明		88,89
SKP161	NS36	86	44	15	—	不明		63,(88)
SKP184	NT34	31	29	30	礫	不明		附図
SKP261	OD34	23	18	19	土器	不明		(54)
SKP378	NR36	54	36	10	土器	不明		附図
SKP550	OJ39	15	13	7	土器	不明		附図
SKP1101	OG38	19	19	26	礫	不明		(78)
SKP2085	LL52	116	62	29～85	土器	不明		附図
SKP2112	LL51	36	32	20	—	不明	SBにd	105,106
SKP2114	LL51	28	24	37	土器	不明		附図
SKP2160	LQ51	53	46	33	土器	不明		附図
SKP2208	LN52	60	58	52	—	不明	SBにd	105,106
SKP2229	MD52	28	24	28	—	不明	SBは	104
SKP2231	MD52	35	27	23	—	不明	SBは	104
SKP2244	MD53	66	54	12	—	不明	SBは	104,(86)
SKP2254	MF53	108	68	14	土器	不明		(86)
SKP2267	MD54	103	70	24	—	不明	SBは	68,104
SKP2282	MD55	32	29	26	—	不明	SBは	104
SKP2304	ME56	23	20	29	土器	不明		附図
SKP2393	MI59	—	—	—	—	不明		87
SKP	MD55	114	90	8～20	—	不明	SBは	71,104
SKP2506	LN51	74	58	48	縄文土器	不明	SBにd	105,106
SKP2525	LL52	86	48	26	—	不明	SBにd	105,106
SKP2528	LO49	35	29	19	土器	不明		附図
SKP2530	LM53	87	55	52	礫	不明		附図
SKP2531	LM52	70	46	65	—	不明	SBにd	105,106
SKP2705	MH62	40	34	23	土器	不明		(87)
SKP2727	MH63	78	63	31	礫	不明		附図
SKP2781	MK61	24	23	21	土器	不明		附図
SKP2855	MM60	42	34	14	土器	不明		附図
SKP2926	MI61	100	37	31	土器	不明		附図
SKP2928	MI60	—	—	—	土器	不明		附図
SKP2944	MN57	118	58	24	土器	不明		附図
SKP2952	MP56	116	40	15	土器	不明		附図
SKP2953	MP56	25	23	14	土器	不明		附図
SKP2962	MK60	27	24	10	土器	不明		附図
SKP2981	MP56	27	24	13	土器	不明		附図
SKP3466	OD43	22	20	19	—	不明		80
SKP3618	MI64	26	22	27	土器	不明		附図
SKP3682	MH61	20	16	11	土器	不明		附図
SKP3685	MP56	26	22	16	土器	不明		附図
SKP3704	LG54	63	61	16	—	不明		3
SKP3720	LL50	28	24	30	—	不明	SBにd	105,106
SKP3735	LM52	58	48	67	—	不明	SBにd	105,106
SKP3745	LM51	39	36	47	—	不明	SBにd	105,106
SKP3791	LM50	54	45	46	—	不明	SBにd	105,106
SKP3797	LM50	27	24	13	—	不明		72
SKP3915	MC53	48	40	8	—	不明	SBは	104
SKP3924	MC52	40	30	29	—	不明	SBは	104
SKP4057	ME53	53	44	17	—	不明		72,(86)
SKP4289	MJ60	26	20	25	土器	不明		附図
SKP4503	MO58	18	16	23	—	不明		72
SL4712	OI39	42	26	22	—	不明	旧河道	(78)



第54図　検出遺構　竪穴住居跡　平安時代以降



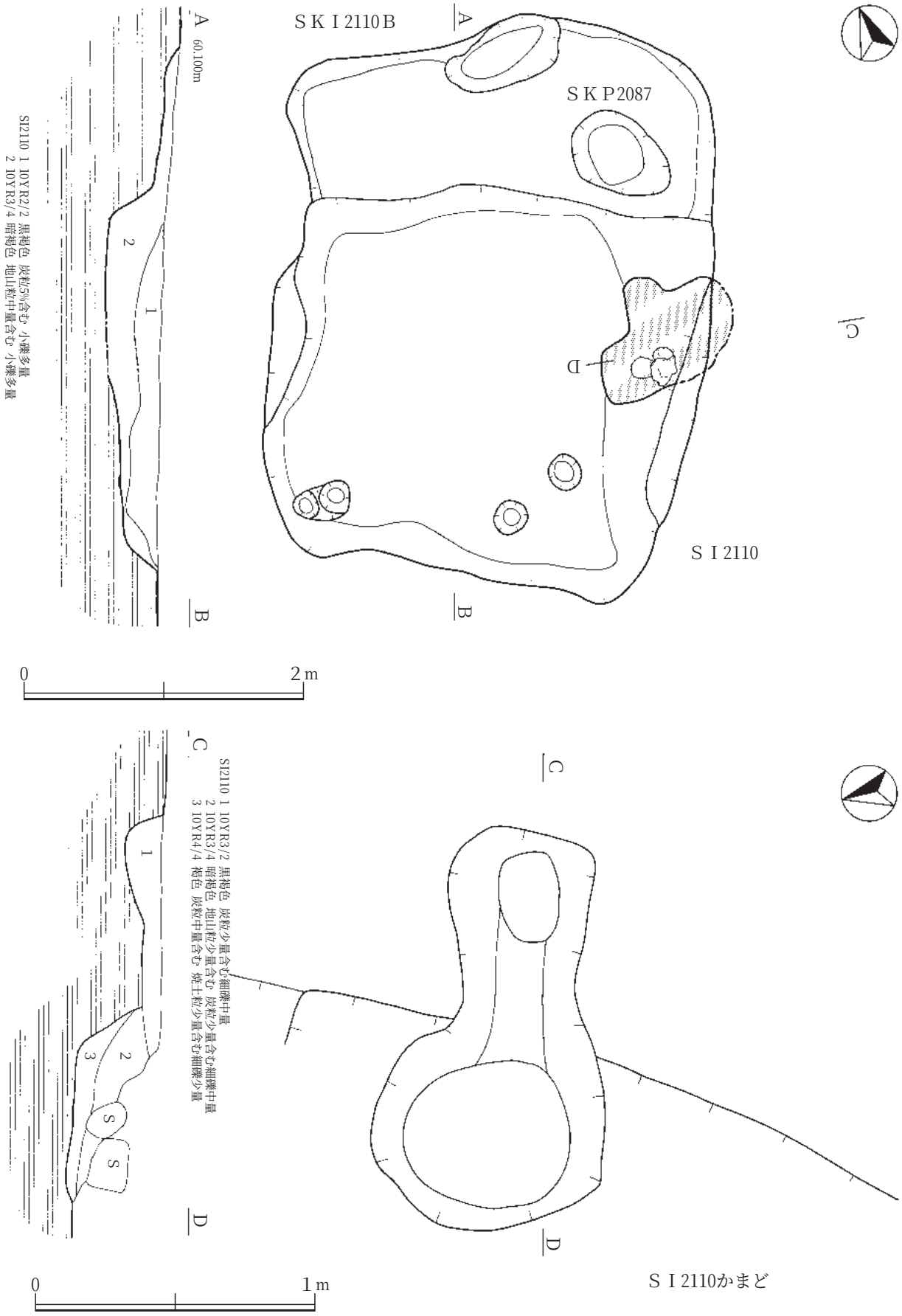
第55図　検出遺構　竪穴住居跡(2)　平安時代以降



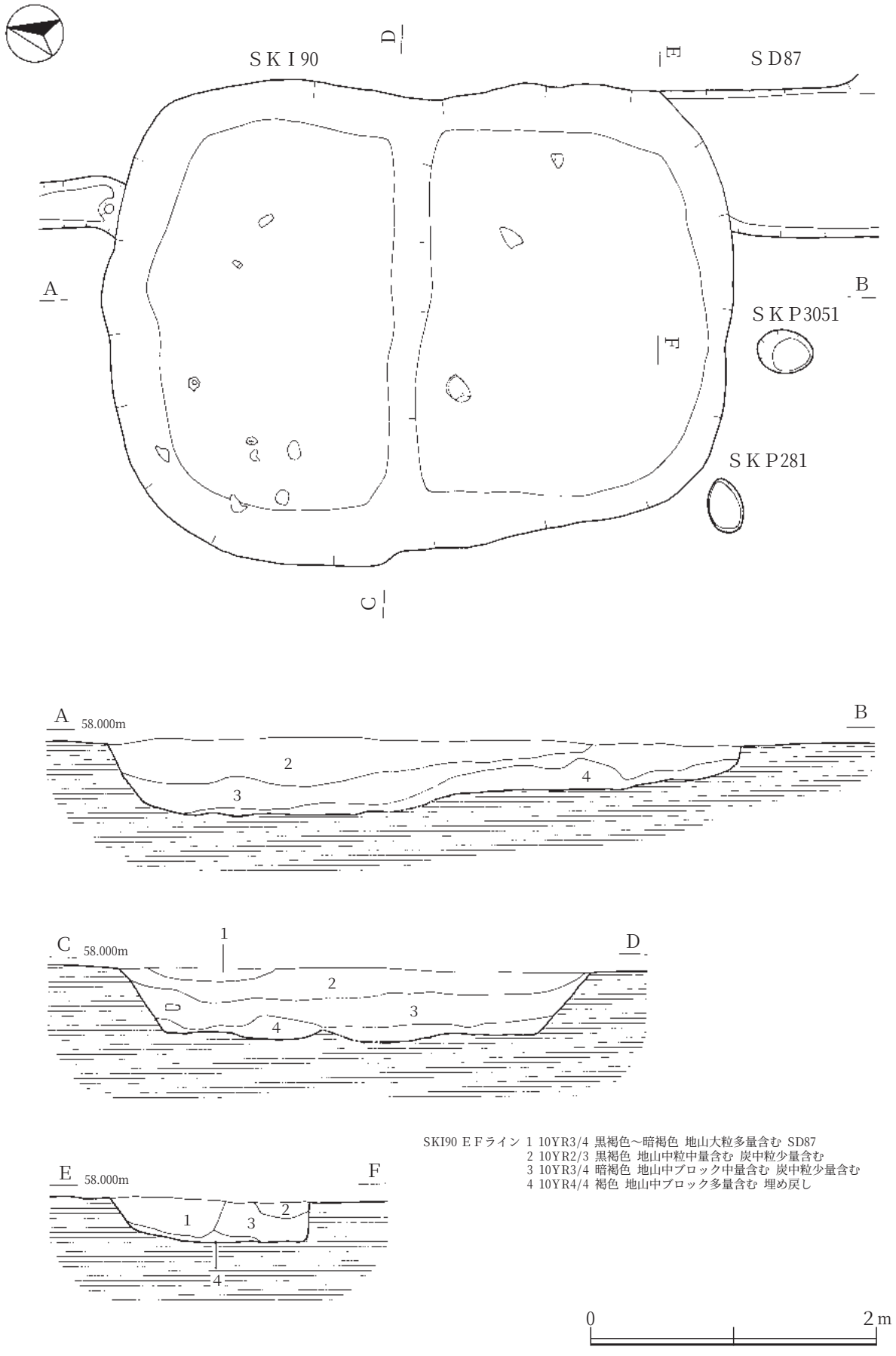
SI112 A Bライン 1 10YR2/2 黒褐色 地山小ブロック中量含む 炭中粒少量含む
2 10YR2/2 黒褐色 地山小ブロック中量含む 炭中粒少量含む1と同じ
3 撹乱
4 10YR3/2 黒褐色 地山中粒多量含む 炭中粒多量含む
5 10YR3/2 黒褐色 地山小粒多量含む 硬い
6 10YR3/2 黒褐色 地山中ブロック多量含む 炭大粒多量含む
7 10YR2/2 黒褐色 地山大粒少量含む
8 10YR5/6 黄褐色 地山中粒中量含む
9 10YR3/4 暗褐色 炭大粒多量含む 焼土中粒多量含む
GHライン 10 10YR2/3 黒褐色 地山中粒中量含む
11 10YR3/2 黒褐色 地山大粒中量含む
12 10YR5/6 黄褐色 地山大粒多量含む

SK112C 1 10YR3/2 黒褐色 地山中粒多量含む 炭小粒少量含む

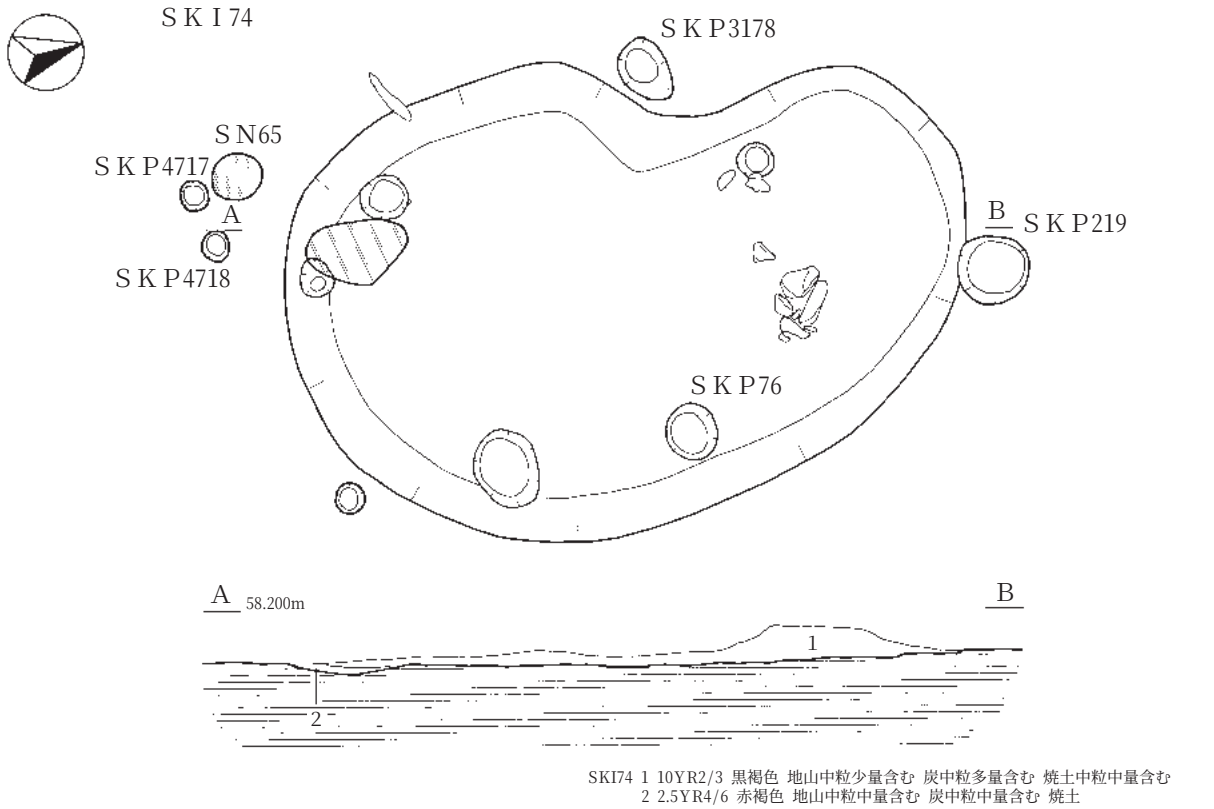
第56図　検出遺構　竪穴住居跡(3)　平安時代以降



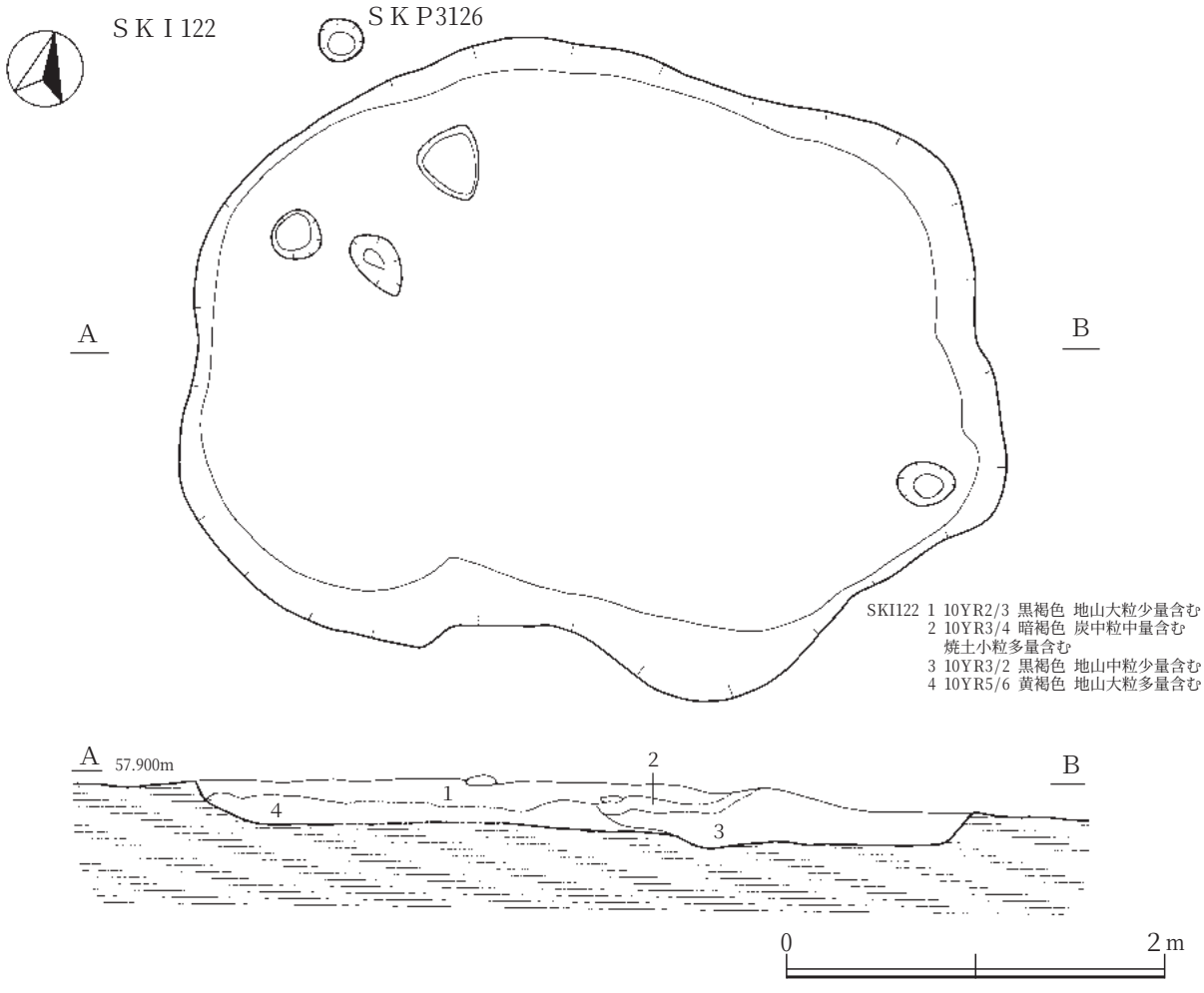
第57図　検出遺構　竪穴住居跡(4)　平安時代以降



第58図　検出遺構　竪穴遺構(1)　平安時代以降

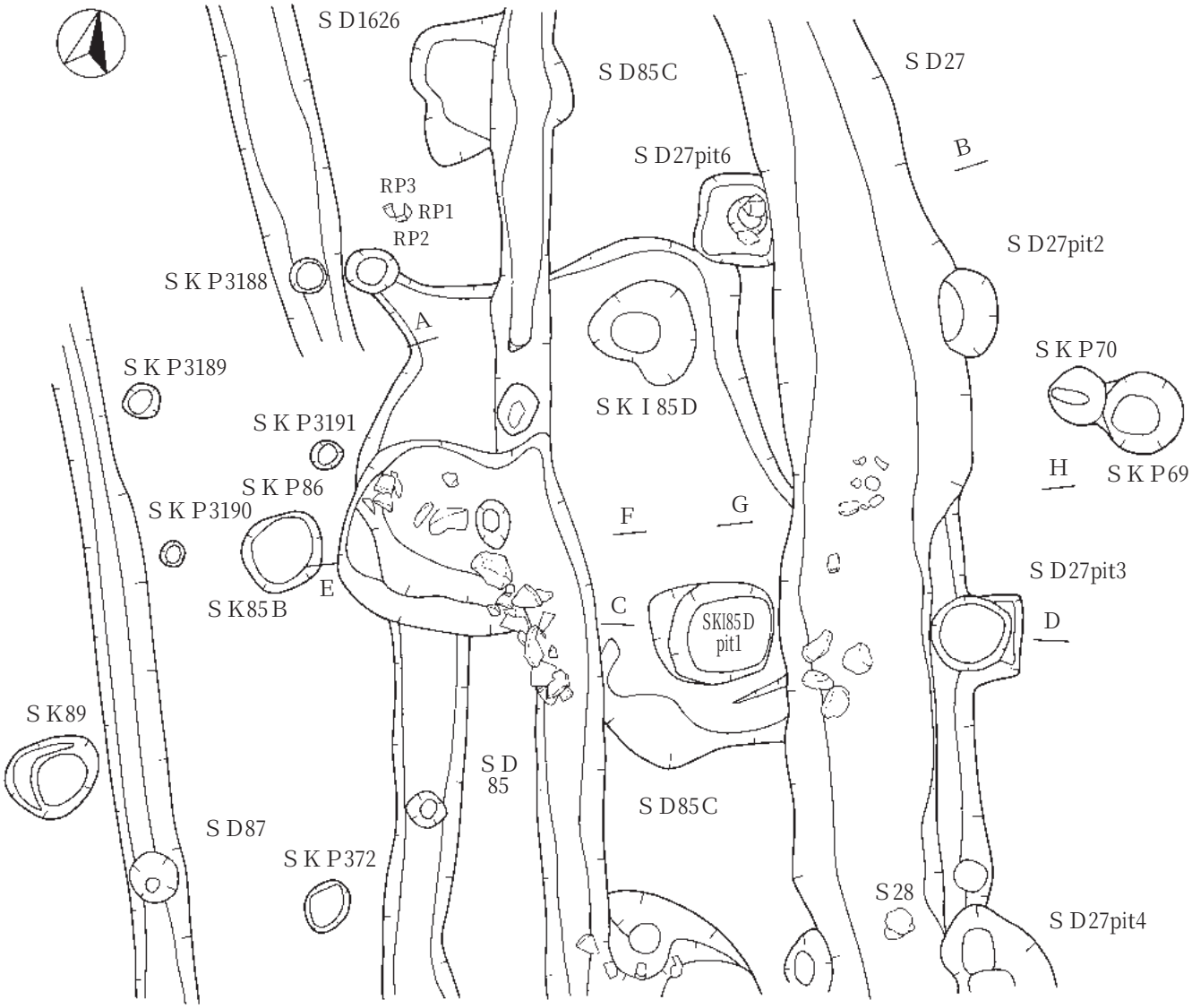


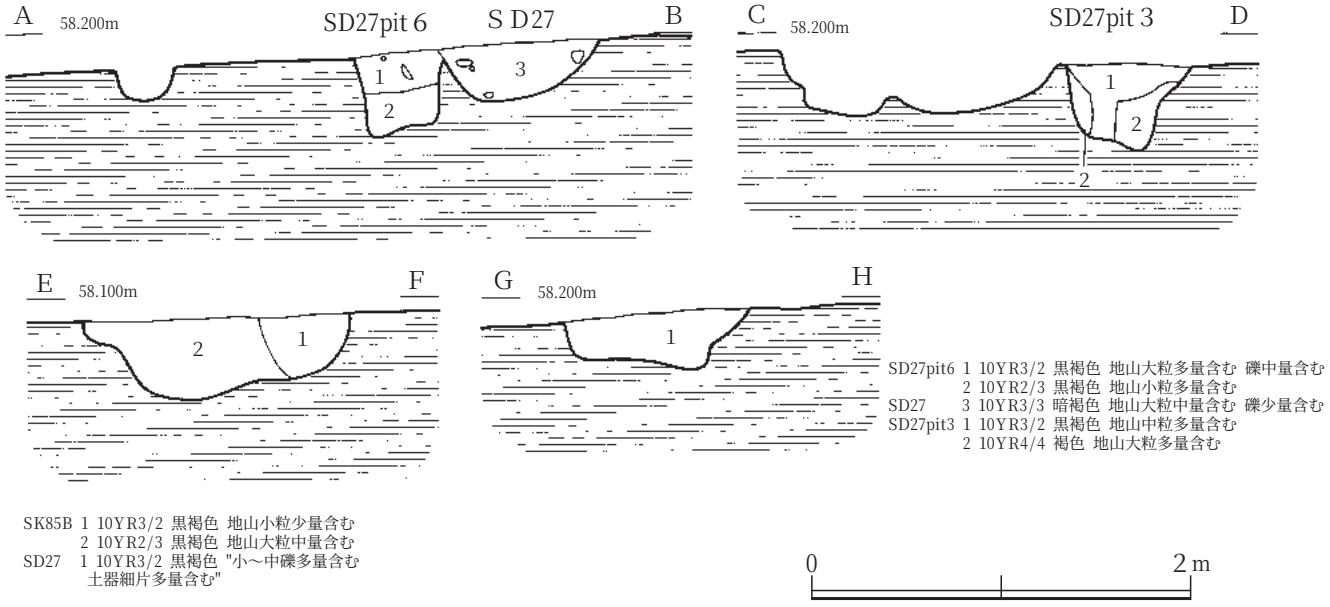
SKI74　1　10YR2/3　黒褐色　地山中粒少量含む　炭中粒多量含む　焼土中粒中量含む
2　2.5YR4/6　赤褐色　地山中粒中量含む　炭中粒中量含む　焼土



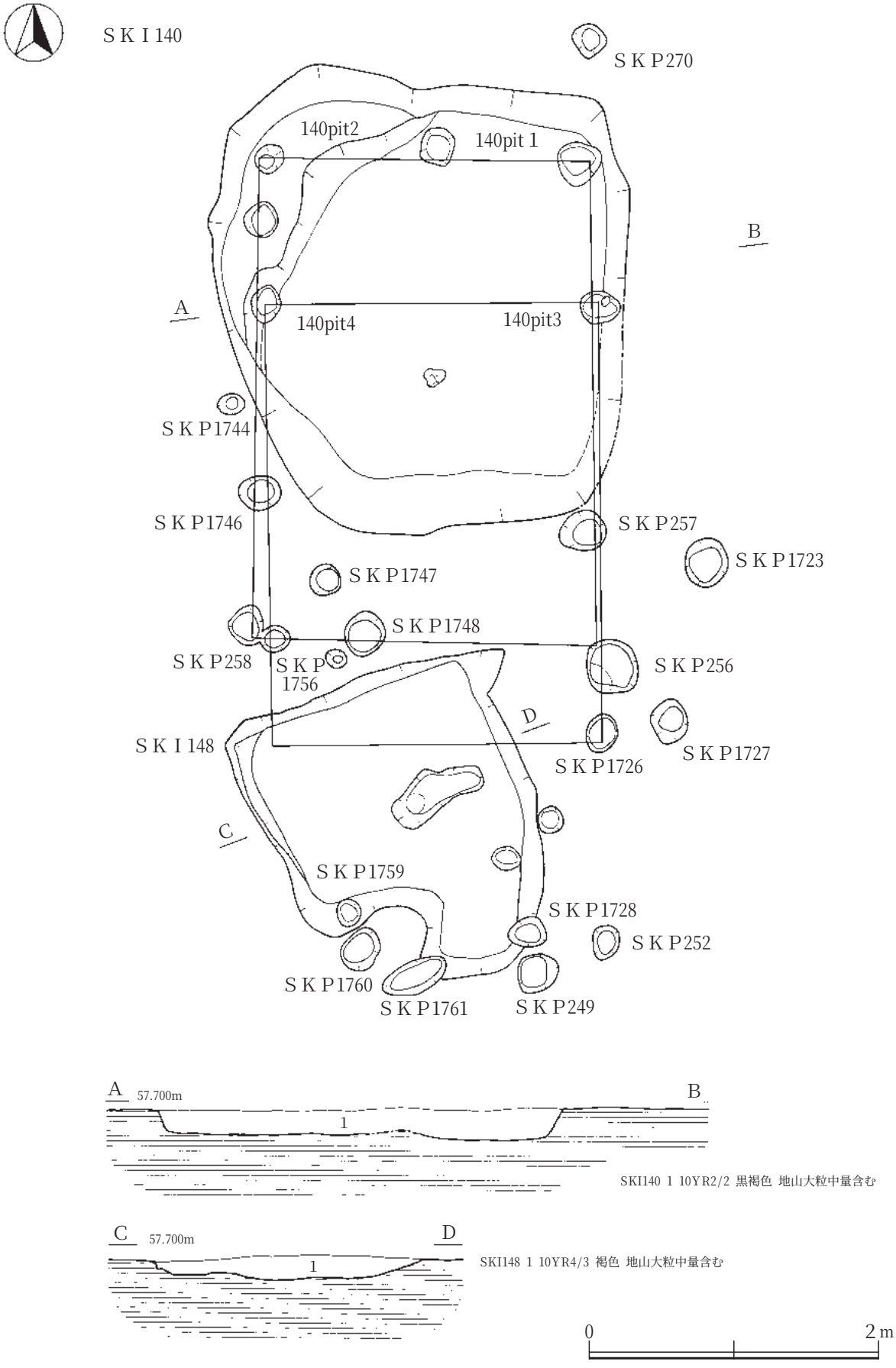
SKI122　1　10YR2/3　黒褐色　地山大粒少量含む
2　10YR3/4　暗褐色　炭中粒中量含む
焼土小粒多量含む
3　10YR3/2　黒褐色　地山中粒少量含む
4　10YR5/6　黄褐色　地山大粒多量含む

第59図　検出遺構　竪穴遺構(2)　平安時代以降

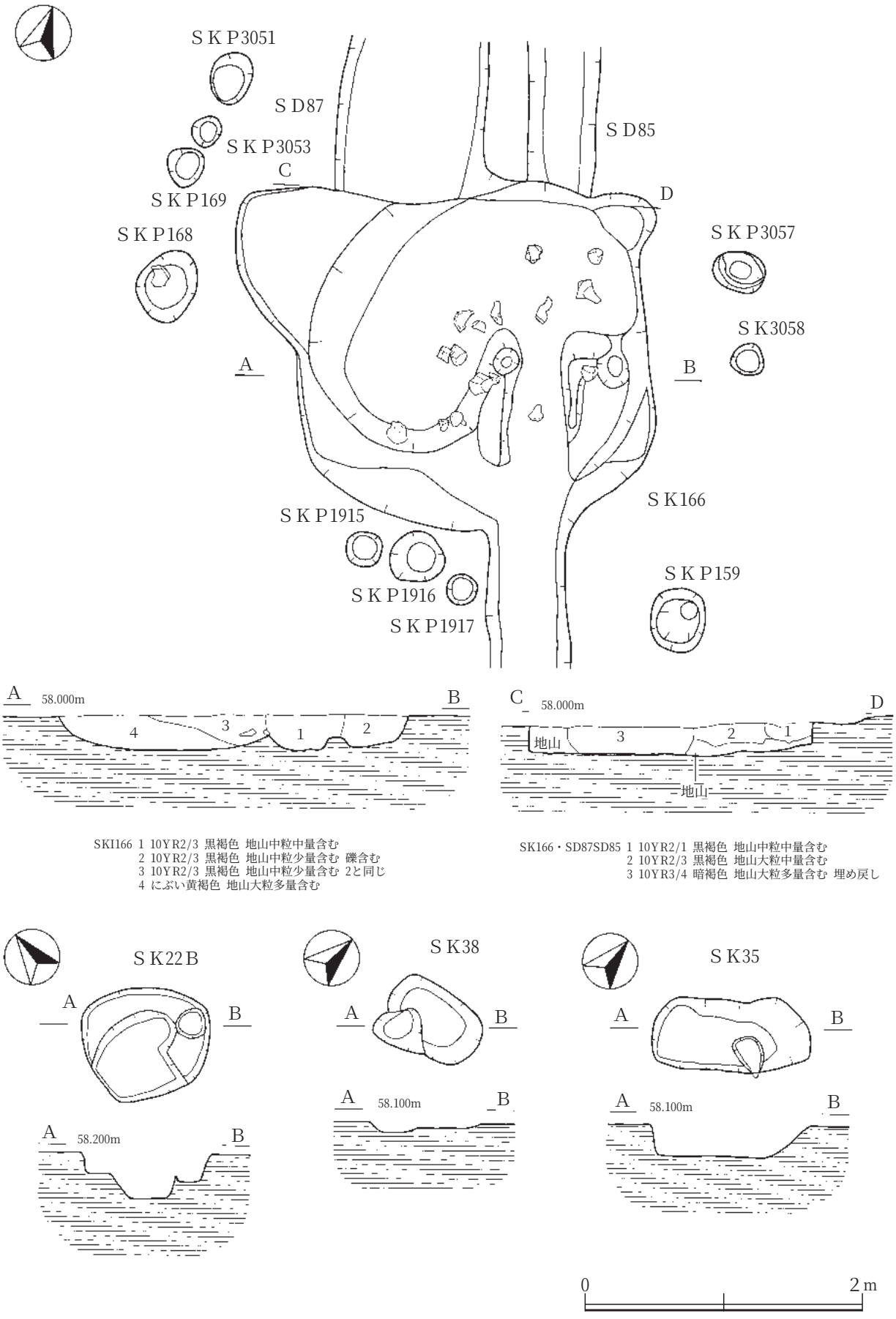




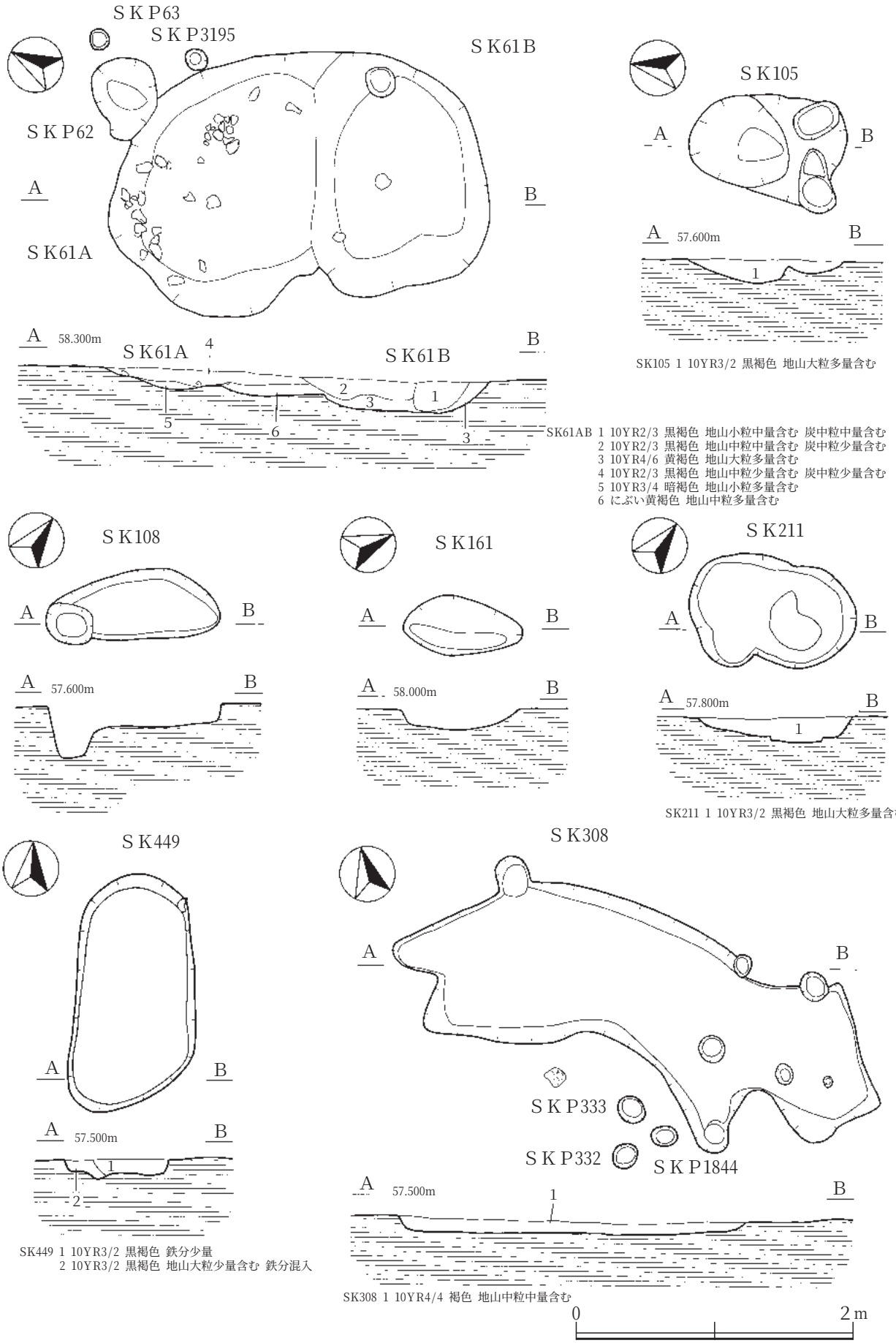
第60図　検出遺構　竪穴遺構(3)　平安時代以降



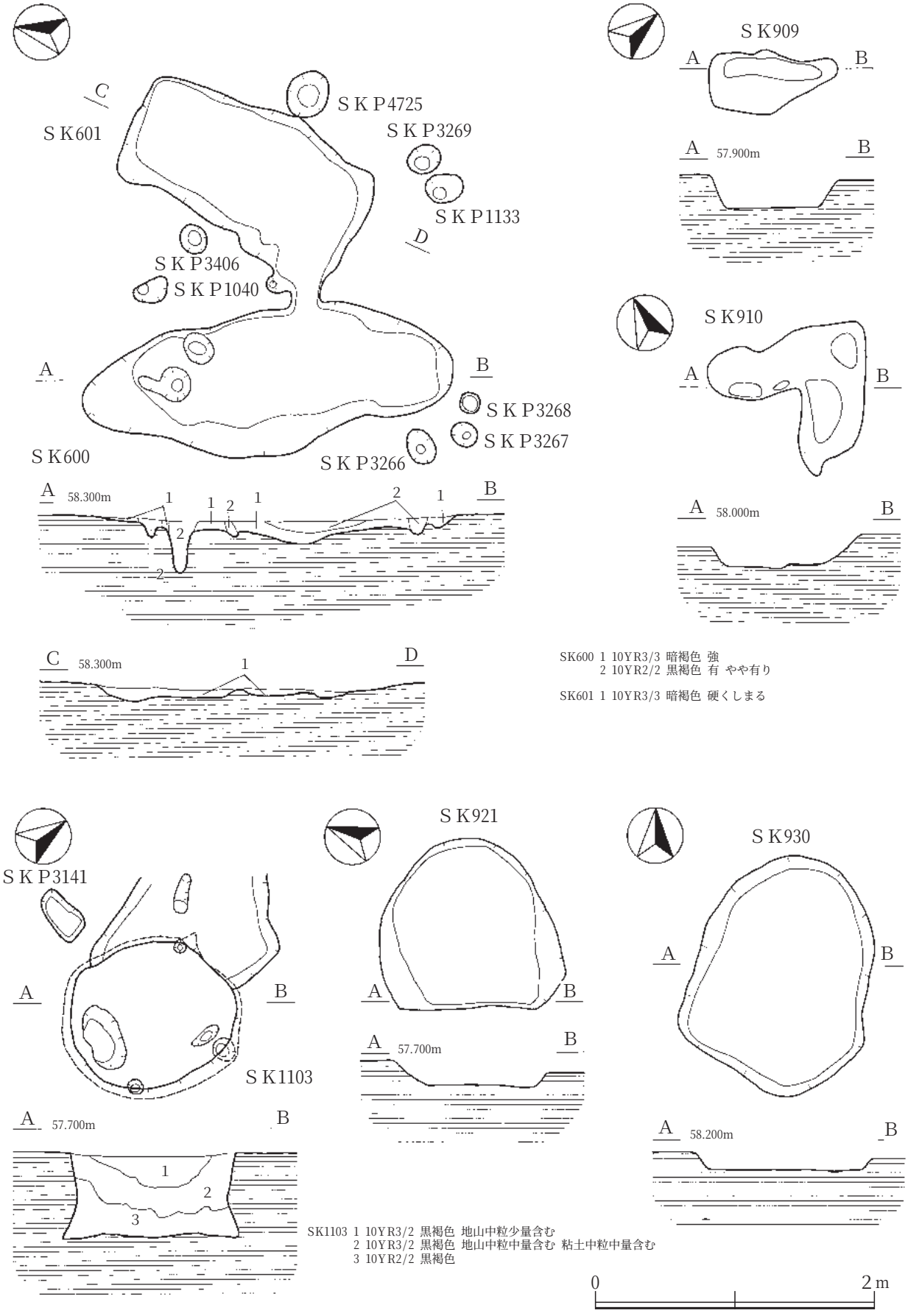
第61図　検出遺構　竪穴遺構(4)　平安時代以降



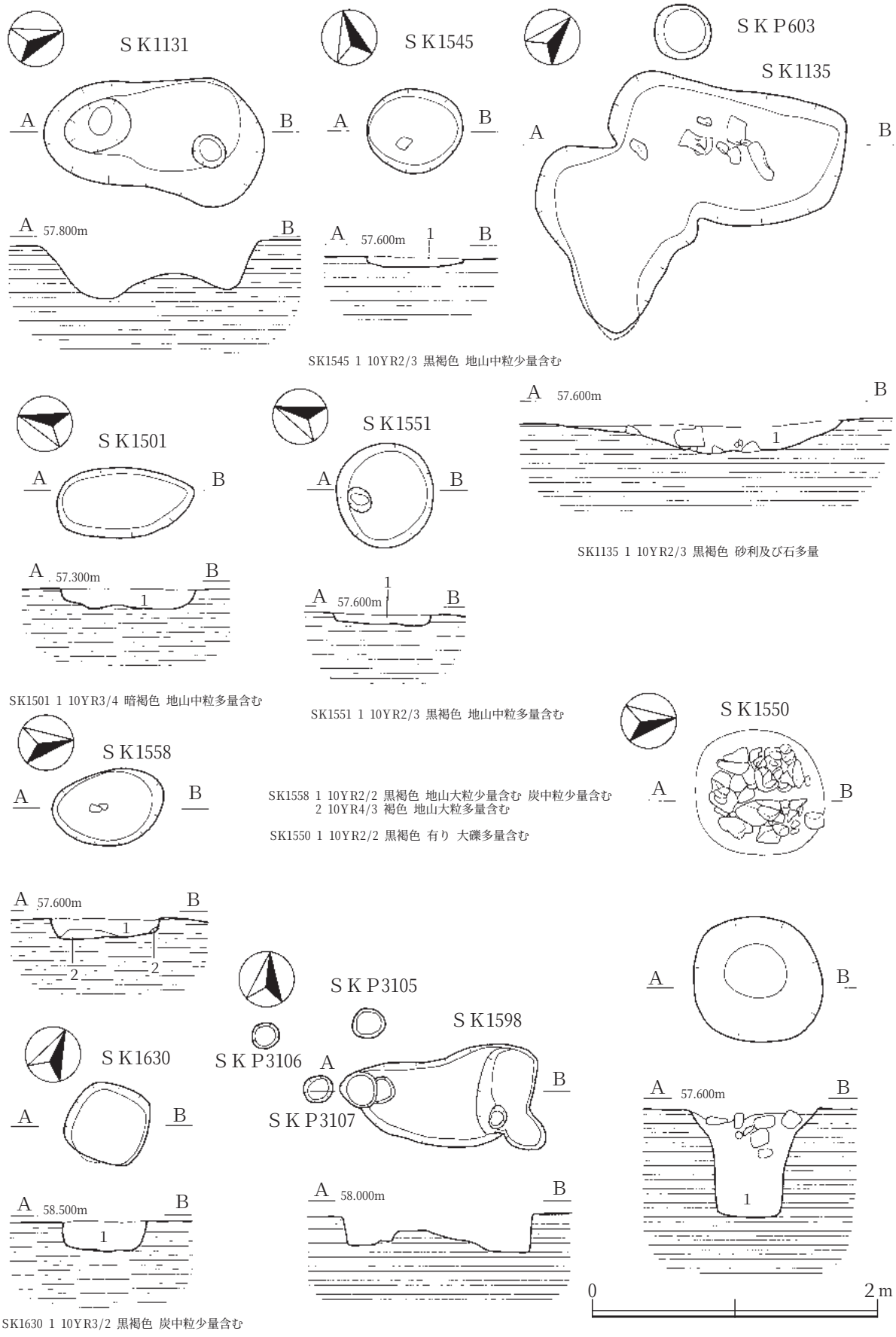
第62図　検出遺構　竪穴遺構(5)　平安時代以降



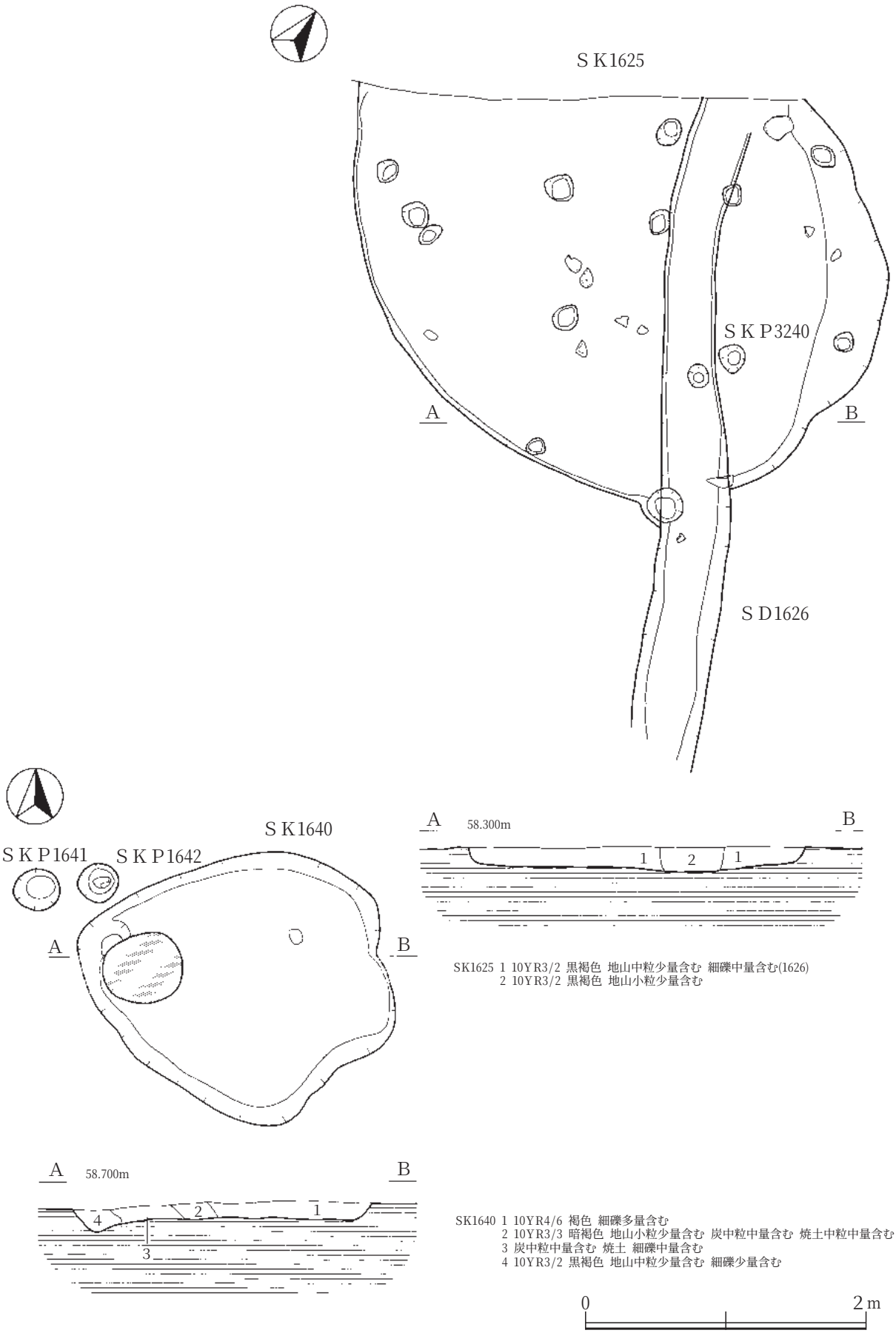
第63図　検出遺構　土坑(1)　平安時代以降



第64図　検出遺構　土坑(2)　平安時代以降



第65図　検出遺構　土坑(3)　平安時代以降

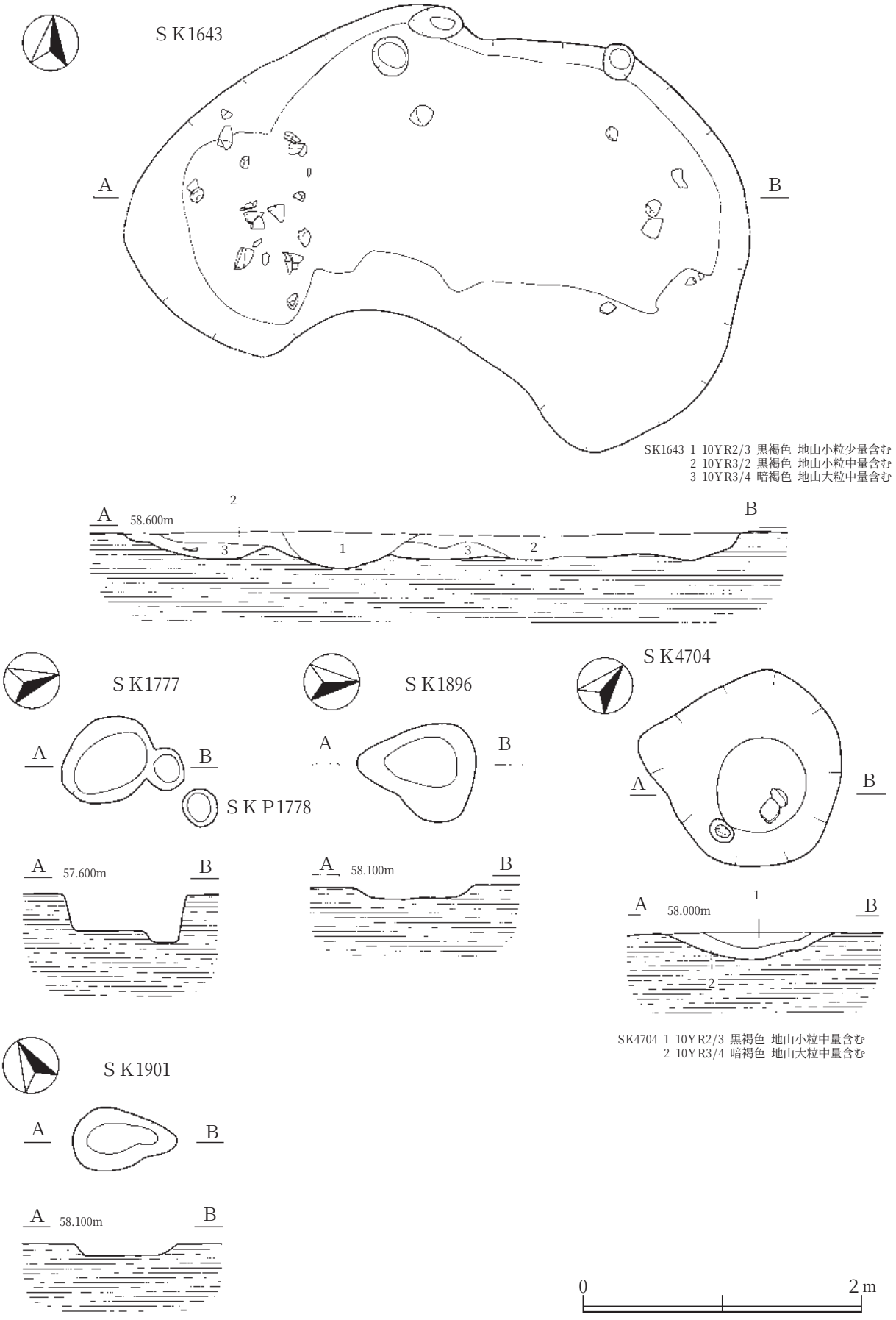


SK1625　1　10YR3/2　黒褐色　地山中粒少量含む　細礫中量含む(1626)
　　2　10YR3/2　黒褐色　地山小粒少量含む

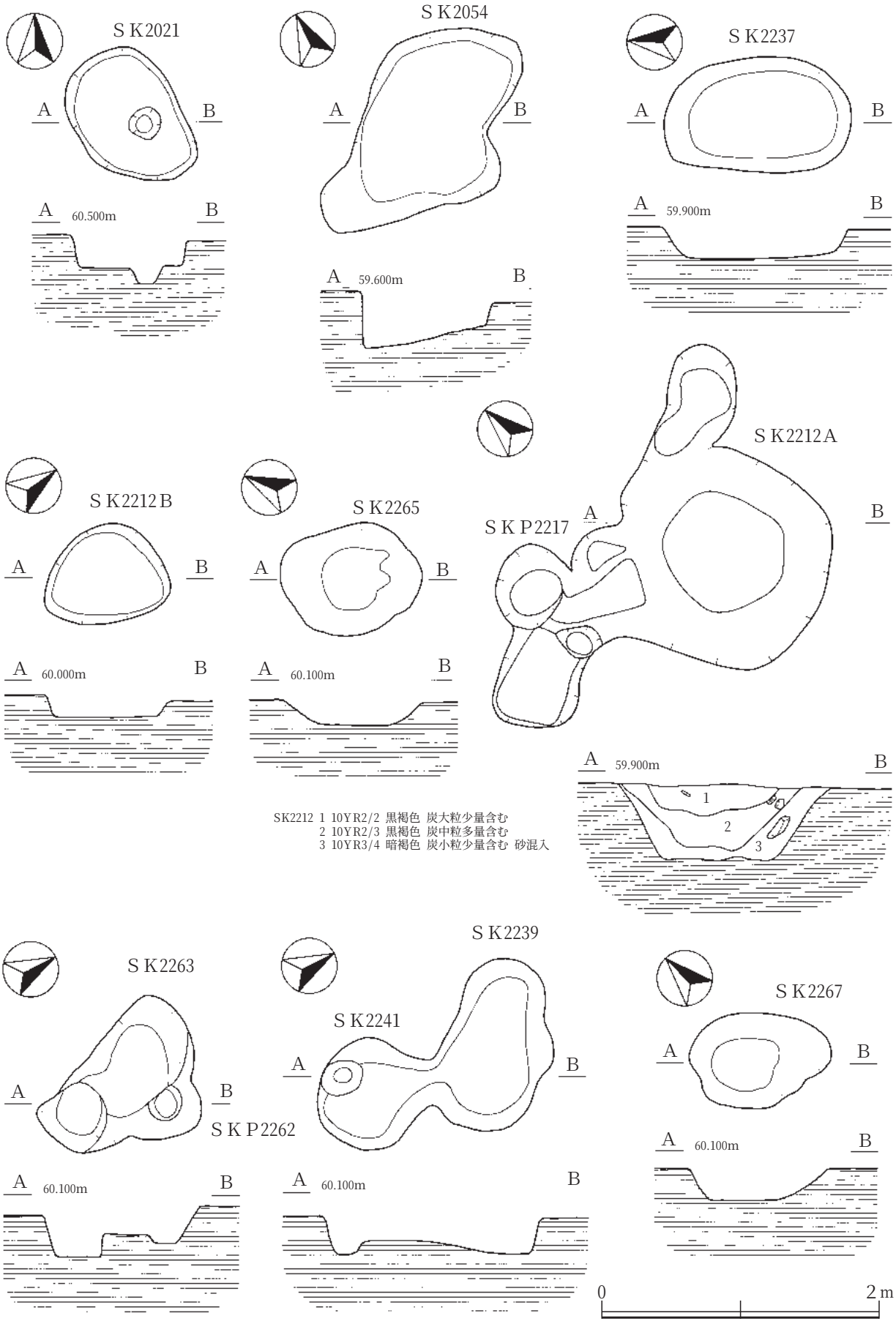
SK1640　1　10YR4/6　褐色　細礫多量含む
　　2　10YR3/3　暗褐色　地山小粒少量含む　炭中粒中量含む　焼土中粒中量含む
　　3　炭中粒中量含む　焼土　細礫中量含む
　　4　10YR3/2　黒褐色　地山中粒少量含む　細礫少量含む

0　2m

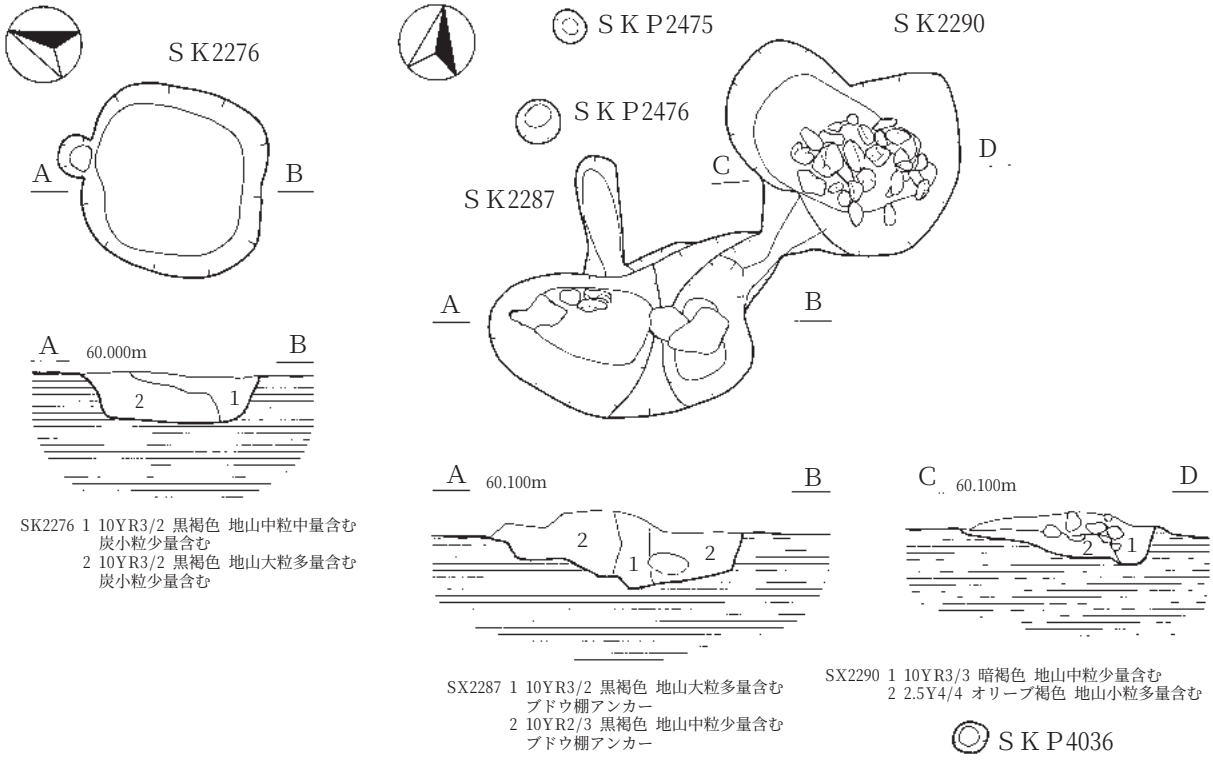
第66図　検出遺構　土坑(4)　平安時代以降



第67図　検出遺構　土坑(5)　平安時代以降



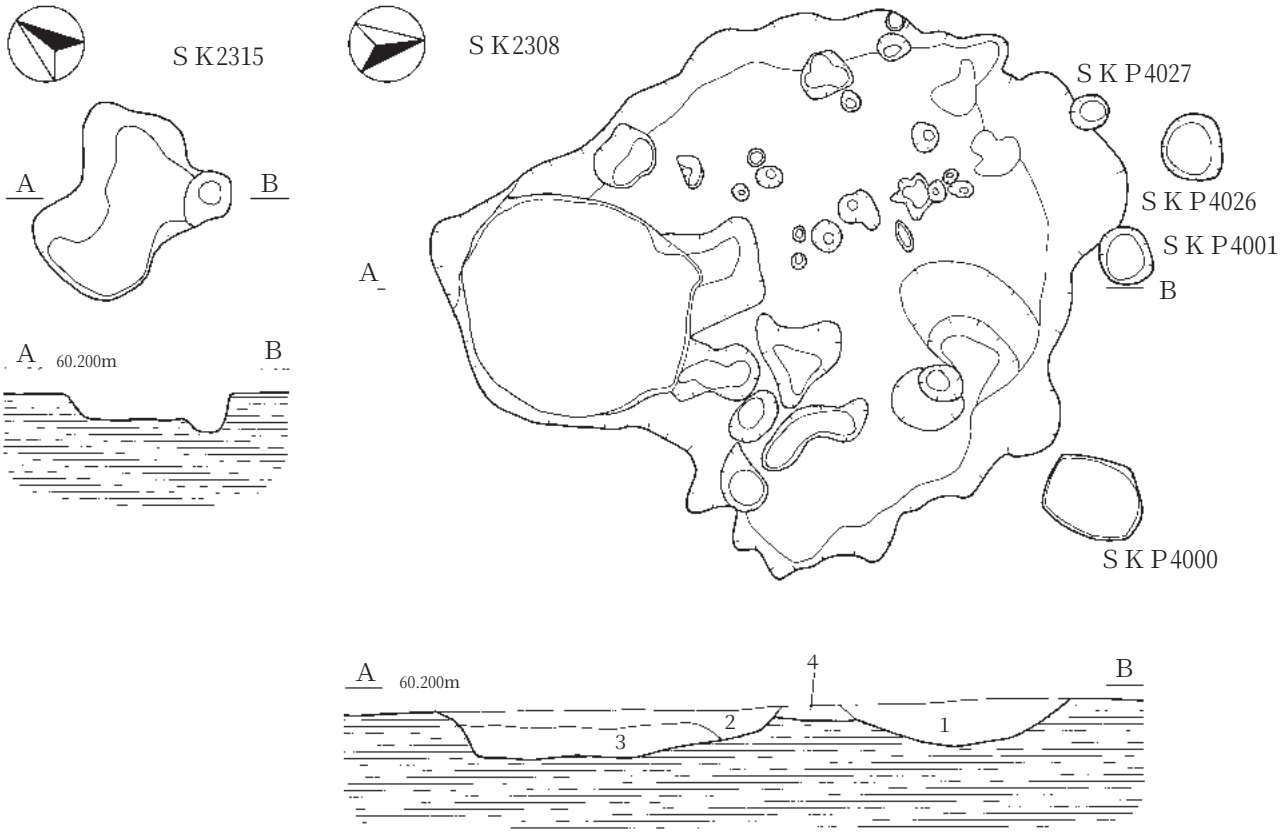
第68図　検出遺構　土坑(6)　平安時代以降



SK2276 1 10YR3/2 黒褐色 地山中粒中量含む
炭小粒少量含む
2 10YR3/2 黒褐色 地山大粒多量含む
炭小粒少量含む

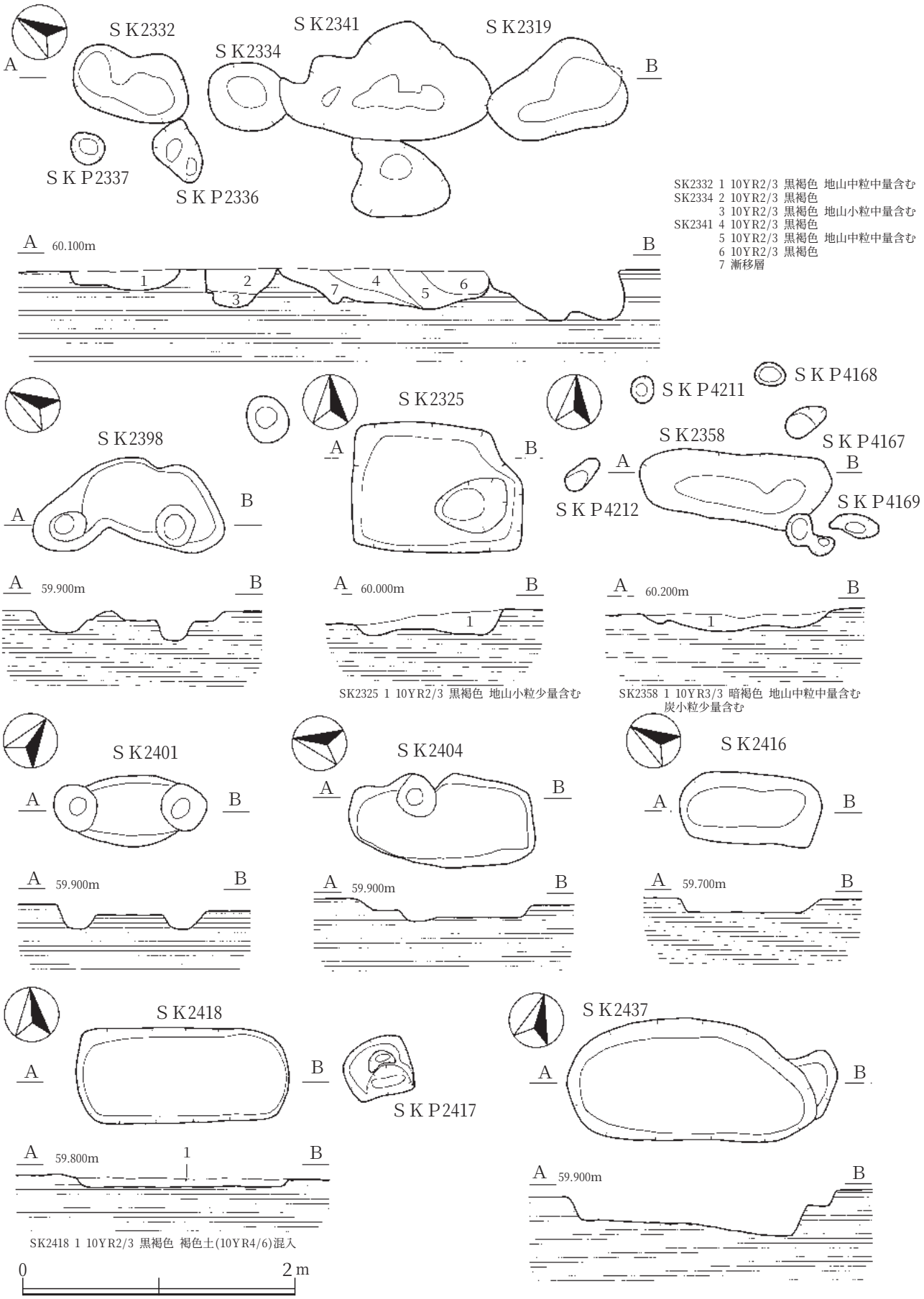
SX2287 1 10YR3/2 黒褐色 地山大粒多量含む
ブドウ棚アンカー
2 10YR2/3 黒褐色 地山中粒少量含む
ブドウ棚アンカー

SX2290 1 10YR3/3 暗褐色 地山中粒少量含む
2 2.5Y4/4 オリーブ褐色 地山小粒多量含む

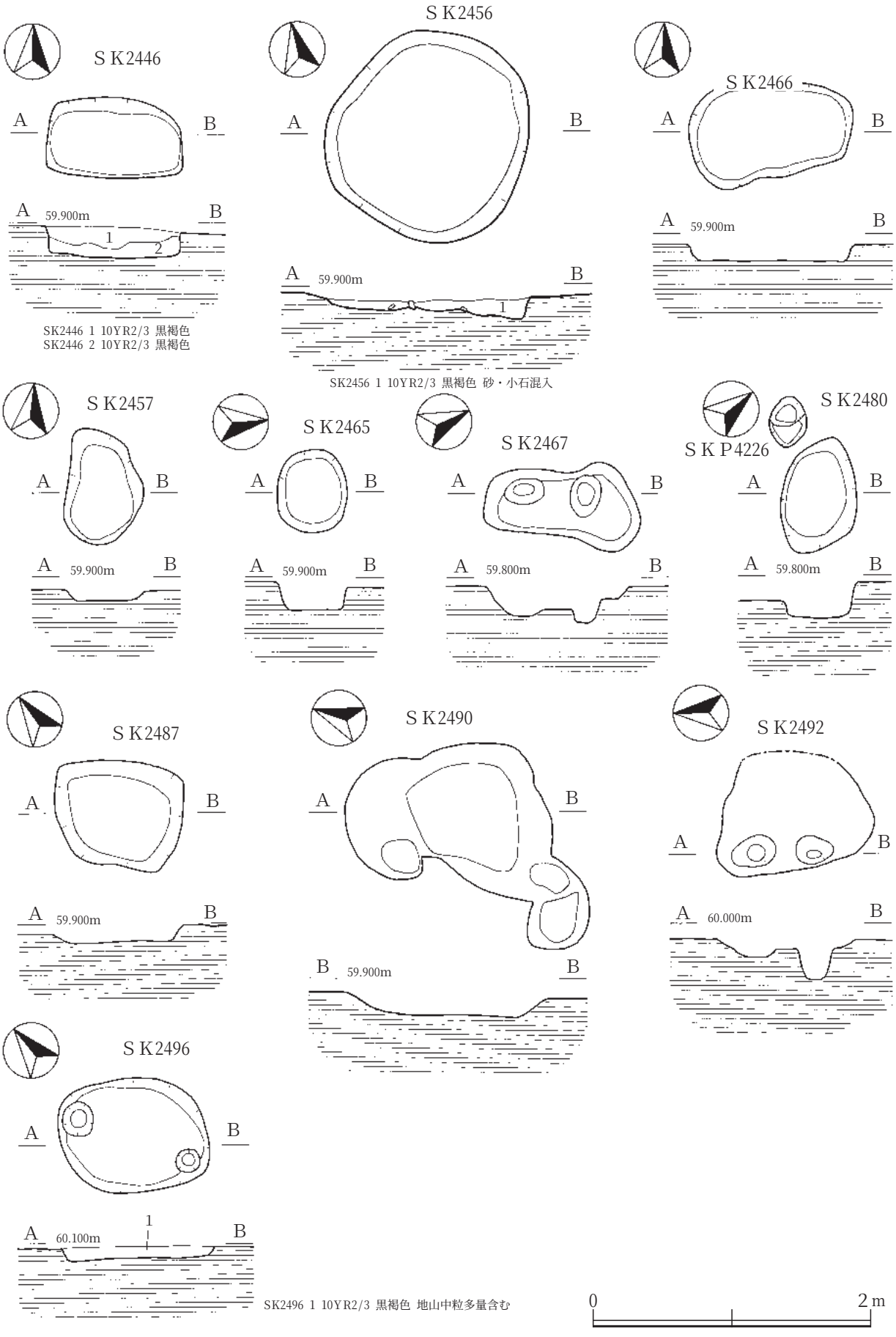


SK2308 1 10YR2/3 黒褐色 地山大粒中量含む
2 10YR2/3 黒褐色 地山小粒多量含む 地山の割合が高い
3 10YR2/3 黒褐色 地山中粒少量含む
4 10YR2/3 黒褐色 地山小粒多量含む 地山の割合が極めて高く黒褐色土は極少

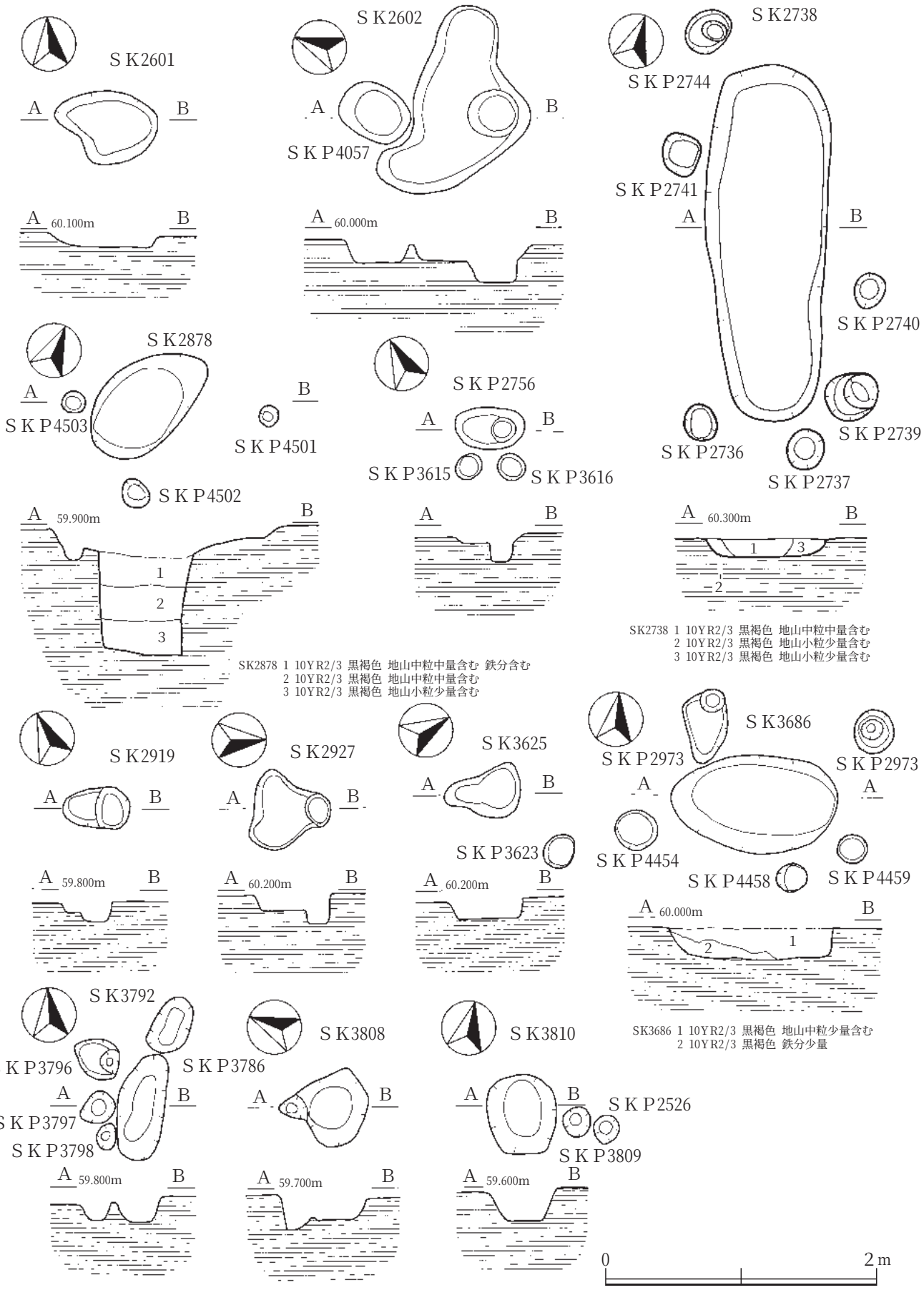
第69図　検出遺構　土坑(7)　平安時代以降



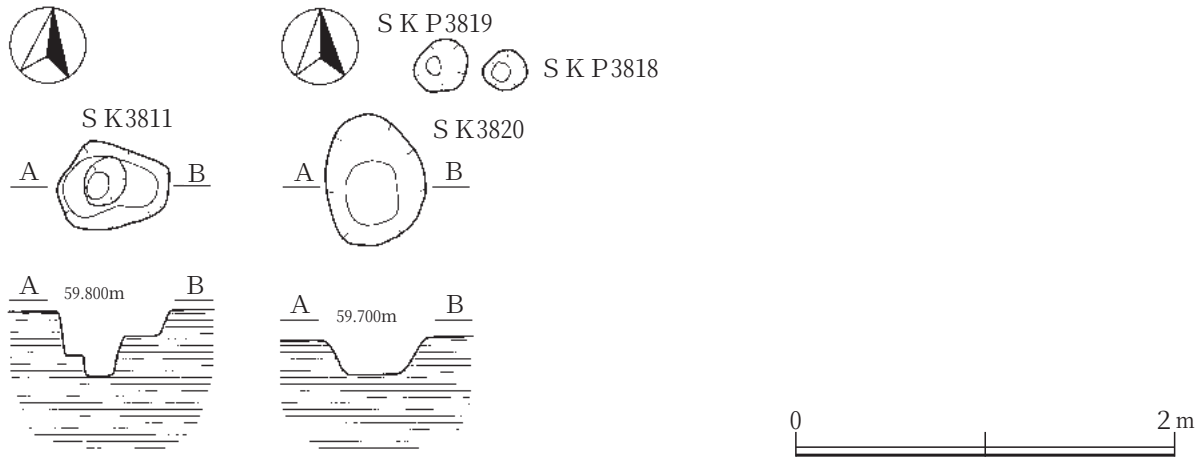
第70図　検出遺構　土坑(8)　平安時代以降



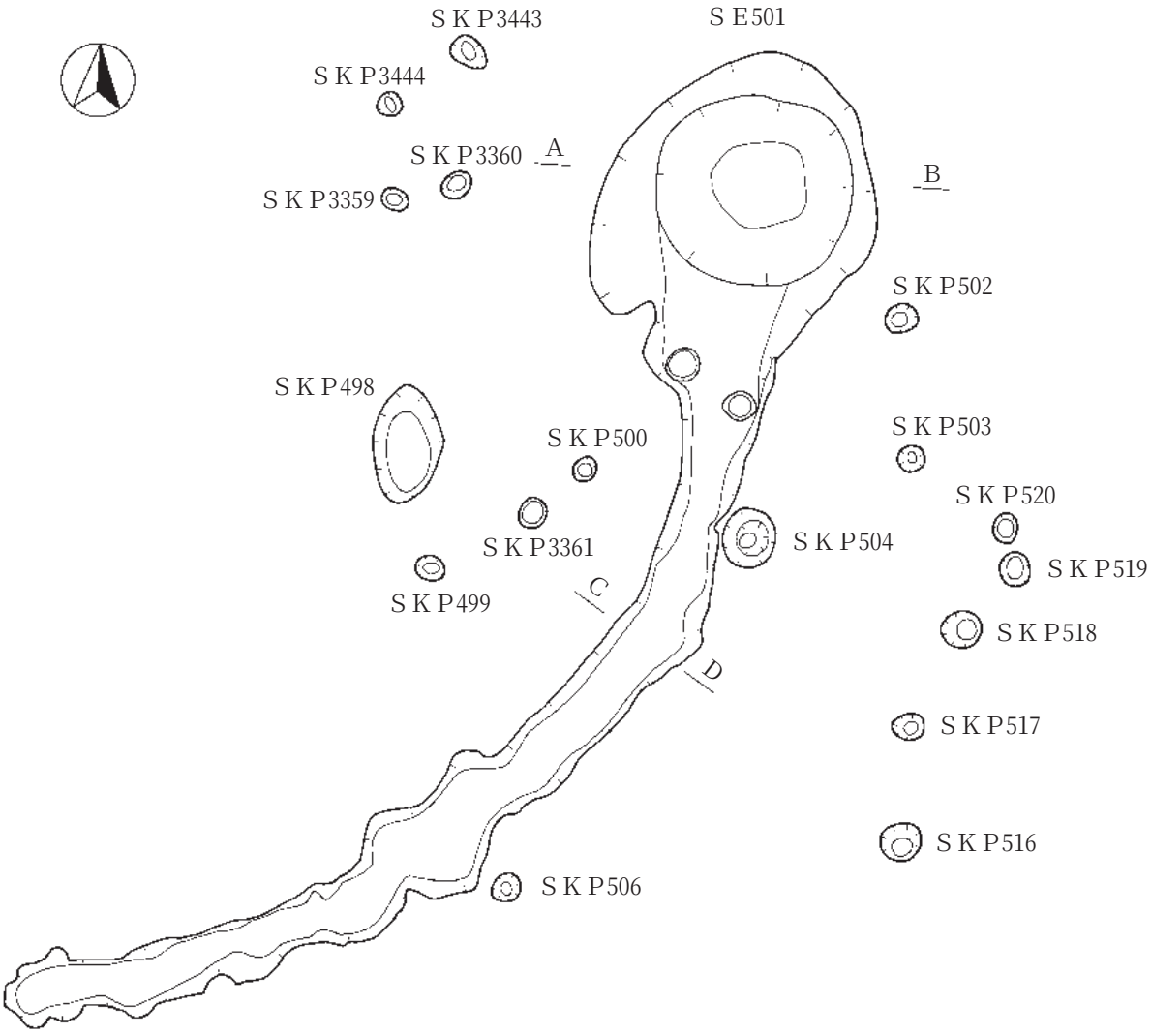
第71図　検出遺構　土坑(9)　平安時代以降

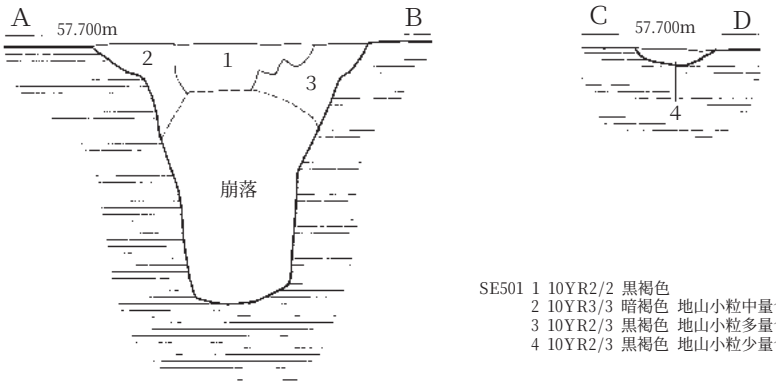


第72図　検出遺構　土坑⑽　平安時代以降



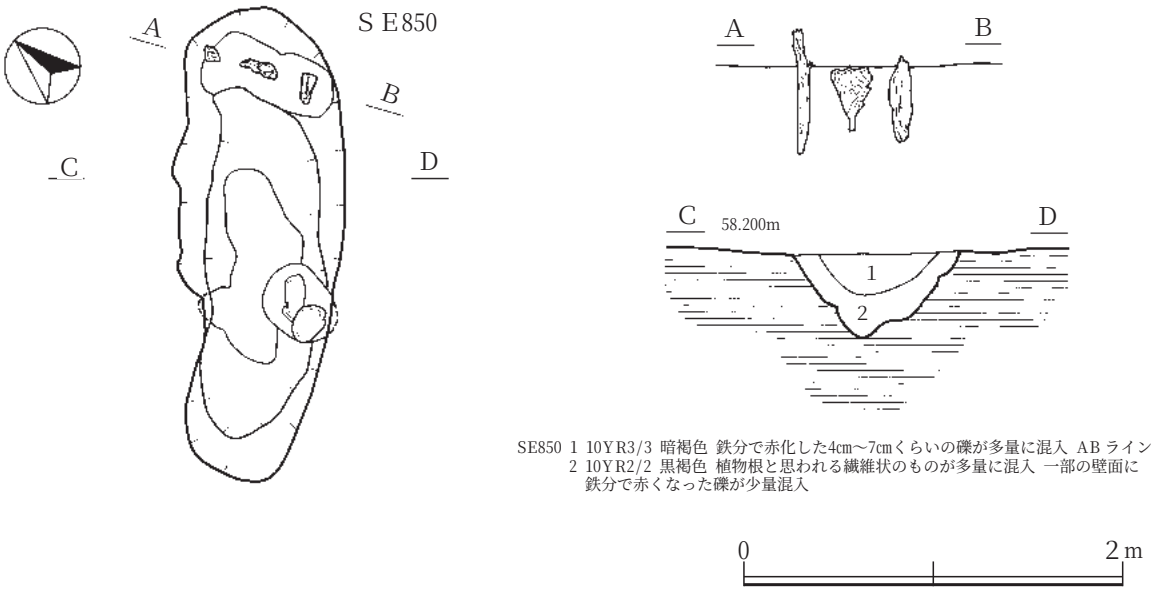
第73図　検出遺構　土坑(11)　平安時代以降





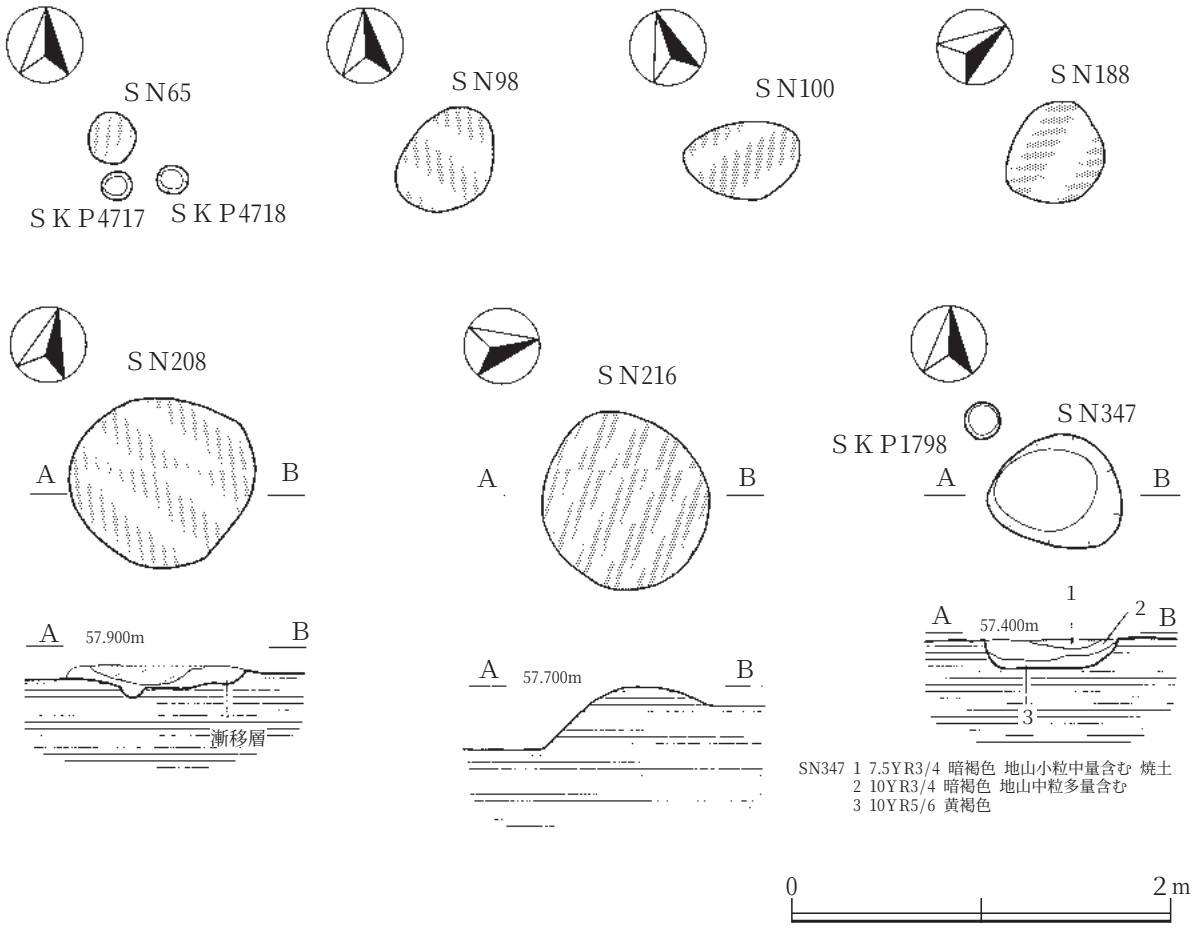
SE501 1 10YR2/2 黒褐色
2 10YR3/3 暗褐色 地山小粒中量含む
3 10YR2/3 黒褐色 地山小粒多量含む 鉄分中量
4 10YR2/3 黒褐色 地山小粒少量含む

第74図　検出遺構　井戸(1)　平安時代以降

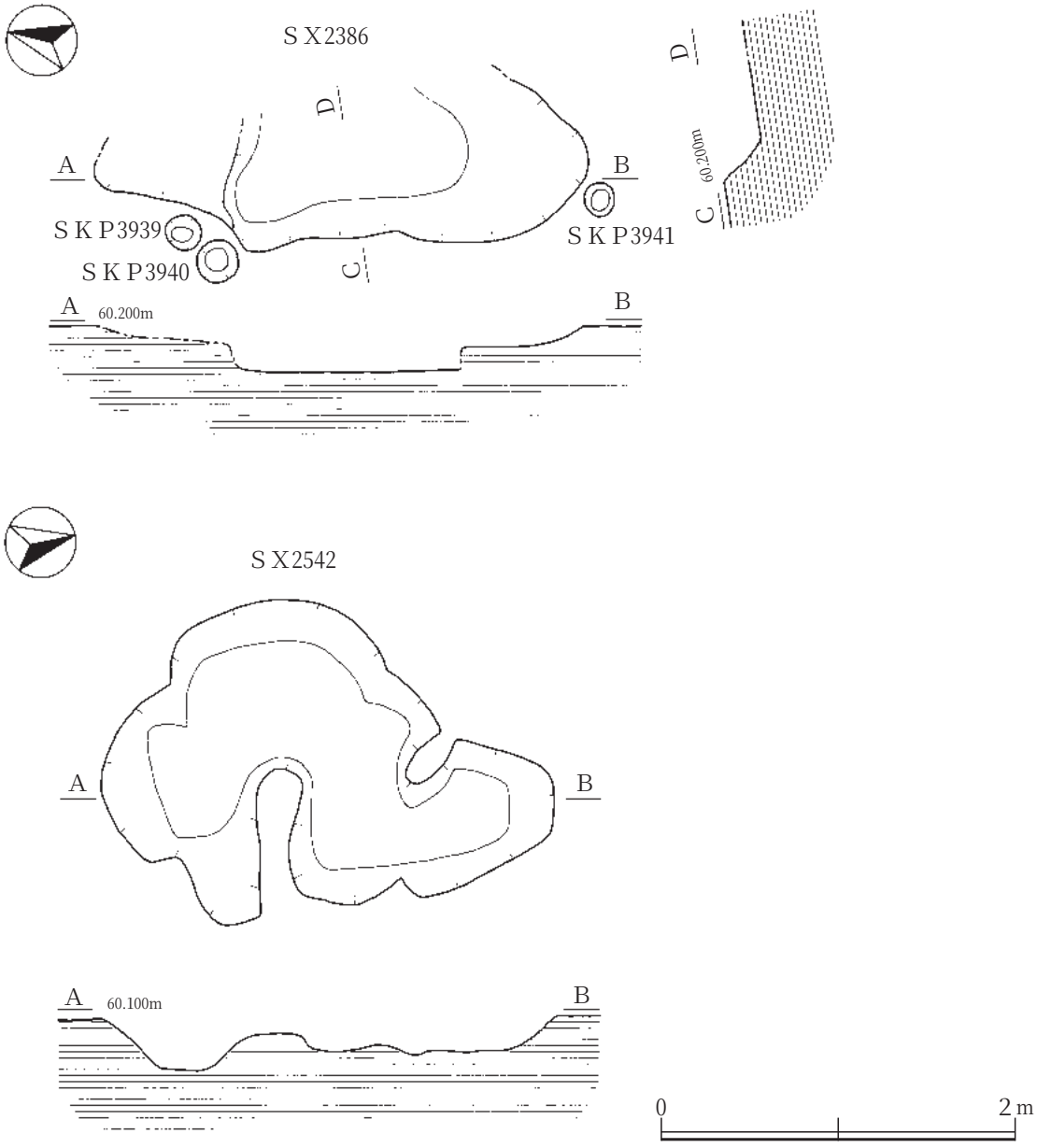


SE850　1　10YR3/3　暗褐色　鉄分で赤化した4㎝～7㎝くらいの礫が多量に混入　ABライン
　　2　10YR2/2　黒褐色　植物根と思われる繊維状のものが多量に混入　一部の壁面に
　　鉄分で赤くなった礫が少量混入

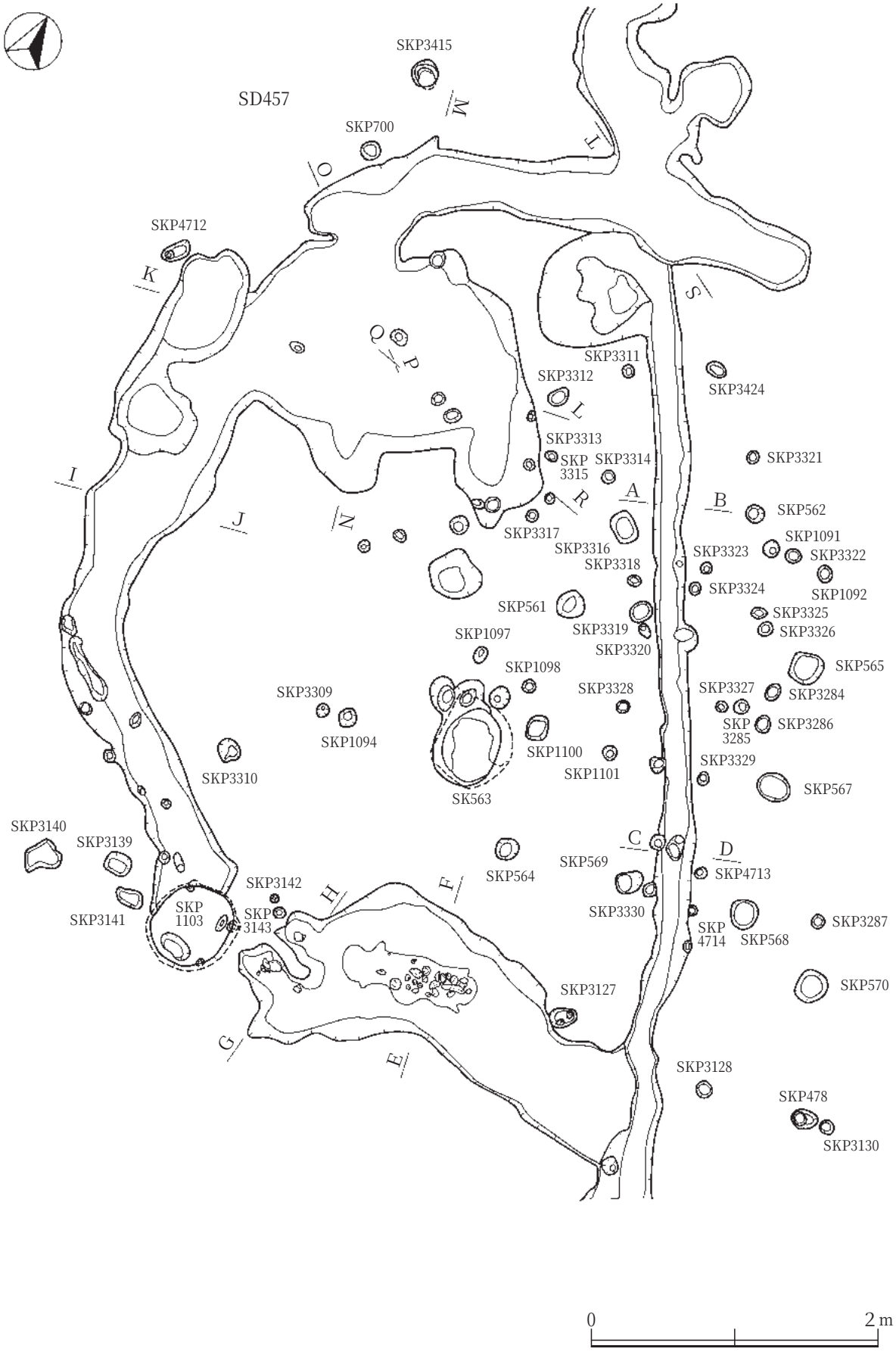
第75図　検出遺構　井戸(2)　平安時代以降



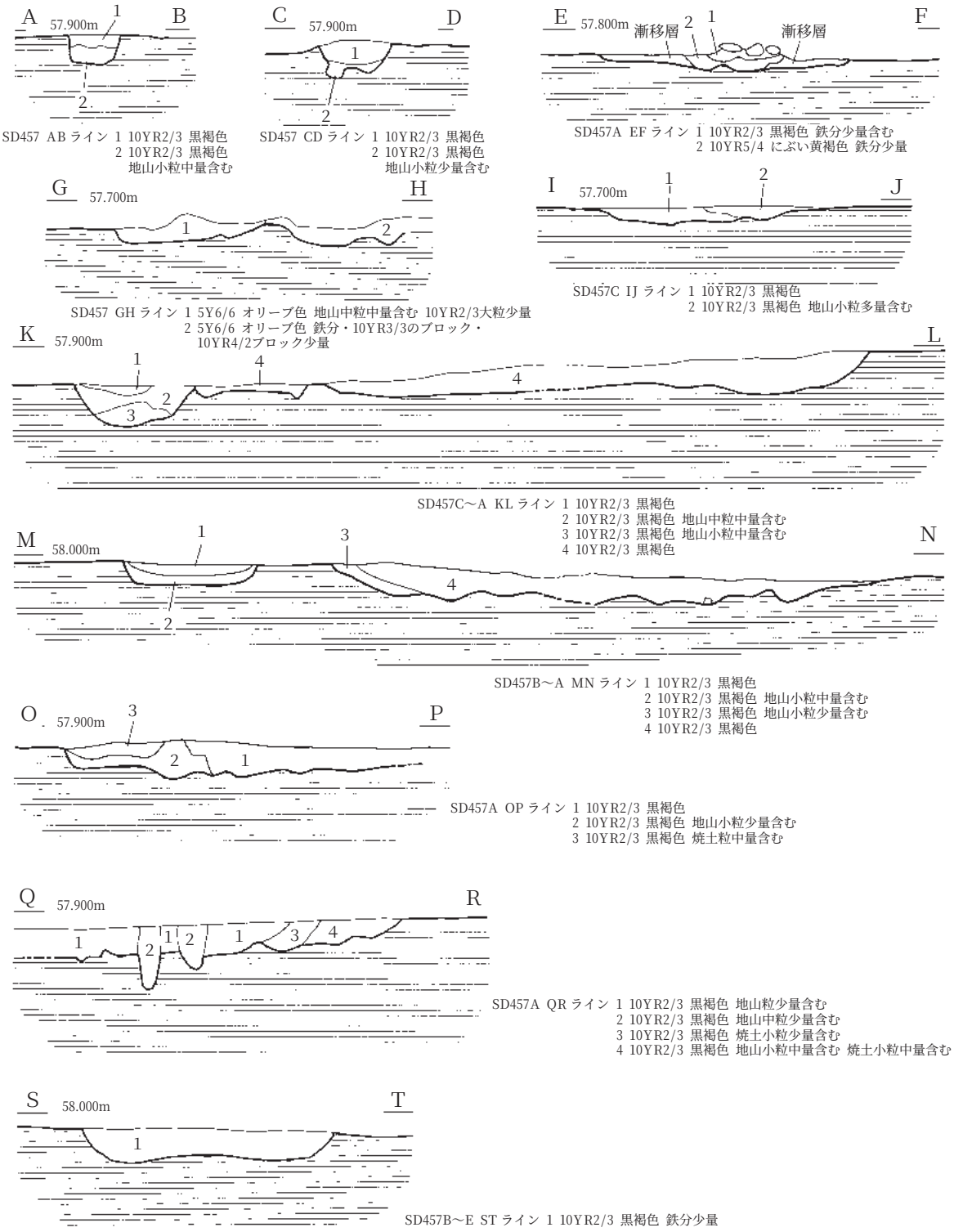
第76図　検出遺構　焼土遺構　平安時代以降



第77図　検出遺構　その他の遺構　平安時代以降



第78図　検出遺構　溝状遺構(1)　平安時代以降



SD457 AB ライン 1 10YR2/3 黒褐色
2 10YR2/3 黒褐色
地山小粒中量含む

SD457 CD ライン 1 10YR2/3 黒褐色
2 10YR2/3 黒褐色
地山小粒少量含む

SD457A EF ライン 1 10YR2/3 黒褐色 鉄分少量含む
2 10YR5/4 にぶい黄褐色 鉄分少量

SD457C IJ ライン 1 10YR2/3 黒褐色
2 10YR2/3 黒褐色 地山小粒多量含む

SD457 GH ライン 1 5Y6/6 オリーブ色 地山中粒中量含む 10YR2/3大粒少量
2 5Y6/6 オリーブ色 鉄分・10YR3/3のブロック・
10YR4/2ブロック少量

SD457C～A KL ライン 1 10YR2/3 黒褐色
2 10YR2/3 黒褐色 地山中粒中量含む
3 10YR2/3 黒褐色 地山小粒中量含む
4 10YR2/3 黒褐色

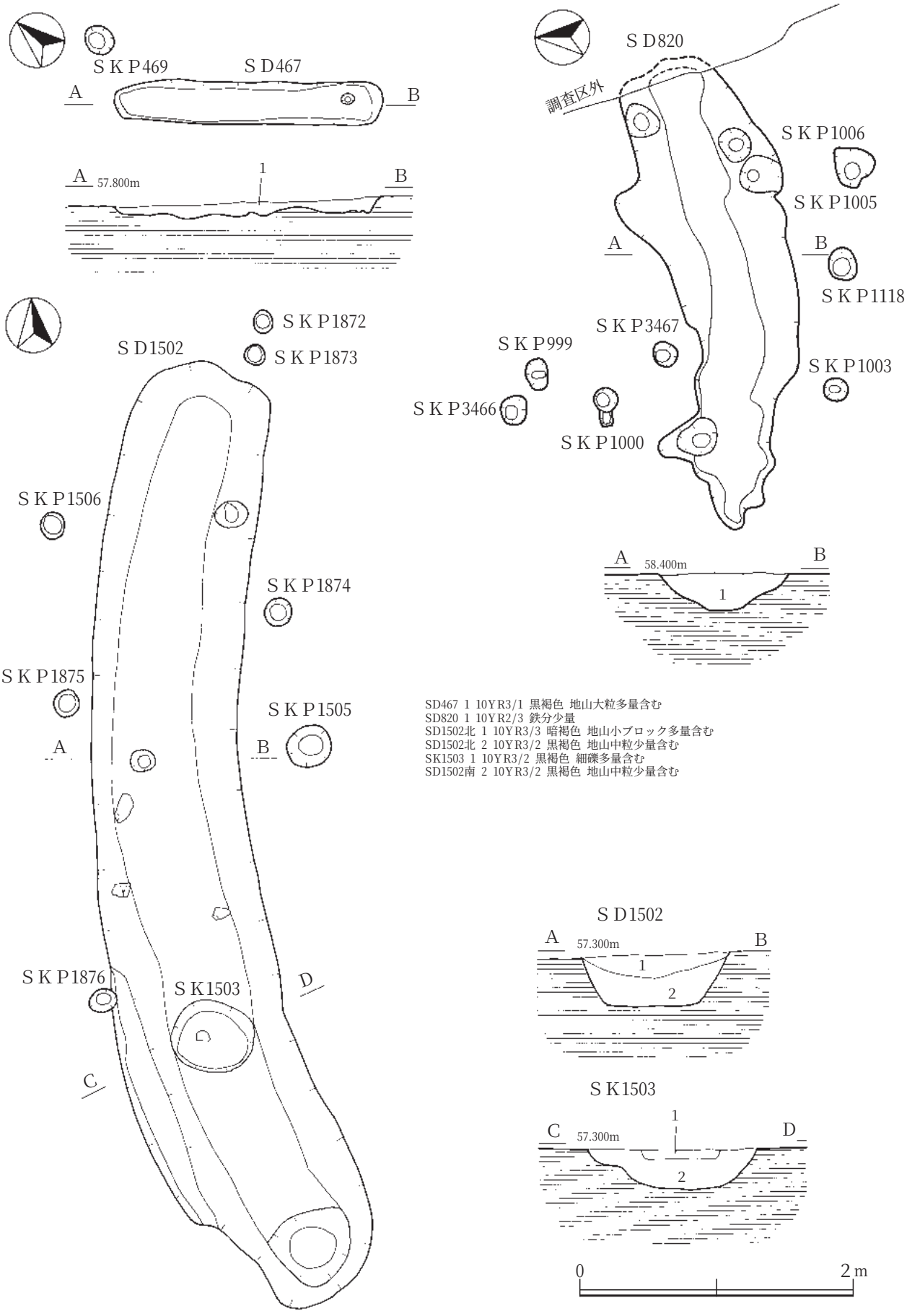
SD457B～A MN ライン 1 10YR2/3 黒褐色
2 10YR2/3 黒褐色 地山小粒中量含む
3 10YR2/3 黒褐色 地山小粒少量含む
4 10YR2/3 黒褐色

SD457A OP ライン 1 10YR2/3 黒褐色
2 10YR2/3 黒褐色 地山小粒少量含む
3 10YR2/3 黒褐色 焼土粒中量含む

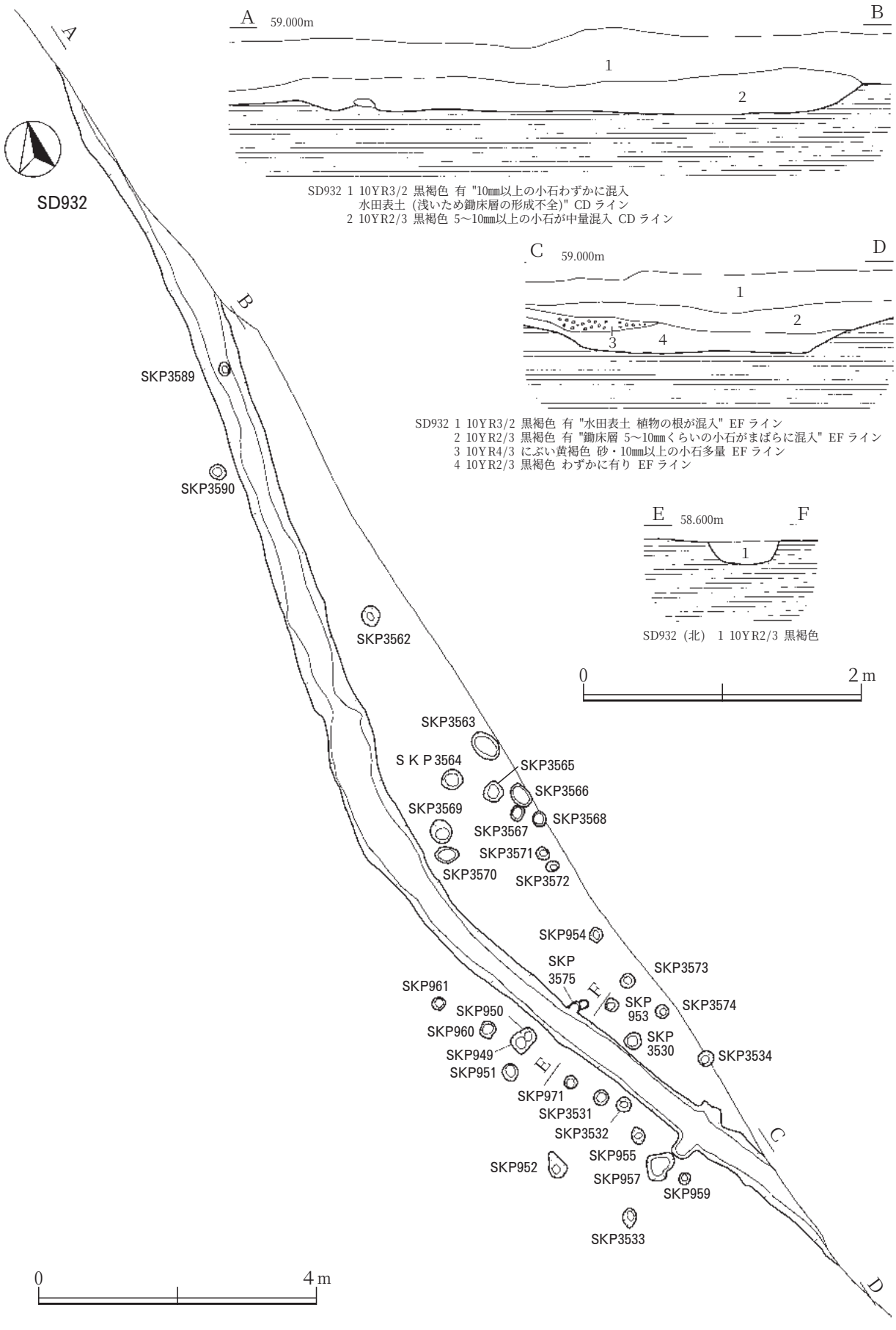
SD457A QR ライン 1 10YR2/3 黒褐色 地山粒少量含む
2 10YR2/3 黒褐色 地山中粒少量含む
3 10YR2/3 黒褐色 焼土小粒少量含む
4 10YR2/3 黒褐色 地山小粒中量含む 焼土小粒中量含む

SD457B～E ST ライン 1 10YR2/3 黒褐色 鉄分少量

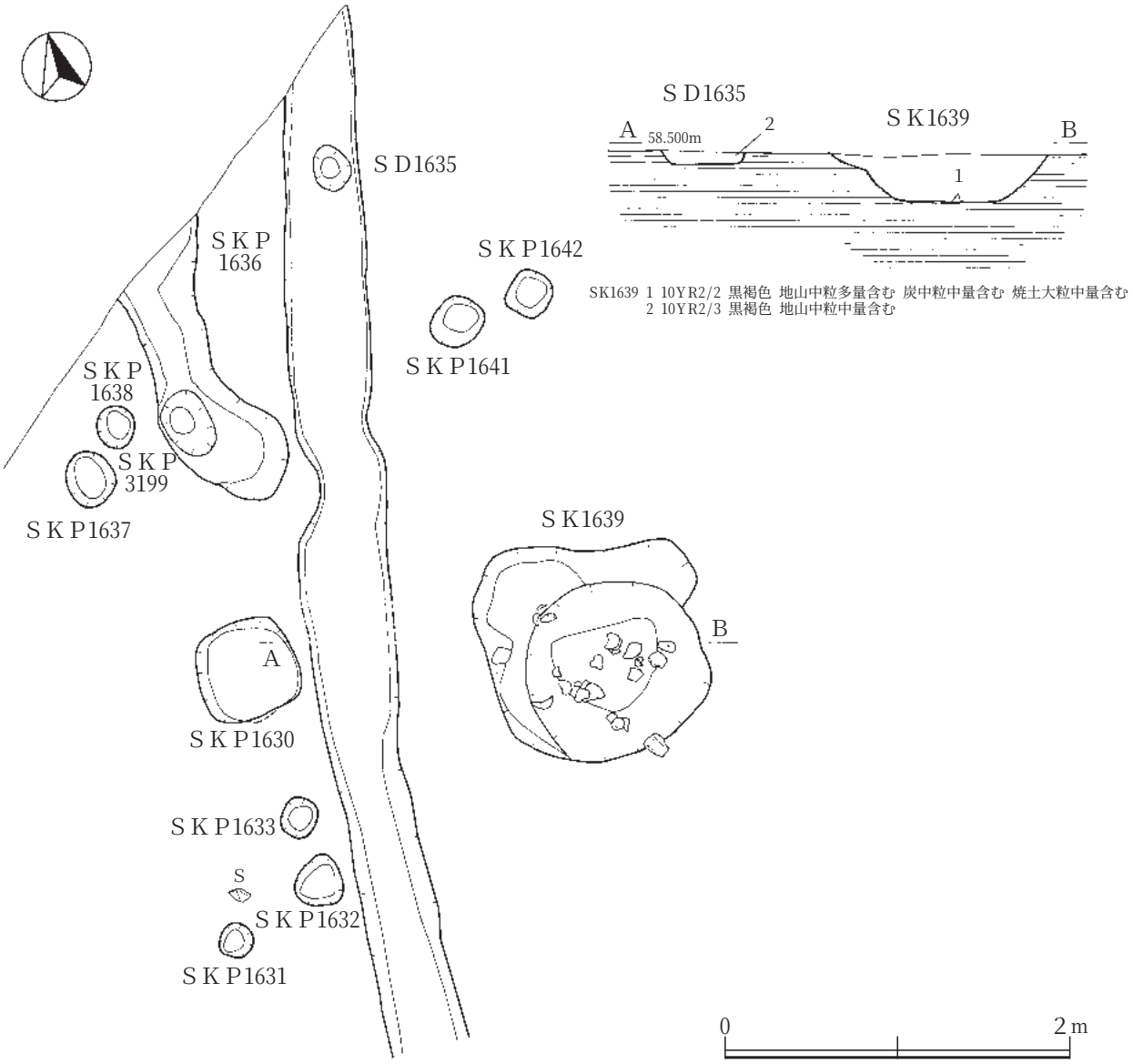
第79図　検出遺構　溝状遺構(2)　平安時代以降



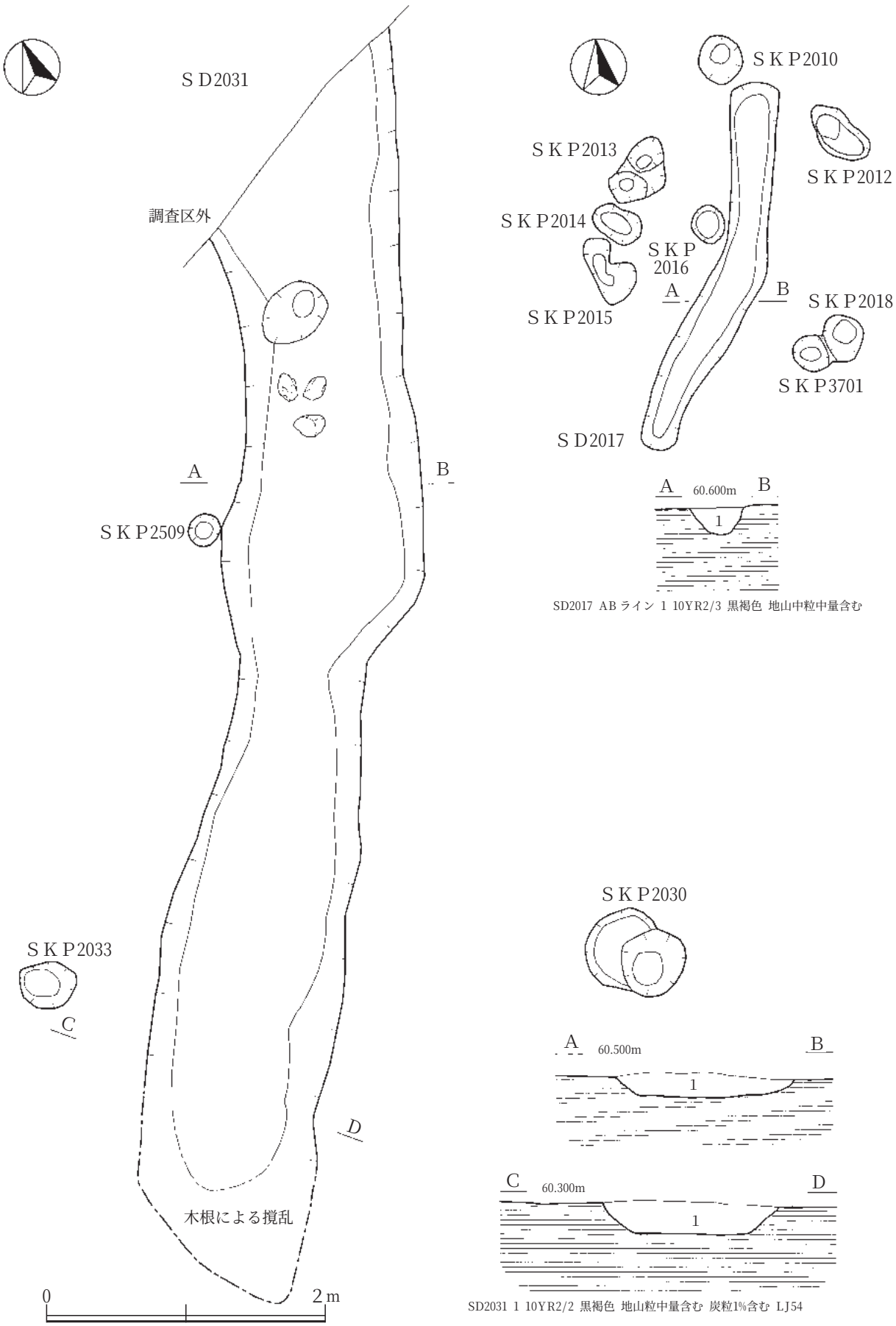
第80図　検出遺構　溝状遺構(3)　平安時代以降



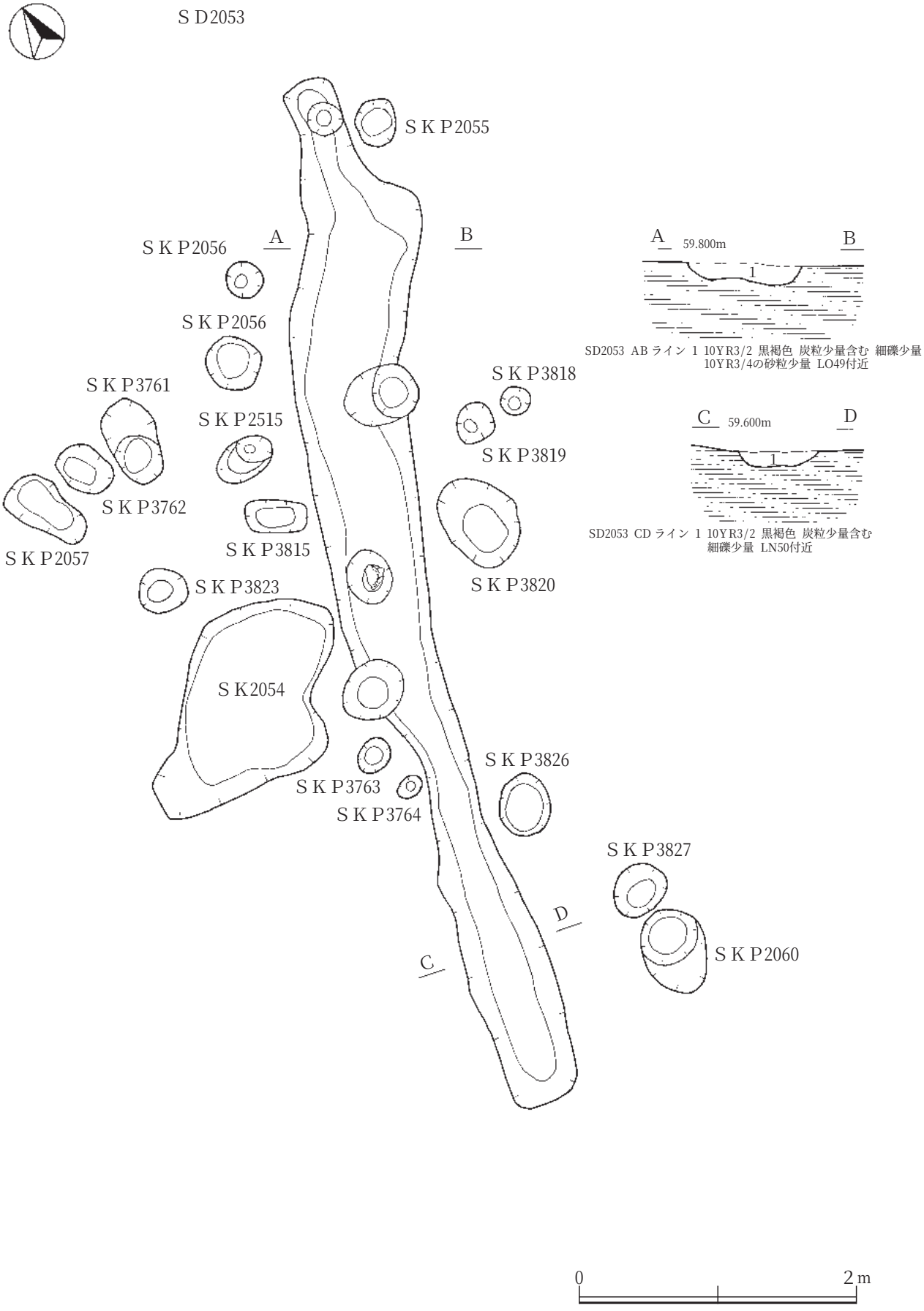
第81図　検出遺構　溝状遺構(4)　平安時代以降



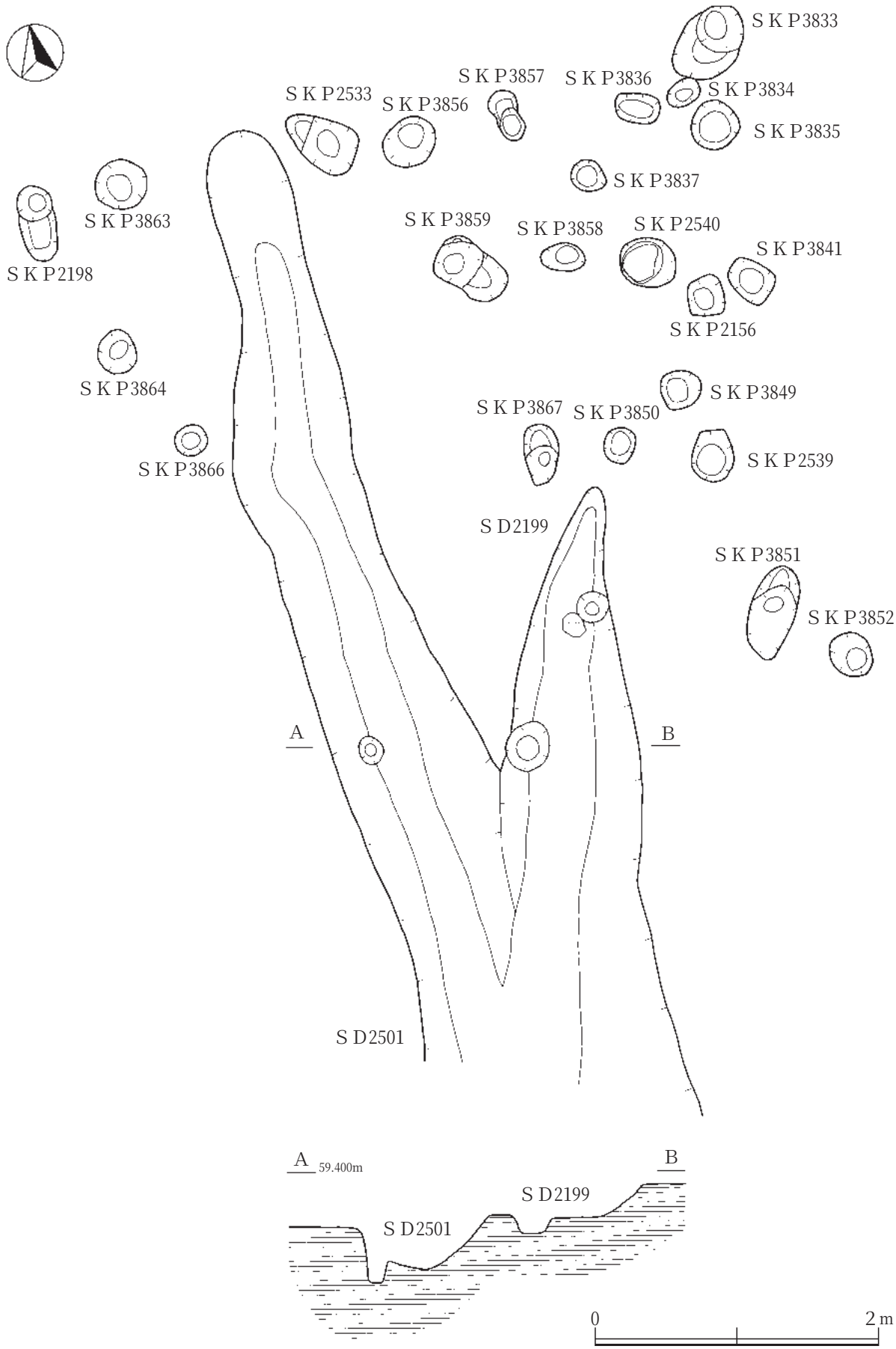
第82図　検出遺構　溝状遺構(5)　平安時代以降



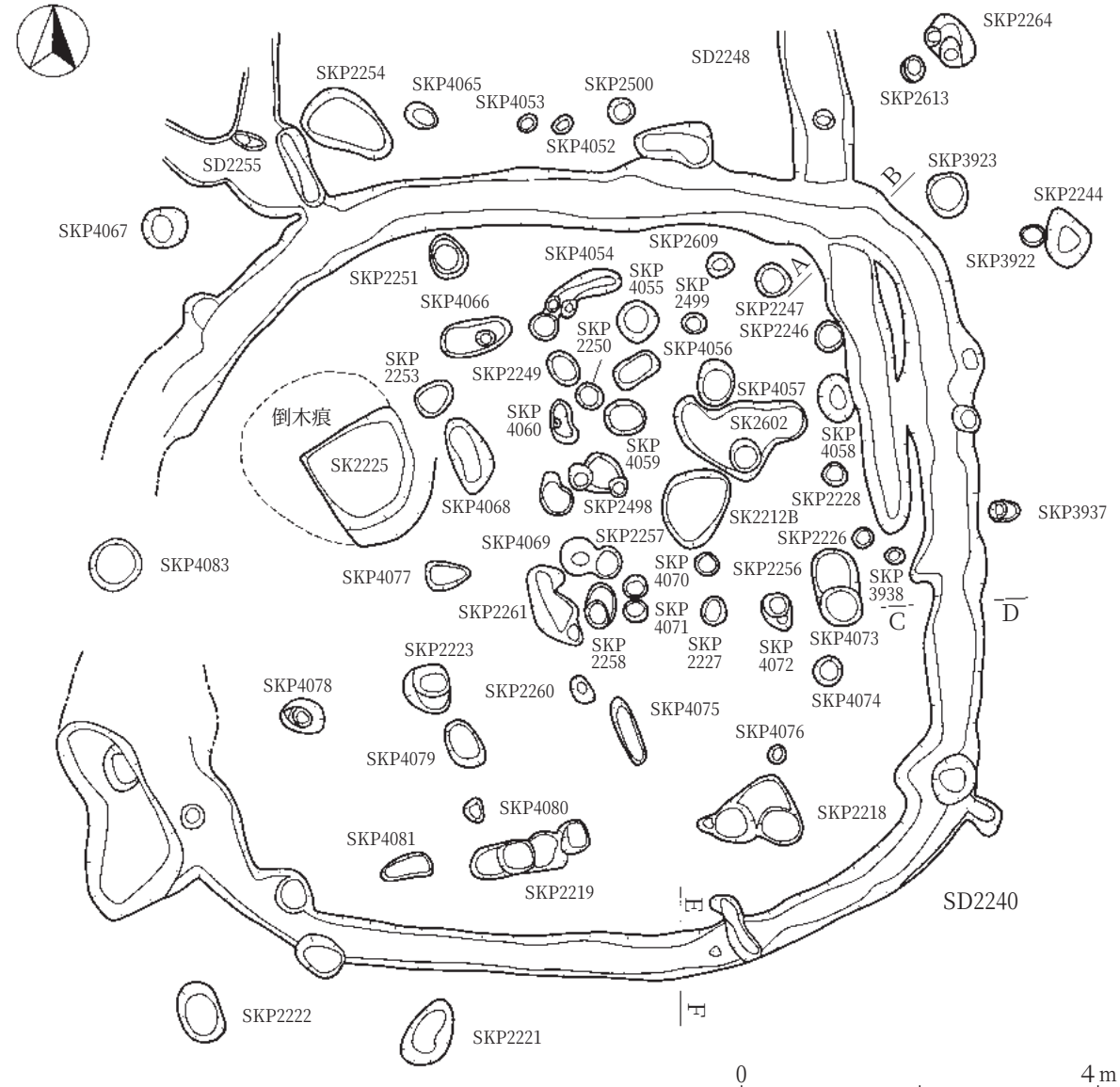
第83図　検出遺構　溝状遺構(6)　平安時代以降

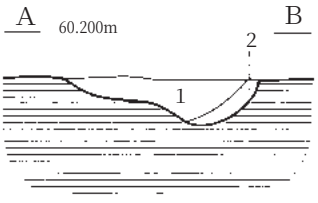


第84図　検出遺構　溝状遺構(7)　平安時代以降

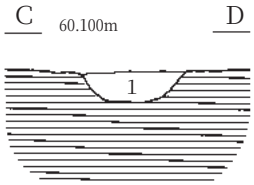


第85図　検出遺構　溝状遺構(8)　平安時代以降

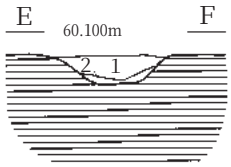




SK2240北側 AB ライン 1 10YR2/3 黒褐色
地山粒少量含む SD2248合流点
2 10YR2/3 黒褐色 地山中粒多量
含む 強 SD2248合流点

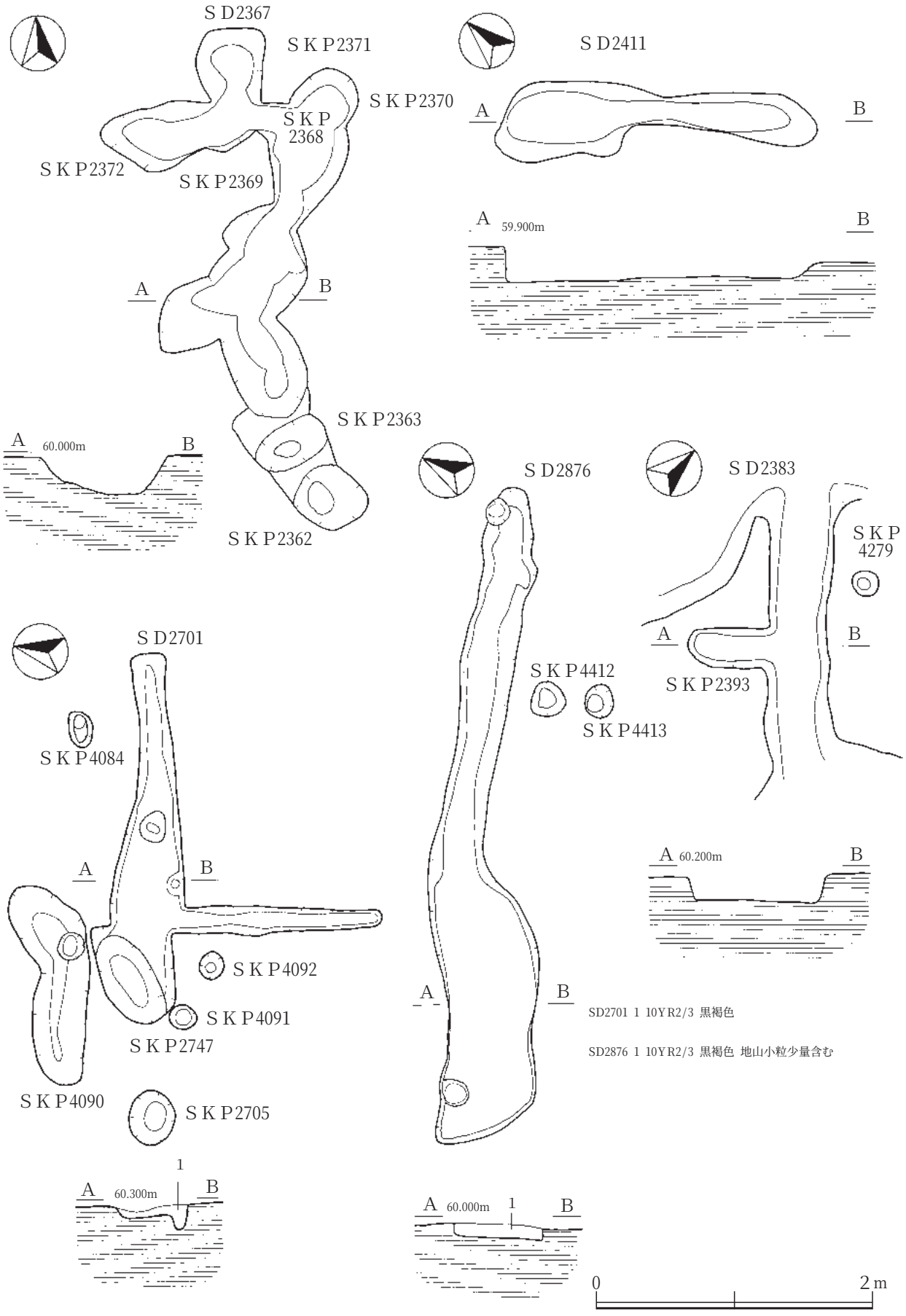


SK2240東側 CD ライン 1 10YR2/3 黒褐色

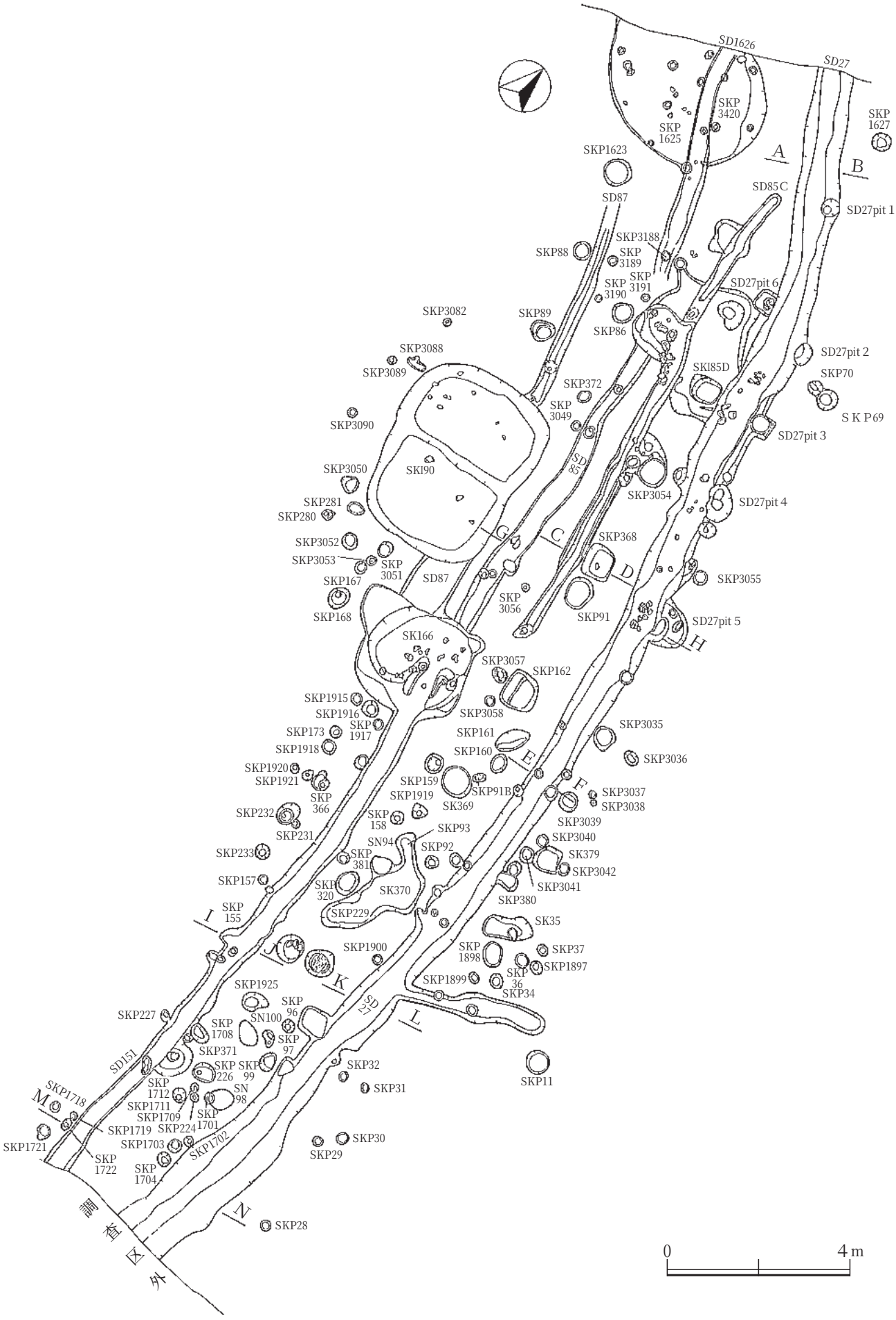


SD2240南側 EF ライン 1 10YR2/3 黒褐色
2 10YR4/2 灰黄褐色

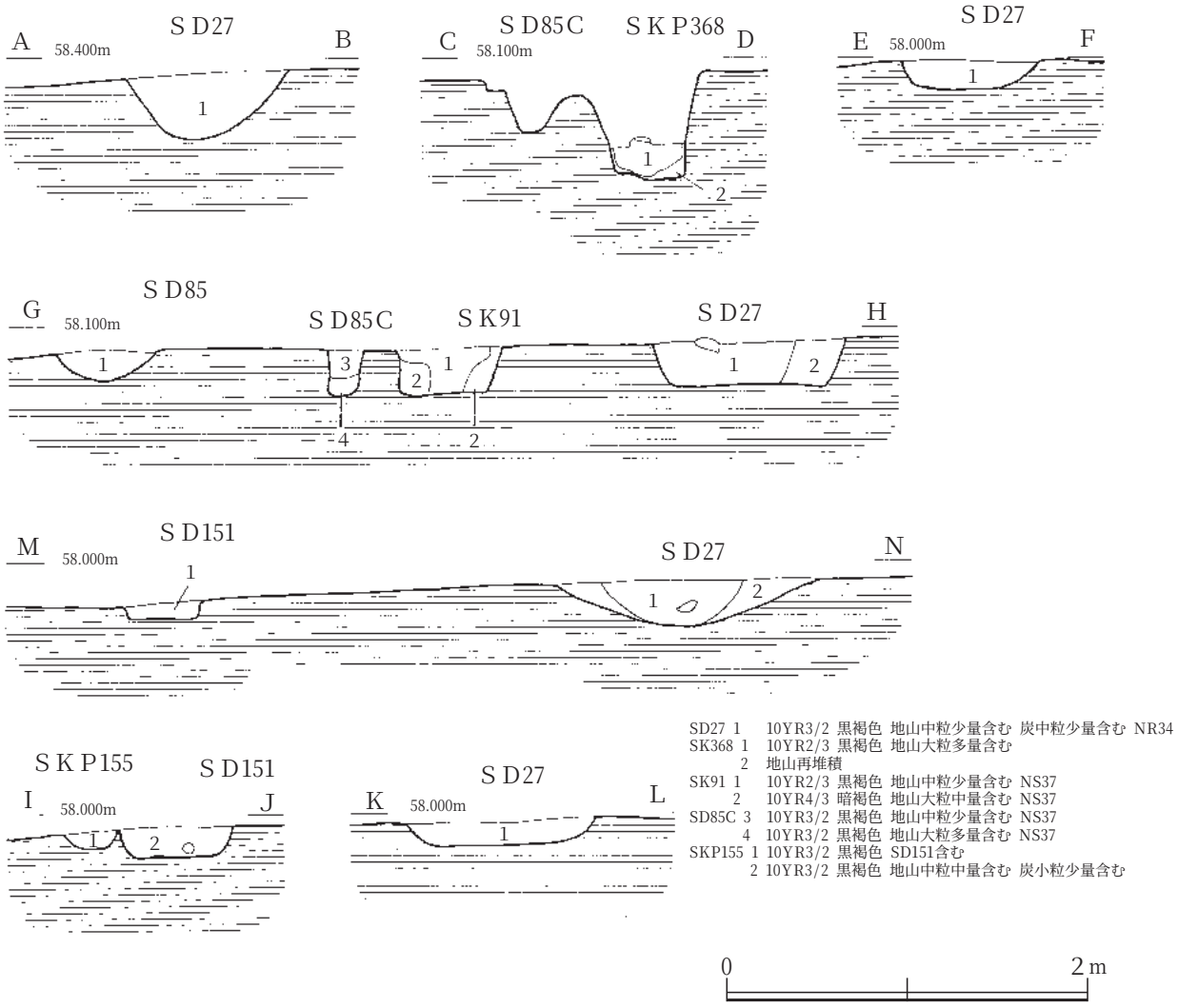
第86図　検出遺構　溝状遺構(9)　平安時代以降



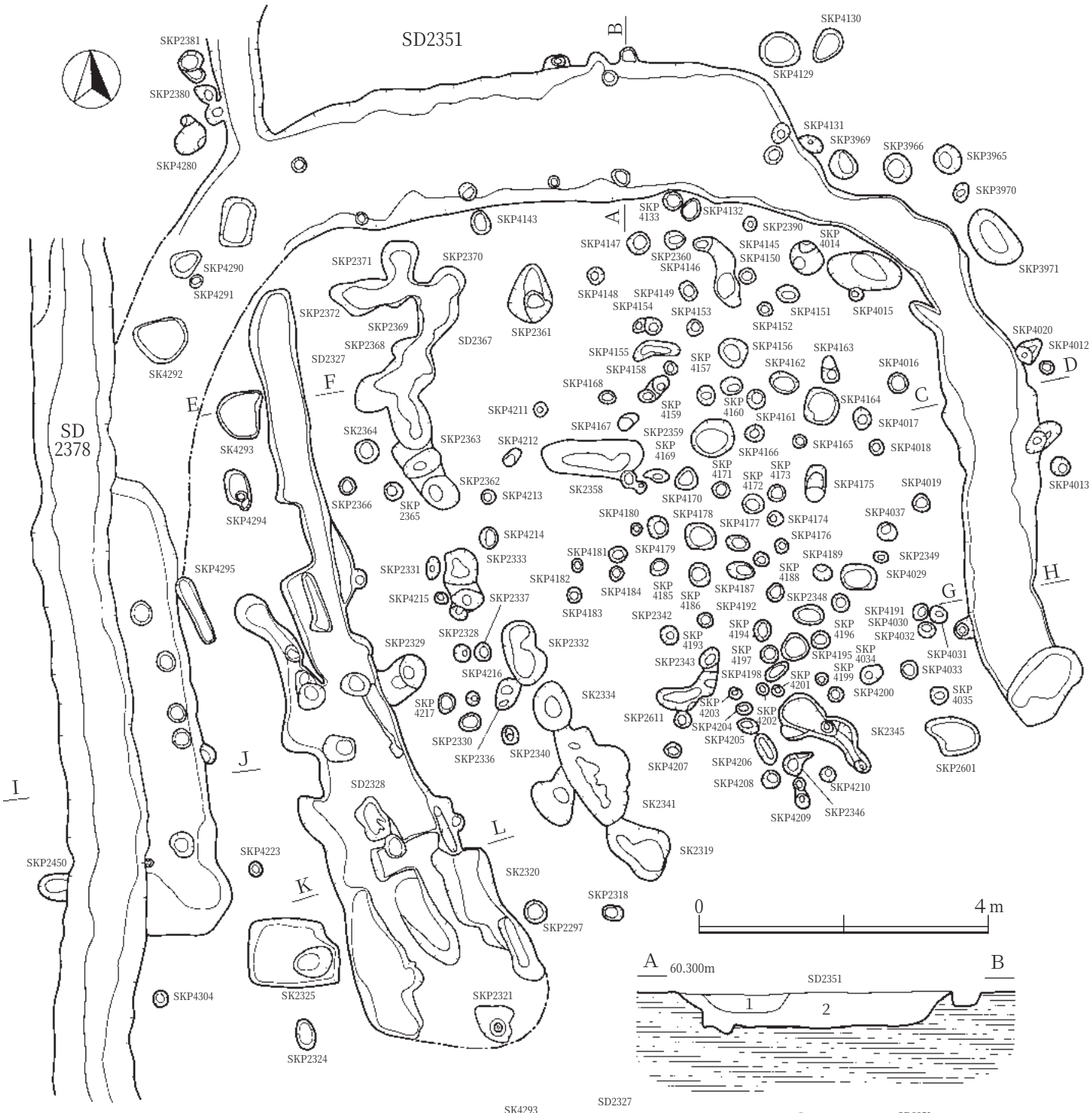
第87図　検出遺構　溝状遺構⑽　平安時代以降



第88図　検出遺構　溝状遺構(11)　平安時代以降



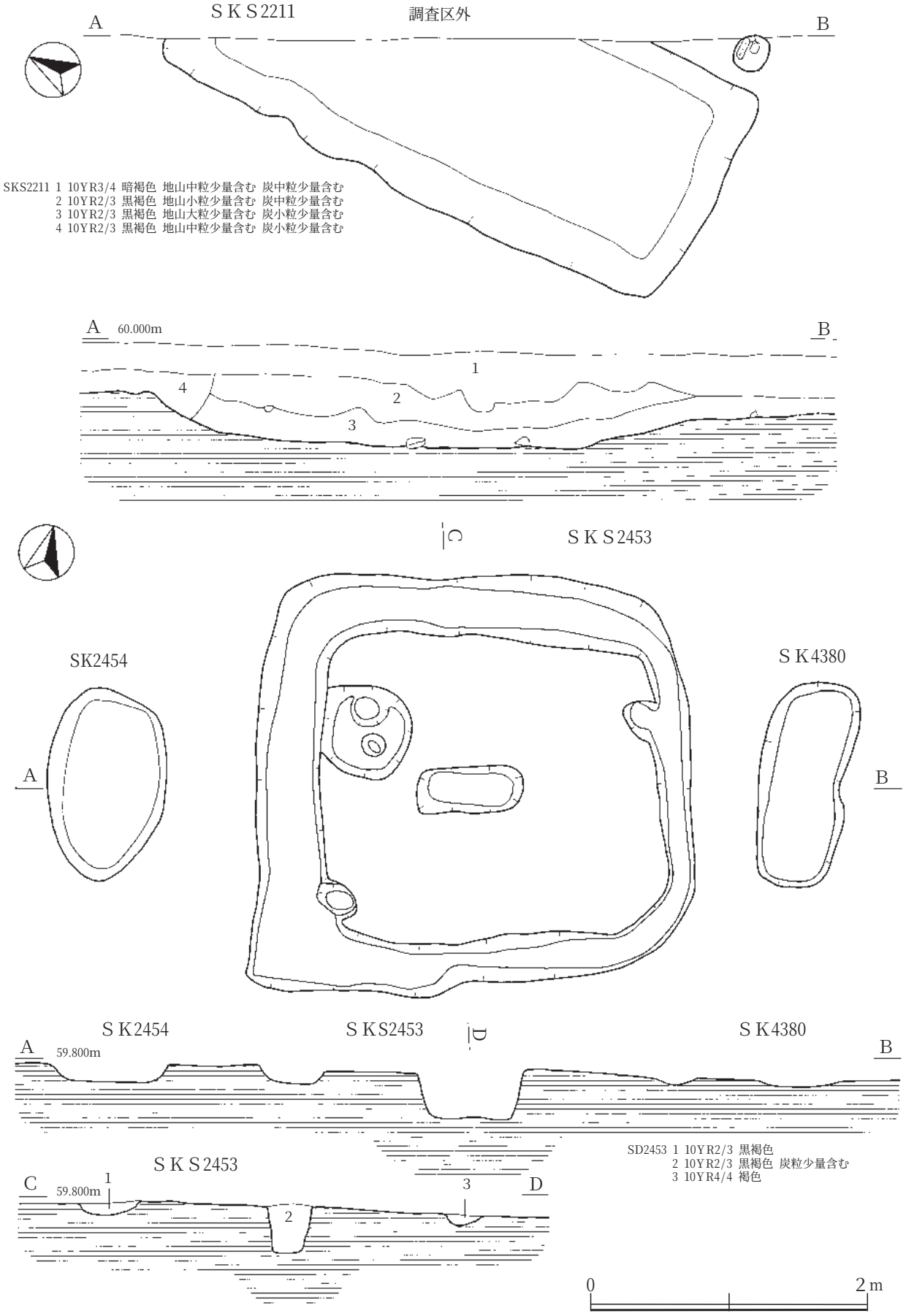
第89図　検出遺構　溝状遺構⑬　平安時代以降



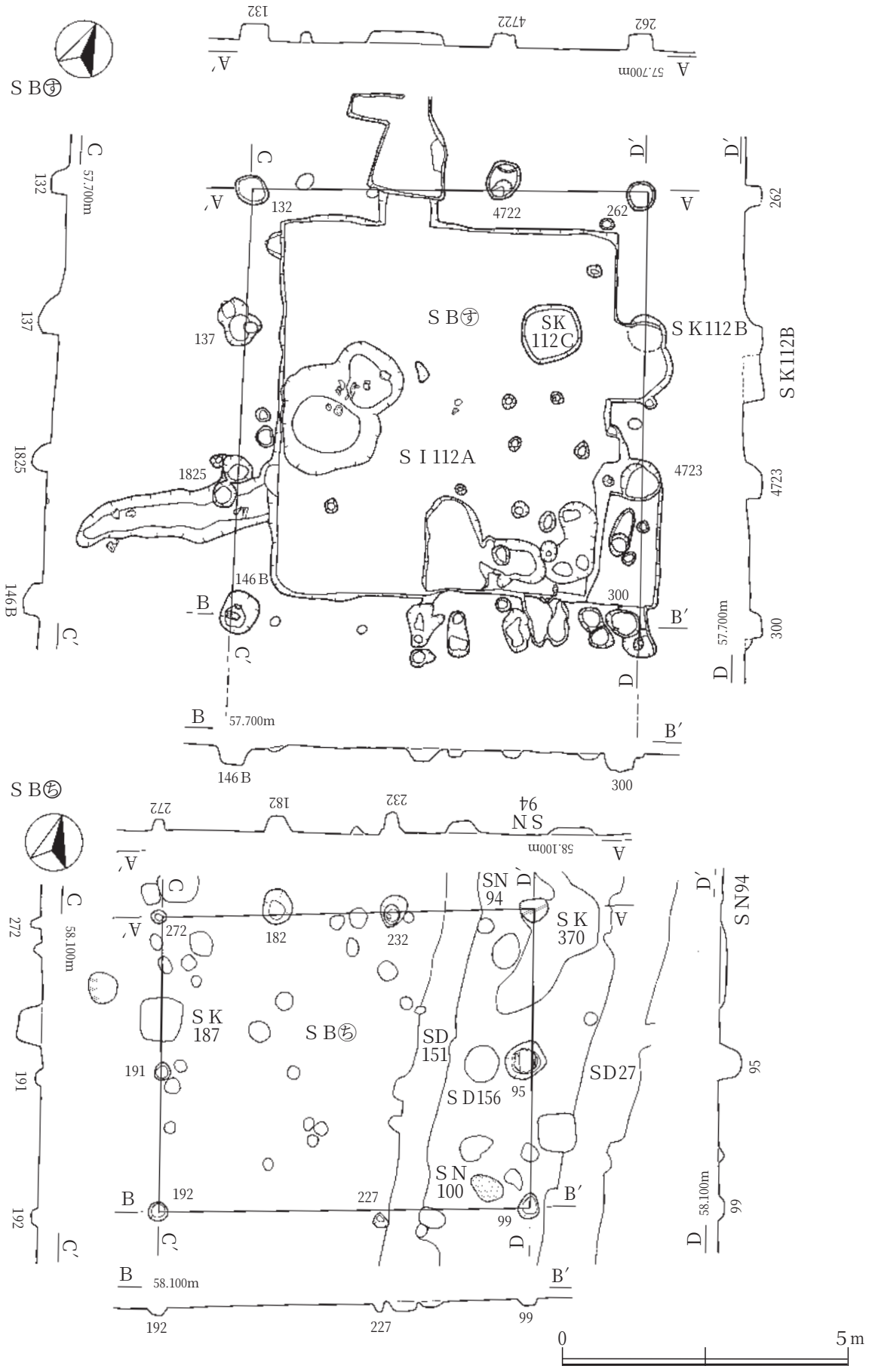
SD2378 IJ ライン 1 10YR3/2 黒褐色 地山小粒少量含む 炭中粒少量含む MI62
2 10YR3/2 黒褐色 地山中粒中量含む MI62
SD2328・2320 KLライン 1 10YR3/4 暗褐色 地山小粒中量含む
2 10YR3/3 暗褐色 地山中粒少量含む

SD2351 ABライン 1 10YR4/4 褐色 地山中粒少量含む MG59
2 10YR3/2 黒褐色 地山小粒少量含む 炭小粒少量含む MG59
CDライン 1 10YR2/2 黒褐色 炭小粒少量含む MF58
2 10YR3/4 暗褐色 地山中粒中量含む MF58
3 10YR3/3 暗褐色 炭小粒少量含む MF58
SD2327・SK4293 EF ライン 1 10YR2/3 黒褐色
2 10YR2/3 黒褐色
3 5Y6/6 オリーブ色 地山中粒多量含む

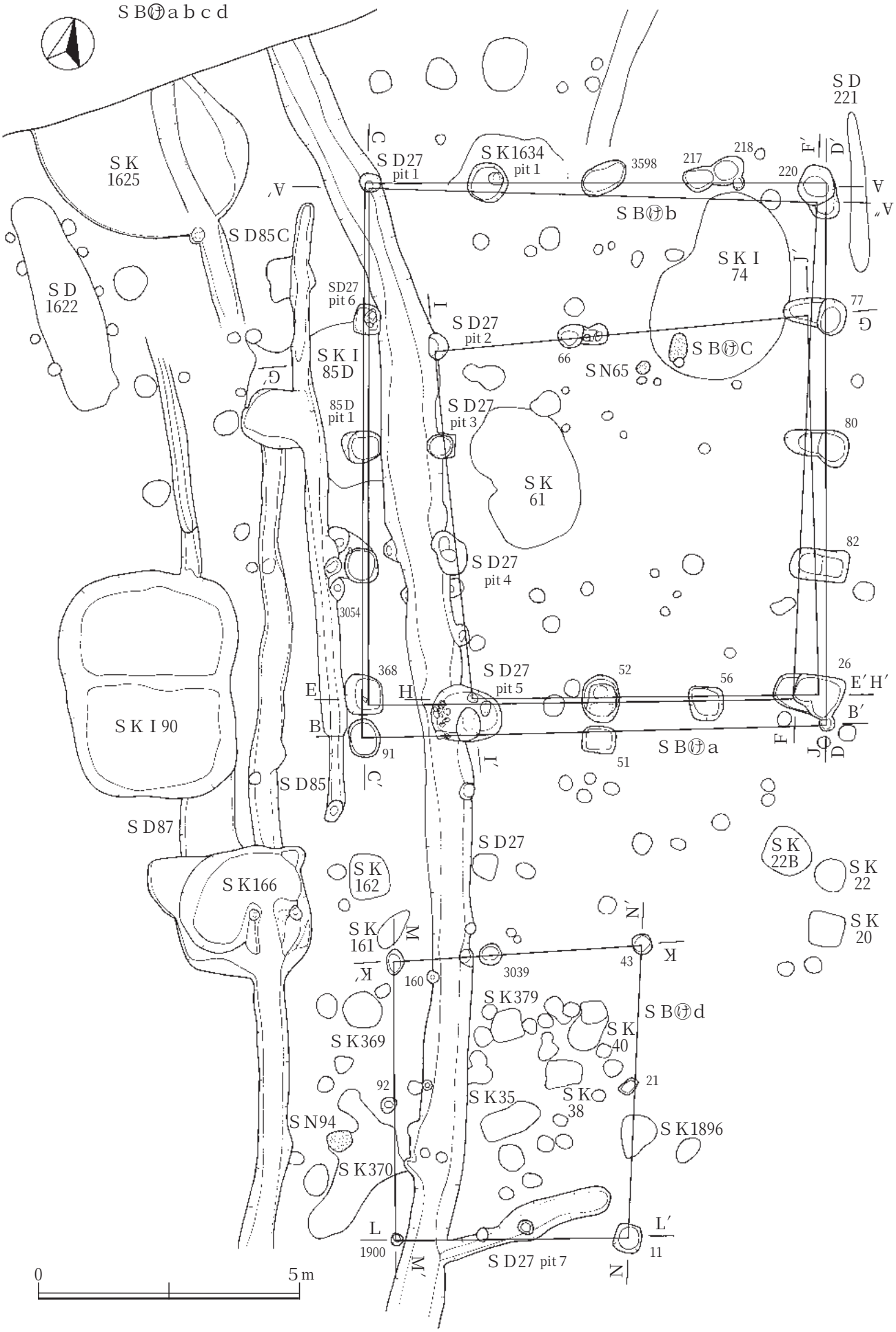
第90図　検出遺構　溝状遺構(12)　平安時代以降



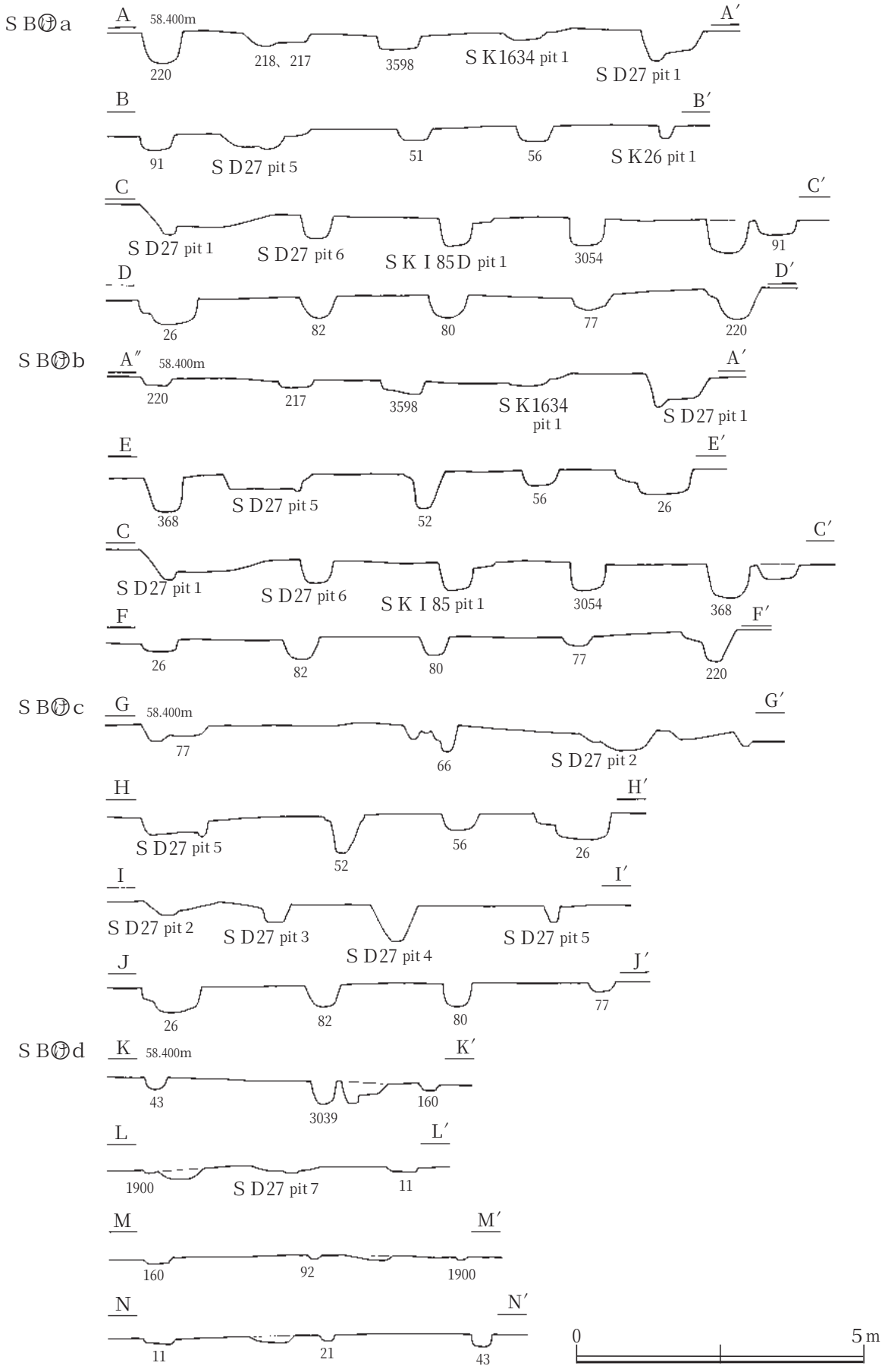
第91図　検出遺構　土壙墓　平安時代以降



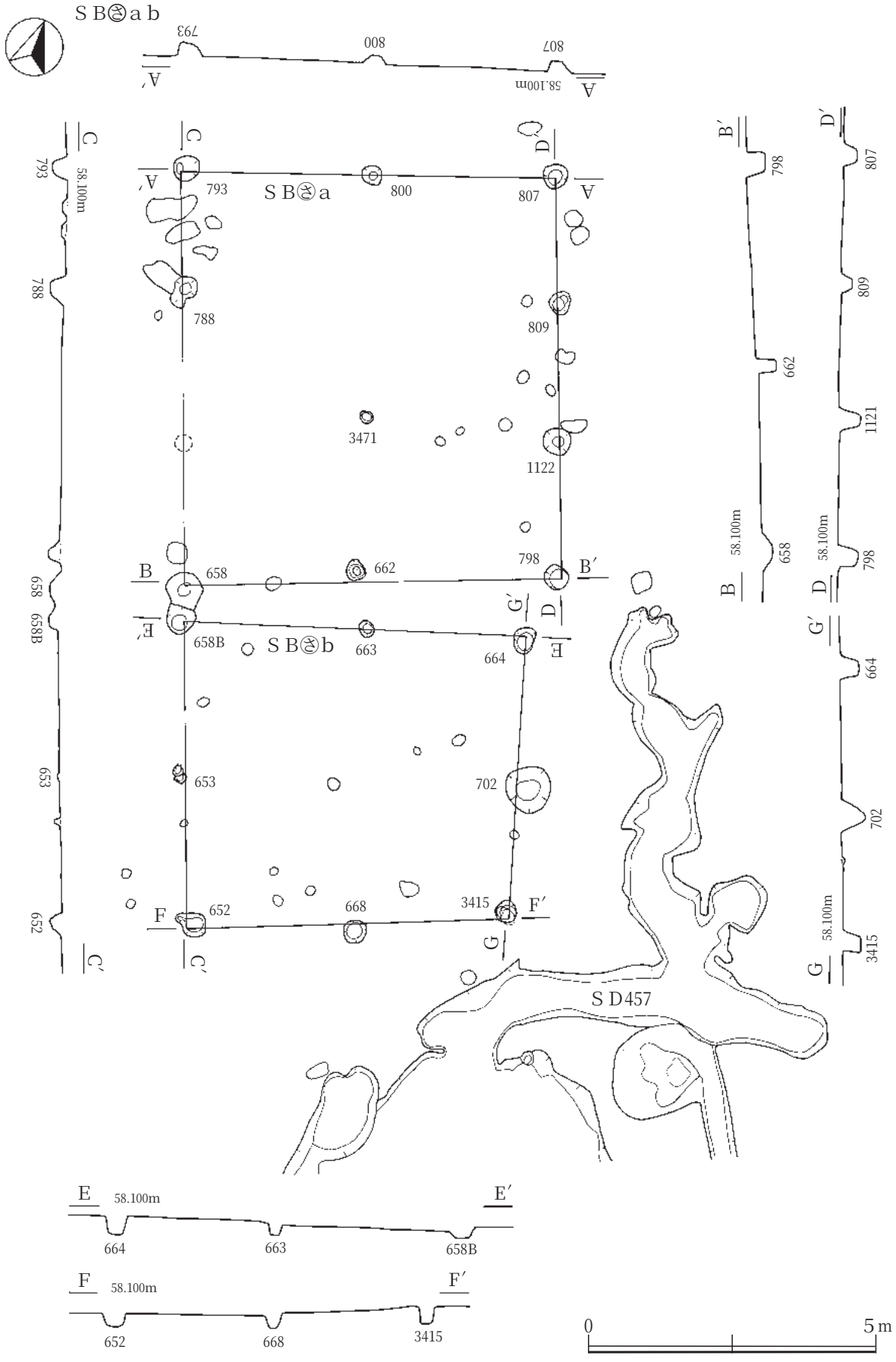
第92図　検出遺構　掘立柱建物跡(1)　平安時代以降



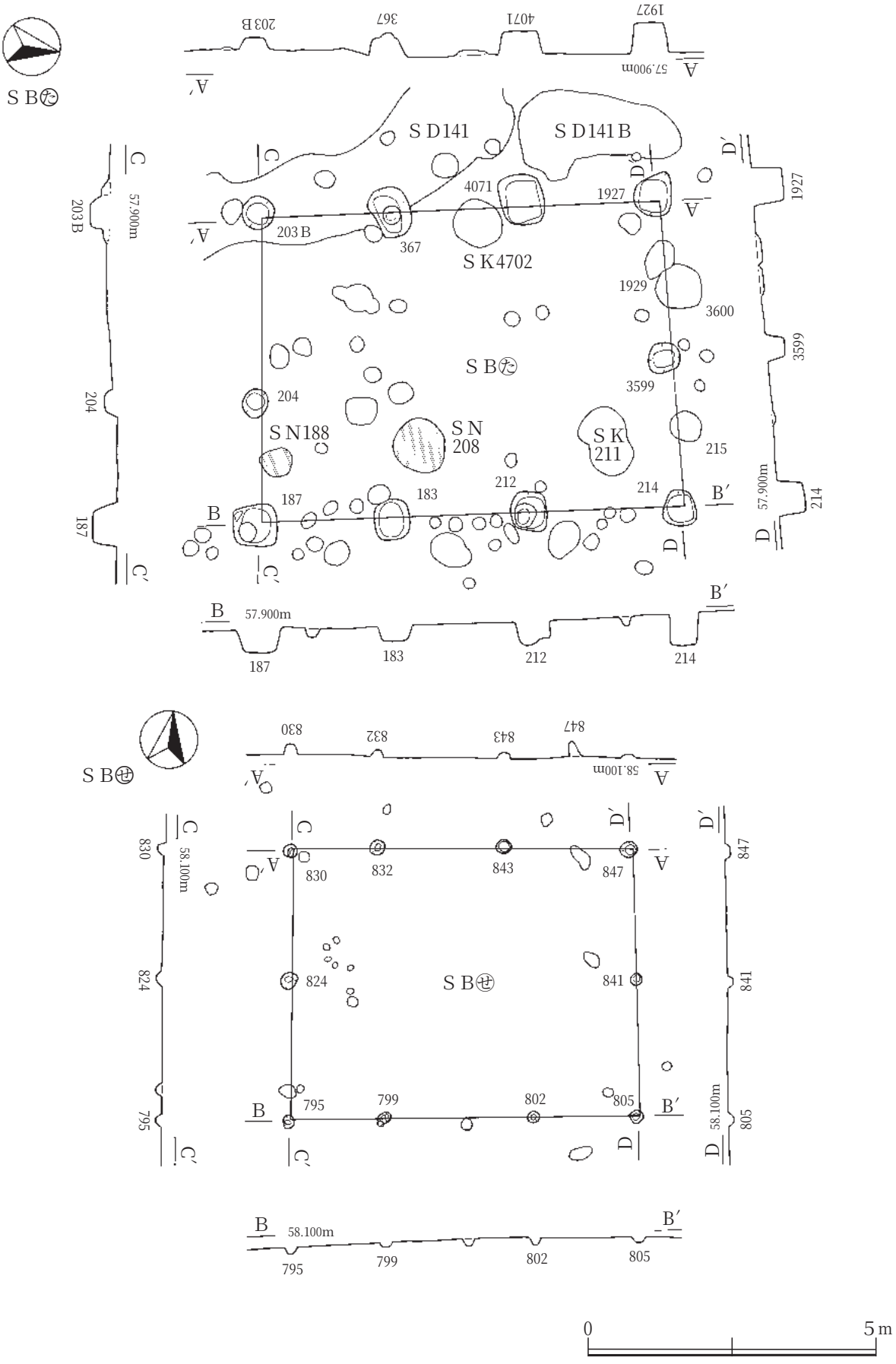
第93図　検出遺構　掘立柱建物跡(2)　平安時代以降



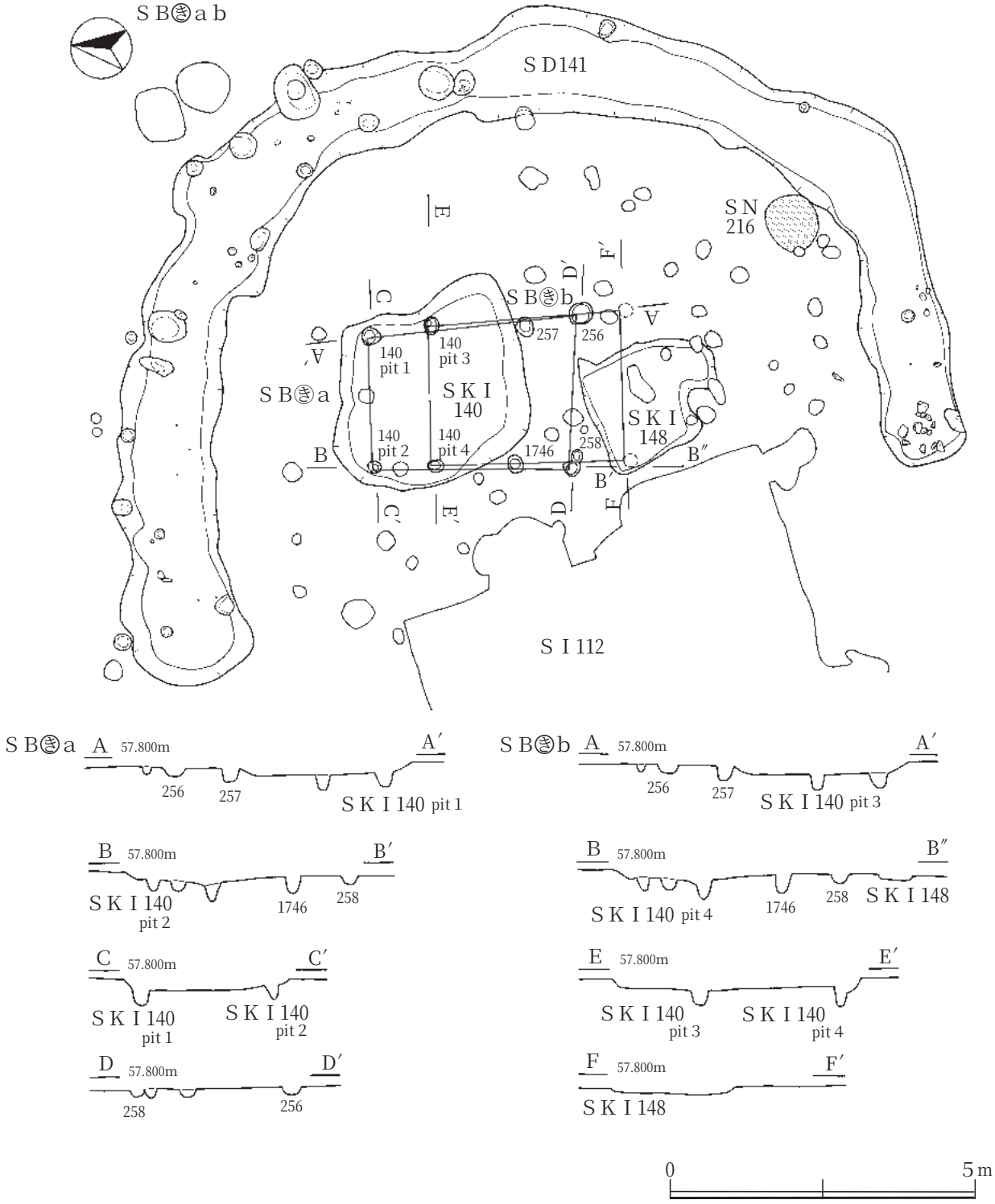
第94図　検出遺構　掘立柱建物跡(3)　平安時代以降



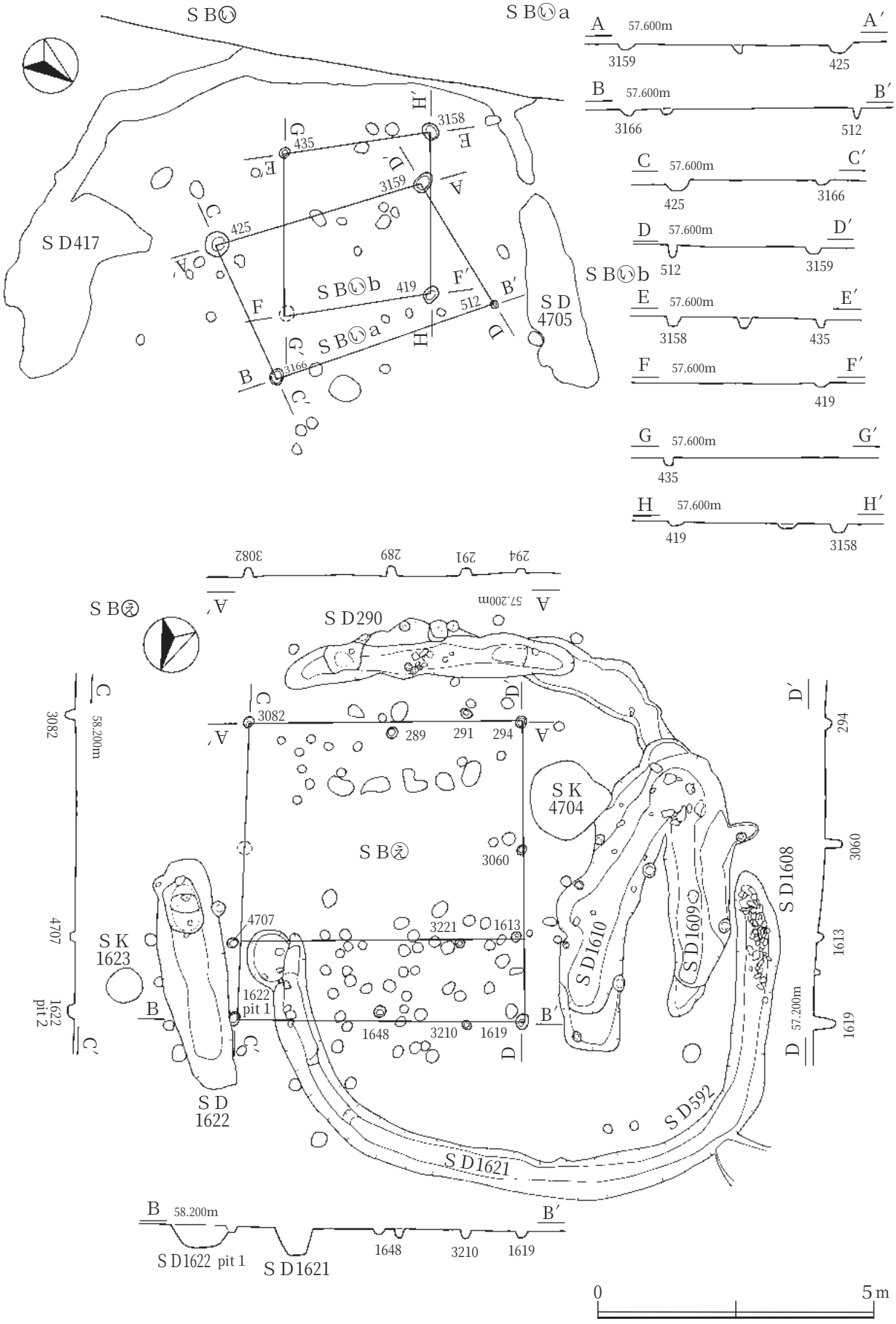
第95図　検出遺構　掘立柱建物跡(4)　平安時代以降



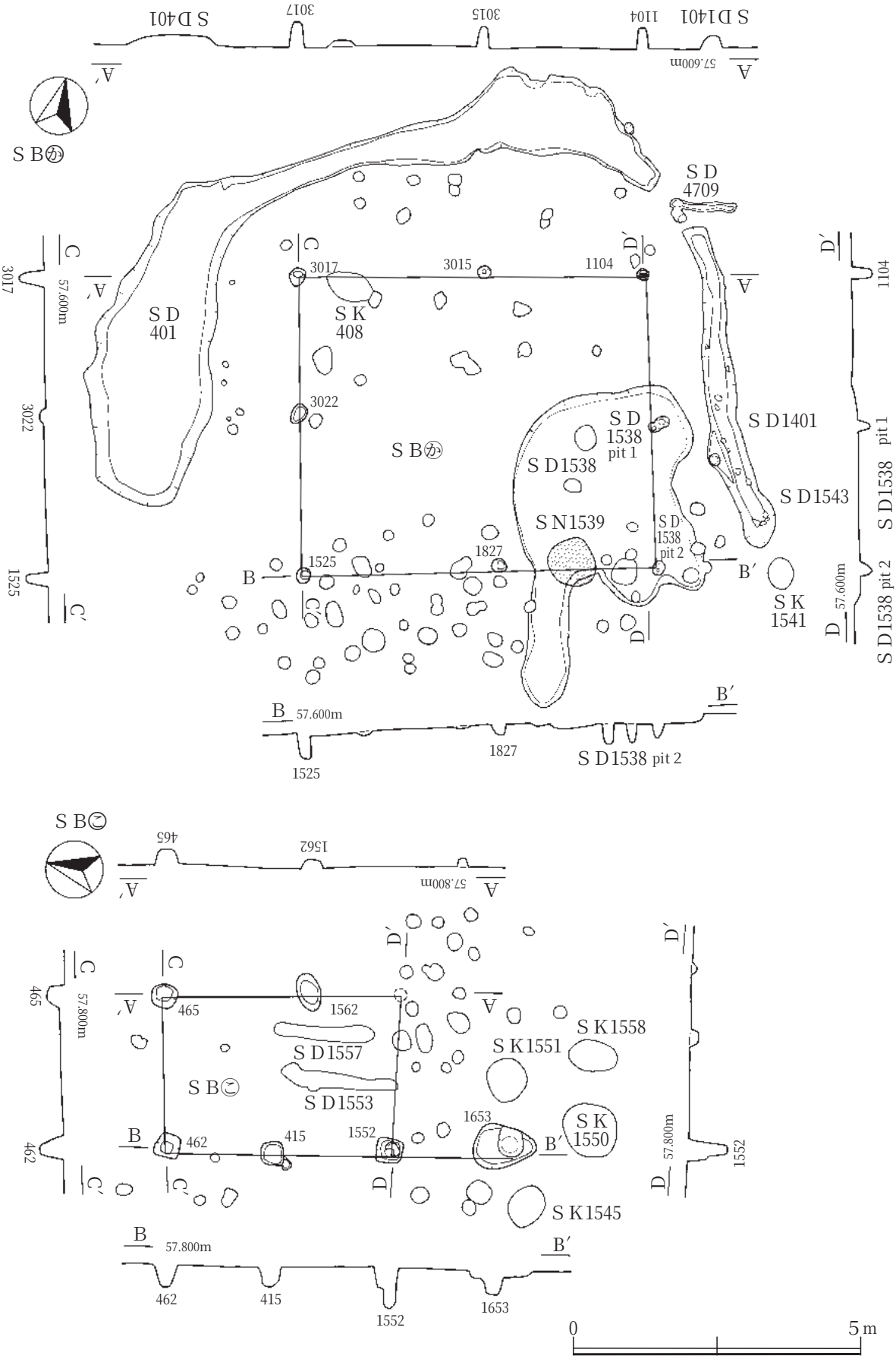
第96図　検出遺構　掘立柱建物跡(5)　平安時代以降



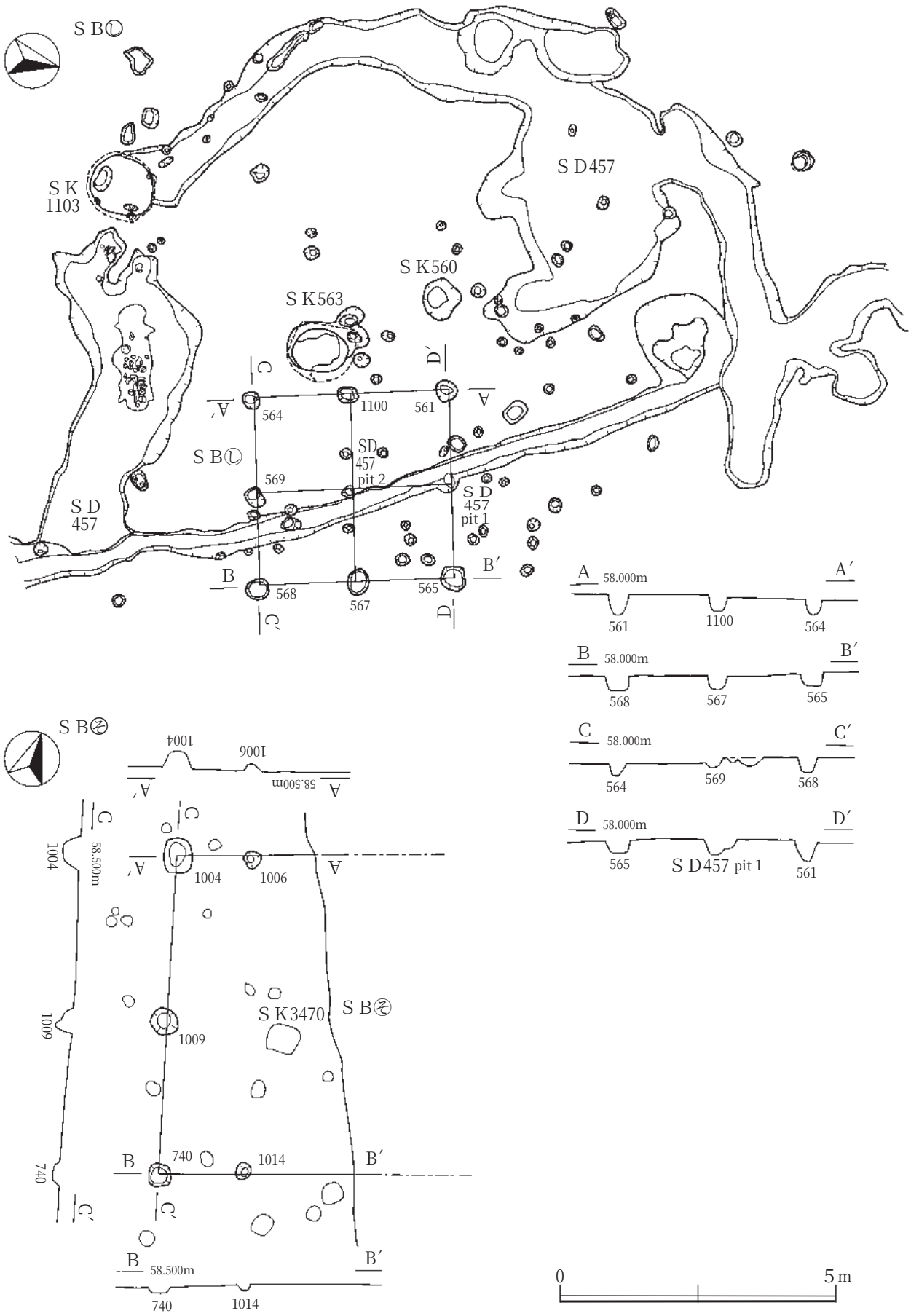
第97図　検出遺構　掘立柱建物跡(6)　平安時代以降



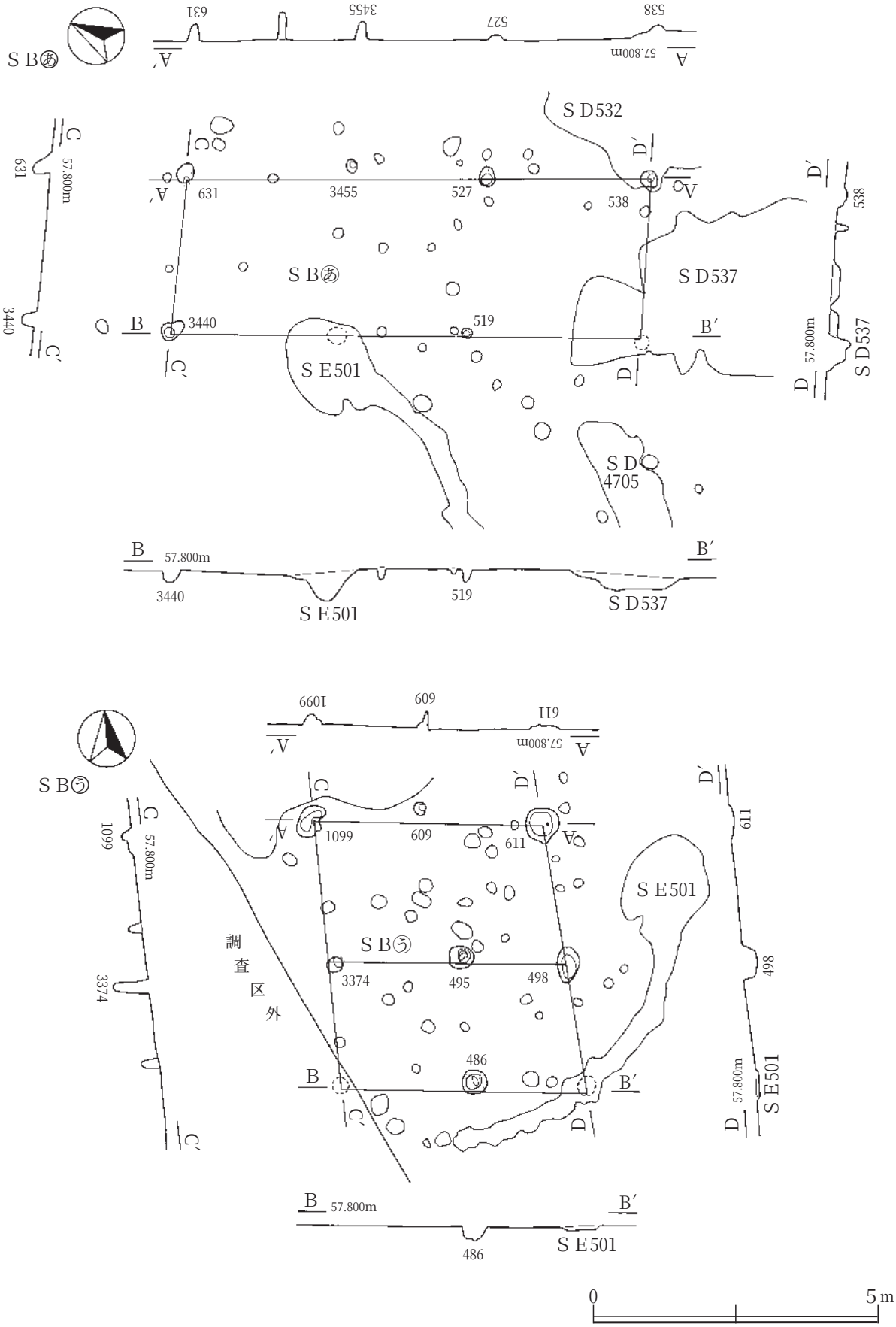
第98図　検出遺構　掘立柱建物跡(7)　平安時代以降



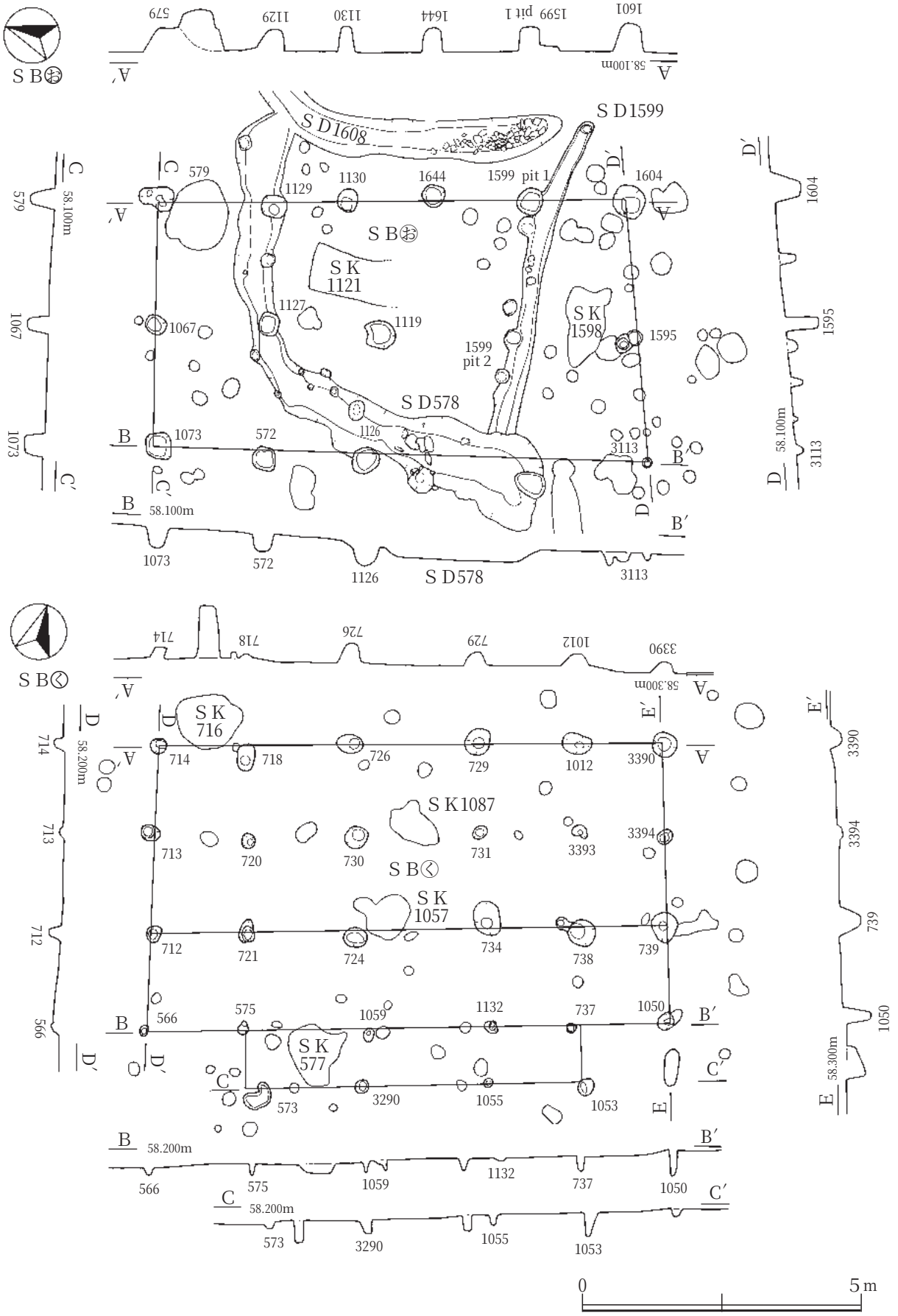
第99図　検出遺構　掘立柱建物跡(8)　平安時代以降



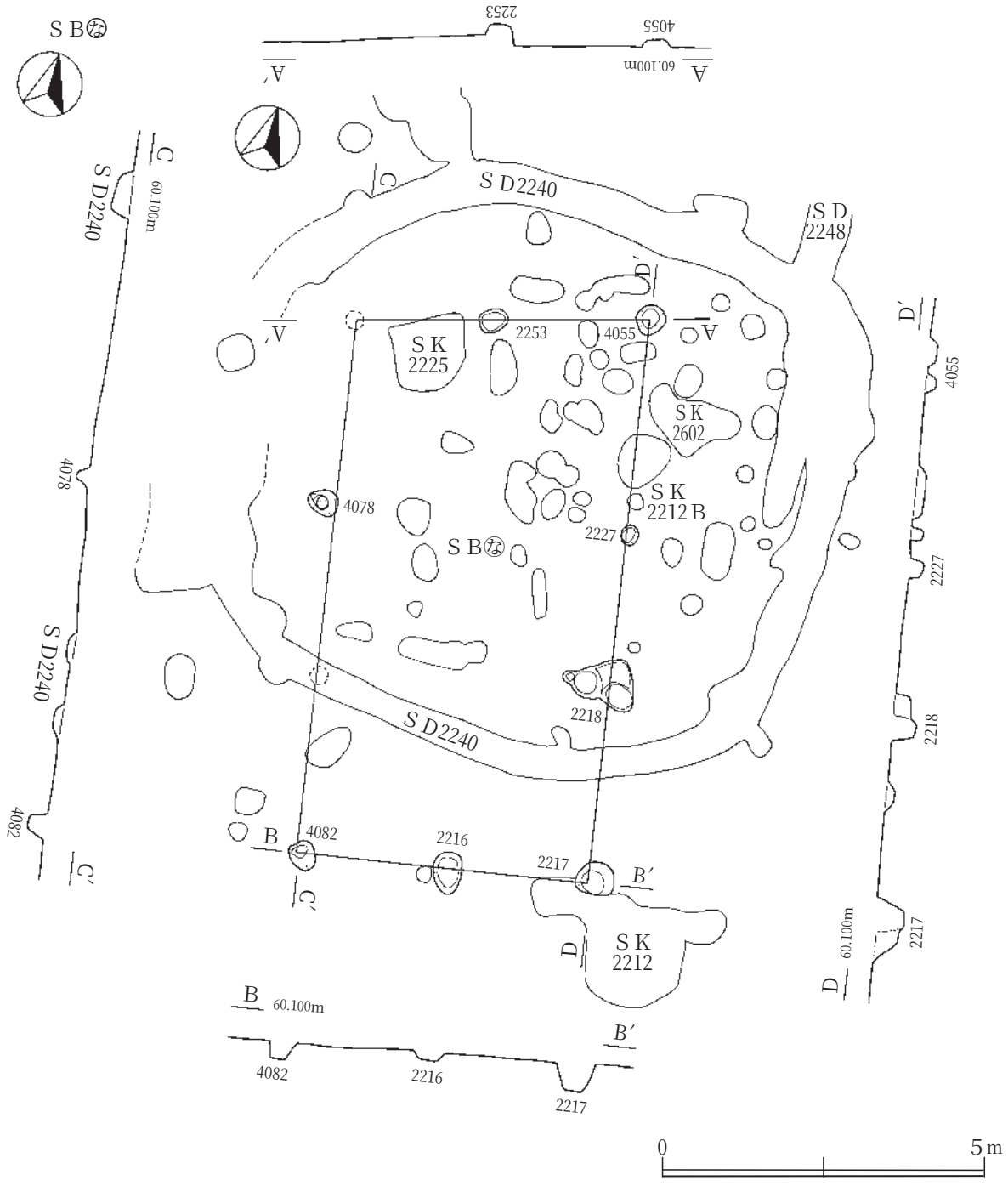
第100図　検出遺構　掘立柱建物跡(9)　平安時代以降



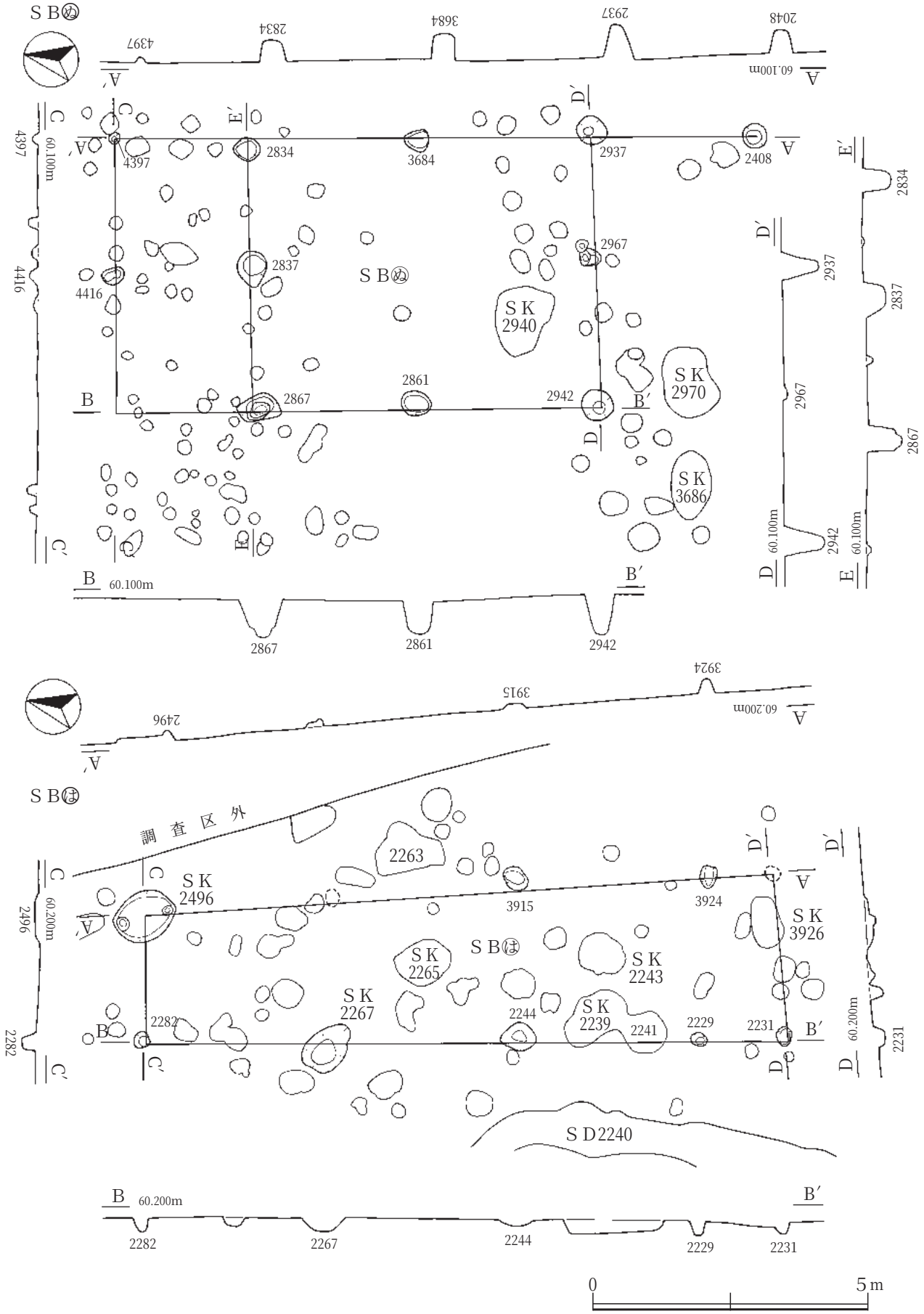
第101図　検出遺構　掘立柱建物跡⑽　平安時代以降



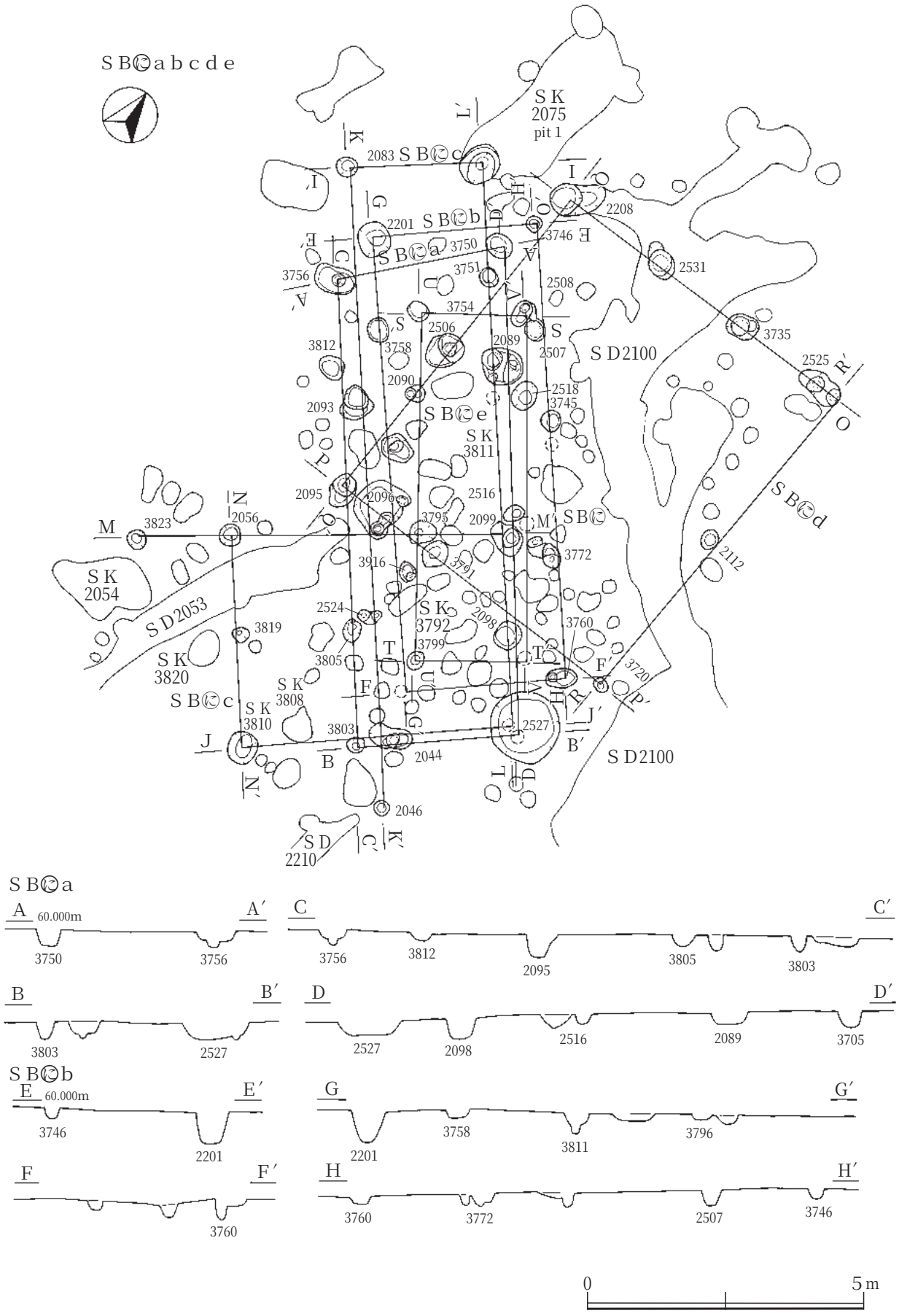
第102図　検出遺構　掘立柱建物跡(11)　平安時代以降



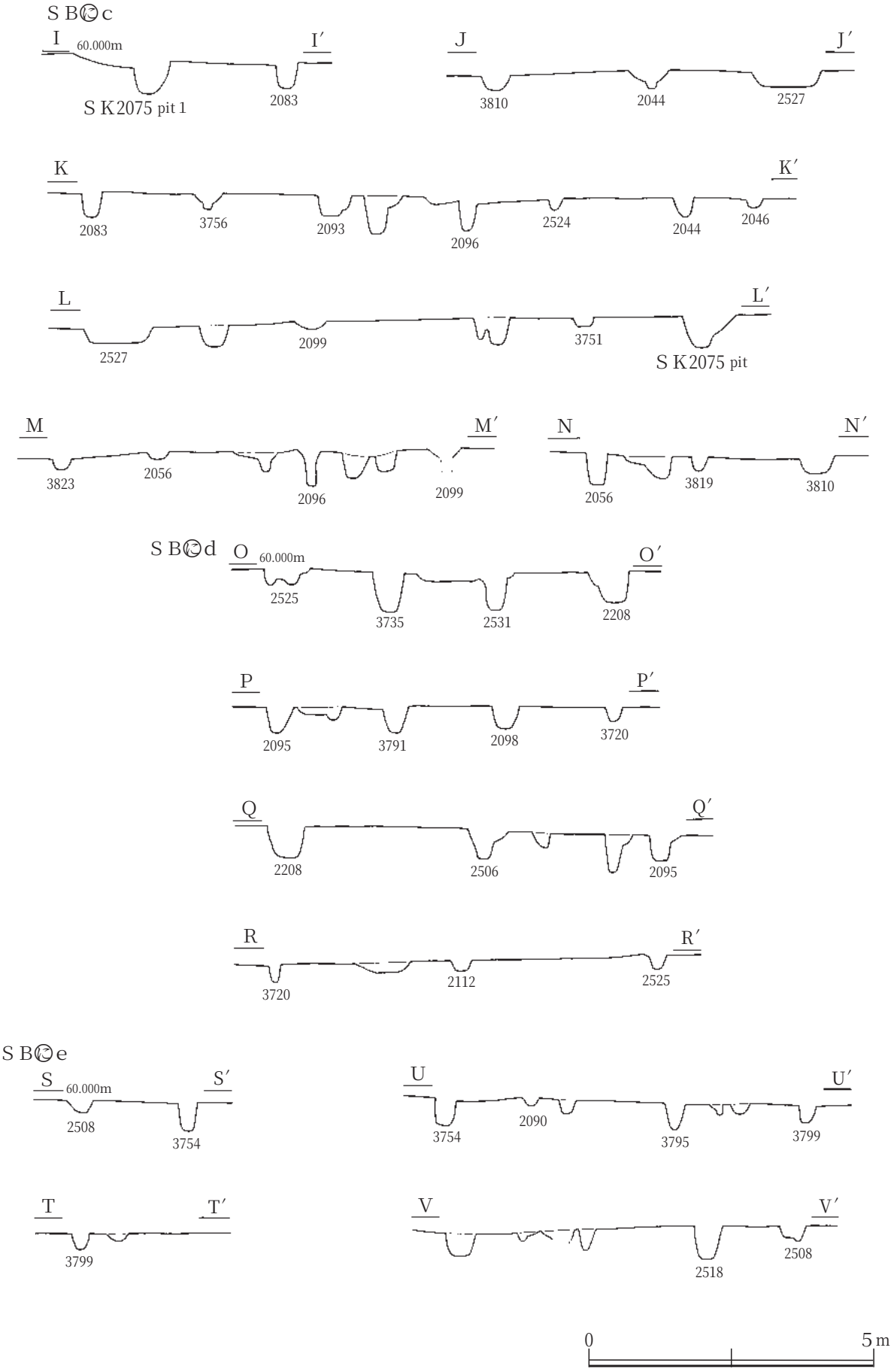
第103図　検出遺構　掘立柱建物跡⑿　平安時代以降



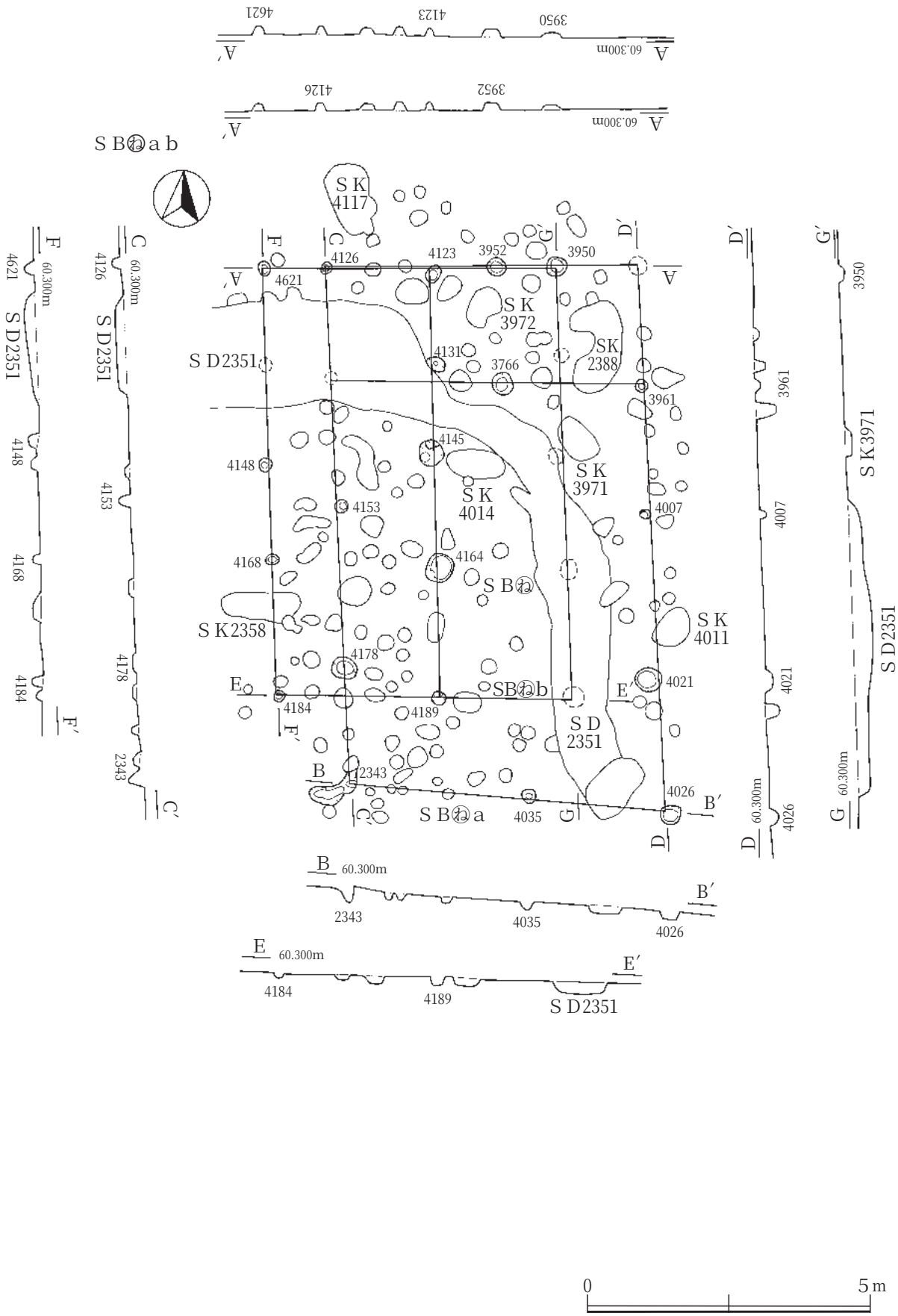
第104図　検出遺構　掘立柱建物跡⑬　平安時代以降



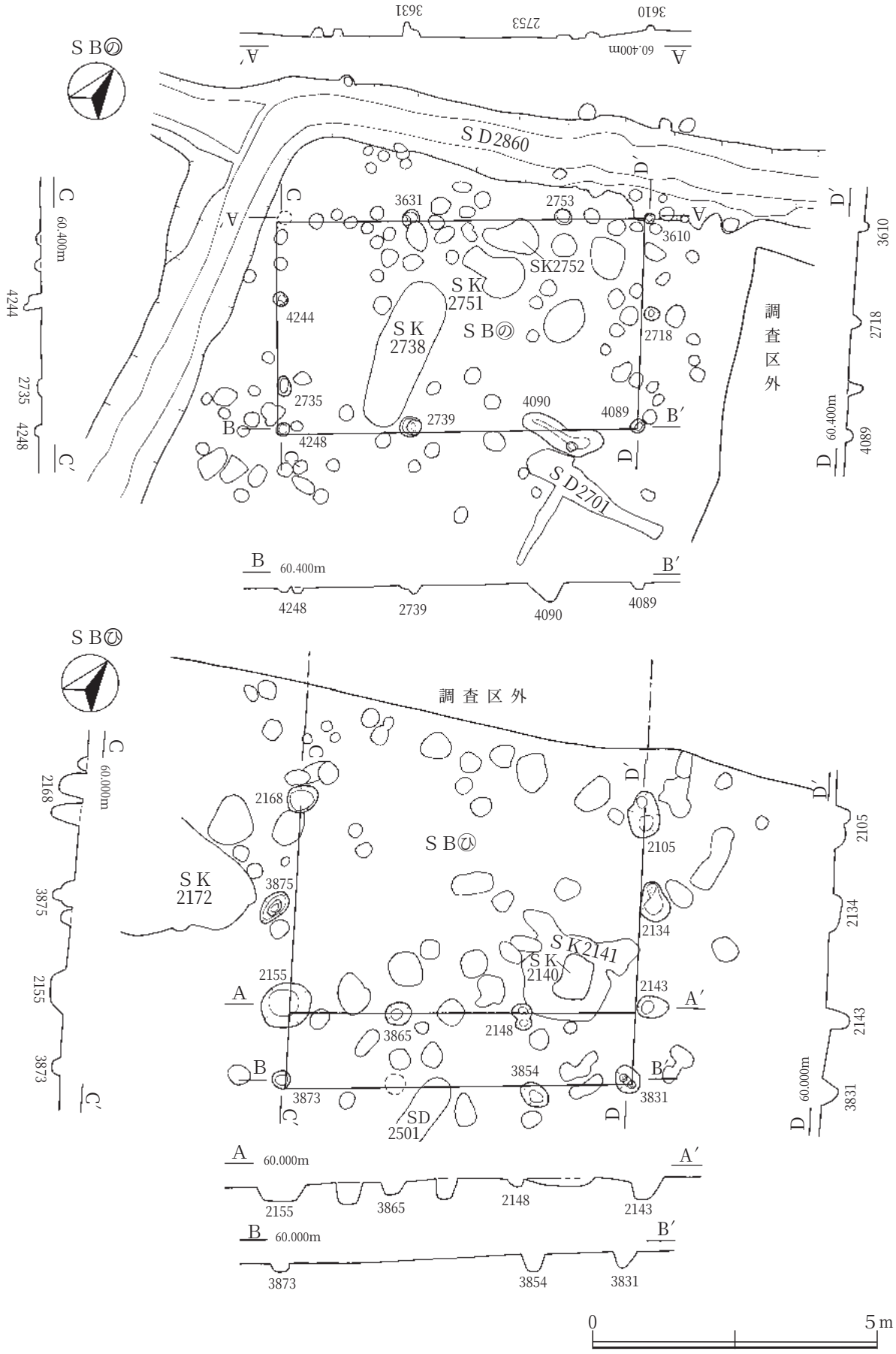
第105図　検出遺構　掘立柱建物跡⑭　平安時代以降



第106図　検出遺構　掘立柱建物跡(15)　平安時代以降



第107図　検出遺構　掘立柱建物跡⑯　平安時代以降

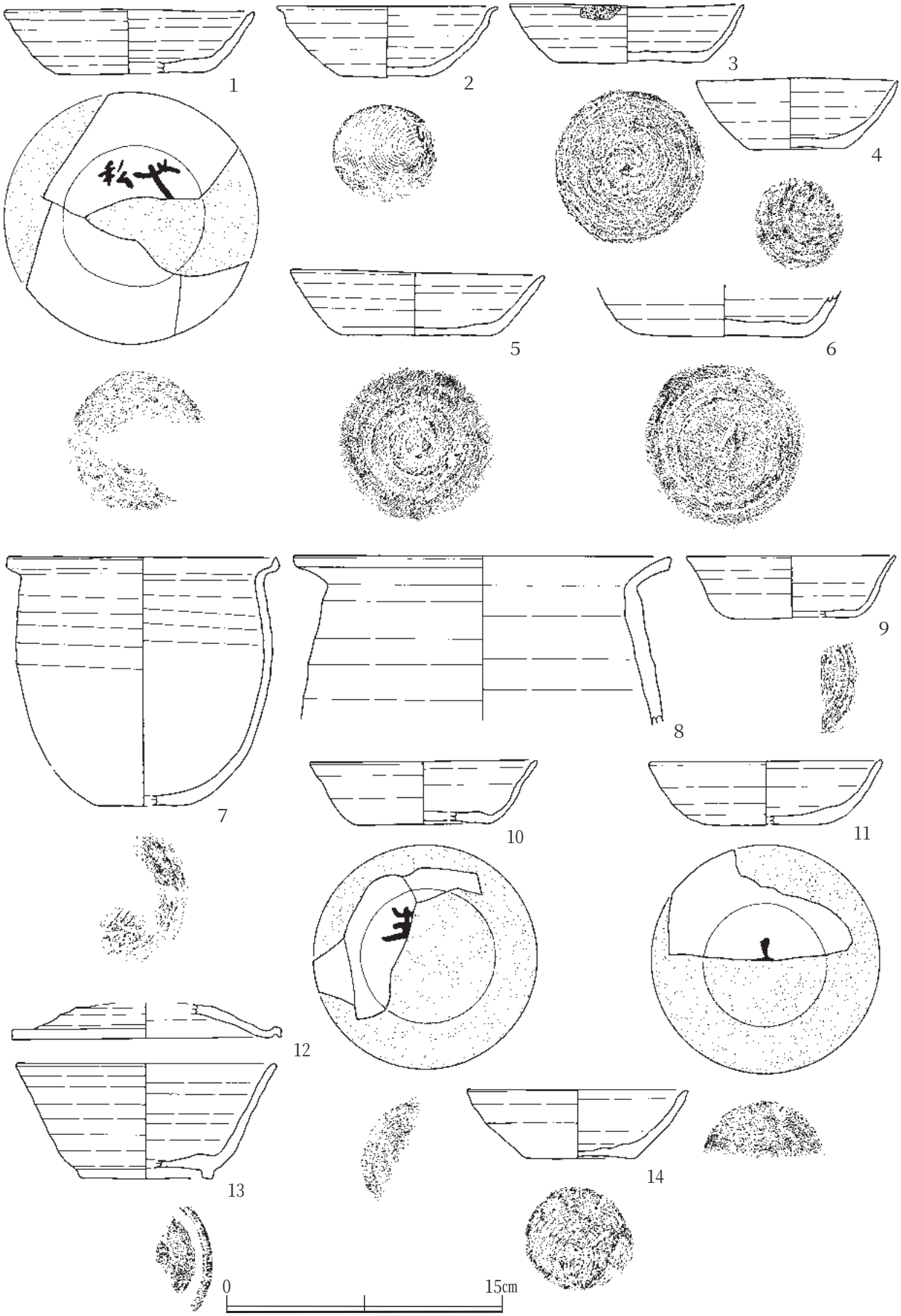


第108図　検出遺構　掘立柱建物跡⑰　平安時代以降

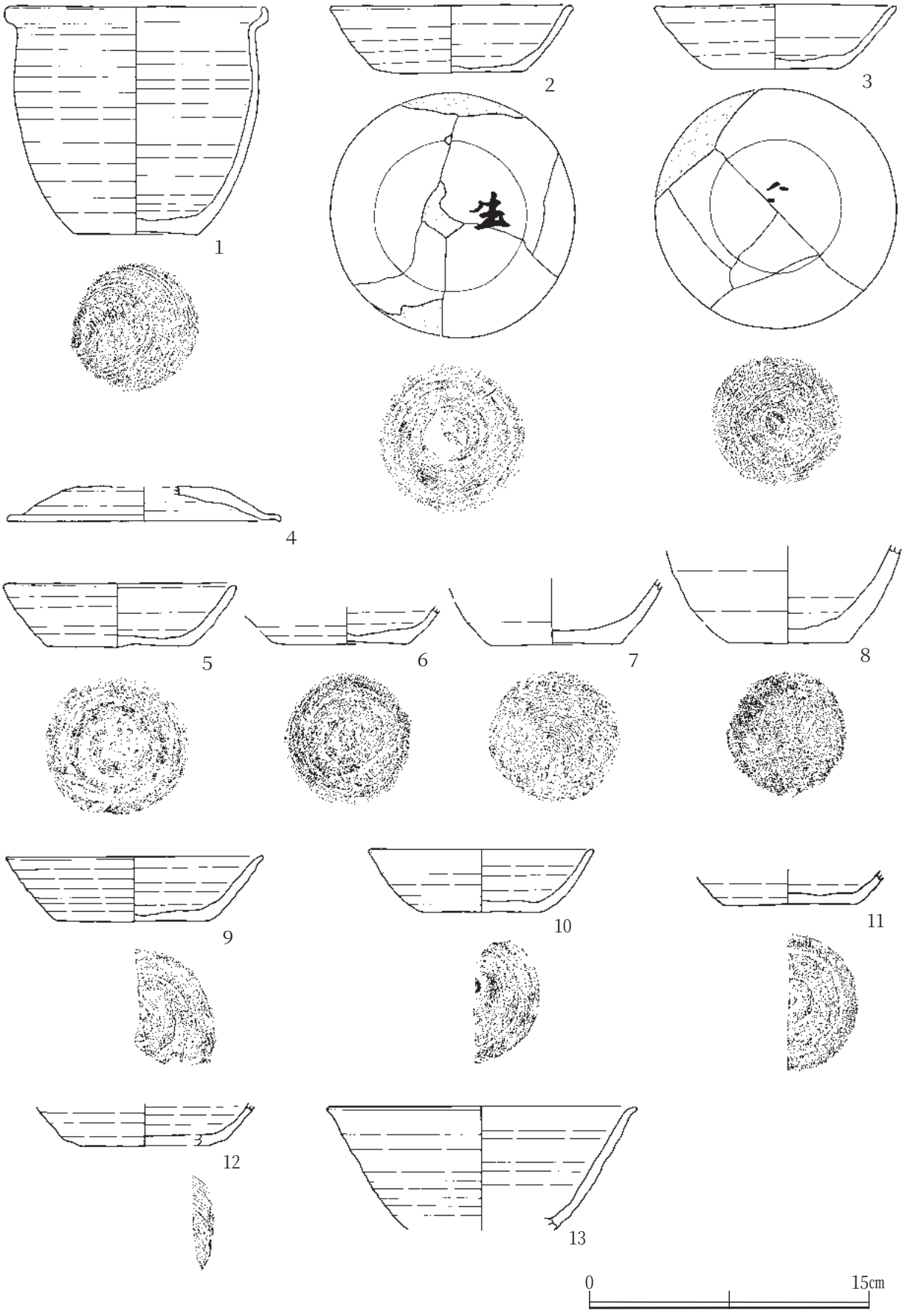
遺物一覧表　平安時代以降　土器類

出土位置	層序	器種	備考	口径(㎝)	最大径(㎝)	器高(㎝)	挿図№	遺物№
SI 112	RP1カマド・区画 C	須恵器坏	墨書,回転ヘラ切り,割	13.5	13.5	3.6	109	1
SI 112	区画 B	須恵器坏	回転糸切り	12.0	12.0	3.8	109	2
SI 112	カマド	須恵器坏	回転ヘラ切り	12.8	12.8	3.2	109	3
SI 112	RP18カマド	土師器坏	回転糸切り	10.9	10.9	3.9	109	4
SI 112	RP24カマド・RP36カマド・RP38カマド	須恵器坏	回転ヘラ切り,割	13.7	13.7	3.5	109	5
SI 112	RP1	須恵器坏	内墨,回転ヘラ切り,転用硯	—	—	—	109	6
SI 112	RP8・9・13・26・27・カマド	土師器甕	回転糸切り	14.5	14.5	13.5	109	7
SI 112	RP27カマド	土師器甕		20.4	20.4	—	109	8
SKI 90	RP11	須恵器坏	回転ヘラ切り,27と同一	(11.4)	(11.4)	3.4	109	9
SKI 90	埋土	須恵器坏	墨書,回転ヘラ切り	(12.2)	(12.2)	3.4	109	10
SKI 90	RP5	須恵器坏	墨書,回転ヘラ切り	(12.6)	(12.6)	3.5	109	11
SKI 90	RP5	須恵器蓋	回転ヘラ切り	(14.6)	(14.6)	—	109	12
SKI 90	RP1	須恵器高台坏	回転ヘラ切り	14.1	14.1	6.2	109	13
SKI 90	RP10・埋土	土師器坏	内黒,回転糸切り	(12.0)	(12.0)	3.8	109	14
SKI 74	2層	土師器甕		13.7	13.7	12.2	110	1
SKI 122	RP8・12・19	須恵器坏	墨書,回転ヘラ切り,底部穿孔	12.8	12.8	3.6	110	2
SKI 122	RP5・18	須恵器坏	墨書,回転ヘラ切り,割	13.0	13.0	3.5	110	3
SKI 122	RP27	須恵器蓋		14.7	14.7	(1.9)	110	4
SKI 122	RP10・20・焼土	須恵器坏	回転ヘラ切り,割	12.4	12.4	3.5	110	5
SKI 122		須恵器坏	回転ヘラ切り	—	—	—	110	6
SKI 122	RP21	土師器甕	回転糸切り	—	—	(3.6)	110	7
SKI 122	RP10	土師器甕	静止ヘラ切り?	—	—	(5.3)	110	8
SKI 122	RP1	須恵器坏	回転ヘラ切り	(13.8)	(13.8)	3.5	110	9
SKI 148	RP72	須恵器坏	回転ヘラ切り,割	12.3	12.3	3.4	110	10
SKI 166	RP6	須恵器坏	回転ヘラ切り,割	—	—	(1.9)	110	11
SD 141	(OA33)	須恵器坏	回転糸切り	—	—	(2.3)	110	12
SD 141	RP10	須恵器高台坏		(16.5)	(16.5)	7.9	110	13
SK 60	RP41・51・71・81	須恵器坏	回転ヘラ切り	(12.7)	(12.7)	4.0	111	1
SK 60	RP61・埋土	須恵器坏	回転ヘラ切り	12.8	12.8	3.8	111	2
SK 60	1層	土師器坏		(12.3)	(12.3)	4.6	111	3
SK 60	1層	土師器坏		(12.5)	(12.5)	4.7	111	4
SK 61	RP5・73	須恵器坏	墨書,回転ヘラ切り,内付着物,割	12.7	12.7	3.7	111	5
SK 61A	RP19	須恵器坏	墨書,回転ヘラ切り	(13.6)	(13.6)	3.7	111	6
SK 61	RP17	須恵器高台坏	回転糸切り→高台	14.2	14.2	7.1	111	7
SK 61	1層	須恵器坏	回転ヘラ切り	(12.6)	(12.6)	2.9	111	8
SK 61	1層，61A RP34，61B	須恵器坏	回転ヘラ切り,内付着物,割	13.2	13.2	3.9	111	9
SK 61	2層，61A RP11・16	須恵器高台坏	回転ヘラ切り,割	10.0	10.0	5.6	111	10
SK 61	RP8・2層	須恵器坏	回転ヘラ切り,割	(13.2)	(13.2)	3.6	111	11
SK 61A	RP35	須恵器坏	回転ヘラ切り	(12.7)	(12.7)	3.5	111	12
SK 61A	RP2・9・10・22・25・30・32・33，SD151(NS34)	土師器甕		(23.6)	(23.6)	(16.1)	111	13
SK 1558		土師器坏	回転糸切り	—	—	(3.5)	111	14
SK 1625	RP5	須恵器坏	回転ヘラ切り	(13.5)	(13.5)	—	111	15
SK 1625	RP2	土師器坏	回転糸切り	(12.0)	(12.0)	4.8	111	16
SK 1629	RP1	須恵器甕		—	—	—	112	1
SK 1639	RP6	土師器坏	回転糸切り	12.3	12.3	4.2	112	2
SK 1639	RP?	土師器坏	回転糸切り,内黒	(14.3)	(14.3)	4.6	112	3
SK 1639	RP4	土師器坏	回転糸切り	(12.0)	(12.0)	4.9	112	4
SK 1639	RP3・5	土師器坏	回転糸切り	11.7	11.7	4.3	112	5
SK 1639	RP15	土師器坏		(12.3)	(12.3)	4.0	112	6
SK 1639	RP1	土師器坏	回転糸切り	11.6	11.6	4.2	112	7
SK 1639	RP13	土師器坏	回転糸切り	12.1	12.1	4.2	112	8
SK 1639	RP5	土師器坏	回転糸切り,付着物	(11.5)	(11.5)	3.7	112	9
SK 1639	RP12	土師器坏	回転糸切り	(12.2)	(12.2)	4.2	112	10
SK 1639	RP8・9	土師器高台坏	回転糸切り→高台	14.5	14.5	6.8	112	11
SK 1643	RP15	須恵器坏	墨書,回転糸切り,16と同一	(13.0)	(13.0)	(4.3)	112	12
SK 1643	RP17・76	須恵器坏	回転ヘラ切り	(13.5)	(13.5)	(6.5)	112	13
SK 1643	RP10	須恵器坏		—	—	—	112	14
SK 1643	RP36	土師器甕					112	15
SD 27	(NR35)	須恵器坏	回転糸切り	—	—	—	112	16

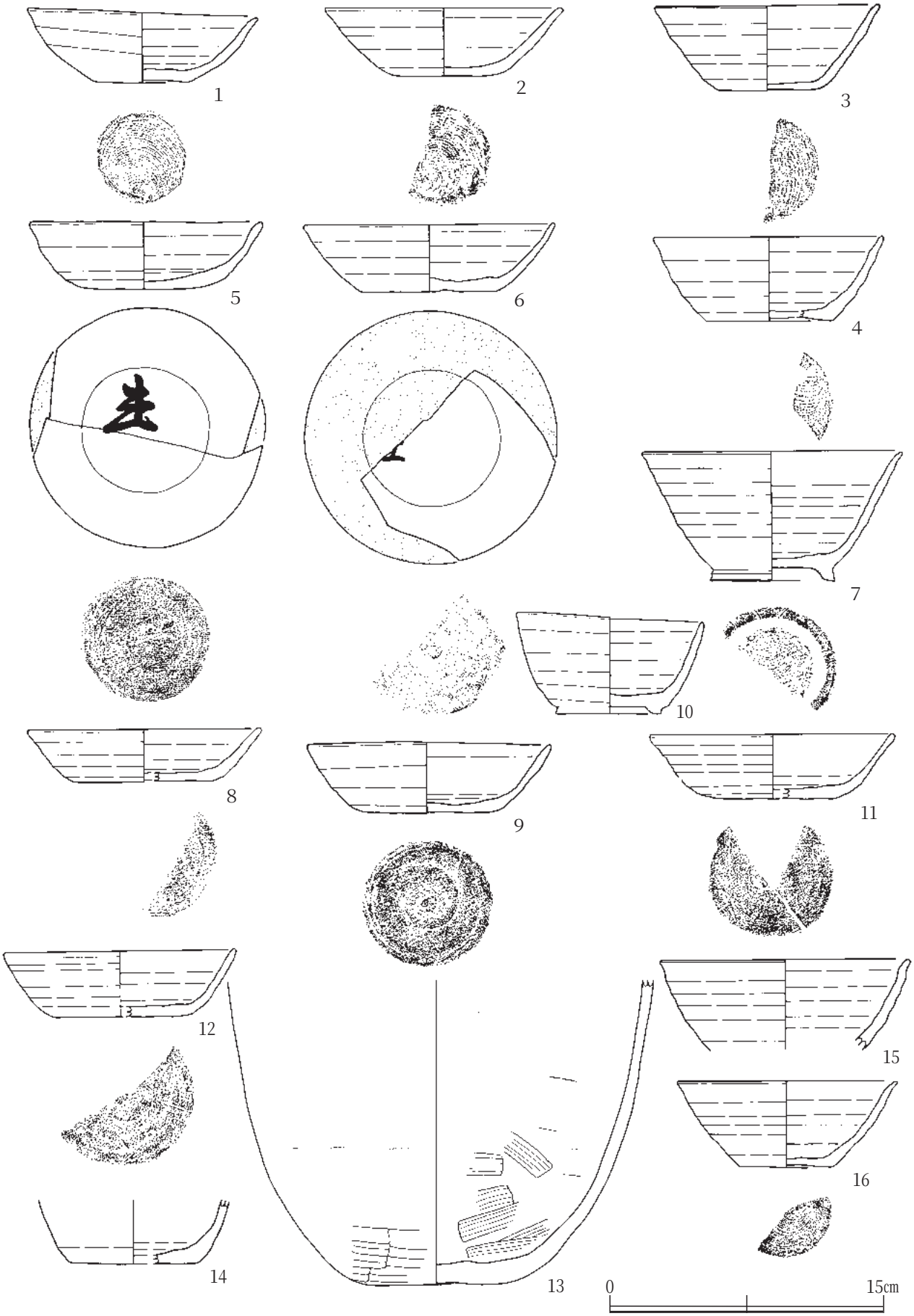
出土位置	層序	器種	備考	口径(㎝)	最大径(㎝)	器高(㎝)	挿図№	遺物№
SD 151	(NS34)	土師器高台坏		—	—	(3.1)	112	17
SD 1609	S6の下の RP9	須恵器坏	自然釉	—	—	—	112	18
SD 1626	RP1	須恵器蓋		—	—	—	112	19
SD 3683	(MJ59)	須恵器甕		—	—	—	112	20
SX 2172	RP4	土師器坏	回転糸切り	—	—	—	113	1
SK 2172	RP2	土師器甕	付着物	—	—	(4.3)	113	2
SK 2172		土師器坏	回転糸切り,付着物	—	—	2.9	113	3
SK 2172	RP1	土師器甕		—	—	5.4	113	4
SK 2172		土師器甕	底部穿孔?	(14.7)	(14.7)	12.8	113	5
SK 2172	RP3	土師器甕					113	6
SK 2172	RP6	土師器甕		21.6	21.6	30.6	113	7
SD 85C	RP1･2･3･5･7･8･9･24･焼土, 85B RP8･9･10	須恵器甕	付着物	17.5	17.5	28.8	114	1
SKP 365		須恵器高台坏	回転ヘラ切り	—	—	(3.4)	114	2
SKP 365		土師器坏	回転糸切り	(10.9)	(10.9)	4.9	114	3
SKP 373	RP1･2	須恵器甕		—	—	—	114	4
SKP 143	RP80	土師器甕		—	—	—	114	5
SKP 709	RS4	須恵器甕		—	—	(6.2)	114	6
SKP 1587		須恵器坏	回転糸切り	12.4	12.4	3.8	114	7
SKP 2610	RP4	須恵器甕		—	—	—	115	1
SKP 2610	RP1	土師器坏	回転糸切り	13.0	13.0	4.9	115	2
SKP 2610	RP1	土師器甕		(20.3)	(20.3)	—	115	3
SKP 2610	RP1	土師器甕		(22.4)	(22.4)	—	115	4
MN 62	Ⅰ	須恵器甕		—	—	—	115	5
MN 62	Ⅰ	須恵器甕		—	—	—	115	6
MH 52	Ⅰ	須恵器甕		—	—	—	115	7



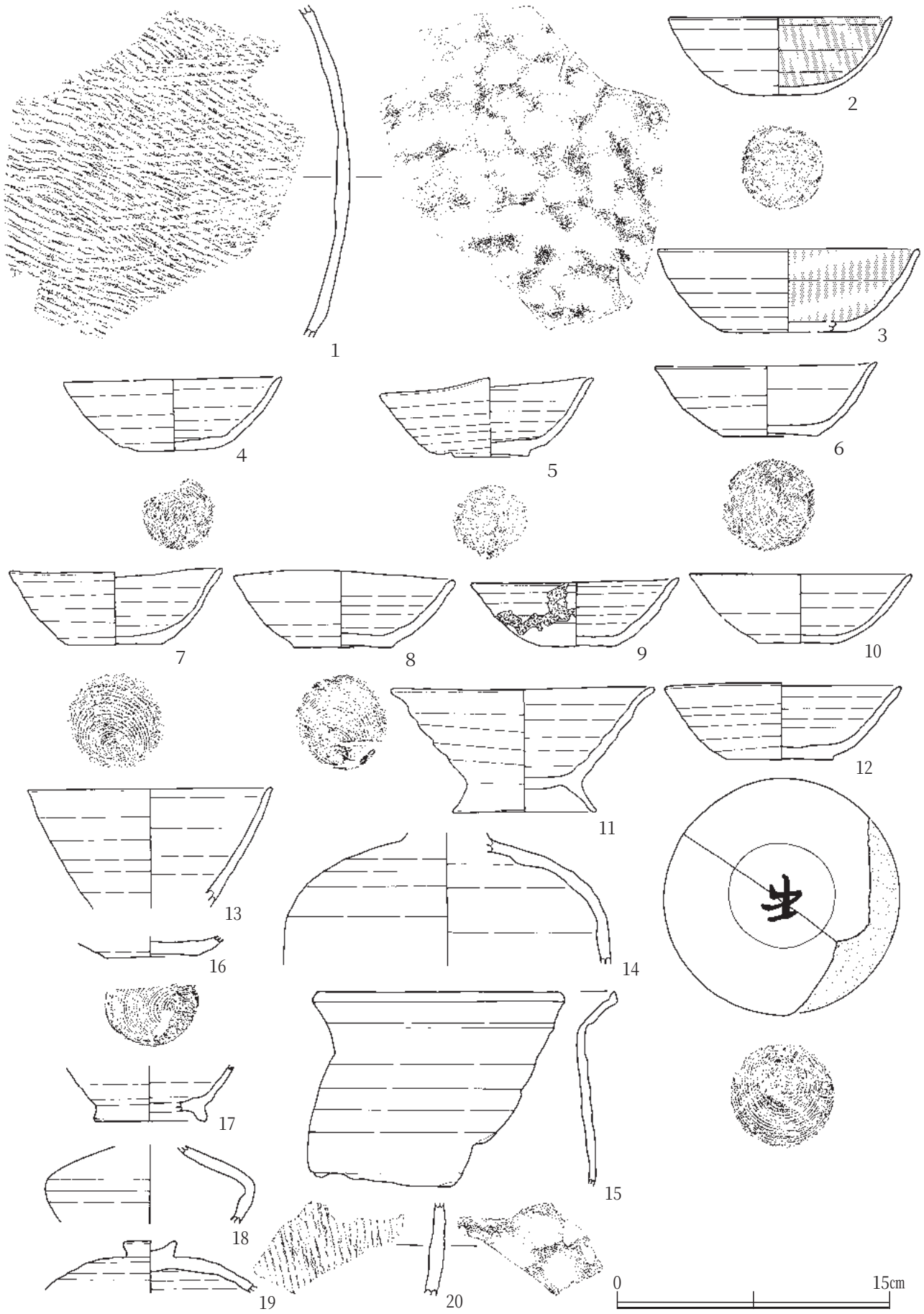
第109図　遺構内出土遺物　土器(1)　平安時代以降



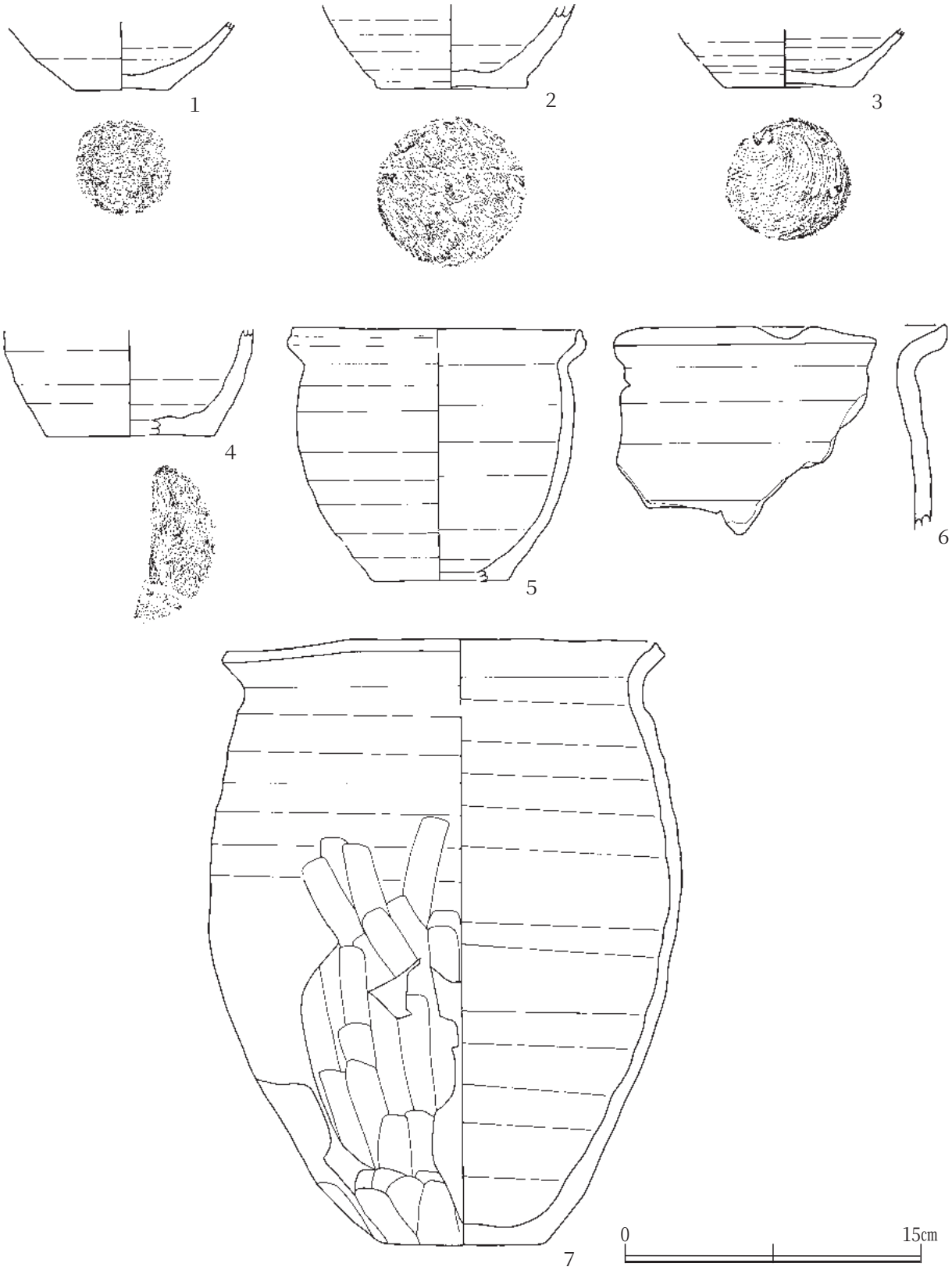
第110図　遺構内出土遺物　土器(2)　平安時代以降



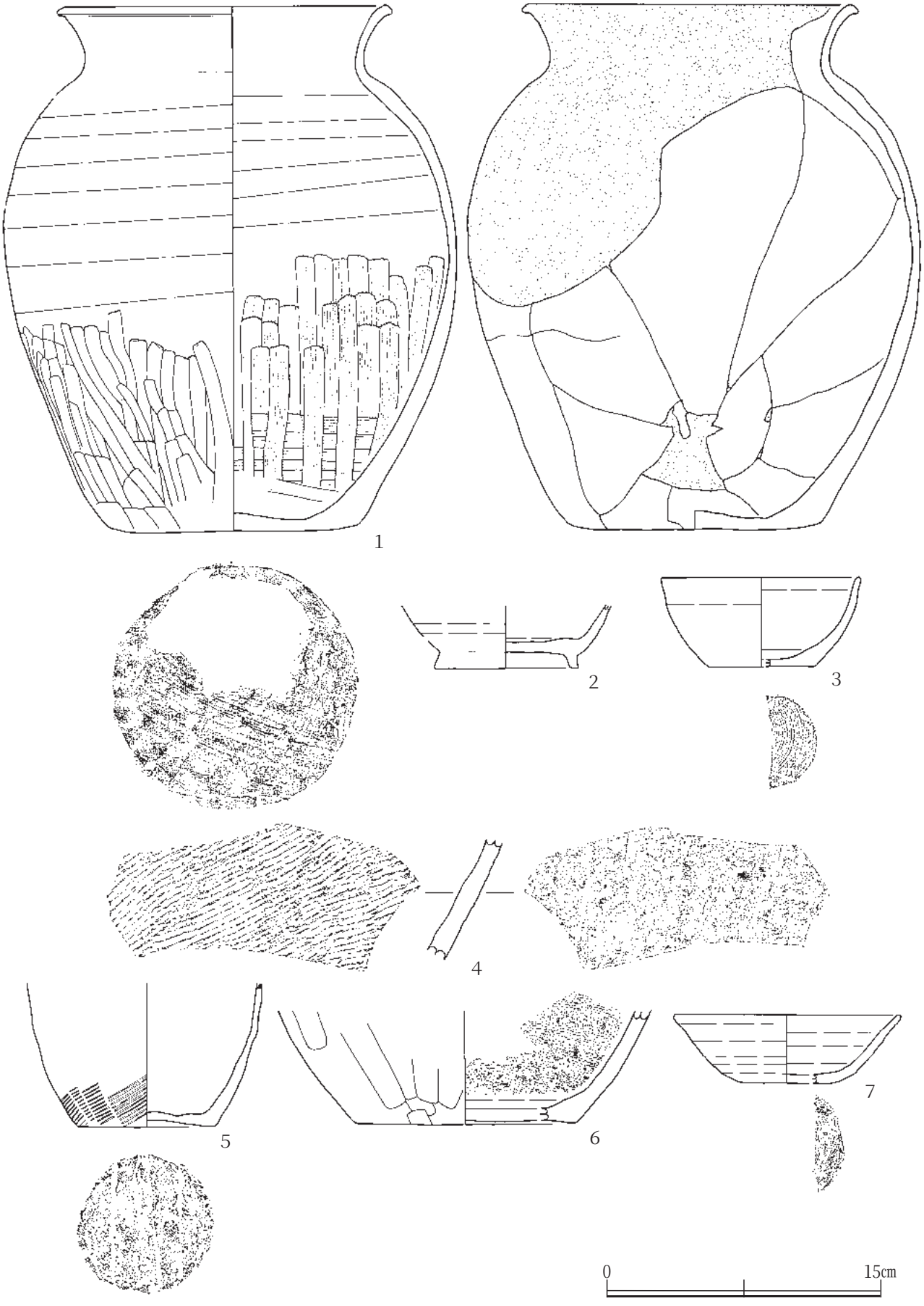
第111図　遺構内出土遺物　土器(3)　平安時代以降



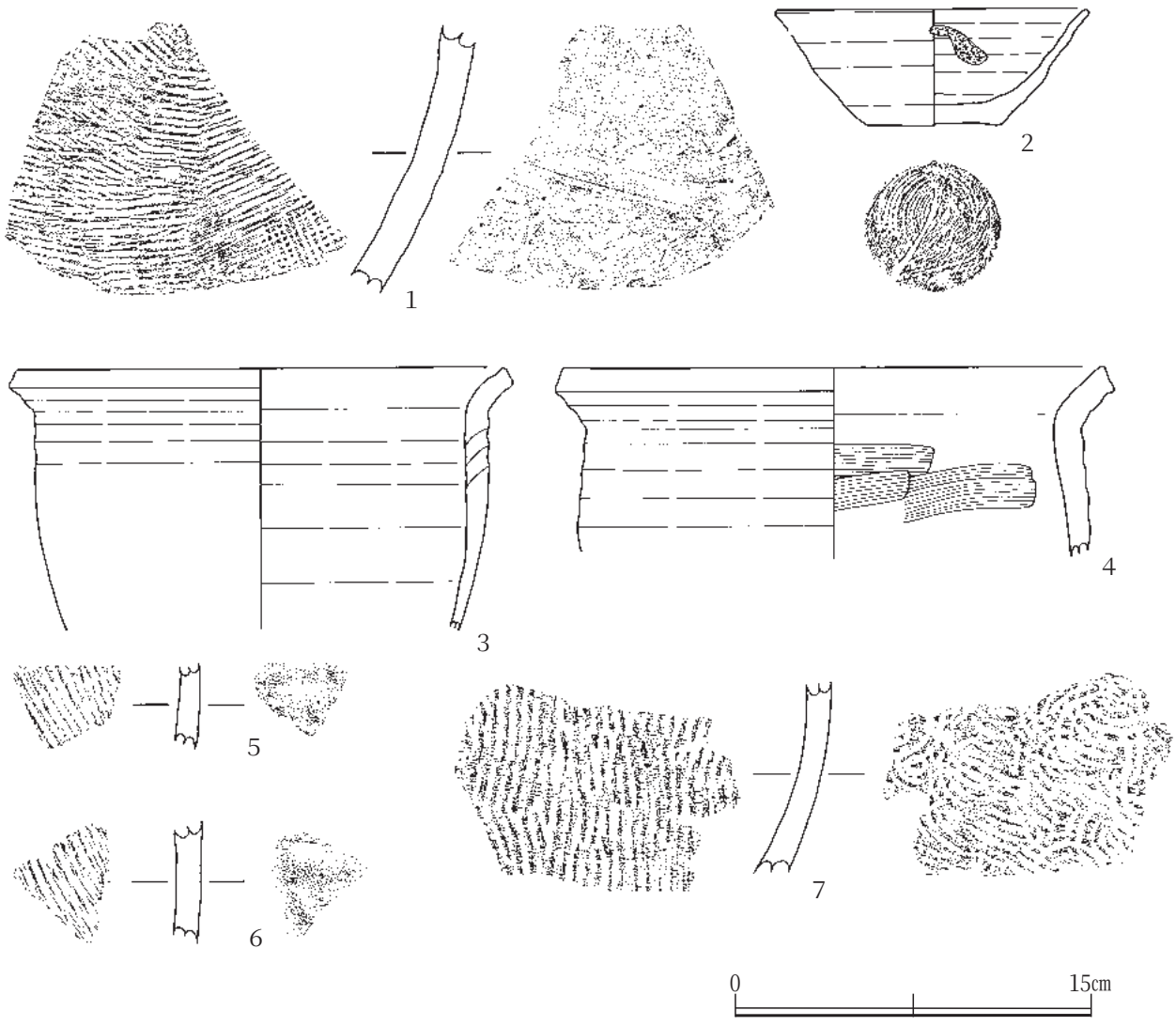
第112図　遺構内出土遺物　土器(4)　平安時代以降



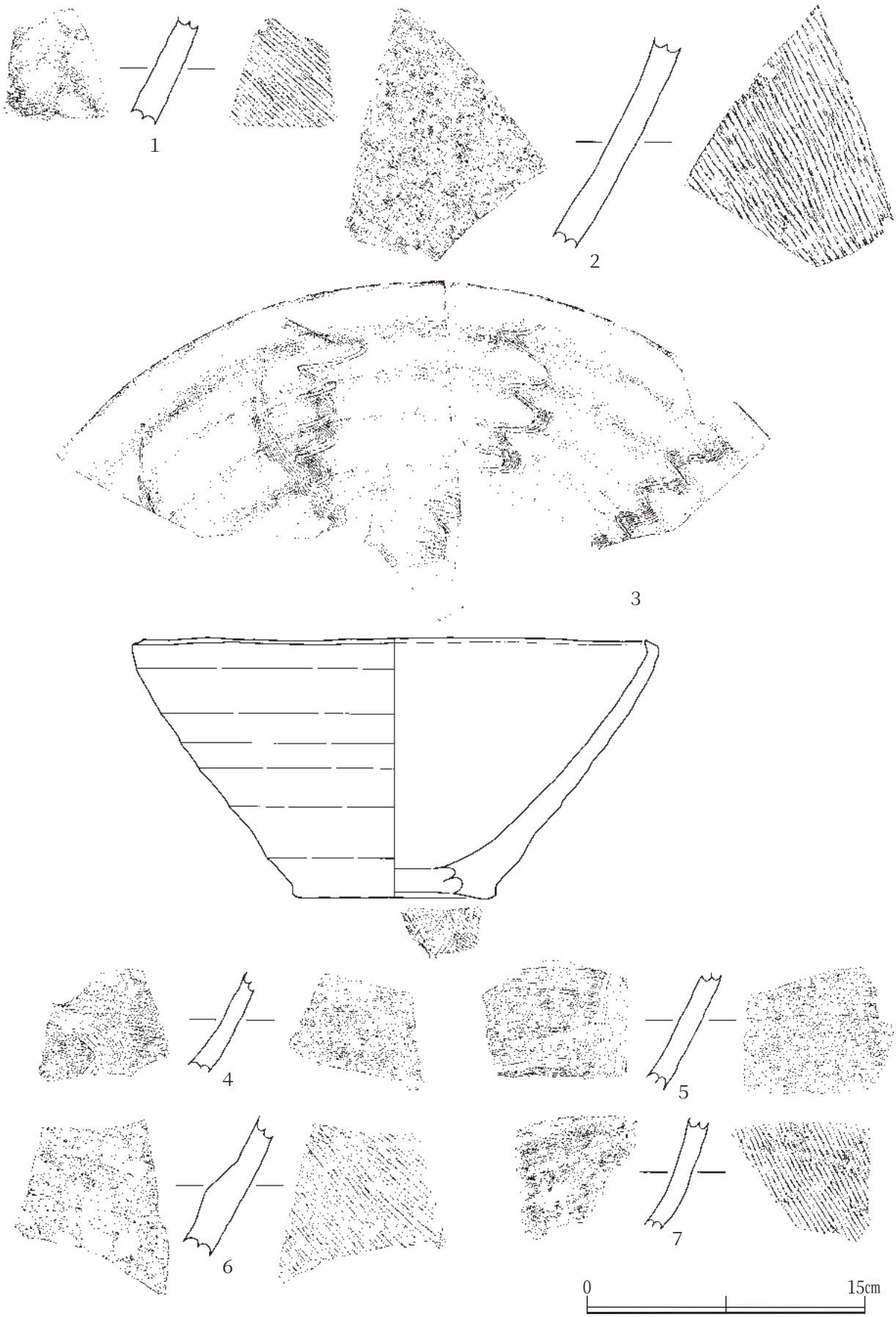
第113図　遺構内出土遺物　土器(5)　平安時代以降



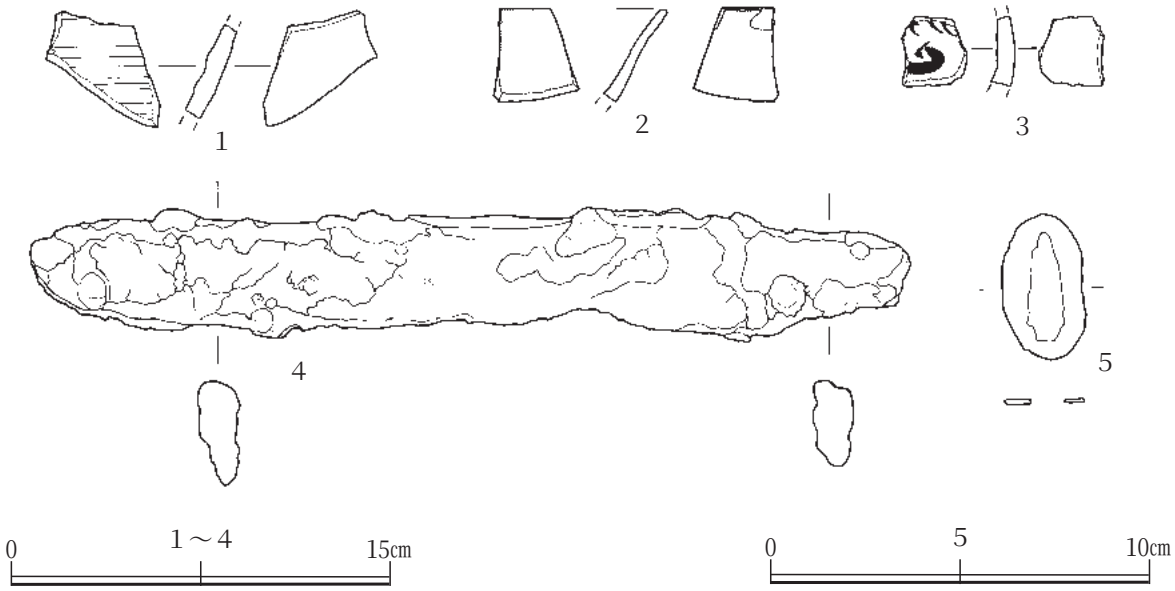
第114図　遺構内出土遺物　土器(6)　平安時代以降



第115図　遺構内外出土遺物　土器　平安時代以降



第116図　遺構内外出土遺物　陶器　平安時代以降



第117図　遺構内外出土遺物　その他の遺物　平安時代以降

平安時代以降　須恵器系中世陶器

出土位置	層序	器種	分類	備考	挿図№	遺物№
SD 27	NT39	甕			116	1
SKS 2211	RP	甕			116	2
SKS 2211	RP17･20･40	擂鉢	Ⅱ		116	3
SD 2378	(MI)	擂鉢	Ⅱ		116	4
SD 2378	(MI54)	擂鉢	Ⅱ		116	5
SD 2860	3層	甕			116	6
MM 61	Ⅰ	甕			116	7

平安時代以降　輸入陶磁器

出土位置	層序	器種	分類	備考	挿図№	遺物№
SKS 2211	埋土	白磁壺	Ⅲ	c12後,四耳壺	117	1
SKP 2209		青磁椀	Ⅰ1	c12後,龍泉	117	2
MR 57	Ⅰ	青磁椀	Ⅰ3	c12後,龍泉	117	3

平安時代以降　鉄製品

出土位置	層序	日付	器種	備考	最大長(㎝)	幅(cm)	厚(cm)	挿図№	遺物№
SK 74付近	RI11	000701	刀子?		34.7	5.3	―	117	4
SKP 2498		000926	切羽		3.8	2.2	0.1	117	5

縄文時代の土地利用は東側調査区周辺に限定されるようである。

①土器

１）縄文時代後期の土器

ＳＴ2200捨て場の最下層である漸移層、７層直下でごく少量出土した。東側調査区周辺の土地利用の開始時期が縄文時代後期まで遡ることを示している。

２）縄文時代晩期の土器

出土土器のほとんどは縄文時代晩期中葉～後葉に帰属する。

ａ）器種・器形

浅鉢形土器は、緩やかに湾曲して立ち上がる器形を呈するが、平底（Ⅰ類）のものと丸底（Ⅱ類）とがある。

鉢・深鉢形土器は次の３つの形態を呈する。また大型の把手状の突起を一つ持つ鉢形土器も特徴的である。

Ⅰ類　胴～頸部に括れをもち頸部・口縁部が外傾するもの。

Ⅱ類　胴部が若干膨らみながらそのまま口縁部に至る器形で口縁部は直立するか内湾する。

Ⅲ類　口縁部が屈曲して外傾または外反するもの。

壺形土器は次の３つの形態を呈する。口縁部～頸部のミガキが顕著である。

Ⅰ類　口縁部に隆帯・突起・装飾等を附す広口壺。

Ⅱ類　口縁部が同様で、所謂細口壺。

Ⅲ類　口縁部が単純に立ち上がるもの。

注口土器は、頸部の傾きのままに口縁にいたる（Ⅰ類）ものと、頸部の上に受け皿状の口縁部がつく（Ⅱ類）ものとがある。

小型土器その他では、土器蓋、ミニチュア土器、切断土器、器台等が出土した。

ｂ）文様

文様は次の３つに大別することができる。

１類　羊歯状文が簡略化され、横位に連続する方形の珠文状文様や、ミガキを多用する磨消縄文の曲線的な雲形文を主体とするもの。

２類　珠文状文様が列点化したもの、あるいはこれも省き単に多重の平行沈線が施されるもの。主に横位に延びる簡略化した雲形文。

３類　工字文を主体とするもの。

②土製品

土偶は中空であるが、破片のため詳細は不明である。第35図１は石冠様の形態を呈する土製品である。その他キノコ形土製品・球形土製品・土版・有孔土製品が出土した。

③石器

形態により分類したものおよび特記する石器は次のとおりである。そのほか磨製石斧・磨石・敲石・凹石・石錘・石皿が出土した。

石鏃

Ⅰ類　平面形が水滴形で茎を有するもの。

Ⅱ類　平面形が二等辺三角形を呈し、基部に茎を有するもの。

Ⅲ類　その他の形態を呈するもの。

石槍

Ⅰ類　尖頭部・基部ともに尖るもの。

Ⅱ類　基部が丸みをもつもの。

Ⅲ類　その他の形態を呈するもの。

石錐

Ⅰ類　表裏全面に調整が施され、一方の先端に鋭い錐部、その反対側につまみ部が作出されたもの。

Ⅱ類　全体の形状が棒状を呈するもの。

Ⅲ類　不整形の剥片の２～３辺に二次調整を加え、鋭い錐部を作出したもの。

箆状石器　平面形が楔形、あるいは短冊形・小判形など、いわゆるヘラ状を呈し、一端に刃部が作出された石器である。

Ⅰ類　平面形が、基部側よりも刃部側で幅広のもの。

Ⅱ類　両側縁が並行するもの。

石匙　両側縁から抉りを入れてつまみ部を作出し、主として片面からの加撃によって刃部を作出した石器である。

Ⅰ類　つまみ部の中軸線にほぼ並行する刃部を持つもの。

Ⅱ類　つまみ部の中軸線に斜行する刃部中軸線を持つもの。

Ⅲ類　つまみ部の中軸線にほぼ直行する刃部中軸線を持つもの。

削器　大小の剥片の側縁に、連続的な二次調整によって刃部を作出した石器である。

Ⅰ類　剥片の１側縁に直線的な刃部を作出したもの。

Ⅱ類　剥片の１側縁に弧状の刃部を作出したもの。

Ⅲ類　剥片の２側縁に刃部を作出したもの、その他の形状のものを一括した。

掻器　分厚い剥片の一端に片面調整による急斜度の刃部を作出した石器である。

Ⅰ類　剥片の一端にU字形の刃部を作出したもの。

Ⅱ類　剥片の一端に直線的な刃部を作出したもの。

④石製品

石棒・石刀・石剣類、岩版のほか、円盤状石製品・半球状石製品・有孔石製品が出土した。

２　平安時代

①須恵器

須恵器は坏・蓋・壺・甕が出土した。坏底部は回転ヘラ切り・回転糸切りで切り離されている。

坏では墨書土器が８点出土し、「生」・「私」・「丈」などがある。「私」・「丈」については、「私部」(きさいべ)・「丈部」(はせつかべ) であると、山形大学人文学部の三上喜孝助教授にご教

示頂いた。これらは意図的に底部から割られた様相を呈する。

壺甕類は破片が多いが、ＳＤ85ｃ出土の第114図１は、意図的に割られて埋納されていた。出土地点は道路遺構の側溝で、新旧の重複のある第１期の道路遺構の側溝から出土したことから、道路の付け替えに伴う地鎮等の祭祀に係り埋納された可能性が高い。

②土師器

土師器は坏・甕が出土した。灯明皿として使われた坏の破片が目立つ。

③鉄製品

ＳＢ㋕ａｂ掘立柱建物跡は工房であると考えられ、内部に位置するＳＫＩ74はその施設のひとつである。ＳＢ㋕ａｂ内でＳＫＩ74に近接する場所で刀子様の鉄製品が出土しており、同時期の所産であると思われる。

３中世

①輸入陶磁器

龍泉窯系青磁Ｉ１類、Ｉ３類の椀の破片が出土した。またＳＫＳ2211土壙墓からは白磁壺のⅢ系の破片が出土し、Ⅱ期の須恵器系中世陶器擂鉢が共伴した。

②国産陶磁器

須恵器系中世陶器はⅡ期に係る擂鉢の破片のほか、壺甕類の破片が若干出土した。

③鉄製品

切羽（刀に鍔を固定する金具）が出土した。

第５章　自然科学的分析

放射性炭素年代測定

山形　秀樹（パレオ・ラボ）

前通遺跡から出土した炭化材試料10点の放射性炭素年代を AMS 法にて測定した。測定結果と暦年代較正して得られた結果は分析表１に記載した。

放射性炭素年代測定について

試料は、酸・アルカリ・酸洗浄を施して不純物を除去し、石墨（グラファイト）に調整した後、加速器質量分析計（AMS）にて測定した。測定された^{14}Ｃ濃度について同位体分別効果の補正を行った後、補正した^{14}Ｃ濃度を用いて^{14}Ｃ年代を算出した。

なお、^{14}Ｃ年代値（yrBP）の算出には^{14}Ｃの半減期として Libby の半減期5,568年を使用した。また、付記した^{14}Ｃ年代誤差（±1σ）は、計数値の標準偏差σに基づいて算出し、標準偏差（One sigma）に相当する年代である。これは、試料の^{14}Ｃ年代が、その^{14}Ｃ年代誤差範囲内に入る確率が68%であることを意味する。試料の^{14}Ｃ計数率と現在の標準炭素（Modern standard carbon）の^{14}Ｃ計数率の比が$^{14}C_{Sample}/^{14}C_{Modern} \geqq 1$の時は Modern と表記する。

同位体分別効果の補正について

表１に記載した$\delta^{13}C_{PDB}$値は、PDB 標準試料の^{13}Ｃ/^{12}Ｃ比（$(^{13}C/^{12}C)_{PDB}$=0.0112372）を標準値として、その標準値からのずれを千分率で示し、試料炭素の^{13}Ｃ/^{12}Ｃ比（$(^{13}C/^{12}C)_{sample}$）を質量分析計で測定して、$\delta^{13}C_{PDB}=[\{(^{13}C/^{12}C)_{sample}-(^{13}C/^{12}C)_{PDB}\}/(^{13}C/^{12}C)_{PDB}]\times1000$の計算式によって算出した。試料の$\delta^{13}C_{PDB}$値を－25.0‰に規格化することにより、測定された試料の$\delta^{13}C_{PDB}$値を用いて^{14}Ｃ濃度を補正し、これを用いて^{14}Ｃ年代を算出した。したがって、表１に記載した^{14}Ｃ年代は同位体分別効果による測定誤差を補正した年代である。

暦年代較正について

暦年代較正とは、大気中の^{14}Ｃ濃度が一定で半減期が5,568年として算出された^{14}Ｃ年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}Ｃ濃度の変動、および半減期の違い（^{14}Ｃの半減期5,730±40年）を較正し、より正確に真の年代を求めるために、^{14}Ｃ年代を暦年代に変換することである。具体的には、年代既知の樹木年輪の^{14}Ｃ年代の詳細な測定値を用い、さらに珊瑚の U-Th 年代と^{14}Ｃ年代の比較、および海成堆積物中の縞状の堆積構造を用いて^{14}Ｃ年代と暦年代の関係を調べたデータにより、較正曲線を作成し、これを用いて較正暦年代を算出する。較正暦年代の算出に Radiocarbon Calibration Program* CALIB rev. 4.3 {Reference for datasets used: Stuiver,M., Reimer,P.J., Bard,E., Beck,J.W., Burr,G.S., Hughen,K.A., Kromer,B., McCormac,F.G., v.d. Plicht, J., and Spurk,M. (INTCAL98 : Stuiver et al., 1998a). Radiocarbon 40, p.1041-1083 } を使用した。

なお、較正暦年代値は^{14}Ｃ年代値に対応する較正曲線上の暦年代値であり、真の年代である可能性が最も高いことを示す。また、１σ暦年代範囲および２σ暦年代範囲は確率分布を用いて算出した暦年代範囲であり、その範囲内に真の年代が入る可能性が高いことを示す。１σ暦年代範囲は^{14}Ｃ年代誤差に相当する較正曲線上の暦年代範囲であり、真の年代が入る確率が68%であることを示す。１σ暦年代範囲の Probability は、68%のうちで、さらに特定の１σ暦年代範囲に入る確率を示す。同様に、２σ暦年代範囲は^{14}Ｃ年代誤差の２倍（±２σ）に相当する較正曲線上の暦年代範囲であり、真の年代が入る確率が95%であることを示す。２σ暦年代範囲の Probability は、95%のうちで、さらに特定の２σ暦年代範囲に入る確率を示す。

較正曲線は^{14}Ｃ濃度の変動のためデコボコしており、そのため^{14}Ｃ年代値に対応する暦年代値、または^{14}Ｃ年代誤差に相当する暦年代範囲が複数存在する場合があるが、較正暦年代値はいずれも等しく真の年代である可能性があり、１σ暦年代範囲はいずれも68%、２σ暦年代範囲はいずれも95%の確率で、さらに Probability に示された確率で真の年代が入る。

暦年代較正は約二万年前から AD1,950年までが有効であり、該当しないものについては較正暦年代値を＊＊＊＊または Modern と表記し、１σ暦年代範囲および２σ暦年代範囲を＊＊＊＊と表記する。また、cal AD1955＊は核実験後の年代を指し、Modern を意味する。ただし、一万年以前のデータはまだ不完全であるため注意する必要がある。

引用文献

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎．日本先史時代の^{14}Ｃ年代、p.3-20.

Stuiver, M. and Reimer, P. J.（1993）Extended ^{14}C Database and Revised CALIB3.0 ^{14}C Age Calibration Program, Radiocarbon, 35, p.215-230.

分析表１　放射性炭素年代測定結果

測定番号 (測定方法)	試料データ	$\delta^{13}C_{PDB}$ (‰)	^{14}C 年代 (yrBP±1σ)	較正暦年代		
				較正暦年代値	1σ暦年代範囲 (Probability)	2σ暦年代範囲 (Probability)
PLD−827 (AMS)	炭化材 No.1 SD27 (NS39)	−25.7	940±30	cal AD 1040 cal AD 1095 cal AD 1115 cal AD 1140 cal AD 1150	cal AD 1035−1065 (33.5%) cal AD 1085−1125 (46.1%) cal AD 1135−1155 (20.4%)	cal AD 1020−1165 (99.3%)
PLD−828 (AMS)	炭化材 No.2 SI112 かまど	−26.9	1295±35	cal AD 690 cal AD 755	cal AD 675−720 (60.2%) cal AD 740−770 (39.8%)	cal AD 655−780 (98.4%)
PLD−829 (AMS)	炭化材 No.3 SK220	−24.2	1195±50	cal AD 785 cal AD 790 cal AD 830 cal AD 840 cal AD 870	cal AD 775−895 (98.5%)	cal AD 760−905 (75.4%) cal AD 915−975 (14.4%)
PLD−830 (AMS)	炭化材 No.4 SX2032	−27.7	3360±35	cal BC 1680 cal BC 1670 cal BC 1660 cal BC 1650 cal BC 1640	cal BC 1690−1605 (91.1%)	cal BC 1740−1705 (11.3%) cal BC 1695−1600 (68.2%) cal BC 1590−1525 (20.5%)
PLD-831 (AMS)	炭化材 No.5 SI2110 かまど跡	−29.2	1230±50	cal AD 780	cal AD 715−750 (21.6%) cal AD 765−880 (76%)	cal AD 670−895 (97.2%)
PLD−832 (AMS)	炭化材 No.6 SX2200 第２ベルト（３層）	−26.6	2740±30	cal BC 895 cal BC 875 cal BC 860 cal BC 845	cal BC 900−835 (100%)	cal BC 935−820 (96.3%)
PLD−833 (AMS)	炭化材 No.7 SX2200 第２ベルト（７層）	−27.4	3445±30	cal BC 1740	cal BC 1860−1845 (15.8%) cal BC 1770−1730 (47%) cal BC 1720−1690 (36.4%)	cal BC 1880−1840 (19.3%) cal BC 1830−1790 (11.2%) cal BC 1785−1685 (68.7%)
PLD−834 (AMS)	炭化材 No.8 SD2240 (MD52)	−27.0	2565±30	cal BC 790	cal BC 800−760 (85%) cal BC 680−670 (10.4%)	cal BC 810−755 (63.2%) cal BC 685−660 (11.1%) cal BC 645−545 (25.7%)
PLD−835 (AMS)	炭化材 No.9 SD2351 埋土	−26.0	2560±45	cal BC 790	cal BC 800−760 (49.1%) cal BC 680−590 (39.2%) cal BC 580−560 (11.7%)	cal BC 815−735 (39.8%) cal BC 725−540 (59.4%)
PLD−836 (AMS)	炭化材 No.10 SD2378	−26.3	880±30	cal AD 1165 cal AD 1175	cal AD 1065−1085 (16.7%) cal AD 1125−1135 (13.7%) cal AD 1155−1215 (69.6%)	cal AD 1040−1105 (29.7%) cal AD 1110−1140 (15.2%) cal AD 1150−1220 (55%)

Modern は AD1,950年以降の新しい年代を指す。yrBP は AD1,950年から過去へ遡った年代を意味する。cal は較正した暦年代を意味し、実年代との混同を防ぐためにつけられる。また、Probability が10%未満の１σ年代範囲および２σ年代範囲については記載を省略した。

前通遺跡出土炭化材の樹種同定

植田弥生（パレオ・ラボ）

１．はじめに

ここでは、当遺跡の土坑・溝跡・竪穴住居跡などから出土した炭化材（試料11～20）の樹種同定結果を報告する。検討した10試料の炭化材は用途や炭化前の形状など不明な点が多い断片的な試料かもしれないが、炭化材からは当遺跡で営まれてきた生活の中でなんらかの関わりがあった樹種であり、木材利用の傾向を教えてくれるものである。

２．炭化材樹種同定の方法

複数の破片を含む試料については、各破片を同定した。

まず、各破片の横断面を実体顕微鏡で観察し、分類群のおおよその目安をたてる。次に炭化材の３方向（横断面・接線断面・放射断面）の断面を作成し、走査電子顕微鏡で材組織を拡大してその特徴をもとに同定を決定した。

走査電子顕微鏡用の試料は、横断面（木口）は炭化材を手で割り新鮮な平滑面を出し、接線断面（板目）と放射断面（柾目）は片刃の剃刀を各方向に沿って軽くあて弾くように割る。この３断面の試料を直径１㎝の真鍮製試料台に両面テープで固定し、試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡（日本電子㈱製　JSM-T100型）で観察と写真撮影を行った。

３．結果

当遺跡からは、落葉広葉樹のクマシデ属クマシデ節・ブナ属・コナラ属コナラ節・クリ・エノキ属・クスノキ科・サクラ属・カエデ属・トチノキの９分類群が検出された（分析表２）。

なお SD2378（MI58）から出土した試料20については、まず実体顕微鏡で観察したところ炭化材ではない事が判った。試料20は、中心が空洞で潰れた輪のような構造がいくつか見られ（写真10a）、その輪の断面から土を削ぎ取ると薄い膜状のものが見られた。この膜状は走査電子顕微鏡で拡大すると、長方形や細長い多角形の細胞らしきもの配列が見られた（写真10b）。草本類の茎ではないかと考えられるが、維管束などは不明で特定はできなかった。

以下に検出された炭化材の同定の根拠を、分類配列順に記載する。

⑴クマシデ属クマシデ節　*Carpinus* sect. *Distegocarpus*　カバノキ科　分析図版１　１a-１c

（試料12）溝跡 SD85C から検出された。

やや小型の管孔が主に２～数個が放射方向に複合して分布し、年輪界に向かい徐々に径を減じている散孔材。道管の壁孔は小型で交互状に密在、穿孔は横棒が壊れている道管が多いが穿孔の周囲に横棒の痕跡が見られ、横棒数が15本前後の階段穿孔である。放射組織はほぼ同性、主に２～３細胞幅である。放射組織と道管との壁孔は大きい。集合放射組織は観察されなかった。このような形質からクマシデ属のうちサワシバとクマシデを含むクマシデ節と同定した。

クマシデ属クマシデ節は暖帯および温帯の山地に生育する高木または大形低木の落葉樹で、谷沿い

に多いサワシバとクマシデがある。

⑵ブナ属　*Fagus*　ブナ科　分析図版１　２a-２c（試料19）

竪穴状遺構 SI2211埋土から検出された。

小型の管孔が年輪内に密在し、晩材部では極めて小型となり分布数も減少する散孔材。道管の壁孔は交互状から階段状、穿孔は階段数が10～20本の階段穿孔と単穿孔があり、単穿孔は太い道管に多い。放射組織は異性、１～５細胞幅の紡錘形のものと細胞幅が非常に広く細胞高も高い広放射組織がある。

ブナ属は温帯の極相林の主要樹種で、大木となる落葉樹である。北海道南部以南の肥沃な山地に群生するブナと、本州以南のおもに太平洋側に分布しブナより低地から生育しているイヌブナの２種がある。

⑶コナラ属コナラ亜属コナラ節　*Quercus*. subgen. *Quercus* sect. *Prinus*　ブナ科　分析図版１　３a-３c（試料14）

土坑 SK1639床直から検出された。

年輪の始めに大型の管孔が１～数層配列し、晩材部では薄壁で多角形の小型の管孔が火炎状に配列する環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、内腔にはチロースがある。放射組織は単列のものと広放射組織がある。

コナラ節は暖帯から温帯に分布し、大木となる落葉樹でカシワ・ミズナラ・コナラ・ナラガシワがある。

⑷クリ　*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.　ブナ科　分析図版２　４a-４c（試料18）

不明土坑 SX2200　第２ベルト４層から検出された。

炭化材は孔圏部で剥がれるように割れていたため、完全には１年輪分がない破片であった。しかし、炭化材の縁には大型の管孔があった痕跡が認められ、中型の管孔が除々に径を減じなが火炎状に配列していた。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単一、内腔にはチロースがある。放射組織は単列同性のものしか見られない。広放射組織を持つコナラ節の材組織と類似するが、この破片はそれほど小さな破片ではなかったが横断面に広放射組織が認められ無かった。またコナラ節の小破片は、横断面で広放射組織が認められない場合でも接線断面では広放射組織が確認される確率が高いが、この破片は接線断面でも放射組織は単列のものだけであった。従って、クリと同定した。

クリは、海道西南部以南の暖帯から温帯下部の山野に普通の落葉高木である。

⑸エノキ属　*Celtis*　ニレ科　分析図版２　５a-５c（試料13）

竪穴住居跡 SI112かまどから検出された。

中型の管孔が１～２層配列し、年輪界に向かい徐々に径を減じながら小型の管孔が多数集合し塊状・斜状・接線状に配列する散孔材。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単一である。放射組織は方形・平伏細胞からなる異性、１～10細胞幅、縁辺部に鞘細胞がある。

エノキ属は落葉性の高木で、本州以南の低地から山地に普通のエノキ、北海道以南の山地に生育するエゾエノキ、近畿以西の山地にまれに生育するコバノチョウセンエノキがある。

⑹クスノキ科　Lauraceae　分析図版２　６a-６c（試料16）

竪穴状遺構 SKI2110かまど跡から検出された。

小型の管孔が単独または２～３個が放射方向に複合してややまばらの分布する散孔材。道管の壁孔

は交互状、穿孔は主に単一であるが階段数の少ない階段穿孔もある。放射組織は異性、１～２細胞幅、上下端に大きな油細胞が見られる。管孔が大型で油細胞の出現頻度の高いクスノキ・タブノキ・ヤブニッケイ以外の樹種であるが、これ以上は区別できなかった。小型の管孔からなる材であり当地の位置から、温帯に分布するクロモジ属の可能性が高いと思われる。

クスノキ科は暖帯を中心に温帯にも生育する高木または低木の広葉樹で、常緑性と落葉性が含まれる。

⑺サクラ属　*Prunus*　バラ科　分析図版３　７a-７c（試料15）

土坑 SK1643から検出された。

小型の管孔が年輪の始めにやや密に分布し、放射方向・接線方向・斜状など様々に複合して分布し、年輪界では径が減少する散孔材。道管の壁孔は対列状または交互状、穿孔は単一、内腔に細いらせん肥厚がある。放射組織は異性、１～３細胞幅、道管との壁孔は小型で密在する。

サクラ属は暖帯から温帯の山野に生育する落葉広葉樹で、ミネザクラ・カスミザクラ・ミヤマザクラなどがある。

⑻カエデ属　*Acer*　カエデ科　分析図版３　８a-８c（試料17）

土坑 SK61A 炭15、土坑 SK1643、土坑 SK2172、不明土坑 SK2200第２ベルト４層から検出された。

小型の管孔が単独または２～３個が放射方向に複合して均一に分布し年輪界は不明瞭な散孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、内腔に細いらせん肥厚がある。放射組織は同性、１～６細胞幅、道管との壁孔は交互状で整然と配列し孔口はやや大きい。

カエデ属は日本全土の暖帯から温帯の山地や谷間に普通な落葉広葉樹であり、約26種と多くの変種が知られている。

⑼トチノキ　*Aesculus turbinata* Blume　トチノキ科　分析図版３　９a-９c（試料15）

土坑 SK1643から検出された。

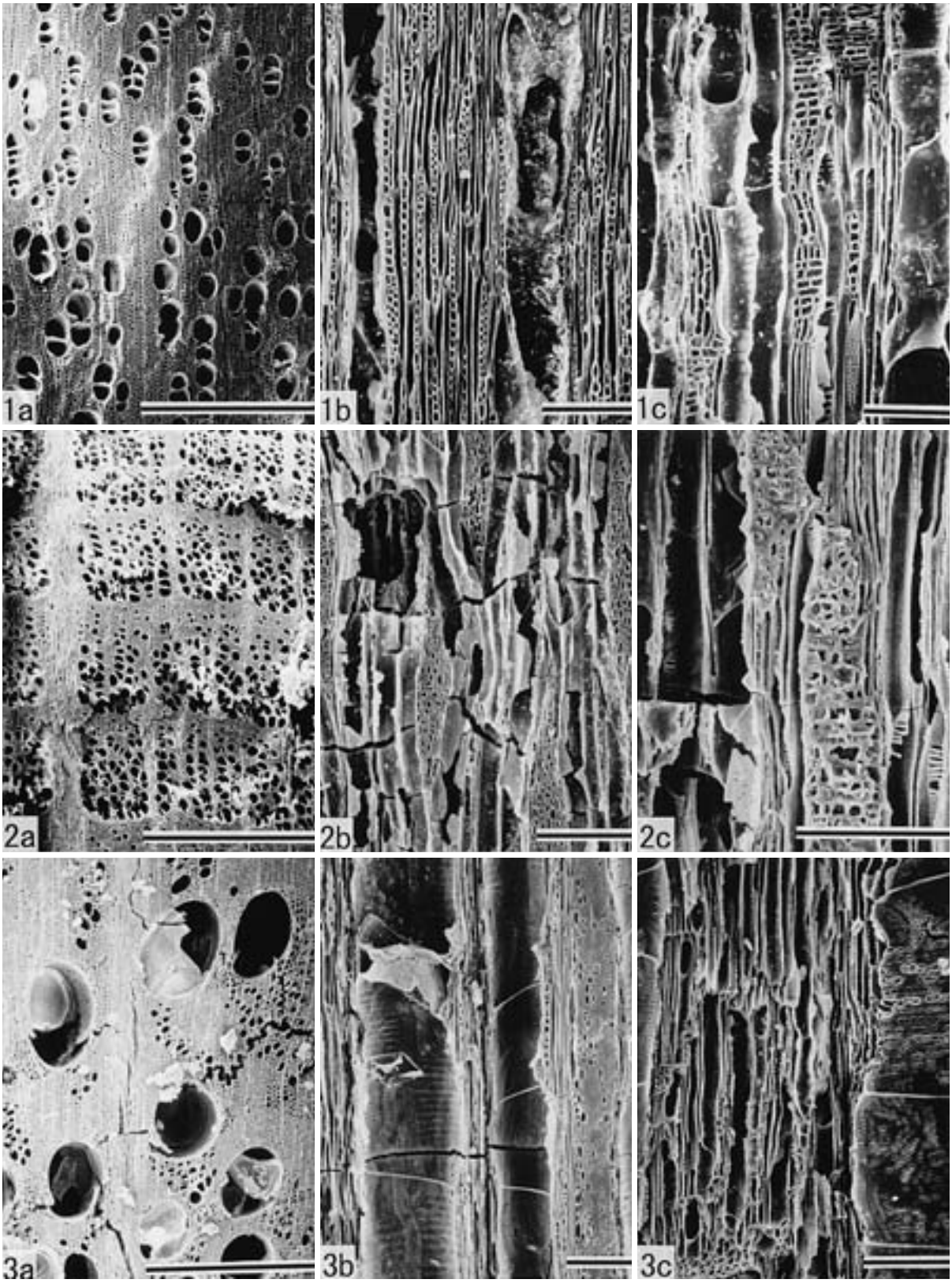
やや小型で楕円形の管孔が単独または２～数個が複合して分布数は多い散孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、内腔にらせん肥厚がある。放射組織は単列同性、ほぼ同じ細胞高で同じ位置に配列する層階状であり、道管と放射組織の壁孔はやや大きく円形で交互状に密在する。

トチノキは北海道以南の温帯の谷間に生育する落葉高木である。

４．まとめ

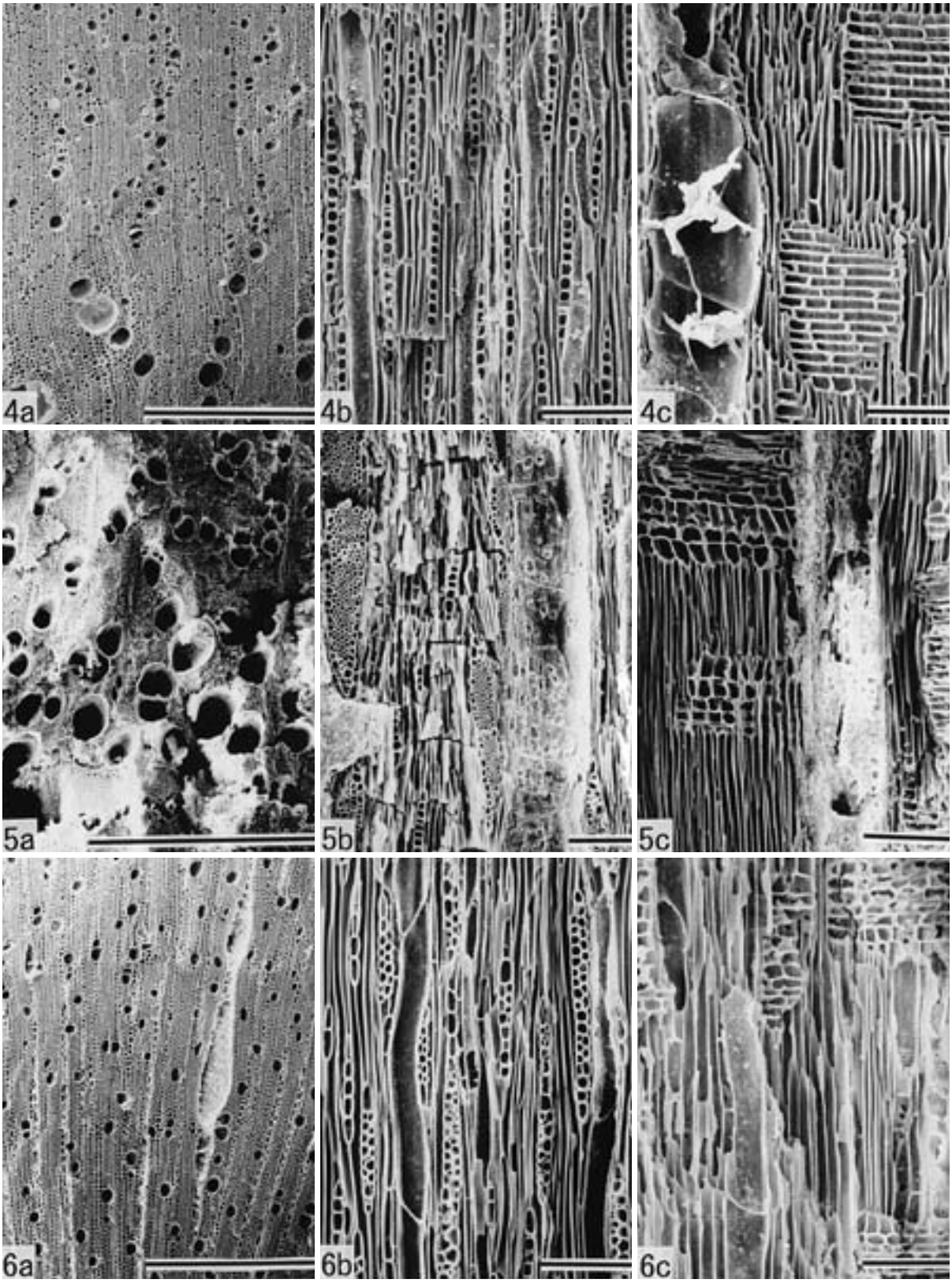
調査した10試料からは、落葉広葉樹のクマシデ節・ブナ属・コナラ節・クリ・エノキ属・クスノキ科・サクラ属・カエデ属・トチノキの合計９分類群が検出された。これらの樹種構成は、冷温帯の落葉広葉樹林の代表的樹種が多い。遺跡周辺のこのような落葉広葉樹林から、用途までは解明できないがおそらく様々な用途にこららの樹種が利用されていたと推測される。

カエデ属は、調査した４基の土坑 SK61A 炭15、SK1643、SK2172、SK2200第２ベルト４層のいずれの土坑からも検出されたことが特徴的であった。

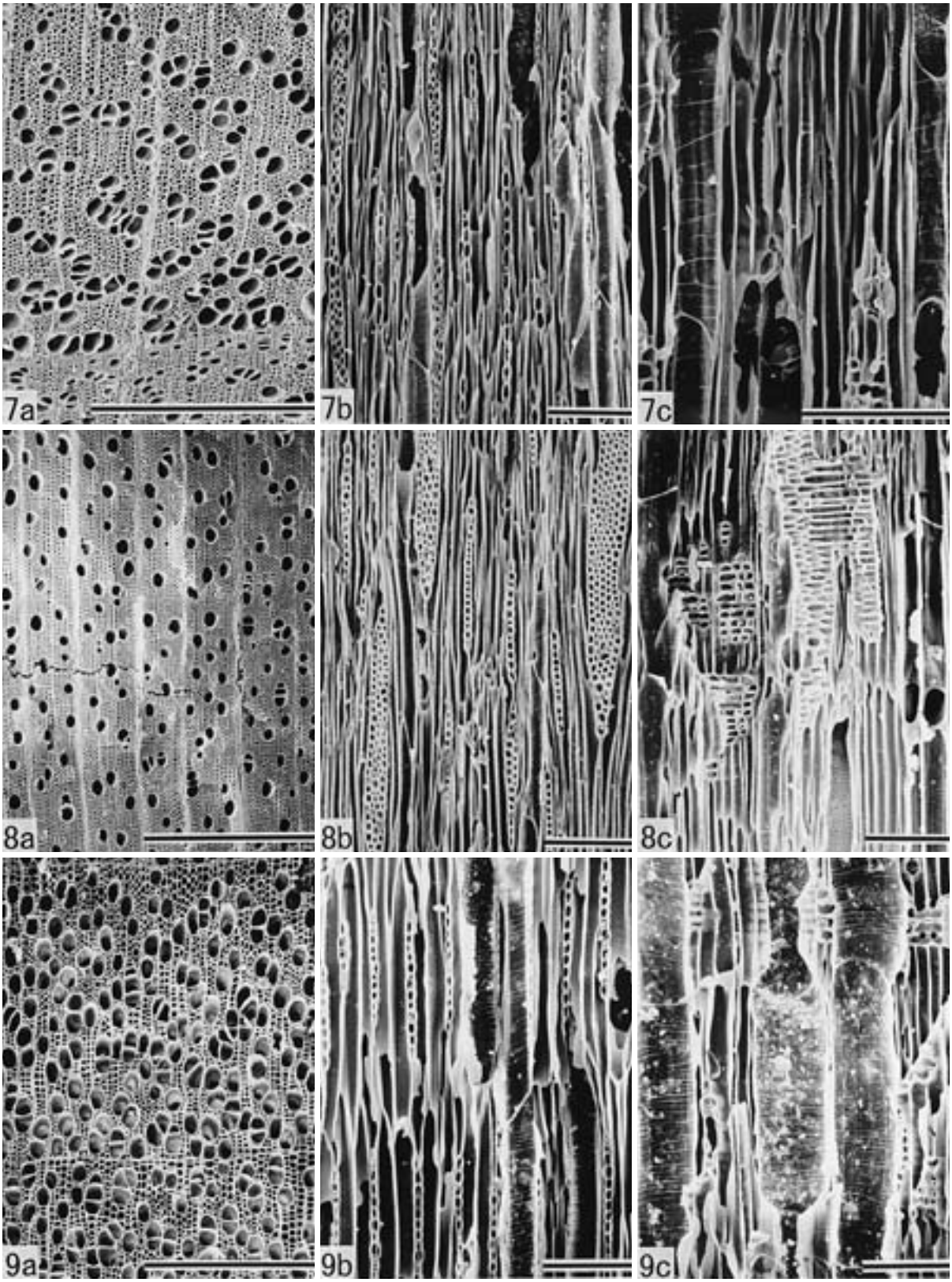


分析図版１　前道遺跡出土炭化材樹種

１a-１c：クマシデ属クマシデ節（試料12）２a-２c：ブナ属（試料19）３a-３c：コナラ属コナラ節（試料14）bar：１a・２a・３a・３b は0.5㎜、１b・１c・２b・２c・３c は0.1㎜



分析図版２　前道遺跡出土炭化材樹種
４a-４c：クリ（試料18）　５a-５c：エノキ属（試料13）６a-６c：クスノキ科（試料16）
bar：４a・５b・６a は0.5㎜、４b・４c・５c・６b・６c は0.1㎜、５a は１㎜



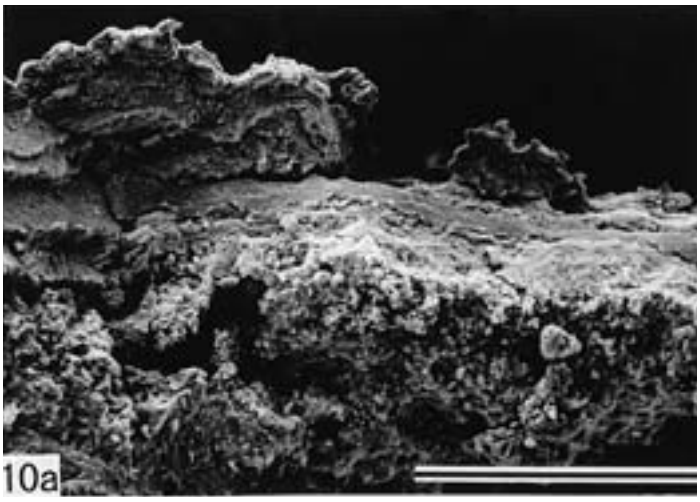
分析図版３　前道遺跡出土炭化材樹種

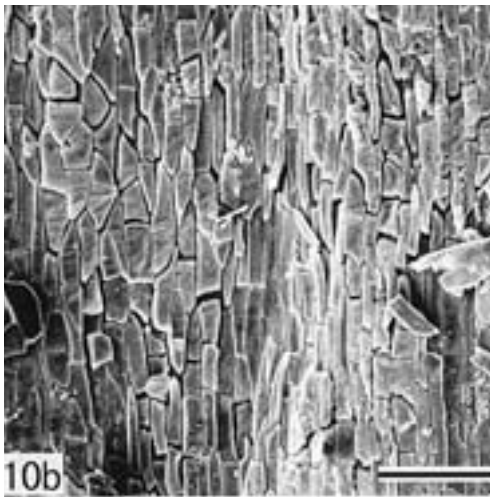
７a-７c：サクラ属（試料15）８a-８c：カエデ属（試料17）９a-９c：トチノキ（試料15）

bar：７a・８a・９a は0.5㎜、７b・７c・８b・８c・９c・９b は0.1㎜

分析表２　前通遺跡（８MD）出土炭化材の樹種同定結果

試料№	遺　　構		樹　　種
11	土坑	SK61A 炭15	カエデ属
12	溝跡	SD85C	クマシデ属クマシデ節
13	竪穴住居跡	SI112 かまど	エノキ属
14	土坑	SK1639 床直	コナラ属コナラ節
15	土坑	SK1643	サクラ属
			カエデ属
			トチノキ
16	竪穴状遺構	SKI2110 かまど跡	クスノキ科
17	土坑	SK2172	カエデ属
18	不明土坑	SX2200 第2ベルト4層	クリ
			カエデ属
19	竪穴住居跡	SI2211 埋土	ブナ属
20	溝跡	SD2378（MI58）	不明





分析図版４　前道遺跡出土炭化材樹種
10a-10c：不明（試料15）bar：10a は0.5㎜、10b は0.1㎜

第６章　まとめ

縄文時代晩期後半の集落と捨て場について

東側調査区東端に位置するＳＸ2200捨て場では、曲線的な雲形文や平行沈線を主要な施文要素とする土器群が出土した。これらの土器は、概ね縄文時代晩期の大洞Ｃ２式に比定することができる。ごく少量出土した工字文を施文する土器は、これに後続する大洞Ａ式に比定することができよう。また捨て場の最下層から縄文時代後期前葉の土器破片が若干出土しており、該期にも周辺域において集落が存在したことが想定できる。

本遺跡の出土遺物量の９割以上は縄文時代に帰属するものであり、そのほとんどがＳＸ2200捨て場から出土した縄文時代晩期の遺物である。しかし、該期の遺構は検出した遺構総数の３％にも満たず、特に西側調査区では皆無に等しい。ＳＸ2200捨て場を検出した東側調査区でも極めて少なく、ＳＸ2200捨て場に隣接して竪穴住居跡を検出した程度である。ＳＸ2200捨て場は調査区外北側に連続しており、またその北東側に湧水点が存在することから、縄文時代晩期の遺構群は概ね調査区外北側の段丘凹部縁辺に展開していたと予想される。出土土器がほぼ単一型式に限定できることから、ごく短期間のうちに150㎝にもおよぶ包含層を形成したことが窺え、また精製土器や朱塗り土器、土偶・土版や石冠様の土製品、石剣･石刀･石棒類および岩版などの石製品などの祭祀関連遺物を多量に出土することから、単なる生活廃棄物の捨て場としてだけではなく、集落の日常・非日常を問わずに行われた様々な祭祀に供された遺物を送る場として集落の外れである段丘の縁辺に形成されたという性格も想定できる。

横手盆地における掘立柱建物跡を中心とする平安時代の集落

ＳＩ112Ａ竪穴住居跡は出土した遺物から９世紀中頃に帰属し、本遺跡の平安時代の遺構では最も古い段階の遺構である。この竪穴住居跡のかまど内からは、９世紀第１四半期に帰属させ得る須恵器坏も出土し、本遺跡における平安時代集落の成立時期が９世紀初頭まで遡る可能性も示唆している。しかし本調査区内で検出した平安時代の竪穴住居跡は２軒に過ぎない。

横手盆地内における９世紀～10世紀の集落遺跡調査例は極めて少なく、竪穴住居跡よりもむしろ掘立柱建物跡群により構成された集落が特徴的である。平成10年度に発掘調査した平鹿郡大雄村江原嶋１遺跡でも複数の掘立柱建物跡と溝状遺構が検出され、灰釉陶器や印章が出土している。

本遺跡で検出した平安時代の掘立柱建物跡は、掘り形が直径100㎝程度の大型柱穴によるものから20㎝程度のごく簡単なものまで23棟におよぶ。このうち、大型のＳＢ⑰ａｂなどは工房的な施設と考えられるが、むしろ本遺跡における平安時代の掘立柱建物跡群の中心をなすのは外周溝を伴う掘立柱建物跡の一群である。

青森県下の津軽および下北地方で多数確認されている外周溝には、竪穴と掘立柱建物を伴う形態をとることが知られている。しかし、本遺跡で検出した外周溝内部には小型（径20㎝程度）の柱穴により構成される掘立柱建物のみを伴う形態をとる。また青森県の類例は９世紀後半代から10世紀前半代のものであるが、その多くは10世紀前半代に係るもので、本遺跡で確認した９世紀後半代で、開口方

向がまちまちになる例はほとんど確認されていない。

前述したように、本遺跡検出例では外周溝内部には掘立柱建物を伴うのみで、青森例のように竪穴がセットにはならない。つまり、外周溝＋竪穴＋掘立柱建物または外周溝＋竪穴という構成をとる青森例とは異なり、外周溝＋掘立柱建物という構成である。この構成はむしろ北関東～南東北地方の事例と合致する。また、開田時の削平の影響が少なかった段丘縁辺部に位置するＳＢ㋓ａｂのように、掘立柱建物の床面に竪穴様の痕跡を遺すものもあることから、本来は外周溝＋竪穴建物という構成であった可能性も想定できる。その意味ではＳＢ㋐内に取り込まれるＳＩ112Ａ竪穴住居跡なども同様の形態といえるかも知れない。しかし、青森例では基本的に外周構内に位置するのは竪穴部で、掘立柱建物部は外周溝の開く方向に展開すること、および前述したＳＢ㋓ａｂに隣接してＳＩ112Ａ竪穴住居跡が位置し、十分な壁高を遺していることからも、開田時の削平により外周溝内の竪穴部のみが削平を受けて検出できなかった可能性は低く、この点でも青森例とは異なる系譜を想定することができよう。また西側調査区で検出したＳＥ501井戸跡は、素掘りの井戸に溝状遺構が伴う形態で、北関東に類例が多い「溜井」と呼ばれる形態を呈していた。

これらのことから、本遺跡で検出した遺構群には、より南側の地方との共通点を持つことが確認できた。山形県庄内地方でも同様の傾向が知られていることから、文献に見られるように東北経営のために多く移配置された柵戸などと関係する集落なのかもしれない。

一方、不整形の竪穴遺構では、前記した外周溝を伴う掘立柱建物跡と重複せずに分布するものを多く確認した。これらのうち、９世紀後半代と考えられるＳＫＩ122などからは一定量の土器が出土しており、外周溝を伴う掘立柱建物跡群と同時期に存在した、生産・工房的施設とも思われる。

また、ＳＫＩ90竪穴遺構は堆積土が黒色シルトに限られ、隣接するＳＫＩ166竪穴遺構ではＳＤ87とＳＤ85溝状遺構とが合流するように掘り込まれており、複数の溝を接続するための施設である可能性が高い。これらは道路遺構の側溝どうしを結び付けており、堆積土の状況からも水成層と考えられ、導水施設的な機能を有した遺構と考えられる。

平安時代～中世の道路遺構と集落の変遷について

前述したように、この集落内で、最も古い段階に属するのは西側調査区のＳＩ112Ａ竪穴住居跡である。この竪穴住居跡は周囲に柱穴が並び、段丘崖に壊されているものの本来的には柱穴列が南側に延びる形態であったと考えられ、ＳＩ112Ａ竪穴住居跡は掘立柱建物に取り込まれる形態であったと考えられ、平成14年度の払田柵跡の発掘調査でも確認されている。この竪穴住居跡と隣接する掘立柱建物跡群に沿うように、新旧２時期にわたる平安時代の道路遺構が検出された。

ＳＩ112Ａ竪穴住居跡と対応するように設けられるのが、大型の柱穴で構成されるＳＢ㋕ａｂｄ・ＳＢ㋒掘立柱建物跡などである。これらは主軸線をほぼ同一にし、ＳＤ85ｃとＳＤ87溝状遺構とを側溝とする第１期の道路遺構に沿って配置されている。また、道路遺構がＳＢ㋒掘立柱建物跡付近を起点として北側に延びるように配置されていることから、ＳＢ㋒掘立柱建物跡は何らかの中心的な機能を有した建物跡であった可能性が高い。ＳＢ㋕ａｂｄ掘立柱建物跡には、内部にＳＫ61Ａ・Ｂ土坑およびＳＫＩ74竪穴遺構のような遺物を多く出土する不整形土坑が附属していることから、何らかの工房的な機能を有した施設と思われる。第１期の道路遺構はＳＢ㋒掘立柱建物跡付近から北上し、ＳＢ

㋝ａｂｄ掘立柱建物跡の西側を通ってＳＤ932溝状遺構へと至る。この段階ではＳＢ㋜掘立柱建物跡付近を起点としており、調査区南辺の段丘崖から下方に降りる形跡は見られない。この第１期の道路遺構の下限年代は出土遺物から概ね９世紀第３四半期頃と考えられる。

ＳＢ㋝ａｂ掘立柱建物跡を建て替えたＳＢ㋝ｃおよびＳＢ㋟・ＳＢ㋞掘立柱建物跡は、ＳＤ27とＳＤ85・151溝状遺構とを側溝とする第２期の道路遺構に沿って配置される。第２期の道路遺構は第１期の道路遺構と配置をほぼ同じくするが、第１期の道路遺構に沿うＳＢ㋝ａｂｃ・ＳＢ㋜掘立柱建物跡と重複する新しい道路遺構である。また、道路が段丘崖の下、南側に向かって延びるようになる。この段丘下南側には横手川と杉沢川の合流点があり、川を利用した水運と大きく結びついた集落の在り方へと変容したのかもしれない。東側調査区のＳＢ㋟やＳＢ㋬は概ねこの時期に構築されたと思われ、ここへも西側調査区から延伸する道路遺構が接続するようになることから、出土遺物から第２期の道路遺構の下限年代と推定できる９世紀第４四半期は、本遺跡における一つの画期となる時期といえる。

外周溝を伴う掘立柱建物跡群のほとんどは、前述した掘立柱建物跡群と重複せずに配置されるため、概ね９世紀後半代に構築された遺構であると想定でき、住居として機能した可能性が高い。

次の段階には、小型（径20㎝程度）の柱穴で構成されるが、比較的規模の大きいＳＢ㋥ａｂ・㋦・㋝・㋐掘立柱建物跡が構築される。これらは前述した掘立柱建物跡群とは離れて構築されるが、ＳＩ112Ａ竪穴住居跡より新しいＳＤ264・457・476溝状遺構も直線的に連なり、これらが前述した掘立柱建物群と並行することから、この溝状遺構を側溝とする第３期の道路遺構の存在を想定できる。東側調査区でも前記した道路遺構に沿うＳＢ㋔ａのほか、ＳＢ㋦ａ掘立柱建物跡がＳＤ2100溝状遺構に並行して構築されていることから、これを側溝とする第３期の道路遺構の存在も想定できる。これらの掘立柱建物跡群については、八戸工業大学の高島教授より平安時代末頃の所産である可能性が高いとの教示を得ている。

東側調査区では中世の土壙墓を２基検出した。ＳＫＳ2211土壙墓からは須恵器系中世陶器の擂鉢（Ⅱ期）・壺甕類破片、白磁四耳壺（Ⅲ系）破片が出土し、12世紀末～13世紀前半頃の所産と考えられる。またＳＫＳ2453墳墓は、小型土坑を方形の溝状遺構が囲む形態を呈する。小判型を呈するＳＫ2454・4380土坑が並行配置をとることから、一連の附属土坑とすることができるかもしれない。出土遺物は無いが、形態その他から中世初期の墳墓と考えられる。この形態の墳墓は平成12年度の払田柵跡の発掘調査でも検出されており、Ⅱ期の須恵器系中世陶器が出土している。

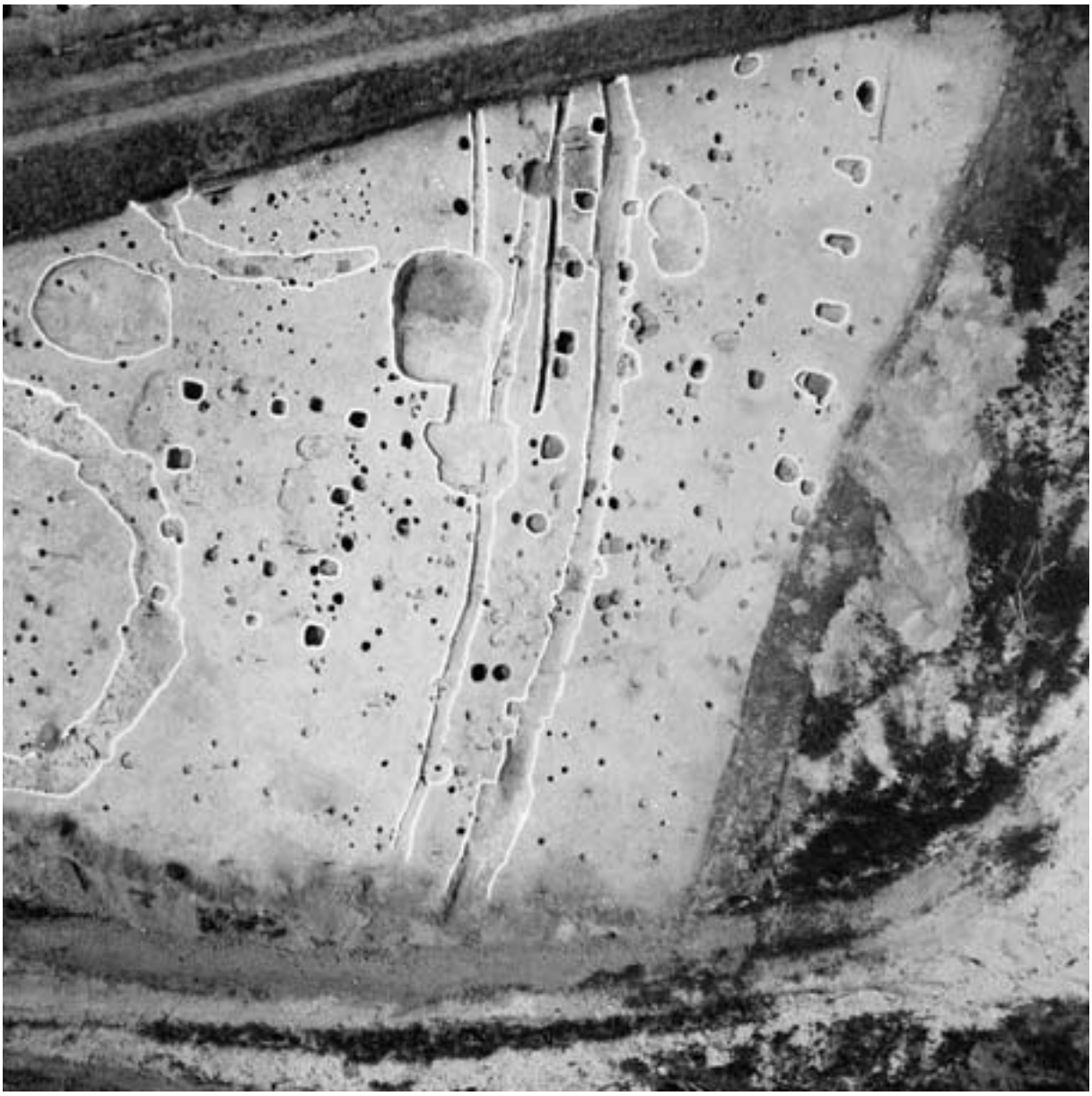
ＳＤ2378および2445溝状遺構を側溝とする道路遺構と、ＳＤ2860溝状遺構を側溝とする道路遺構は、ＳＢ㋔ｂ・㋦ｂｃ（ｅ）・ＳＢ㋭掘立柱建物跡とが並行する配置をとる。これらの道路側溝からはⅡ期の須恵器系中世陶器の破片が出土しているが、前述した平安時代の掘立柱建物跡もこの軸線を意識した配置関係を持つことから、この道路遺構の成立が平安時代まで遡ることを示唆している。西側調査区でも、ＳＢ㋑・㋔・㋒掘立柱建物跡が前記した第３期の道路遺構に沿って構築されている。特に、ＳＢ㋒掘立柱建物跡は孫廂を有する倉庫跡で、この道路遺構が平安時代末には成立し、中世まで存続したことが窺える。また西側調査区では、前述した第２期の道路遺構を使いながらも、第３期の道路遺構沿いへと土地利用の中心が遷移していったことを示している。

本遺跡において９世紀初めに成立した集落は、ほぼ絶えることなく継続したことが明らかになった。

９世紀第４四半期までには道路が段丘下の横手川と杉沢川の合流点方向まで下って一つの画期を迎えた。その後は集落内、および集落外に延びる道路網の整備を繰り返し、居住域を変遷させながらも交通路に沿って成立した集落として、現在まで存続してきたと考えられる。

西側調査区（写真上が北）

図版2

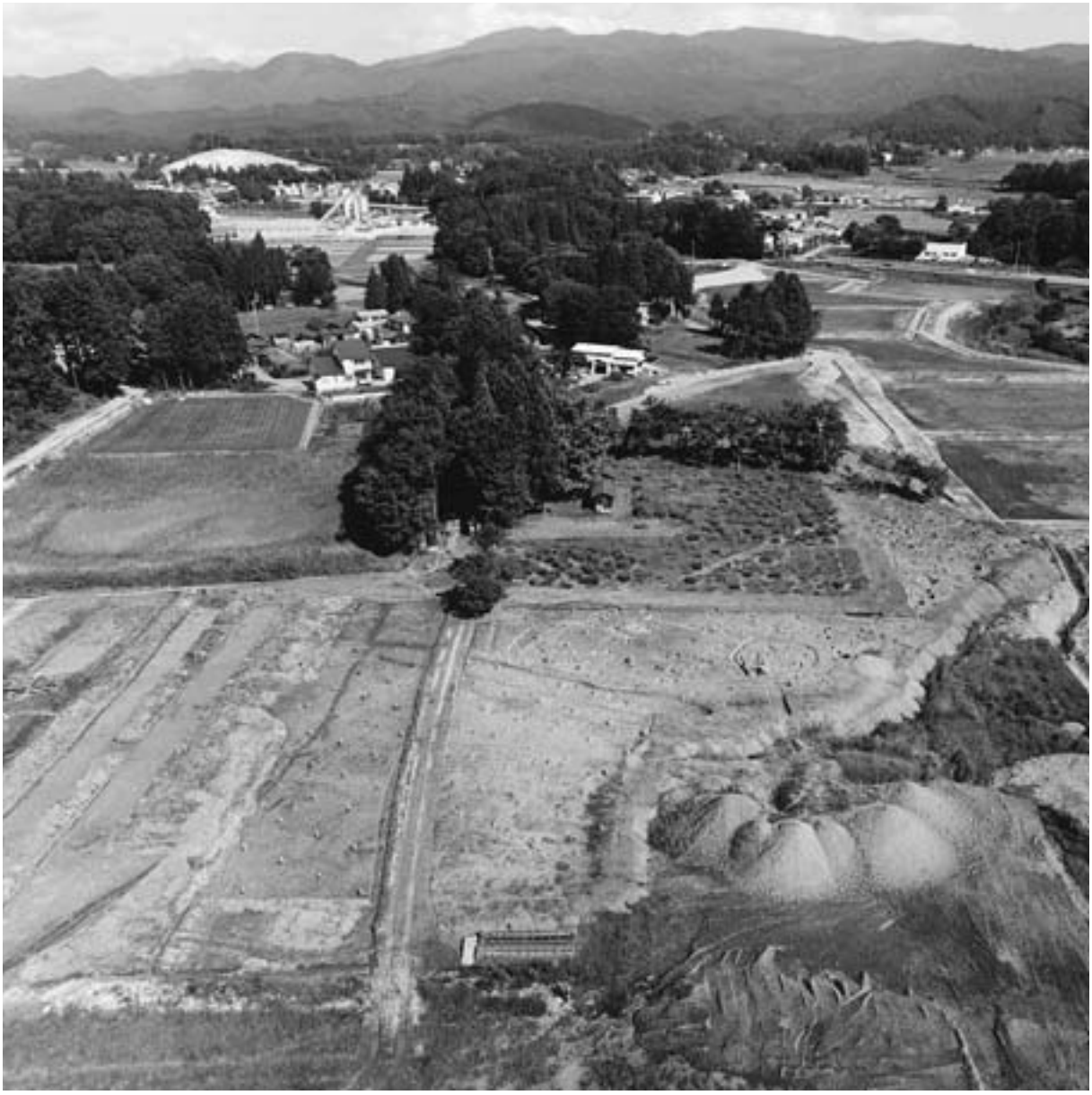


西側調査区　掘立柱建物跡と道路遺構

西側調査区　ＳＩ112Ａ（ＳＢ㋟）とＳＢ㋖・㋟

西側調査区　外周溝を伴う堀立柱建物跡群

図版4

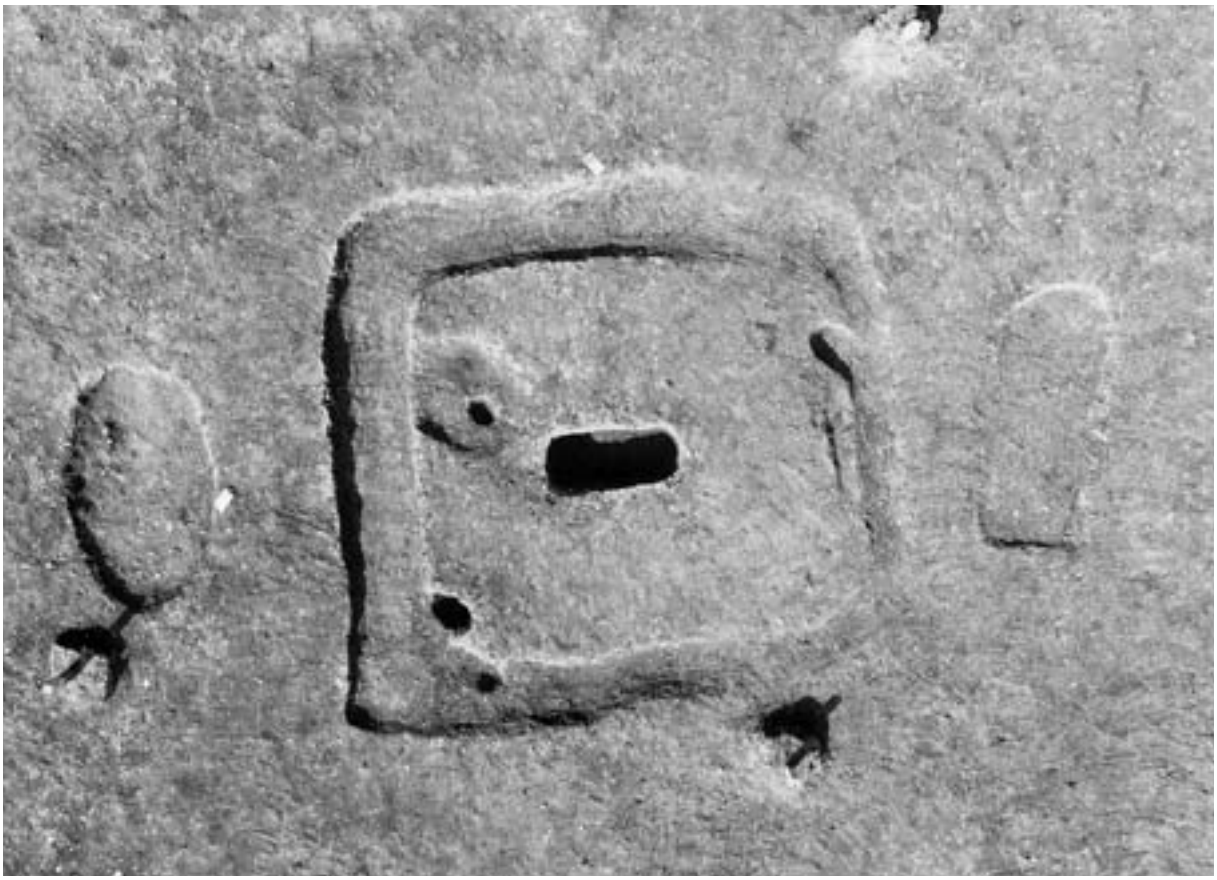


東側調査区　近景（南西上空から）

東側調査区　道路遺構（写真上が北西）

図版6

東側調査区　近景（南から）



東側調査区　ＳＫＳ2453墳墓（写真上が北西）

ＳＴ2200捨て場　土器出土状況

ＳＴ2200捨て場　完掘
（南から）

ＳＴ2200捨て場　出土土器

図版8

ＳＴ2200捨て場　出土土器

ＳＩ2110竪穴住居跡　完掘
（北西から）

ＳＫＩ166竪穴遺構　完掘
（北から）

ＳＤ85Ｃ溝状遺構　甕出土状況
（南から）

ＳＤ85Ｃ　出土甕

ＳＩ112Ａ竪穴住居跡
出土墨書土器

図版10

ＳＫＩ122竪穴遺構
出土墨書土器

ＳＫ61土坑　出土墨書土器

ＳＫ1643土坑　出土墨書土器

報　告　書　抄　録

ふりがな	まえどおり いせき
書名	前通遺跡
副書名	県営ほ場整備事業杉沢地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	秋田県文化財調査報告書
シリーズ番号	第351集
編著者名	五十嵐一治・藤澤一史
編集機関	秋田県埋蔵文化財センター
所在地	〒014－0802　秋田県仙北郡仙北町払田字牛嶋20番地　電話0187－69－3331
発行機関	秋田県教育委員会
所在地	〒010－8580　秋田県秋田市山王三丁目１－１　電話018－860－5193
発行年月日	西暦2003年３月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
前通遺跡 （まえどおり）	秋田県 （あきたけん） 横手市 （よこてし） 杉沢字 （すぎさわあざ） 前通159外 （まえどおり）	05203	3-53	39° 20′ 10″	140° 34′ 40″	20000605 ～ 20001020	7,800㎡	農業関連

種別	主な遺構	主な遺構	主な遺物	特記事項
集落	縄文時代晩期	竪穴住居跡 土坑 溝状遺構	縄文土器 土製品 石器 石製品	
集落	平安時代	竪穴住居跡 竪穴遺構 掘立柱建物跡 土坑 道路遺構 溝状遺構 井戸跡	須恵器 土師器 鉄製品	
集落	中世	土壙墓 墳墓 掘立柱建物跡 道路遺構 溝状遺構	須恵器系中世陶器 白磁 青磁 銭貨	

秋田県文化財調査報告書第351集
前通遺跡
── 県営ほ場整備事業杉沢地区に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書 ──

印刷・発行　平成15年３月

編　集　秋田県埋蔵文化財センター
〒014-0802 仙北郡仙北町払田字牛嶋20番地
電話 0187-69-3331

発　行　秋田県教育委員会
〒010-8580　秋田県秋田市山王三丁目１-１
電話 018-860-5193

印　刷　株式会社　三戸印刷所